

ボウリングを もっと楽しむ

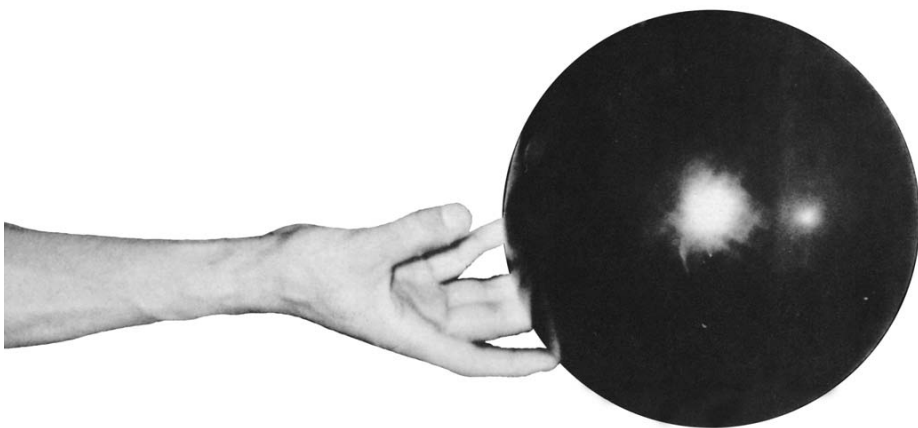
これまでの歩み

岩手県ボウリング連盟



岩手県ボウリング連盟

もっと楽しむボウリング





発刊のあいさつ

岩手県ボウリング連盟

会長 吉 田 几 生

岩手県ボウリング連盟は昭和42年盛岡市内にボウリング場が開設されたのを機に、翌43年創立されました。

女子プロボウラーの誕生、テレビ中継等、折からのボウリングブームと相まって当県連盟も順調に歩み始めましたが、昭和48年のオイルショックによる経済環境の変化等もあり低迷期を迎えます。

しかし、ボウリングをこよなく愛し、スポーツとして発展を願う全国の仲間と共に創立時の目的に向かって敢然と歩みを進めました。当面の目標は岩手県体育協会に加盟し、県民体育大会に参加することでしたが、当時は加盟条件のハードルが非常に高いものでした。

現在全日本ボウリング協会会長赤木恭平氏の熱意あふれる適切なご指導により苦節16年、昭和59年県体協加盟、翌年の第37回県民体育大会に初参加となりました。

開始式でプラカードを先頭に各市町村代表チームが行進、それまでの道のりが思い出され目頭が熱くなるのを覚えました。

続く昭和62年は待ち焦がれた国民体育大会参加です。第42回沖縄海邦国体にオープン競技として参加、那覇空港が近付くにつれ飛行機の中から見えたマリンブルーの海、ボランティアの方々の心こもった歓迎が強く印象に残っています。

先達のご指導、同輩の尽力により、いまや全国大会の入賞はいうに及ばず国民体育大会の優勝者、全日本ナショナルチームのメンバーとして国際大会で活躍する選手が輩出されたことはご同慶に堪えません。感謝の念でいっぱいです。

これからも組織の充実、会員の融和に努め、競技スポーツ、生涯スポーツ、ファミリースポーツとして更なる発展に邁進いたします。ご指導、ご支援をお願い申し上げます。



祝 辞

(財)全日本ボウリング協会

会長 赤 木 恭 平

岩手県ボウリング連盟創立40周年を記念し、記念誌を発刊され、これまでの諸先輩の業績を綴る貴重な記録を後世に残されることは誠に有意義なことであり、心よりお慶び申し上げます。

ボウリングの歴史は古く、現在世界テンピンボウリング連盟は110の国と地域が加盟する組織として、オリンピック参加を目指しております。我が国におきましては、昭和39年全日本ボウリング協会設立と共に、財団法人化10年の創成期、日本体育協会加盟などの10年の発展期を経過し、昭和63年の国体に正式参加を果たしましたが、苦節の時代を超え、今や国民スポーツとして3000万人もの人々が愛好するスポーツに発展することができました。

特に岩手県体育協会加盟のため、事務局を訪ねたことも数多く、現吉田几生会長をはじめ関係者の不断の努力が実り、今日では、国民体育大会、日本スポーツマスターズ、スポーツ・レクリエーション祭と共に我が国のスポーツ界の重要な種目の一つとなっており、今にして思えば懐かしい思い出でもあります。連盟関係者の方々に深く敬意を表す次第です。

21世紀の今日、本格的な高齢化社会を迎え、生涯にわたり続けられるボウリングは、更に注目されるスポーツであります。

貴連盟の関係者の皆様方には、このたびの40周年を機に更に総力を結集され、ボウリングの普及発展にご尽力されますことをお願い申し上げます。

岩手県ボウリング連盟の益々のご発展を祈念し、創立40周年の祝辞といたします。



祝 辞

(財)岩手県体育協会

会長 達 増 拓 也

岩手県ボウリング連盟40周年記念誌発刊にあたり、一言お祝いを申し上げます。

昭和43年に創立された岩手県ボウリング連盟が、このたび40年に及ぶ活動の足跡を記念誌として発刊されることに対し、心からお祝い申し上げますとともに、創立以来、本県のボウリング競技の普及、振興はもとより、競技力の向上に尽力し、幾多の困難をも乗り越えられ多大な業績を残された、歴代の会長をはじめ役員の方々のご労苦とご功績に対し、心より敬意を表する次第であります。

貴連盟におかれましては、創立から16年の歳月を経て県体育協会への加盟、そして県民体育大会への参加を実現するなど本県におけるボウリング競技の普及、振興に着実な足跡を残して参りました。

一方、日本のボウリング界に目を転じますと、悲願でありました国民体育大会参加を国体2巡目の京都大会で実現されるなど、これまでの堅実な歩みが実り、日本最大の国民のスポーツの祭典の場に登場することとなりました。

ボウリングは、男女の別なく、年齢に応じたそれぞれの取組が可能であり、その楽しさを手軽に経験できるスポーツであると思います。

これは県体育協会が基本目標とする「豊かなスポーツライフの実現」にも貢献するものであり、一層の発展を願うものであります。

近年、少子・高齢化が急速に進行しているなかであって、人生を健康で・明るく・充実したものとしていくためにも、「生涯スポーツの振興」が強く言われております。

こうしたことから、年代に応じた競技が可能な特性を持つボウリングの普及・発展について、貴連盟の果たす役割はますます大きなものがあり、貴連盟と関係団体が一丸となって取組まれることをご期待申し上げます。

終わりに、岩手県ボウリング連盟が関係各位の尽力により、組織の一層の充実強化が図られ、今後益々発展されますことを祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



ねんりんピック '91いわて (1991)

目 次

発刊のあいさつ	岩手県ボウリング連盟会長	吉 田 几 生	1
祝 辞	(勲)全日本ボウリング協会会長	赤 木 恭 平	2
祝 辞	(勲)岩手県体育協会会長	達 増 拓 也	3
県体育協会加盟から国民体育大会優勝まで			5
全国大会での活躍			30
日本代表として国際大会に参加			42
ボウリングをこよなく愛して			47
続岩手のスポーツ人			62
栄光の記録			66
受賞者・被表彰者			108
カメラスケッチ			114
資 料			115
年表 (これまでの歩み)			116
ボウリングの歴史			118
FIQ 国際柱技者連盟組織図・全日本ボウリング協会組織図			119
歴代役員名簿			121
支部・クラブ・実業団・高等学校所在地一覧			130
公認審判員・公認指導員・公認コーチ名簿			132
定款・ボウリング施設、設備、用具の規格・ボウリング競技規則			133
編集後記・参考文献			168

県体34競技の日程決まる

「ボウリング」の加盟を承認

県体協の
評議員会

県体育協会（藤原哲夫会長）の五十八年度評議員会は二十八日午後一時から盛岡市内丸の県公会堂で開かれ、五十九年度の事業計画や重点目標などを決めた。県ボウリング連盟（会長・小原正巳、盛岡市長）の県体協正式加盟が承認されたほか、地域スポーツの振興に

尽力した二十二人が体育功労者として表彰された。主な事業計画としては、第三十六回県民体育大会を七月一日の自転車競技（紫波町自転車競技場）を皮切りに八月五日まで約一カ月にわたって県内九市五町四村で開催する。昨年の群馬国体から国体

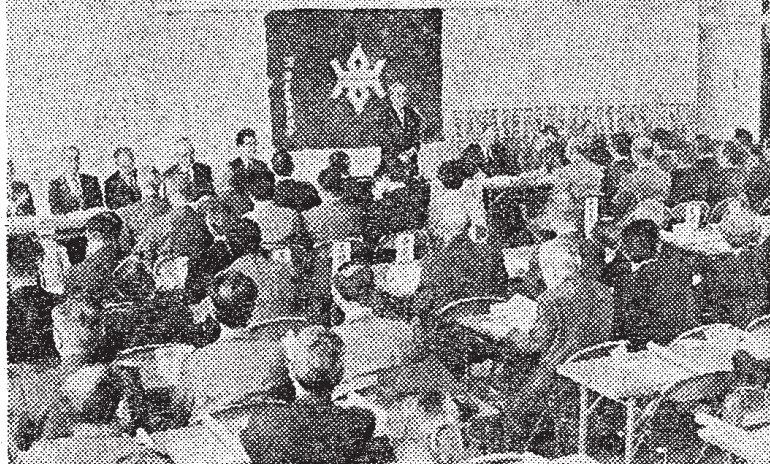
の正式競技になった「なぎなた」を新たに加え、三十四競技に熱戦を繰り広げる。地域スポーツの底辺拡大を図るため、ことしから成年種目に市町村別対抗を採り入れ、強化本部が中心となって七月中旬ごろまでに決めるが、ボクシング、ホッケー、山岳競技など

目設定と優秀選手の強化訓練▽東北総合体育大会の全種目予選通過▽スポーツ少年団の育成強化など十項目を掲げた。重点競技種目は、強化本部が中心となって七月中旬ごろまでに決めるが、ボクシング、ホッケー、山岳競技など

岩手県体育協会（藤原哲夫会長）の五十八年度評議員会は二十八日午後一時から盛岡市内丸の県公会堂で開かれ、五十九年度の事業計画や重点目標などを決めた。県ボウリング連盟（会長・小原正巳、盛岡市長）の県体協正式加盟が承認されたほか、地域スポーツの振興に

が指定される見込み。県ボウリング連盟の県体協加盟の背景には、スポーツ競技として全国的に浸透してきたことが挙げられる。既に全日本ボウリング協会が日体協に加盟しており、六十二年沖縄国体の公開競技に内定、将来は国体の正式競技に採用される機運にある。本県でも来年の県民体育大会には新競技に加えられの見通し。今後活動の活発化と競技力向上に拍車がかかりそうだ。体育功労者は次の通り。佐藤優（元盛岡市体協副会長）亀井竹男（元胆沢郡体協副会長）千葉三（元久慈市相撲協会会長）岩淵斐章（江刺市ウエトリフテ

財団法人 岩手県体育協会定期評議員会



59年度事業計画、ボウリング連盟の加盟などを決めた県体協評議員会

◇第36回県民体育大会開催日程

競技名	期 日	会 場 地	会 場
陸上競技	7月21～23日	盛岡市	県営運動公園
水 泳	8月4～5日	水 沢 市	水沢市大鏡市民プール
サ ッ カ ー	7月14～16日	大 槌 町	祝田サッカー場、大槌高ほか
テ ニ ス	7月7～8日 (少年) 7月21～22日 (成年)	盛 岡 市	県営運動公園 市営太田スポーツセンターコート
漕 艇	7月13～15日	盛 岡 市 市町	県営御所湖漕艇場
ボクシング	7月14～16日	岩 泉 町	未 定
バレーボール	7月14～16日	大 船 渡 市	大船渡市民体育館、大船渡高、大船渡農高
体 操	7月13～16日	盛 岡 市	県営体育館
バスケットボール	7月20～23日	盛 岡 市	県営体育館、盛岡工高、盛岡市立高、盛岡三高
レスリング	7月14～15日	種 市 町	種市町民体育館
ヨ ッ ト	7月20～22日	宮 古 市	未 定
重量挙げ	7月15日	野 田 村	久慈工高
ハンドボール	7月21～23日	盛 岡 市	岩手大学グラウンド
自 転 車	7月1日	紫 波 町	紫波町自転車競技場
軟式庭球	7月25～26日 (少年) 7月14～16日 (成年)	盛 岡 市	県営運動公園 市営太田スポーツセンターコート
卓 球	7月14～16日	陸前高田市	陸前高田市民体育館
軟式野球	7月21～23日	宮 古 市	宮古市営球場、宮古工高、宮古商高グラウンド
相 撲	7月14～15日	松 尾 村	松尾村営相撲場
馬 術	7月21～22日	水 沢 市	水沢競馬場
柔 道	7月14～15日	釜 石 市	新日鉄小川体育館
ソフトボール	7月7～9日 (成年) 7月14～16日 (少年)	盛 岡 市 市町	(成年) 岩手大学グラウンド (少年) 花巻農高、宮野日中グラウンド
バドミントン	7月6～8日	盛 岡 市	県営体育館
弓 道	7月21～22日	水 沢 市	水沢高
クレール射撃	7月7～8日	花 巻 市	花巻市営クレール射撃場
ライフル射撃	7月14～15日	滝 沢 村	警察学校射撃場
剣 道	7月14～15日	盛 岡 市	盛岡三高
ラグビーフットボール	7月20～22日	盛 岡 市	県営運動公園、岩手医大、盛岡三高グラウンド
山 岳	7月14～15日	遠 野 市	薬師岳
フェンシング	7月14～16日	一 関 市	一関市体育文化会館
銃 剣 道	7月15日	都 南 村	都南村体育館
アーチェリー	7月15日	盛 岡 市	市営太田スポーツセンター
空 手 道	7月15日	水 沢 市	武道館
カヌー	7月22日	盛 岡 市 市町	県営御所湖漕艇場
なぎなた	7月15日	盛 岡 市	橋市道場

本県の嶋廻組は4位

東北ボウリング選手権

第十一回東北ボウリング選手権大会(東北地区ボウリング連合主催、県ボウリング連盟主管、岩手日報社後援)第二日は十六日、紫波郡都南村のベルプラザ・スポーツレインで男子、男子シニア、女子の2人チーム戦、4人チーム戦の前半戦を行った。

男子の部は菅原友民・佐藤捷利組(秋田A)が、2、386点で優勝、同シニアの部は、2、286点をマークした佐々木成造・浅見国松組(同)が制した。女子の部は柳田君子・井上恵子組(福島B)が2、200点で優勝をさら

い、前回優勝した嶋恵子・御代恵美子組(福島A)は2、074点で4位だった。県勢は男子の部で嶋廻敏夫・伊藤誠組(岩手B)が2、300点で4位に入り、同シニアの部は畠山正志・佐々木忠夫組(岩手C)が2、167点で6位入賞を果たした。女子の部は金野カナ子・藤原妙子組(岩手A)が1、978点で惜しくも入賞を逸した。

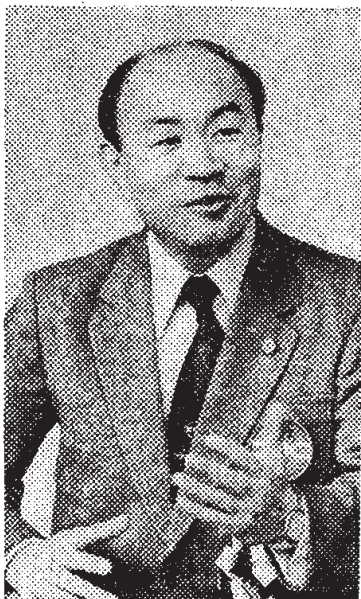
大会最終日の十七日は午前九時から4人チーム戦の後半戦と選手権であるマスターズ戦を行う。▽2人チーム戦(6ゲーム)男子の部 ①菅原友民・佐藤捷利(秋田A) 2386 ②大沢・小泉(青森A) 2380 ③阿部・菊地(学連A) 2325 ④嶋廻敏夫・伊藤誠(岩手B) 2300 ⑤遠藤・渡辺(宮城B) 2288 ⑥片川・工藤(青森D) 2286

▽同シニアの部男子 ①佐々木成造・浅見国松(秋田A) 2286 ②張間・柏木(青森B) 2255 ③鈴木・佐藤(福島A) 2222 ④志田・小松(宮城B) 2219 ⑤古谷・斎藤(秋田B) 2177 ⑥畠山正志・佐々木忠夫(岩手C) 2167

▽同女子の部 ①柳田君子・井上恵子(福島B) 2200 ②富樫・片桐(山形) 2136 ③野宮・樋口(青森A) 2094 ④嶋・御代(福島A) 2074 ⑤佐藤・伊藤(秋田A) 2052 ⑥間山・加藤(青森B) 2044

ボウリングは六十二年の第四十二回沖縄国体夏季大会で公開競技となるが決まり、翌年の京都国体から正式競技に昇格する見通し。本県では県ボウリング連盟(会長・小原正巳、遠野市長)が今春県体協に加盟団体として認められ、レジャースポーツから競技スポーツへの第一歩を踏み出した。東北ボウリング大会の大会委員長である吉田几生(やすお) 県ボウリング連盟理事長に今後の県内ボウリング界の展望などを聞いた。

ジュニア層育てて 底辺の拡大を急げ



県ボウリング連盟

吉田理事長に聞く

リンク協会加盟選手は何人か。吉田理事長 百八十余人が加盟している。そのうち約一割が女性会員だ。JBC加入者以外

でも各ボウリング場でゲームに親しんでいる愛好者は六百人を超えるともいわれている。国体の正式競技になれば競技人口は

年を追うごとに増えると思う。本県でも来年の県民体育大会から正式競技になる公算が大きい。

「そうすると、選手育成が課題となるが。」 吉田理事長 ジュニア層の選手養成が大きな課題だ。平日のボウリング場利用や学割料金を活用し、出来るだけ若い人にボウリングに親しんでもらいたい。学校、ボウリング場の理解を深め、底辺拡大に努めたい。友の会や愛好会組織でボウリン

「ジュニア選手の育成に努めた」と語る吉田几生・県ボウリング連盟理事長

「ボウリングは適度に汗を流し、だれでも同じ条件で力を競うことが出来、そこが人気の秘密と思う。」

「スポーツの祭典」最高潮

第37回
県体
中期
第2日

第三十七回県民体育大会中期第二日は十三日、今大会から新たに加わったボウリングなど競技数は一気に15に増え、県内各地で県民の「スポーツの祭典」にふさわしい盛り上がりを見せた。団体（男女混合）で争われたボウリングは盛岡市Aが都南村Aに12点差をつけ優勝した。軟式野球は、成年女子で小沢初江・前川久美子組（陸前高田・盛岡）が制したほか、壮年男子は川村幸男・菊池栄光組（盛岡）、壮年女子は工藤京子・佐々木公子組（花巻・一関）が優勝した。柔道は少年男子個人戦を行い軽々量級・上林勝（山田）、軽量級・志田敬（大船渡）、中量級・及川宗敏（花巻北）、重量級・大町康明（山田）、無差別級・川村晃一（竜沢）が優勝した。レスリングはフリースタイル8階級のうち宮古水産が6階級を制した。相撲は個人戦で無差別級・村上昇（平館）、重量級・高橋裕三（盛岡農）、中量級・大向修（釜石工）、軽量級・駒林規也（大槌）が優勝を飾った。フエンスは成年男子フルレで佐々木満（花巻）が順当勝ち。ラグビー少年Aブロックは盛岡工、宮古、黒沢尻工、盛岡一が準決勝に勝ち進んだ。中期第二日の十四日はなきなた、重量挙げなど新たに5競技が加わり20競技に熱戦を繰り広げる。

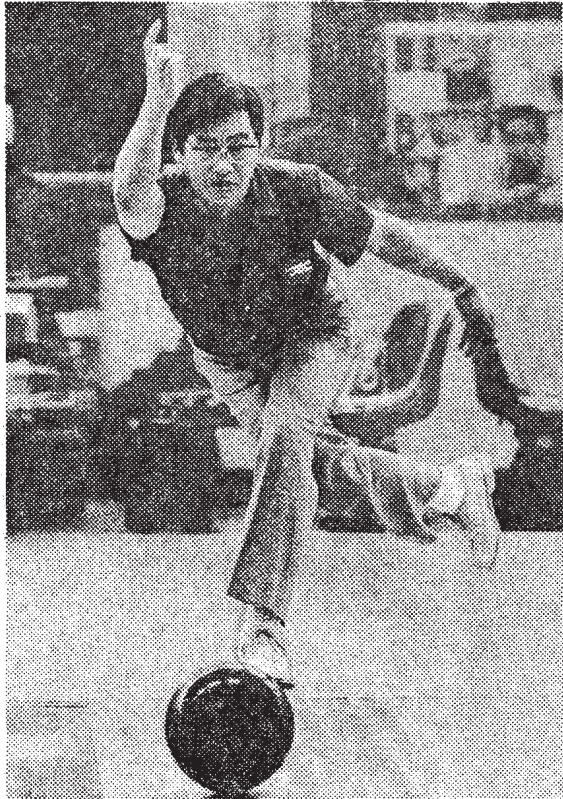
新競技

盛岡市に栄冠

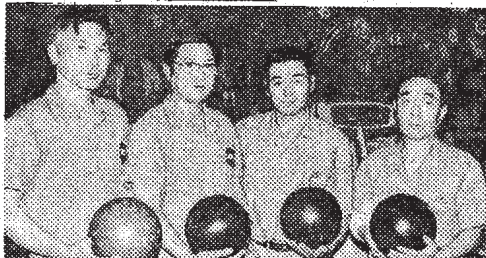
ボウリング

北上市A 6752点④矢巾町6750点⑤都南村B 6714点⑥石鳥谷町6637点⑦水沢市A 6617点⑧盛岡市B 6606点
女性チームも頑張る
○ボウリングはこしから県民体育大会正式競技となったが、

四人ともボウリング歴は一年前後。県民体育大会出場を目指してチームを編成したのも五月下旬という「ヤングチーム」。
お姉さん格の小森田は「きょうは緊張して昼食も食べられなかった」と、予選大会を投げ終えてホッとした表情。チームは予選



団体戦 優勝した盛岡Aを引った川原重治郎（都南村・ベルプラザスーパーレイン



（優勝した盛岡Aチーム 左から佐々木和夫、川原重治郎、丸山忠夫、太田繁夫の各選手）

焦点

県民体育大会三十五番目の正式競技となった今回、団体戦には十八市町村から三十四チームが出場し、盛岡市Aが6768点で初優勝した。

予選6ゲームを終了して決勝へ進んだのは、上位七チーム。盛岡市Aは4497点で、首位の北上市Aに61点差で五番手にいた。
幸い、本県には久慈順子（雫石町）という全国レベルの好選手がいる。久慈を軸にした女子チーム作りを見守りたい。
少年選手の育成は、家庭や高校現場が「高校生がボウリング場に入らするのは好ましくない」との誤解がある限り難しい。競技ボウリングを冷静に理解してもらえよう。県ボウリング連盟の努力を期待する。
いずれ、国体には東北から成年男子が三県、成年女子、少年男子が二県出場することになるのだから。

京都国体へ向け底辺拡大を

ところが、終わってみると、盛岡市Aが都南村Aに12点差、北上市Aに16点差をつけて制していた。追い上げているとは思わなかった」と盛岡市Aのメンバーは口をそろえる。勝因は、決勝戦に入って、都南村A、北上市Aのスコアが伸び悩んだのに比べ、盛岡市Aの四人は最低でも170点台をマークし、750点、762、777点とし、男子が三県、成年女子、少年男子が二県出場することになるのだから。

今回、県ボウリング連盟顧問

（荒屋敷）

29日から東北ミニ国体

ボウリング(公開競技) ゲートボール(デモンストレーション) 加え

◇第13回東北総合体育大会

▷中央開会式 8月29日(金) 午後5時 岩手県民会館大ホール
▷正式競技

会 場 地	競 技 種 目	日 程			競 技 会 場
		29日	30日	31日	
盛 岡 市	陸上競技	◎	○		県営陸上競技場
	テニス	◎	○	◎	県立総合体育館
	ハンドボール	◎	○	◎	県立総合体育館
	軟式野球	◎	○	◎	県営軟式野球場
	ラグビー	◎	○	◎	県営ラグビー場
花 巻 市	バレーボール	△	○	◎	市立バレーボール館
	弓道	◎	○	◎	市立弓道場
	射撃	◎	○	◎	市立射撃場
	軟式庭球	◎	○	◎	市立軟式庭球場
	銃剣道	◎	○	◎	市立銃剣道場
北 上 市	柔道	◎	○	◎	市立柔道場
	剣道	◎	○	◎	市立剣道場
	水泳	◎	○	◎	市立水泳場
	サッカー	◎	○	◎	市立サッカー場
	バスケットボール	◎	○	◎	市立バスケットボール館
一 関 市	フェンシング	△	○	◎	市立フェンシング場
	ボクシング	△	○	◎	市立ボクシング場
	柔道	◎	○	◎	市立柔道場
	剣道	◎	○	◎	市立剣道場
	水泳	◎	○	◎	市立水泳場
釜 石 市	卓球	◎	○	◎	市立卓球場
	サッカー	◎	○	◎	市立サッカー場
	バスケットボール	◎	○	◎	市立バスケットボール館
	フェンシング	△	○	◎	市立フェンシング場
	ボクシング	△	○	◎	市立ボクシング場
遠 野 市	バレーボール	△	○	◎	市立バレーボール館
	弓道	◎	○	◎	市立弓道場
	射撃	◎	○	◎	市立射撃場
	軟式庭球	◎	○	◎	市立軟式庭球場
	銃剣道	◎	○	◎	市立銃剣道場
大 船 渡 町	柔道	◎	○	◎	市立柔道場
	剣道	◎	○	◎	市立剣道場
	水泳	◎	○	◎	市立水泳場
	サッカー	◎	○	◎	市立サッカー場
	バスケットボール	◎	○	◎	市立バスケットボール館
紫 波 町	フェンシング	△	○	◎	市立フェンシング場
	ボクシング	△	○	◎	市立ボクシング場
	柔道	◎	○	◎	市立柔道場
	剣道	◎	○	◎	市立剣道場
	水泳	◎	○	◎	市立水泳場
遠 野 市・大迫町	バレーボール	△	○	◎	市立バレーボール館
	弓道	◎	○	◎	市立弓道場
	射撃	◎	○	◎	市立射撃場
	軟式庭球	◎	○	◎	市立軟式庭球場
	銃剣道	◎	○	◎	市立銃剣道場
滝 沢 村	柔道	◎	○	◎	市立柔道場
	剣道	◎	○	◎	市立剣道場
	水泳	◎	○	◎	市立水泳場
	サッカー	◎	○	◎	市立サッカー場
	バスケットボール	◎	○	◎	市立バスケットボール館
都 南 村	フェンシング	△	○	◎	市立フェンシング場
	ボクシング	△	○	◎	市立ボクシング場
	柔道	◎	○	◎	市立柔道場
	剣道	◎	○	◎	市立剣道場
	水泳	◎	○	◎	市立水泳場

▷公開競技

会 場 地	競 技 種 目	日 程			競 技 会 場
		29日	30日	31日	
都 南 村	ボウリング		○	○	ベルプラザ・スーパーレーン

▷デモンストレーション競技

会 場 地	競 技 種 目	日 程	競 技 会 場
矢 巾 町	ゲートボール	○	町営ゲートボール場

〔注〕△種目別開始式 ◎種目別開始式後競技開始 ○国体地区予選

参加選手は7000人超す

第十三回東北総合体育大会(ミニ国体)は二十九日から三日間、六年ぶりに盛岡市など県内九市五町三村を会場に33競技が開催される。他県勢を迎え撃つ県勢は高松正原体育協会の会長を団長に、千九百九十二人が全競技に参加、東北一の座を目指す。

本県の提唱で四十九年から東北は、これまで三巡目に入る。開催「グ、山岳」23競技は、十月に山各県持ち回りで行った「ミニ国体」33競技のうちラグビー、ボクシング、梨県で開かれる「かいし国体」の

県内17市町村で33競技

東北地区予選となる。参加選手は七千三百二十二人が見込まれ、大会史上初めて七千人を超した。参加人数増は、ボウリングが公開競技、ゲートボールがデモンストレーション競技として加わったため。ボウリングは、来年の沖縄国体で公開競技に、翌年三年の京都国体から正式競技に採用されることから東北各県とも普及、強化を図るために組み入れられた。ゲートボールは老人を中心にした競技人口が増えていることから、総参加の意味を込めて実施に踏み切った。

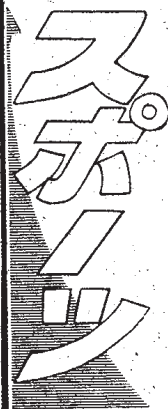
中央開会式は、二十九日午後五時から盛岡市内で開催される。競技の選手は約千人が参加して、盛岡市の県民会館で行われる。競技は、中央開会式に先立ち、二十九日午前中から体操、ラグビー、馬術、ソフトボール、サッカー、山

岳、バドミントンが開始され、残る競技は三十日から始まる。出場選手は多い競技は、陸上競技の八百六十人を筆頭にバレーボールの四百五十人、ラグビーの四百二十人、ソフトボールの三百三十三人が続く。

県勢で期待されるのは、ホッケー、ラグビー、ボクシング、山岳相撲など。昨年は6競技の総優勝を集めた、青森、秋田、佐賀成

ボウリング

国体加入 発展にはすみ



ボウリングが、競技スポーツとして新たな発展期にある。ソウル五輪のエキシビジョンマッチ、そして国体二巡目の京都大会(夏季)で成年の部が関係者悲願の正式競技となった。全国的には高校体育に採用している例もあるほどで、県ボウリング連盟(小原正巳会長)の吉田凡生(やすお)理事長は「競技スポーツとして一層の充実を図りたい」と語っている。

吉田県連盟理事長に聞く

選手層の拡大が課題

教室開き人材の発掘を

わが国では四十年前後に大ブームを呼び、各地にボウリング場が若者のたまり場の存在となったことで、一部ではとして取り組もうという機運が全国的に高まったものがある。三十九年に日本ボウリング協会が創立され、県連盟は四十三年に発足、六年後に県体協加盟団体となった。しかし、果たしたのは、結成から九年

後の五十八年。四年の準備期間を経て、昨年の沖縄国体に公開競技として初参加。京都国体では、成年の部がついに正式競技に採用された。現在、県連盟加盟会員は約二百五十人。成年は男女とも東北予選であと一歩及ばず、記念すべき京都大会には公開種目の少年男子だけに出場したが「東北全体として競技レベルは着実に向上している」

「教育現場や各レインの理解を得て、早い機会に初のボウリング教室を企画したい」と、有望選手の発掘に意欲をみせている。

と吉田理事長は語る。最大の課題は選手層の拡大。会員中、ジュニア選手(中学生、高校生)はわずか八人。少年の部も、早ければ次回国体からの正式種目化に動いている中で「まず若年層にスポーツとしてのボウリングの魅力を知らせてもらいたい」と同理事長。

「選手層の拡大が、本県の競技力向上につながる」と語る吉田凡生県ボウリング連盟理事長

一投に集中する精神力。吉田理事長は「特に本県では、若い世代の競技者が少ないこともあってまさにこれからのスポーツともいえる。老若男女、現在の力量を問わずどんな自己の可能性に挑戦してほしい」と語っている。

県ボウリング連盟への入会希望者は、吉田会計事務所(盛岡市本町通二ノ九ノ三、電話0196-621616)まで。

記録ファイル

▽庄司杯第16回盛岡市軟式選手権大会(23日、盛岡市体育館)

▽成年男子決勝トーナメント

決勝
鈴木・佐藤 4-2 戸東・岩手

▽決勝
鈴木・佐藤 4-2 渡辺・伊東

▽成年女子決勝リーグ①
・幅 婦人デニス 4勝②本
・本 元 3勝1敗③尾
・元 本 婦人デニス 2勝2
・同35歳以上決勝リーグ

鈴木・嶋田(婦人デニス) 3
砂子沢・佐々木(婦人デニス
勝1敗③沢頭・二階堂(婦人
ス1勝2敗

▽壮年1部決勝リーグ①
寺・佐々木(早起きデニス)
②福井・大塚(県庁) 1勝1
伊藤・伊東(早起きデニス)

△第15回盛岡市民バドミントン大会(23日、盛岡体育館)

▽1部男子ダブルス準決勝
亀ヶ森・木 2-0 村上・都

(盛岡市)
立・木 2-0 村上・都

▽決勝
藤沢・伊藤 2-0 斎藤・盛岡

▽決勝
亀ヶ森・木 2-0 藤沢・伊藤

▽1部女子ダブルス準決勝
15154 2 藤沢・伊藤
11115 1 藤沢・伊藤

▽1部女子ダブルス準決勝
15154 2 藤沢・伊藤
11115 1 藤沢・伊藤

▽1部女子ダブルス準決勝
15154 2 藤沢・伊藤
11115 1 藤沢・伊藤

▽1部女子ダブルス準決勝
15154 2 藤沢・伊藤
11115 1 藤沢・伊藤

▽1部女子ダブルス準決勝
15154 2 藤沢・伊藤
11115 1 藤沢・伊藤

▽1部女子ダブルス準決勝
15154 2 藤沢・伊藤
11115 1 藤沢・伊藤

もつとすそ 野の拡大を

須田プロボウラー来社

ボウリングの須田開代子プロが二日午後、吉田凡生県ボウリング連盟理事長とともに岩手日報社を訪れ、村田源一朗編集局長と懇談した。



「大勢の人が取り組みすそ野を広げてほしい」と語る須田開代子さん

知る激動の歩み。国体の正式競技にもなるなすボーツとしての競技性が高まった現在の姿は大変うれしく、その一翼を担ってこれたという誇りがある」と述べた。

本県の競技レベルについては「熱心な指導者のもとで着々と力をつけていると思う」と語り「年齢、性別に関係なく生涯できるスポーツとしてもっと大勢の人が取り組み、底辺を広げてもらいたい。競技力向上には格好にとらわれず

個性を生かしたスケールの大きいフォームを心掛けることが大事」など県内のボウラーへアドバイスした。

須田さんは一日後、都南村で開

かれた大会のゲストとして来県。二日は盛岡市内のホテルで「生涯青春」と題した講演も行った。

須田さんは昭和四十四年にプロのライセンスを取得。全日本選手権など国内優勝は四十三回。五十年にジャパンレディーズボウリングクラブを結成、代表を務めている。

享月 日 薬 聞

1990年(平成2年)9月5日 水曜日 12版 ▲ 第2巻 第2号 (26)

指導した惜しむ寸 念願の国体初出場

県ボウリング連盟理事長

北九州市を中心に九日から開かれる「ふじの国体」夏季大会のボウリング競技に、県の女子チームが初出場する。県ボウリング連盟理事長として強化に努めてきた吉田凡生(むすむ)さん(右)雪其の真しむひとしねだ。



無団体で公開競技となり、八八年の京国体から正式競技に。県男子チームは、東北代表三県を決める東北総体で、八七、八九年と三位に入り、団体出場を果たしている。しかし、二県が一週間の間は、開催地の山形出場できる女子は、あと一歩及ばず三位。いつも、二点差で涙を飲んできましたと吉田さんも悔しがります。

「今年こそはなんとか団体出場を」と、一月から六回にわたる予選で選手を厳選し、選手決



盛岡支局 (7020)
盛岡市中央通1-6-20
☎0196-24-2211
ファクス 24-2229

県内通信網
(北 上) 大通り 4-6-30
7024 ☎0197-64-6131
(一 関) 宮前町 10-3
7021 ☎0191-23-3426
(宮 古) 和見町 2-2
7027 ☎0193-62-3133
(釜 石) 中妻町2-19-24
7026 ☎0193-23-1051
(大船渡) 盛町字町 3-8
7022 ☎0192-27-1845

も一位に入り、見事総合一位となつて団体の出場権を獲得。吉田さんは「団体でも、ぜひ上位

ニュースの速報、写真提供、館などの連絡は支局、県内通信網へお願いします



国内女子プロボウラーの草分け的な存在として知られる須田開代子さん(まき)が二日に盛岡市内のホテルで「生涯青春」と題した講演を行った。ボウリングとの出会い、好不調のはざまに知った多くの教訓、今や国体種目の一つにまでなった競技の先陣を切れたという誇り、病気との闘い…などを平生をたどりながら切々と語りかけた。

常に挑む 心を持って

須田 開代子さん(女子プロボウラー)盛岡で講演



常に自分の目標を見つめ挑戦心を忘れないことが大事—と語る須田開代子さん

すだ・かよこ 昭和32年横浜市立商高卒。44年女子プロボウラー一期生。45年8月から公式戦6連勝するなど通算43勝。51年JLB C(ジャパン・レディーズ・ボウリング・クラブ)を結成し現在も代表を務める。53歳。

が米国のプロを相手にアマの私がやり遂げた成績に周囲のボウリングを見る目は一変した。

プロ試験は30歳の時。四日間60ゲームを行い、アペレ13180ピン以上が合格ラインだった。三日目まで中山律子さんが断然トップで続く。私も案々通過ベース。その時、ある人から「プロならトップだけを狙え。2番目のプロなんてだれも見向きはしない」との一言が今も胸に響く。その時の決意が奇跡の大逆転1位になり、ずっとプロとしての私の勝負魂を支えてきたからだ。

とはいえプロになってからの日々は全く未知の体験ばかり。私たちは信じられないほど多くの報酬と注目を集めスタートにまつり上げられた。負けたくない—という人一倍の意識が6連勝、通算43勝という成績を残したが、気持ちに緩みがあったのは否めない。そして当然のように勝てなくなった。そんな時、米国に半

つらさバネに道開く

競技人口は限られていたから三年後には日本一と言われるまでになった。最初の大きな節目は米国の大会参加でやってきた。五百人ぐらゐ出場したうちの最下位。翌年は三百番目ぐらゐ。三回目の米国大会参加権を得た私は国内の

すべての大会を捨ててその大会だけに集中した。技術的には遅いレーンにどう対応するか。右サイドいっぱいからピンまでの最短距離でボールをぶつけることを練習の反復で体がつかんだ。結果はピン差で優勝こそ逃したが2位。だ

ボウリングとの出会いは貿易会社に勤務していた二十五歳の時。当時やと国内に入り始めたボウリング用品を会社が扱ったのがきっかけだった。最初のスコアは忘れもなかったかと思う。

きらめく太陽 ひろがる友情

第42回国民体育大会(海邦国体)



那覇市—ボウリング競技—初参加

今、オキナワで開く

待望の20年—国体の門

九月二十日(日) 午前九時、第四十二回国民体育大会夏季大会、ボウリング競技の開会式が、那覇市、国際ボウリング場で開かれた。

午前八時三十分には、全役員関係者は所定の位置につき、選手団は集合開始、中央の式台の左右ボックスには、来賓として、業界関係者、京都以降の開催県の視察員、報道関係者が入場し待機。右側のレーン上には、全国的に有名な歴比久殿先生の指揮する市立小森中学校の吹奏楽団五十五名が準備体制を整えた。

放送席にも担当者が着席。式台の後方には、沖縄相互銀行のコンパニオンが待機、右側にJBCC役員、右側に県連役員がボックスの後方に整列する中、前夜国会終了後、来沖の藤波会長が到着、関係者と、挨拶を交わし着席し準備を完了した。



那覇市長代理で歓迎のことばを述べた伊波助役

二十一年間の国体参加の努力が、報いられた新しい第一歩



開会式の入場行進

を踏み出そうとしている。九時〇分「開会式」ファンファーレ。九時一分、藤波会長登壇。行進曲と共に競技会フラカドを市立金城中学校の女生徒が制服で持ち、赤い帽子をかぶって入場。

先頭は、京都、大阪、石川、福岡の順で入場。この入場順は、国体の開催順となっている。元氣よく行進し中央を通り、最後に地元沖縄県の選手団が白地に緑と赤のシンボルカラーのユニフォームで入場すると万場の拍手が起った。九時十六分「競技会開始宣言」小堀競技会委員長が登壇し、声高らかに「ただ今から第四十二回国民体育大会ボウリング競技会の開始を宣言します」と宣言。ファンファーレ。九時十七分「国旗敬礼」国旗に注目「君が代」斉唱。九時十八分 大会旗、全日本ボウリング協会旗、沖縄県旗、那覇市旗に敬礼は「若い力」の演奏と共に終了。九時十九分「競技会会長あいさつ」は、藤波会長より、伊波助役、沖縄県連会、那覇市連会、那覇市旗に敬礼は「若い力」の演奏と共に終了。九時十九分「競技会会長あいさつ」は、藤波会長より、伊波助役、沖縄県連会、那覇市連会、那覇市旗に敬礼は「若い力」の演奏と共に終了。

沖縄国体歓迎レセプション

JBC主催／不二ホテル

九月十九日(土)午後六時十分からJBC主催による、歓迎レセプションを開催した。会場の不二ホテルには、沖縄県金城会館協理、伊波那覇市助役をはじめ関係者、全国の参加監督、公式視察員、水野協理、大西全公協、荒井副会長、丸山理事ら全公協のメンバー、地元比

会場の不二ホテルには、沖縄県金城会館協理、伊波那覇市助役をはじめ関係者、全国の参加監督、公式視察員、水野協理、大西全公協、荒井副会長、丸山理事ら全公協のメンバー、地元比

沖縄県民とのふれあ ウリング会「開く

九月十九日、午後五時三十分から、J



始球式で挨拶する親泊市長／19日

分、JBC主催による、伊波那覇市助役、沖縄県連会、那覇市連会、那覇市旗に敬礼は「若い力」の演奏と共に終了。九時十九分「競技会会長あいさつ」は、藤波会長より、伊波助役、沖縄県連会、那覇市連会、那覇市旗に敬礼は「若い力」の演奏と共に終了。



第42回国民体育大会 ボウリング競技に参加して

成年男子監督

吉 田 几 生

「きらめく太陽、ひろがる友情」のスローガンの下、第42回国民体育大会夏季大会にボウリング競技はオープン競技として初参加となった。全日本ボウリング協会そして岩手県ボウリング連盟がスポーツボウリングの普及を目指して結成されておよそ20年、先輩諸兄、会員一人ひとりの努力が実を結び私も岩手県選手団は感激を胸にボウリング競技の開始式に臨んだ。

思えば長い道のりではあった。県体育協会加盟の陳情等いろいろな思い出が走馬燈のように駆けめぐった。

8月22・23日に秋田市で開催された東北ブロック予選（第14回東北総合体育大会）で、成年男子の部（小笠原勝・佐々木菊夫・嶋廻敏夫・佐藤義明）が見事出場権を獲得しての参加。

9月18日、盛岡駅で見送りを受け出発、新幹線の車中では、前日に届いた県選手団用ワッペンを選手がそれぞれあぶなっかしい手つきで縫いつけ、笑いを呼んだ和やかなシーンもあり、選手団は空がどこまでも青い那覇空港に降り立った。



▲開始式の選手団

翌19日は夏季国体全競技岩手県選手団の結団式、ボウリング競技の監督会議に出席し、成年男子の部年齢別個人戦は21日に競技が開始された。この日は県選手団長佐々木副知事をはじめ役員の方々が競技場を訪れ熱心に応援して下さり各選手頑張ったが残念ながら予選通過はならなかった。惜しまれるのは29歳以下の小笠原、40歳代の嶋廻両選手、それぞれ12点、17点差で決勝進出（8位入賞）を逸している。

来年の第43回京都国体は正式参加となり、岩手県の天皇杯順位得点にも貢献できる。本大会を目標して選手強化に励みたい。

指して選手強化に励みたい。

他種別との競技日程の合間に摩文仁の丘にある戦没者慰霊碑を参拝し平和への思いを強くしたこと、その時の親切なガイドさんが応援に駆けつけてくれ素敵な沖縄女性との出会いがあったこと、そして金環日食を沖縄の地で観る機会に恵まれたこと等々。思い出多い心に残る沖縄海邦国体だった。

終わりに選手派遣に際し、ご支援ご協力いただいた岩手県ボウリング公認競技場協議会そして会員の皆様にお礼を申し上げご報告とします。

（スーパーレーンニュース1987年11月号に掲載された報告書です。一部省略しました。）

佐藤 日通盛岡支店が8位入賞



佐藤 日通盛岡支店

予選177、決勝554 ②
高田(栃木)1686点③米沢兵
庫1677点

▽少年女子団体決勝 ①北海道
3379点 ②選2343、決勝
1036 ③玉置1325、畑中1

▽少年女子個人決勝(9ゲーム)
854 ②京都3110点③大阪
3102点

①畑中知子(北海道)1786点
(予選185、決勝601) ②
宮川(京都)1611点③関根(東
京)1609点
◇ 成年男子2部個人予選を6位で
通過し、この日の決勝に期待が
かった佐藤喜三郎(日通盛岡支店)
は、思うようにスコアが上がらず
8位入賞に終わった。体調はよか
ったが、全般に伸びなかった。や
はり決勝というところで緊張した
いでしょうか。とゲームを振り返
った。しかし「8位以内入賞の目
標は達成したので満足ですよ」と
語り、周囲の祝福に改めて喜びを
かみしめていた。
この日からの団体は、4人6ゲ
ームのトータルで番手は4348
点で24位にとどまり、決勝進出は
ならなかった。

ボウリング

(釧路パレスボウル)
▽成年男子1部個人決勝(9ゲ
ーム) ①渡辺郁夫(香川)1883
6点(予選1198、決勝888)
②大会新の大野(福岡)1748
点③豊毛(宮崎)1712点④佐
藤喜三郎(岩手・日通盛岡支店)
1598点
▽少年男子団体決勝 ①大阪3
571点(予選2521、決勝1
050)②岸本1772、吉田17
99 ③兵庫3317点④愛知3
265点
▽少年男子個人決勝(9ゲーム)
①高久良孝(北海道)1731点

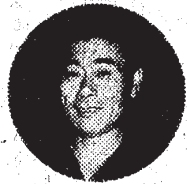
国体夏季大会 北海道

第2日

第四十四回国民体育大会夏季大会第二日は四日、北海道四市二町で水泳、ボウ
トなど5競技を行い、函館市民プールでの競泳で宇佐見政勝(千葉・千葉商大付
属)が五秒自由形25秒6(手動計時)の日本新をマークした。宇佐見は混合
男子二百メートルの第一泳者として登場、きれいな泳ぎで、自らが八月のパンパ
シフィック選手権で出した23秒89の未公認日本記録をも上回った。成年男子二百

リレーには千葉の第一泳者としてソウル五輪のヒーロー鈴木大地(セントラル
SC)も出場、力泳したが、タイムは24秒5と平凡だった。
風勢の競泳は、この日も全種予選落ち。昨年から正式種目となったボウリング
成年男子1部の50歳以上の部で丸山忠夫選手(丸山鉾金)が1673点で3位入
賞で県勢入賞の第1号となった。このほか、同2部の佐藤喜三郎(日通盛岡支店)
もベスト8で決勝へと進んだ。好発進のヨットは、少年女子FJ級で宮古高の後
藤・水上クルーが1回戦で3位につけたほか、成年男子470級が2回戦を終え
て6位と好位置を確保している。三日目の五日にはヨット男子勢が最終レースを
迎え、複数年入賞の期待が寄せられる。

ボウリング 本県の丸山5位



成年男子1部 50歳以上 丸山 鉾金

▽成年男子1部年齢別個人50歳
以上決勝(9ゲーム) ①河北勝利
(山口)1758点(予選117
9、決勝579) ②上坂(京都)
1736点③並重(沖縄)172
9点④丹羽(愛知)1693点⑤
丸山(岩手)1673点⑥岡長
崎(1672点)⑦野上(広島)1
664点⑧山本(岡山)1645
点

▽成年男子2部個人予選通過者
(6ゲーム) ①渡辺郁夫(香川)
1998点(前半556、後半6
42) ②本永(愛知)1774点
③林(和歌山)1717点④土屋
(千葉)1170点⑤豊毛(宮崎)
1164点⑥佐藤(岩手)115
5点⑦中田(大阪)1154点⑧
大野(福岡)1151点

県勢は成年男子1、2部個人の
3種目に出場した。1部50歳以上
の丸山忠夫(丸山鉾金)は予選6
ゲームで1121点をマークし、
6位で予選通過。決勝でも3ゲー
ムで552点を上積みし1673
点で5位入賞を果たした。
2部の佐藤喜三郎(日本通運盛
岡支店)は予選6ゲームで115

カヌー

(かなやま湖ほか)

▽少年男子カヤックシングル決
勝(3000) ①富松和彦(福岡
・三瀬高)1分6秒70②安松(大
分・大分桜丘高)1分8秒47③中
田(京都・久美浜高)1分8秒61

成年女子2部 後藤(水沢) 8位に

ボウリング

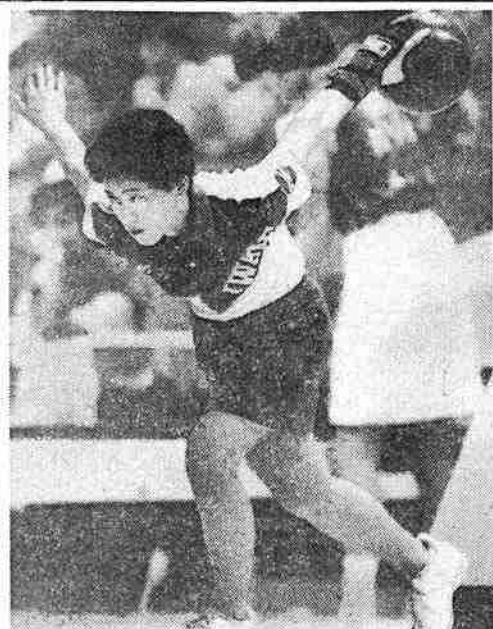


成年女子2部個人8位入賞者 後藤(水沢) 沢市・ゴト自動車

1664点(富永) 1664点
 4点
 △成年男子二部年齢別個人30歳以下決勝(9ゲーム)①山形研吾 福岡 2036点 予選1262、決勝774 ②大会新の山本(富山) 1814点 ③幸森(石川) 1805点
 △成年男子一部年齢別個人40歳代決勝(9ゲーム)①永橋貴男 大阪 1825点 予選1199、決勝626 ②本永(愛知) 1806点 ③大橋(三重) 1783点
 △成年男子二部年齢別個人50歳以上決勝(9ゲーム)①平川晃 福岡 1887点 予選1218、決勝619 ②大会新の刈谷(高知) 1771点 ③森実(宮崎) 1765点
 △成年男子二部個人決勝(9ゲーム)①北川晴章(東京) 1883点 予選1273、決勝561 ②除頭(熊本) 1824点 ③一尾(三重) 1806点
 △成年女子二部個人決勝(9ゲーム)①相川真由美(福岡) 1732点 予選1267、決勝465 ②大野(岡山) 1710点 ③大和田(熊本) 1551点 ④後藤(水沢) 1439点
 予選1439点

三浦(水沢)が7位入賞

ボウリング成年女子30歳代



健闘よく1530点をマークし7位に入賞した三浦巳代子(水沢市・回進堂) 福岡市・スポーツガーデン・香椎ボウリング場

第45回 国体夏季大会 福岡 第2日

【北九州日本体育記者団】第四十五回国民体育大会夏季大会第二日は十日、北九州文化記念アールを会場に競技が行われ、水泳で最終日、大会新14が生まれ、またこの日で終了した水泳の少年男子は大阪が二年連続六度目の優勝を飾った。県勢はボウリングの成年女子個人30歳代で三浦巳代子(水沢市・回進堂)が7位に食い込み入賞第1号になった。成年男子部の優勝者(水沢市・ゴト自動車)も予選突破し8位入賞が確定した。お祭りのヨットはこの日から各々のレースも始まり、好調な出足。

ボウリング

福岡市・スポーツガーデン・香椎ボウリング場
 △成年女子一部年齢別個人20歳以下決勝(9ゲーム)①末田和美(大分) 1808点 予選1065、決勝543 ②水井(京都) 1607点 ③宮本(福岡) 1535点
 △成年女子二部年齢別個人40歳代決勝(9ゲーム)①池上登美 静 以上決勝(9ゲーム)①山口口啓子 福岡 1670点 予選1192、決勝548 ②早川(埼玉) 1632点 ③津崎(熊本) 1633点
 △三浦巳代子(岩手、水沢市・回進堂) 1530点
 △成年女子一部年齢別個人40歳以下決勝(9ゲーム)①浅井敦子 福岡 1743点 予選1100、決勝623 ②森(埼玉) 1664点 ③谷本(大阪) 1626点
 △成年女子二部年齢別個人50歳以上決勝(9ゲーム)①山口口啓子 福岡 1670点 予選1192、決勝548 ②早川(埼玉) 1632点 ③津崎(熊本) 1633点
 △三浦巳代子(岩手、水沢市・回進堂) 1530点
 △成年女子一部年齢別個人40歳以下決勝(9ゲーム)①浅井敦子 福岡 1743点 予選1100、決勝623 ②森(埼玉) 1664点 ③谷本(大阪) 1626点
 △成年女子二部年齢別個人50歳以上決勝(9ゲーム)①山口口啓子 福岡 1670点 予選1192、決勝548 ②早川(埼玉) 1632点 ③津崎(熊本) 1633点
 △三浦巳代子(岩手、水沢市・回進堂) 1530点

予選が好調、難関を突破 三浦

夏季大会の県勢初入賞は前回に続いてボウリングだった。殊勝者は成年女子30歳代個人の三浦巳代子(水沢市・回進堂)。二十人の予選(6ゲーム)を突破し、八人に絞られた決勝では番目だったが堂々の入賞である。

個人戦は二日かかるとは思われていたが、初日の後半3ゲームは514点で11位、ところが、この日の後半では533点の高得点を出して一気に4位押し上げる大活躍。後半のスコアは183、180、190点と安定した配点で、後半の3ゲームは7位の得点だった。決勝は、予選で得た点を持ち点としてさらに3ゲームの点をプラスする。首位に74点、8位に46点差で午後三時十五分からの決勝に臨んだ。そして決勝でプラスした点は463点、通算1067点(小田島)を確定した。

7位の順位に、三浦は「予選の後は出来ず、決勝は頑張ったけれどダメだった」と肩を落とした。しかし、吉田凡生県理事長をはじめ同僚の言葉を聞いて精いっぱい闘ったという。

リーダー格の久慈順子(小岩井)は「三浦さんはよく頑張った。少し疲れたのが惜しまれた。しかし、ナショナルチームの一員である久慈代子の経験は予選15位、前半7位に食い込んでいた小笠原ケイ子(盛岡市)は大きく削れて13位、20歳以下の上村優子(玉山村)は17位と決勝進出にはやや遅かった。また、この日行われた成年女子2部個人予選で優勝者(水沢市・ゴト自動車)が8位に滑り込んで十一日の決勝に進出し、入賞を確定した。」(小田島)

阿部(山田)の準決

ボート

(盛岡市・盛岡市ボート競技場)
 △成年男子一部シングルスカル二重連(4人組)①阿部正吉 山田ロイヤルクラブ 4分52秒8

三日は十日、福山市の緑町公園屋内競技場などで水泳、ボート、ヨット、カヌー、ボウリングの5競技を行った。水泳の飛び込み成年女子板飛び込みは、現役最後の大会となったアトランタ五輪6位の元潤幸（奈良・天理教本部）が快勝し、成年男子高飛び込みも五輪代表の金戸恵太（東京・ミキハウス）が制した。競泳は14種目の決勝戦を行い、少年女子A二百個人メドレーはアトランタ五輪自派泳ぎ4位の中村真衣（新潟・帝京長岡高）が日本歴代4位の

鹿島学園高）が二連勝。カヌー・スラローム成年女子カヌーシングルの15ゲートは、アトランタ五輪出場の小林弘子（東京・羽村市役所）が二年連続六度目の優勝を果たし、25ゲートと合わせて二年連続二種目を制した。前日、視界不良などで順延されたヨットはこの日が競技二日目。成年女子シールホッパー級スモールリグにはアトランタ五輪女子470級銀メダルの重田美子（佐賀・佐賀県ヨットハーバー）が出場した。

ボウリング 成年男子 工藤（第一ビル用品）は8位



工藤 文彰（第一ビル用品）

この日の県勢は、大会三日目にして入賞者が生まれた。ヨット少年男子FJ級の岩手選抜（中川知久、鈴木一肇、宮古高）が7位入賞を果たし、ボウリング成年男子個人年代別29歳以下の工藤文彰（第一ビル用品）も8位入賞。ボート少年女子カヌーフォアの盛岡三高が準決勝「D組」を2位で5-8位決定戦に進み入賞を確実にした。カヌー・

スラローム成年男子カヤックシングル（15ゲート）の天川雅彦（磐石町役場）は10位に終わり、25ゲートに続いて惜しくも入賞を逃した。競泳は5種目に県新4、県高校新2、県中学校新1が生まれたが、決勝進出者はなかった。

ボウリング

＜成年男子＞年齢別個人29歳以下決勝（9ゲーム）①桜庭良弘（千葉）2033点（予選1809、決勝724）②沖（広島）2000点③伊藤（福岡）1983点以上大会新④工藤文彰（岩手・第一ビル用品）1866点（1299、567）
▽同30歳代決勝（9ゲーム）①松崎寿夫（岡山）1992点

▽同40歳代決勝（9ゲーム）①大西正己（大阪）2058点
▽同50歳以上決勝（9ゲーム）①石井幾二（宮崎）2027点
＜少年男子＞団体決勝（9ゲーム）①北海道3862点

②大会新
＜少年女子＞団体決勝（9ゲーム）①北海道3579点

②大会新
▽県勢の記録：▲
＜男子＞成年団体予選前平（3ゲーム）⑤岩手（工藤、平野、伊藤、藤村）2431点

＜女子＞成年団体予選（6ゲーム）⑤岩手（岡山、桜井、久慈、熊谷）4515点

▽入賞にも喜び半分、成年男子29歳以下の工藤文彰（第一ビル用品）は「調子は良かったが、立ち上がりから決勝の雰囲気にもまれた。まだ経験不足です」と前日から順位を落として8位入賞に喜び半分。他県勢のストライク連発に多少の力みが出たそうで「自分のペースを見失ってしまった。欲しいところでストライクも取れず、焦りが出た」と反省しきり。

しかし、初の決勝進出とい

う目標を果たした上に「次のステップになる。この経験を生かし、来年の国体で上位進出を目指す」と気持ちを切り替え、「1ポイントだが岩手の得点にも貢献できた」と、今国体待望の県勢初入賞に胸を張った。

第54回 夏季国体 熊 本

第2日

【熊本市で本社記者団】第五十四回国民体育大会「くまもと未来国体」夏季大会第百十三日、熊本市総合屋内プール(アクアドームくまもと)を主会場に、水泳など6競技が行われた。十一日に続く悪天候のため、競技の一部中止や中断が相次いだ。水泳の競泳は18種目の決勝などを行い、少年男子B四百個人メドレーで森康聡(熊本・九州学院高)が4分27秒26の大会新で2連覇。少年男子A二百背泳ぎはパンパシフィック選手権代表の園田直哉(兵庫・報徳学園高)が2分33秒43の大会新で制した。成年男子板飛び込みは、昨年まで少年男子同種目で三連覇した第一人者の寺内健(大阪・甲子園大)が優勝した。今回から正式競技となったゴルフは成年の男女と少年女子で、雷雨による一時中断があつて全選手のホールアウトが完了せず、各チームとも終了した。選手のスコアだけが第一日の成績として採用される措置が取られた。ヨットは全レースのうちの半分が悪天候で中止。カヌーは雷雨で、ボートは霧のため競技が一時中断された。県勢は、ボウリングの成年女子個人50歳以上の部で久慈順子(小岩井乳業)が2位。同競技の県勢として初めて表彰台上がり、今大会初の入賞を挙げた。競泳の少年男子A四百個人メドレー決勝に臨んだ畑中慎一郎(盛岡三高)は、自己ベストの4分41秒36をマークしたが、9位で入賞を逃した。敗者復活戦を行ったボートは、少年男子ダブルスカルの岩手(西和賀高)が準決勝進出を決めた。ヨットは、少年女子J級の三上恵子・箱石飛鳥組(宮古高)が第1レースを終えて6位の好位置につけた。

久慈

(小岩井乳業)

準優勝

成年女子
50歳以上

ボウリング

(熊本交通センターボウルは)

か)

▽少年男子個人決勝(9ゲイム) ①武本真明(大阪) 1

▽少年女子個人決勝(9ゲイム) ①末永夏希(愛知) 1

▽成年女子個人決勝(9ゲイム) ①関根直子(東京) 1

▽成年女子個人29歳以下決勝(9ゲイム) ①山田貴子(広島) 1

▽成年女子個人30歳以上決勝(9ゲイム) ①吉田純子(長崎) 1

▽成年女子個人40歳以上決勝(9ゲイム) ①沖崇子(広島) 1

▽成年女子個人50歳以上決勝(9ゲイム) ②久慈順子(岩手・小岩井乳業) 1

大黒柱 執念のボウル



ボウリング個人成年女子50歳以上の部決勝 県勢過去最高の2位に入る久慈順子(小岩井乳業) 熊本交通センターボウル

要快にピンがはじき飛ばされ、音が響きわたった。ボウリングの成年女子個人50歳以上の部決勝。予選で3位につけた久慈順子(小岩井乳業)は、大柄な体から繰り出す力強いボウルで、決勝第1ゲームのスタートから4連続ストライクの快調な出足を見せ、見事に県勢として過去最高の成績に輝いた。

久慈、県勢初の入賞

平成年から二年間、ナショナルチームにも在籍していた久慈はワールドカップにも出場したアマチュアのトッププレーヤー。しかし、国体は一度の出場入賞はなし。ボウリング競技はそもそも、団体四人の総合スコアで国体出場が決まるため、一人がいくら強くても出場権さえ得られない。

「どうしてもこのチャンスをものにしなければ。過去の福岡、広島の両国体で思うような結果が出せなかった久慈は、執念が乗り移ったようなボウルで、これまでのうっぴんを晴らすようにピンをはじき飛ばしていった。決勝第1ゲームで2位に順位を上げ、最後まで優勝への執念を燃やし続けた。

阿部勝弘監督(西岩生コンクリート)は久慈を「かつては自分さえ勝てればそれでいいというタイプだった」と語る。しかし、「今大会は違う」と同監督。自ら進んでチームメイトの輪に入り、後輩を指導。エースとしてチームを引っ張ってき

▽成年女子個人50歳以上予選(6ゲイム) ③久慈順子(小岩井乳業) 1093点(前半526、後半567) 決勝進出

▽成年女子個人50歳以上決勝(9ゲイム) ②久慈順子(岩手・小岩井乳業) 1658点(予選1093、決勝565)

▽「国体完全出場」ボウリングの成年女子個人30歳代の部に出場した高橋久美子(岩手東芝)は、これまで秋季大会のソフトボウル、冬季大会の2部アルペン大回転に

出場。夏、秋、冬の「国体完全出場」を達成した。予選16位で決勝進出はならなかったが、「大好きな国体の雰囲気、また味わえて満足」とさわやかな笑顔を見せた。

ソフトボウルでは県選抜の主将を務めた。ボウリングはまたキャリア5年だが、持ち前の根性と家族の協力のおかげで、出場を目指すがどうかは分からないが、しばらくは家族のために尽くしたい」と晴れやかだった。

成年女子

小笠原(ムラタ)6位入賞

29歳以下

ボウリング

(高知県ボウルジャンボほか)

▽少年男子団体決勝(9ゲ
木639)
1ム①神奈川3996点
大会新(予選26038、決勝
優勝)
▽少年女子団体決勝(9ゲ
木639)
1ム①静岡3681点大



ボウリング成年女子年齢別個人29歳以下
決勝 6位入賞と健闘した小笠原由美子
(ムラタ) 高知市・ボウルジャンボ

会新(予選2483、決勝1
198中野597、勝又6
01)
(静岡は2年連続2度目の優
勝)
▽成年女子年齢別個人29歳
以下決勝(9ゲーム)①藤井
聖絵(福岡)1979点(予
選1322、決勝657)⑥
小笠原由美子(岩手、ムラタ)
1775点
▽成年女子年齢別個人30歳
代決勝(9ゲーム)①伊藤祐
子(新潟)1838点(予選
1224、決勝614)⑦鈴
木ゆかり(岩手、ヨシケイ岩
手)1729点
▽成年女子年齢別個人40歳
代決勝(9ゲーム)①西村孝
美(大阪)1859点(予選
1222、決勝637)
▽成年女子年齢別個人50歳

「悔いなし」初の入賞

小笠原と
鈴木



鈴木ゆかり
(ヨシケイ岩手)

ボウリングは成年女子で2
人の入賞者が出た。年齢別個
人29歳以下で小笠原由美子
(盛岡市・ムラタ)が6位、
30歳代で鈴木ゆかり(水沢市
・ヨシケイ岩手)が7位と健
闘した。2人とも仕事と家庭
を持つ忙しい身。その中で土
日曜日の県連盟の強化合宿を
降、競技から遠ざかっていた
鈴木は久しぶりの挑戦だっ
た。予選を1位と12点差の2
位で通過。しかし、決勝でレ
インコンディションに苦しん
だ。2つのレーンを交互に投
げる決勝は左右のオイル状況
が異なり、ボールのカーブの
度合いが違った。1、2ゲー
ムは150点台、3ゲームこそ
196点と本来の調子を取り
戻したもののスコアを大き
く落とした。「順位には満足。
決勝で自分のボウリングがで
きなかったのが残念」と悔し
がった。

(上中)



第57回高知国体(2002)
小笠原由美子ユースの部6位



第57回高知国体(2002)
鈴木ゆかりミドルの部7位

▽同シングルスカル準決勝
3分45秒71 決勝進出
▽少年女子(4)付島田スカル
準決勝 B組 ④早(山田
高川後藤 阿部優 阿部支 中沢
理) 3分58秒49 決勝進出

3年ぶりの団体出場で、成年女子30歳代2位となった小笠原由美子(ムラタ)



小笠原(ムラタ)2位 成年女子

ボウリング

▽全日本ボウリング協会
▽成年男子年別個人総選挙
決勝(9ゲーム) ①山田光一 神
奈川 1992点 予選 1843点
▽同50歳代決勝(9ゲーム) ①
山田光一(愛知) 1800点 予
選 1406点 決勝(9ゲーム) ①
▽同40歳代決勝(9ゲーム) ①
松崎寿夫(岡山) 2080点 大
会新 予選 1337点 決勝 738点
▽同30歳代決勝(9ゲーム) ①
野々村光(愛知) 2020点 予
選 1406点 決勝(9ゲーム) ①
▽同20歳代決勝(9ゲーム) ①
渡辺常男(大阪) 1650点 予
選 911点 決勝(6ゲーム)
▽成年女子年別個人総選挙
決勝(9ゲーム) ①小笠原由美子
1800点 予選 1169点
▽同50歳代決勝(9ゲーム) ①
渡辺常男(大阪) 1800点 予
選 911点 決勝(6ゲーム)
▽同40歳代決勝(9ゲーム) ①
小笠原由美子(岩手) 1784点 1
200点 544点
▽同30歳代決勝(9ゲーム) ①
花巻幸恵(山形) 1700点 予
選 903点 決勝(6ゲーム)

復活舞台、際立つ正確さ 小笠原

3年ぶりに戻ってきた団体の舞台で最高の結果を残した。小笠原由美子(ムラタ)は成年女子個人30歳代2位の座を最後まで守り抜き、準優勝。3年前の高知国体29歳以下6位をも上回り、もう十分の成績上出来だと思つた賞状を手に笑顔がこぼれた。予選前半3ゲームで649点と好スコアを出し、首位。後半も911点と伸ばし、予選2回目で優勝に躍り出た。好調の要因を「タイミング、特にボールを放す瞬間に注意した」と語る。男子向けのパワーボウラーだが、あえてそのパワーは封印。一投一投、正確性を重視して腕を振れたことが、好成績に結び付いた。目標の8位以内が確定していたこの日の決勝は、点数どう

マスターズ 本県の藤原が大会新V



藤原 孝至選手 (岩手大職)

45歳以上の男女120人がチーム戦や個人戦を月)のボウリング男子選手権者決定戦(6ゲーム)はチーム戦の上位者が進出。6ゲームの総合得点で順位を競った。藤原選手は1ゲーム目標を掲げた。

日本スポーツマスターズ2006(広島県、9月)のボウリング男子選手権者決定戦(6ゲーム)はチーム戦の上位者が進出。6ゲームの総合得点で順位を競った。藤原選手は1ゲーム目標を掲げた。

応援席

「入賞だけを考えてたからまさか優勝できるとは」。第61回国民体育大会のボウリング(成年男子年別別ハイミドル)で県勢初優勝した木村聡選手(45)「全農クミックス、奥州市」が振り返った一言は印象的だった。重圧から解き放たれたとき、アスリートは百パーセントの力が出せるのだろ

実力出し切ることに集中を

8月の全国中学校体育大会の軟式野球で初出場初優勝した福岡中も県大会初制覇を契機に東北を制し、一気に全国の頂点に駆け上がった。県内で「勝ちたい、勝たなければいけない」という重圧がなくなった選手が「自分たちの野球」を信じ実力を出し切った結果だ。来月にかけて高校は駅伝、ラグビー、サッカーなど全国大会の本県代表が続々と決まる。まず実力すべてを出し切ることに集中してほしい。何がきっかけで「殻を破る」ことに成功するかわからない。(正)

木村(全農)クミックス 一気に頂点

40歳代 県勢初の金字塔

ボウリング

(神戸六甲ボウル)

▽少年男子団体決勝(9ゲーム)
①兵庫3716点 宇野 達也、
決勝1811 平岡570、大田
611 ②福岡3646点 ③神奈
川3619点

(兵庫は初優勝)
▽成年男子団体予選(6ゲーム)
①岩手4336点 岩崎1105、

工藤1102、木村1108、藤
村1013 ②落選

▽年齢別個人20歳以下決勝(9
3)

91点 予選1348、決勝64
橋一陸(兵庫)1951点(予選
1264、決勝687)

▽30歳代決勝(9ゲーム) ①石
村 ②金農クミックス 1

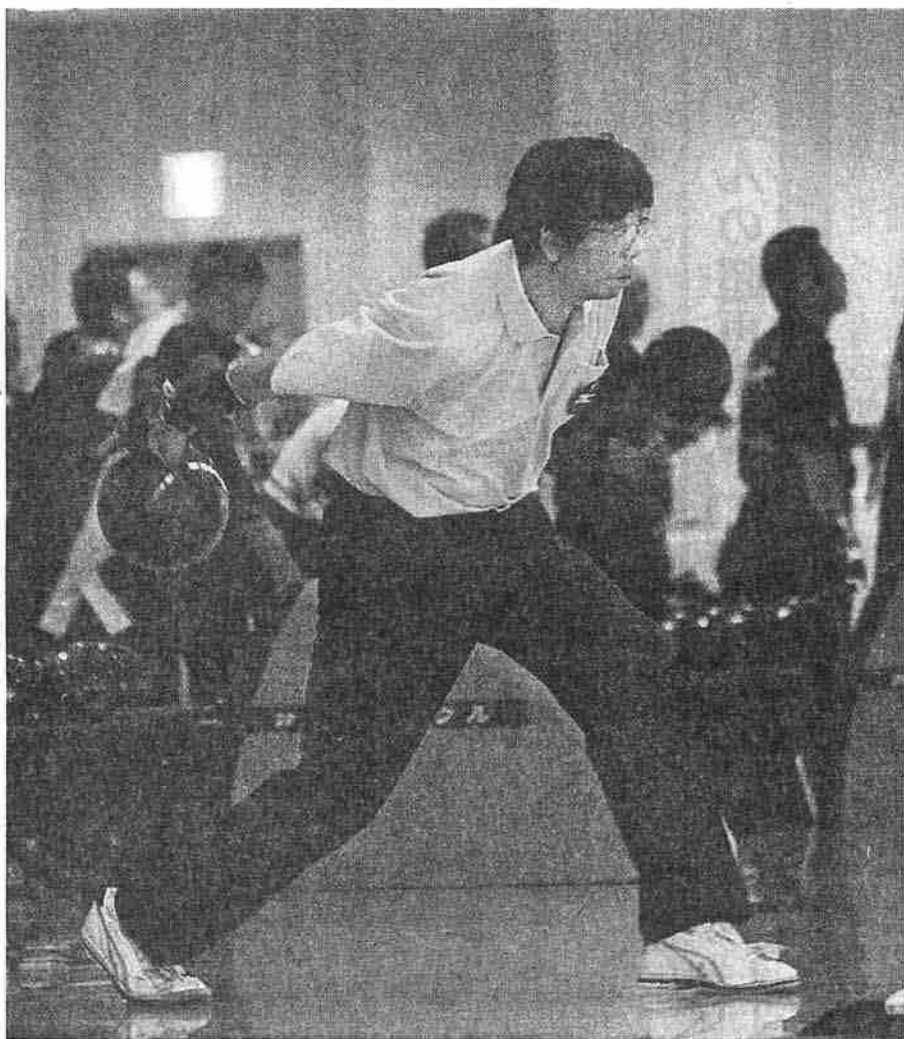
▽40歳代決勝(9ゲーム) ①木
村 ②金農クミックス 1

▽30歳代決勝(9ゲーム) ①松
根 ②金農クミックス 1

大舞台で花開いた

吉田凡夫県ボウリング連盟
会長の話 県勢初の優勝で本
当にうれしい。若手ボウリン
グ界にとっても画期的なこ
と。(木村選手はなかなか全
国で結果を出せなかったが、
素質は抜群だった。団体とい
う大舞台で見事に花開いた。

圧巻9連続ストライク



第2ゲームでリズム 決勝

ハイライト

前半704点で首位に立った木
村は、後半も563点にまとめ
予選を3位で通過。その勢いは
さらに加速した。

「ここまで来たんだ、自分の
ボウリングをしよう」と、ブラ
スチックのような材質のレーン
に惑わされないように臨んだ決
勝(3ゲーム)。クライマックス
は第2ゲームにやってきた。

第1フレームから9連続ストライ
ク。183秒の長身からゆっ
たりとしたフォームで投じた15
球3球(約6・9ミ)のボール
は10本のピンを次々に倒した。

「あれでほかの選手にプレッ
シャーがかかったのではない
か」と振り返る根田光明監督盛
岡赤十字病院。266点を挙げ
て抜け出すと、最終ゲームは一
投ずつ気持ちを詰め、悔いが残
らないよう丁寧に投げ込んだ。
ボウリングを始めたのは地元
の水沢工高を卒業して社会人にな
ってから。マイボールを持つ
ていた友人に連れられて通う
ちのめり込んでいった。20代半
ばの1985年にボウリングが
県民体で採用され、競技スポー
ツとして本格的に打ち込んだ。
普段は奥州市の自宅から農協
関係の作業用具などを扱う盛岡
市の職場に通う。練習は主に週
末の休日に多いときで6ゲーム
ほど。本拠地になっている奥州市
水沢区のボウリング場が3月か
ら改装休業中だったため「練習
量は減ったけれども、それで逆
にフレッシュさが小さくなった
のかな」と勝因を推し量る。

東北予選で涙を流すことも多
く、なかなか結果を出すことが
できなかった団体の大舞台。信
じられない。まさか優勝できる
とは」と興奮気味に試合を振り
返り、「これからは若い選手を
育成し、競技人口を増やすこと
にも力を入れたい」と晴れ晴れ
とした顔で新たな目標を掲げ
た。(細川)



国民体育大会優勝！

奥州支部

常任理事 木 村 聡

「第61回のじぎく兵庫国体」ハイミドルの部において、悲願であった国体での入賞を、優勝という自分でも信じられないような結果で果たすことができた。

平成元年の「第44回はまなす国体」への初出場から17年。6度目の国体でやっと出した結果であった。

今、改めて振り返れば、最初に出場した「はまなす国体」は、ブロック大会の怖さ、国体の素晴らしさを知らないままの参加だった。優勝どころか入賞の二文字も頭には無かったと記憶している。しかし、初めての国体は自分の気持ちを大きく動かした。地元の方々の歓迎ムード、開始式の感動、大会の雰囲気、どれをとっても素晴らしいもので、丸山忠夫選手、佐藤喜三郎選手の入賞の盛り上がりを見近に見て、また国体に出場したい、自分も入賞したい（当時まだ出場したいという気持ちの方が強かったが・・・）と深く心の刻む大会となった。だがそれからというもの、県予選での敗退、総体での予選敗退を繰り返すこととなり、国体出場という想像以上のプレッシャーが自分を支配し、総体での予選突破の難しさ、厳しさ、悔しさを嫌というほど痛感させられた。そして、やっとの思いで出場権を獲得し、5年ぶりに出場した「第49回わかしゃち国体」は久しぶりの参加ということもあり、参加できるだけで満足していた大会だったような気がする。

その後、岩手県選手団は自分も含め、国体に度々出場することになるのだが、その間出場した選手たちが次々と入賞を果たし、今度はそれも大きなプレッシャーとなって自分に申し掛かってくるようになってきた。国体の出場回数はそこそこ有るのに入賞できない。もの凄いプレッシャーを総体から感じていた。「なんとしても国体に出場したい、国体で入賞したい」気持ちだけが空回りし、総体、何とか出場権を得た国体も、普段のボウリングが出来ないまま、ただ回数を重ねていくことになった。

平成12年の「第55回2000年とやま国体」出場後、「のじぎく兵庫国体」まで6年の歳月を要することになるのだが、その間、自分の気持ちに大きな変化が起きたような気がする。年を重ねたせいなのかもしれないが、予選を突破するという気持ちよりも、いつでも、どんなときでも自分のボウリングをする、普段のボウリングをするということが、本当に大事なことだと思えるようになった。常にそれに集中できれば、それなりの成績はでる。そしてそれが結果となってつてくる。気持ちに余裕のようなものが生まれたのだと思う。ボウリングは、自分自身との戦い、いかにしてレーンを攻略することが一番大事なことであり、そしてそれが順位という結果になる。そのことが「のじぎく兵庫国体」の優勝に大きく生かされ、結果になってあらわれたのだと思う。

もちろん自分の力だけではなく、一緒に戦ってくれた根田光朗監督、チームメイトの岩崎敬人、工藤文彰、藤村他可夫選手、そしてご指導、ご鞭撻を頂いた県連の役員、会員の皆様の多大なる応援があったのも、自分の大きな力になったのはいうまでもない。これからもそれを肝に銘じ、精進していこうと思う。

自分もそろそろシニアになろうとしているので、時には若手を引っ張り、時には若手に引っ張って貰いながら、若手のいい見本となれるよう、選手として、役員としてこれからもまた頑張っていければと思う。

国民体育大会参加選手名簿

開催地	種別	監督	選手
第42回（昭和62年・沖縄県）	成男	吉田几生	小笠原勝 佐々木菊夫 嶋廻敏夫 佐藤義明
第43回（昭和63年・京都府）	少男	吉田几生	工藤文彰 嶋廻克彦
第44回（平成1年・北海道）	成男	菊地 賢	木村 聡 浅野周三 川原重治郎 丸山忠夫 佐藤喜三郎
第45回（平成2年・福岡県）	成女	熊谷礼子	上村優子 三浦巳代子 久慈順子 小笠原ケイ子 後藤秀子
第49回（平成6年・愛知県）	成男	阿部勝弘	工藤文彰 木村 聡 川原重治郎 丸山忠夫 赤澤 清
第50回（平成7年・福島県）	少男 少女 成男	上野吉朗 佐藤和典 阿部勝弘	大橋 学 菅原崇史 佐藤結香 菊池しのぶ 工藤文彰 木村 聡 川原重治郎 吉田 優 加藤典博
第51回（平成8年・広島県）	成男 成女	阿部勝弘 木村 聡	工藤文彰 平野信雄 伊藤 誠 藤村他可夫 畠山由美子 桜井ゆかり 久慈順子 熊谷礼子
第52回（平成9年・大阪府）	成男	木村 聡	工藤文彰 小笠原賢 川原重治郎 佐々木和夫
第54回（平成11年・熊本県）	少女 成男 成女	阿部トミエ 伊藤 誠 阿部勝弘	松本梨絵 藤原真奈美 村上 斉 木村 聡 加藤典博 佐々木和夫 小笠原由美子 高橋久美子 林崎淑子 久慈順子
第55回（平成12年・富山県）	少女 成男	阿部トミエ 菊池史和	藤原真奈美 佐藤明美 工藤文彰 木村 聡 藤原孝至 佐々木和夫
第57回（平成14年・高知県）	少男 成女	佐藤和典 阿部トミエ	岩崎敬人 富谷伸行 小笠原由美子 鈴木ゆかり 佐藤直子 久慈順子
第59回（平成16年・埼玉県）	成男	菊池史和	岩崎敬人 佐々木博幸 小笠原賢 佐々木和夫
第60回（平成17年・岡山県）	少男 成女	富谷行雄 阿部勝弘	宇部 健 小野寺亮太 米澤結香 小笠原由美子 鈴木ゆかり 阿部トミエ
第61回（平成18年・兵庫県）	成男	根田光朗	岩崎敬人 工藤文彰 木村 聡 藤村他可夫
第63回（平成20年・大分県）	成男	菊池史和	工藤文彰 高橋宗康 沼田 聡 及川勝幸

国民体育大会入賞選手名簿

入 賞 選 手					
第44回	50歳以上	第5位	丸山忠夫	第2部	第8位 佐藤喜三郎
第45回	30歳代	第7位	三浦巳代子	第2部	第8位 後藤秀子
第51回	ユースの部	第8位	工藤文彰		
第52回	マスターズの部	第6位	佐々木和夫		
第54回	マスターズの部	第2位	久慈順子		
第57回	ユースの部	第6位	小笠原由美子	ミドルの部	第7位 鈴木ゆかり
第60回	ミドルの部	第2位	小笠原由美子		
第61回	ハイミドルの部	第1位	木村 聡		



第42回沖縄国体（1987）
金環日食を観る国体参加選手



第42回沖縄国体（1987）前列左から嶋廻敏夫 小笠原勝 伊藤誠
後列左から吉田几生 藤村長三郎 佐々木菊夫（ひめゆりの塔にて）



第42回沖縄国体（1987）前列伊藤誠
後列左から佐々木菊夫 小笠原勝 佐藤義明 藤村長三郎
吉田几生 嶋廻敏夫



第42回沖縄国体（1987）
左から伊藤誠 佐々木菊夫 小笠原勝
吉田几生 藤村長三郎 佐藤義明



第43回京都国体（1988）
左から吉田几生 工藤文彰 嶋廻克彦



第43回京都国体（1988）
前から伊藤誠、嶋廻克彦、工藤文彰



第43回京都国体（1988）左から吉田几生、工藤文彰、嶋廻克彦



第44回北海道国体（1989）大会々場釧路パレスボウル前にて



第45回福岡国体（1990）入場行進



第44回北海道国体（1989）前列左から吉田几生
菊地 賢 後列左から丸山忠夫 木村 聡 川原重治郎
浅野周三 佐藤喜三郎



第45回福岡国体（1990）
右端 後藤秀子 2部8位



第45回福岡国体（1990）
前列左から三浦巳代子 小笠原ケイ子 久慈順子
後列左から吉田几生 熊谷礼子 後藤秀子 上村優子



第49回愛知国体（1994）激励会での参加記念



第50回福島国体（1995）岩手県選手団



第50回福島国体（1995）入場行進 監督 上野吉朗



第54回熊本国体（1999）久慈順子 50才以上 2位



第55回富山国体（2000）砺波市 出町小学校児童との交流会



第55回富山国体（2000）砺波市 出町小学校児童と岩手県選手団



第57回高知国体（2002）小笠原由美子ユースの部6位（左から3人目）
鈴木ゆかりミドルの部7位（2人目）



第60回岡山国体（2005）前列阿部勝弘 成女監督
後列左から富谷行雄 少男監督 米澤結香 鈴木ゆかり 宇部健
小笠原由美子 阿部トミエ 小野寺亮太



第61回兵庫国体（2006）
木村聡ハイミドルの部1位



第60回岡山国体（2005）大会々場前にて



第61回兵庫国体（2006）県選手団を出迎え（花巻空港）
左から古田几生会長 根田光朗監督 木村聡 工藤文彰
岩崎敬人 藤村他可夫



第63回大分国体（2008）成年男子の部
左から工藤文彰 高橋宗康 菊地史和監督 及川勝幸 沼田聡

全国大会入賞選手名簿 (1)

全国都道府県対抗ボウリング競技会 第 6 回 (昭和52年・東京都)	個人戦	第 1 位	古 舘 勇 光
全日本選抜ボウリング選手権大会 第 15 回 (平成 1 年・東京都)		第 6 位	久 慈 順 子
第 17 回 (平成 3 年・東京都)		第 6 位	久 慈 順 子
日本スポーツマスターズ 第 3 回 (平成15年・和歌山県)	女子総合	第 6 位	久 慈 順 子
第 5 回 (平成17年・富山県)	女子選手権者 2 人戦	第 6 位	久 慈 順 子
	2 人戦	第 7 位	佐々木 和 夫
			丸 山 忠 夫
第 6 回 (平成18年・広島県)	男子選手権者 2 人戦	第 6 位	大 平 恵 介
			小 林 恒 雄
			藤 原 孝 至
			伊 藤 孝 至
全国スポーツレクリエーション祭 第 17 回 (平成16年・福井県)	50 代	第 8 位	小 林 恒 雄
第 18 回 (平成17年・岩手県)	60 以上混合 2 人戦	第 1 位	丸 山 忠 夫
			小笠原 ケイ子
	60 以上	第 5 位	丸 山 忠 夫
	50 代	第 7 位	赤 沢 清 夫
	混合 4 人戦	第 7 位	佐々木 和 夫
			小 林 みち子
			丸 山 忠 夫
			小笠原 ケイ子
第 20 回 (平成19年・青森県)	50 代	第 2 位	阿 部 トミエ
	50 代混合 2 人戦	第 5 位	川 原 重治郎
			阿 部 トミエ
第 21 回 (平成20年・滋賀県)	60 以上	第 4 位	吉 田 美都子
	混合 4 人戦	第 7 位	菅 原 和 郎
			小 林 みち子
			小 林 恒 雄
			吉 田 美都子
全国中学選手権大会 第 27 回 (平成15年・東京都)		第 5 位	小野寺 亮 太
全日本新人選手権大会 第 14 回 (昭和63年・東京都)		第 3 位	藤 原 孝 至
第 16 回 (平成 2 年・広島県)		第 5 位	中 村 栄 治
全日本シニア選手権大会 第 29 回 (平成 8 年・福島県)	ハイシニアの部	第 6 位	丸 山 忠 夫
第 30 回 (平成 9 年・福岡県)	シニアの部	第 6 位	佐々木 和 夫
第 31 回 (平成10年・愛知県)	50 代 2 人戦	第 4 位	広 瀬 功 夫
			丸 山 忠 夫
第 40 回 (平成19年・愛知県)	50 代	総合第 2 位	久 慈 順 子
	50 代個人戦	第 1 位	久 慈 順 子
第 42 回 (平成21年・愛知県)	ハイシニアの部	第 5 位	久 慈 順 子

全国大会入賞選手名簿 (2)

全日本年齢別競技大会

第4回 (昭和63年・東京都)	10代	第5位	武田 亜希子
第5回 (平成1年・愛知県)	10代	第5位	工藤 文彰
第6回 (平成2年・広島県)	40代	第2位	菅原 純一
第12回 (平成8年・山形県)	60代	第1位	丸山 忠夫
第14回 (平成10年・福島県)	20代	第3位	小笠原 由美子
	40代	第5位	久慈 順子
第21回 (平成17年・東京都)	50代	第1位	久慈 順子

東日本ボウリング選手権大会

第17回 (平成2年・静岡県)	女子2人戦	第6位	久慈 順子 熊谷 礼子
-----------------	-------	-----	----------------

東日本シニアボウリング選手権大会

第6回 (昭和61年・岩手県)	男子選手権者		
第13回 (平成5年・福島県)	女子2人戦	第1位	丸山 忠夫 熊谷 礼子
第15回 (平成7年・北海道)	男子2人戦	第3位	小笠原 ケイ子 丸山 忠夫
第18回 (平成10年・東京都)	男子4人戦	第1位	大倉 和男 佐々木 和夫 藤村 他可夫 川原 重治郎
第28回 (平成20年・宮城県)	女子総合	第4位	丸山 忠夫
	女子2人戦	第2位	久慈 順子
	女子4人戦	第5位	久慈 順子 吉田 美都子 吉田 美都子 及川 弘代 小川 林子 久慈 順子

オールジャパンレディストーナメント

第2回 (平成1年・東京都)	レディスの部	第4位	久慈 順子
第10回 (平成9年・神奈川県)	レディスの部	第8位	久慈 順子
第13回 (平成12年・神奈川県)	レディスの部	第4位	久慈 順子
第16回 (平成15年・神奈川県)	ミドルの部	第4位	久慈 順子
	シニアの部	第3位	高橋 絹子
第18回 (平成17年・山形県)	ヤングの部	第5位	小笠原 由美子
	ミドルの部	第5位	久慈 順子
第19回 (平成18年・京都府)	ミドルの部	第3位	大平 洋子
	ミドルの部	第4位	久慈 順子
第21回 (平成20年・石川県)	ミドルの部	第3位	久慈 順子
第22回 (平成21年・長崎県)	シニアの部	第2位	久慈 順子



日本スポーツマスターズ2006

男子 藤原孝至選手 大会新で初V 女子 沖崇子選手

9月15日から4日間、広島市で「日本スポーツマスターズ2006」が開催され、ボウリングは16日から3日間、広島市中区のヒロデンボウルを会場に、男女各30チーム、あわせて240人が出場して行われ、2人チーム戦と4人チーム戦の各6ゲームを競技したあと、個人総合の上位各24人が選手権者決定戦に進出し、新たに6ゲームを投球、男子は岩手の藤原孝至選手が、女子は広島の沖崇子選手が、ともに大会新で初優勝を飾った。競技2日目の17日には高円宮妃殿下がおいでになり、女子4人チーム戦を観戦された。妃殿下はボウリングが大変お好きで、ご説明役の赤木恭平JBC会長とお話が弾んでいた。

9月16～18日／ヒロデンボウル



▲赤木会長をご説明役に、高円宮妃殿下がご観戦



▲男子選手権者決定戦表彰

2人チーム戦の男子は三重が上位を独占、2643のB(安藤・梅田)が優勝し、2586のA(中村・中川)が2位につけた。福岡A(田中・角屋)が2575をたたいて3位に続き、ここまでが大会新だった。

女子は、こちらも三重のA(浜口・柳川)が2378を打って優勝し、2352の新潟B(堀川・黒金)が2位、2299の大阪B(寺村・茶谷)が3位にはいった。

4人チーム戦の男子は、4961を



▲女子選手権者決定戦表彰

たたいた奈良(友廣・田中・山根・田中)が優勝、4891の北海道(三島・斎藤・米澤・田中)が2位、4880の三重が3位に続いた。

女子は、4811を打った広島A(木原・斎藤・平木・沖)が優勝し、4498の岡山(大蔵・長岡・鈴木・坪田)が2位、4494の愛知(板倉・大森・鶴田・城殿)が3位につけて、いずれも大会新を記録した。

選手権者決定戦の男子は、1429を打ち上げた藤原選手が、2位の中村嘉代孝選手(三重)を127ピン引き離して優勝し、1293の猪野幹夫選手(東京)が3位、1286の松井卓治選手(愛知)が4位、1280の山

根鉄造選手(奈良)が5位、1278の角屋光義選手(福岡)が6位、1270の飯塚泰友選手(島根)が7位、1261の前田盛淳選手(沖縄)が8位に続いた。

女子は、1335の沖選手が優勝し、1305の木原梨香選手(広島)が2位、1288の鈴木百合子選手(岡山)が3位、1268の新井田富子選手(福島)が4位につけて、ここまでが大会新をマーク。1189の茶谷晴美選手(大阪)が5位、1181の大槻智恵選手(福島)が6位、1173の柳川穂波選手(三重)が7位、1156の松原美宣子選手(奈良)が8位にはいった。

THE BOWLING JOURNAL 2006年10月10日発行より



右端 第6位 久慈順子



日本スポーツマスターズ2006(広島)
男子選手権者 藤原孝至(中央)

ねんりんピック'91いわて

ボウリングふれあい交流大会・みちのく岩手に熟年ボウラー132名相集うー

平成3年9月22日・23日 於:ビッグハウス スーパーレーン



開会式で宣誓する小沢重行選手（岩手）



高齡耆表彰

ねんりん大会 91 第四回国民健康福祉祭において、大会が 20 世紀が初参加となったこの大会は 21 世紀を本格化する高齡化社会を、人間の尊重に基いた、活力と元気に満ちた長寿社会とするため、国民の健康と長寿社会づくりの推進を図らんと開催され、主催事業一六六・一九九、協賛事業一〇二二八、八人計二六八、四一人という参加人数を数え成功裡に終了した。

総合開会式は九月二十一日（土）正午より産業宮殿地下 同記録館よりお迎えし岩手県産業文化センターで開催、開会式に先立ち文化センター（一花の芸術）の花と緑の農産部副理事長、長島茂雄氏の激励の言葉あり、集結競技の盛んな重要無形文化財の延年の舞、日本重要無形文化財の延年の舞、白のアトラクション等が全国各地から集った、選手を歓迎し、華やかに引き上げられた。

岩手県ではポーツを通じて健康づくりや、仲間づくりなどの社会参加の促進、及び長寿づくりに対応した積極的な健康づくりについての県民の意識啓蒙を図る目的で、「県民長寿体育祭」が数年前より開催されて居り、この大会にもポルリッが参加している。

このような経緯から、ねんりんピック 91 にも参加することになったが、当初の参加といことでふれ合い交流の大会といわば 1 日 1 競技の扱いとなつたため残念だが選手が全国各地より、相対といふことはならない。

この理由はいくつか県では派遣選手に積極的に関与は行なかつたことにより、ポルリッは有なかつたことにより、しかし選手団の枠から外れるという点も加したいといふ選手も居り、直接現地に行けばなかなか持たないという重いポルリッバンク特等である。

会場へ現われない関東の某選手には、気の毒思ひといふ、回を重ねることにより、大会の旨に即した一開かれたい大会、になるように願つたといふ。

（つづき）

参加選手中最若令省で、
及川さん、写真85才に試
みの、時いろい御聞きし
ました。

▼いつからボウリングを
められたましたか？
〔及川〕63才から始めた
それ迄は野球、卓球、テニ
ス、アイスホッケー、砂漠（砂
相撲、スキー、若い時はバ
ドミントン、でもやったな
い）

▼それがボウリングに
移ったのは？
〔及川〕63才の頃、始めてボウ
リングをした。63才の頃、

第三位 原田充子（岩手県）

[illegible]

め強硬にならない無償行為を必ずやることだ。
毎日の掃除や草とりを
してやるよ。ウン。

同ボクッスアレイト！
河原崎選手（右）と一
緒にバレー出来、仲よく
元氣一杯のアレイトはびつ
くするし、私も今年迄あれ
だけのバレーが出来た。フ
ァイト、頑張りますよ。真
に経験になりました。

× × ×
インタビュしなから恐れ
入ましたの一言につきまし
は、バレー振りをぶきまに
観戦してみてもバクッッ
ッバ味とはえ、無理ない、
ゆつくりしたフッッから
コント

私とボウリング

ローレ、良い事ばかりで男
だけ、タブルが折りに出る
頭ももの外野射、観戦者も
喉もと乾きとともかぬ驚
声をあげた。老後はこれ
あらねばならない事を以
て示されたと痛感
特に生じた。因縁深か
い連中、魚がスゴを叫びし
の速に色あすが、まうと
言った。「言え」
の御用儀の好み、断れば
だめですと言った。それが
に挑戦する気力、及川さん
ビタミエといふいた
因みに今大会のスゴは
スラ子で四六六六六
ちやん子で内子でスラ子
子で五〇五〇強した
湖上旅の言にきまず
脱帽。文責、事務、美夫

から誘われ、以来下々

[illegible]

敬こ 營 手 点 美 熊 秋 点 阿 岩 志 寛

の最高なのは驚きます。
こんな手人の良いレーン
では好成績が出なかつたら不
思議なくらいです。
すべての面、すばらしい
この様な大会の次に主催する
県は困るのではないだろうか
と思ふくらいです。
ありがとうございました。



ねんりんピック、91
2位入賞
JBC
水沢支部
斉藤 晴子
私とボウリングのかわり
は、水沢市内にボウリング場
が開設。レディースクラブを作



女子個人戦表彰（中央 斉藤選手）

[illegible]

女子個人戰表彰（中央 齊藤選手）

め強硬にならない無償行為を必ずやることだ。
毎日の掃除や草とりを
してやるよ。ウン。

同ボクッスアレイト！
河原崎選手（右）と一
緒にバレー出来、仲よく
元氣一杯のアレイトはびつ
くするし、私も今年迄あれ
だけのバレーが出来た。フ
ァイト、頑張りますよ。真
に経験になりました。

× × ×
インタビュしなから恐れ
入ましたの一言につきまし
は、バレー振りをぶきまに
観戦してみてもバクッッ
ッバ味とはえ、無理ない、
ゆつくりしたフッッから
コント

私とボウリング

ローレ、良い事ばかりで男
だけ、タブルが折りに出る
頭ももの外野射、観戦者も
喉もと乾きとともかぬ驚
声をあげた。老後はこれ
あらねばならない事を以
て示されたと痛感

特に生にこころを深く
い連中魚がスゴを叩いて
の速な色すが、まると
言った言で、その切
の御用人の好んだけは
だめでさと言つてか、受
に挑戦する気力及川さん
ビタミエといふ
因みに今大会のスゴは
スラ子で四六六六
ちやん子で内子でスラ子
子で五〇五〇強した
湖上旅の言にきまず

脱帽文・貴事崎崎美夫

からか誘われ以来下々



第18回東日本シニア競技大会（1998東京）男子4人戦1位
左から 藤村他可夫 丸山忠夫 川原重治郎 佐々木和夫



全国大会初優勝 古舘勇光



第21回オールジャパンレディストーナメント（2008石川）
ミドルの部3位久慈順子（左から2人目）



第19回オールジャパンレディストーナメント（2006京都）
舞妓さんを囲んで県代表選手



第19回オールジャパンレディストーナメント（2006京都）ミドルの部3位大平洋子
（左から2人目） 同4位久慈順子（左から3人目）



第18回オールジャパンレディストーナメント（2005山形）
ヤングの部5位小笠原由美子 ミドルの部5位久慈順子



スポレクしが2008混合4人戦7位
左から小林みち子 菅原和郎 小林恒雄 吉田美都子



スポレクしが2008右端全日本ナショナルチームキャプテン
片井文乃選手



スポレクあおもり2007
50代2位 阿部トミエ



スポレクあおもり2007 50代混合2人戦5位
左から5人目阿部トミエ・川原重治郎



日本スポーツマスターズ2005（富山）
女子選手権者 久慈順子



日本スポーツマスターズ2006（広島）
2人戦6位右から3人目伊藤誠 藤原孝至

広がれ 交流の輪



スボレくいわて

2005

⑦

韓国選手との再会

熱い歓迎で恩返し

「スボレくいわて2005」盛岡市会場では壮年ボウリングと年齢別デニスが開催される。壮年ボウリングに出場する同市西青山三丁目の主婦小林みち子さん(55)は国内、韓国選手との再会が楽しみ」と開幕を心待ちにし、試合会場のボウリング場で最終調整に余念がない。

壮年ボウリングは五十歳以上の選手が対象。韓国の二チーム、十三人を含む五十四チーム、二百三十二人が出場。本県からは三チーム、十三人が臨む。

小林さんは競技ボウリ

ング歴約七年で、ハイゲームは一昨年九月、県ボウリング連盟会長杯で記録した279点。

高校時代は器械体操でインターハイに出場。バレーボール、スキーなどのスポーツ経験も豊富だ。

ボウリング競技には夫婦そろって取り組む。夫の会社員恒雄さん(59)は昨年の福井スボレく祭で全国八位入賞した。規約で前年入賞者は出場できず、今回は記録係として

て運営を支える。

小林さんは昨年七月、左ひざ半月板を損傷し手術を受けた。けがを乗り越えての出場。「老若男女問わず誰でも気軽に楽しめ、生涯スポーツに最適だ」とボウリングの魅力を語る。

五月には韓国の生涯スポーツ祭典「全国国民生活体育大祝典」に出場し、熱戦を繰り広げ、夫とのチームで五位入賞した。現地では熱烈歓迎を受けた。「韓国選手に気持ち



「交流が一番の目的だけど、勝敗にもこだわりたい」と地元開催に張り切る小林みち子さん

良くプレーしてもらい、手厚く恩返ししたい」と目を輝かせる。

県代表選手はさんざや石割桜のイラストが入ったユニホームを着て出場する。「大いに地元をPRしたい。スボレくは『大会』ではなく『祭』。一番の目的は交流だ」とさらに友好を深める。

小林さんは開始式で選手宣誓にあたる「交流宣言」を行う。せりふもすっかり考えた。「ノーマスを目指し、まずは入賞

が目標だ」と意気込む。会場は一面にのぼりが掲げられ歓迎ムード一色。レーンのコンディションも絶好で、あとは開幕を待つばかりだ。

(スボレく取材班)



スポレクいわて2005会場ビックハウス・スーパーレーン



スポレクいわて2005（盛岡）
前列左からJBC会長赤木恭平 盛岡市長谷藤裕明
後列左からJBC専務理事 相澤隆也 吉田几生会長

スポレクいわて2005
60以上混合2人戦1位丸山忠夫・小笠原ケイ子



スポレクふくい2004
左から阿部勝弘、小林恒雄・吉田千代子・小林みち子

日本スポーツマスターズ2008滋賀
森 喜朗日体協会会長を囲んで左から及川弘代 小林みち子
吉田美都子 大平洋子



壮年ボウリング (都道府県代表参加種目)

- 期日／10月2日(日)～4日(火)
- 会場／ビッグハウススーパーレーン

50歳代、60歳以上の男女それぞれ1名による混合チームによる4人チーム戦と年代別の2人チーム戦、男女別年代別による個人戦で白熱したゲームが続きました。ストライクが出るたびに歓声がこたまし、各県、韓国選手との交流を深めました。



(財)全日本ボウリング協会会長赤木恭平

出身という縁も
たかった。もっ

と感謝した。
ましよう」「あ
会場のあちこ
町民が固い握手
み、再会を誓っ

混合2人チーム
後半3ゲームが
1チームが腕を競っ
先月25日に閉幕
博のマスケット
赤沢清・小林みち子
岩手が出場した。
は神谷保広さん
ん(64)夫妻。30

攻

スポレクいわて2005

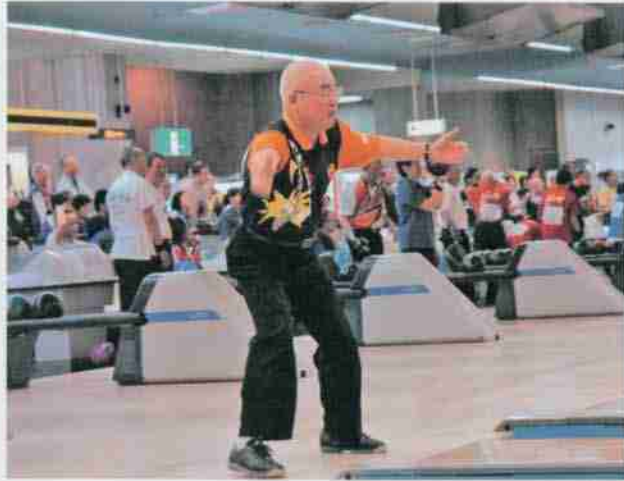
と東北弁が強いかと思ってい
たが、自分たちの三河弁の方
を見つけた。

と東北弁が強いかと思ってい
たが、自分たちの三河弁の方
を見つけた。



▼県勢、4部門で入賞 本
県選手は71歳コンビの丸山忠
夫さん、小笠原ケイ子さんの
不来方の星が男女混合2人チ
ーム戦の60歳以上で優勝した
のをはじめ、個人を含む4部
門で入賞を果たした。県連盟
の吉田凡生会長も「地の利も
あったが、素晴らしい活躍だ。
高齢者といっても元気で、以
前の体力を維持している」と
感謝した。

と東北弁が強いかと思ってい
たが、自分たちの三河弁の方
を見つけた。



韓国選手団と前列中央吉田几生会長 後列右端阿部トミ工常任理事 4人目阿部勝弘副理事長



全国ファミリンピックいわて大会（1994）



山形県代表秋葉チームと佐賀県代表嘉村チームのみなさん



秋葉麻衣子ちゃんの嬉しそうな顔

←秋葉卓也君3位入賞



チャグチャグ馬コをバックに秋葉幸仁さん・麻衣子ちゃん



吉田几生大会委員長と中山律子プロ



県民体育大会初参加（1985）・吉田凡生理事長



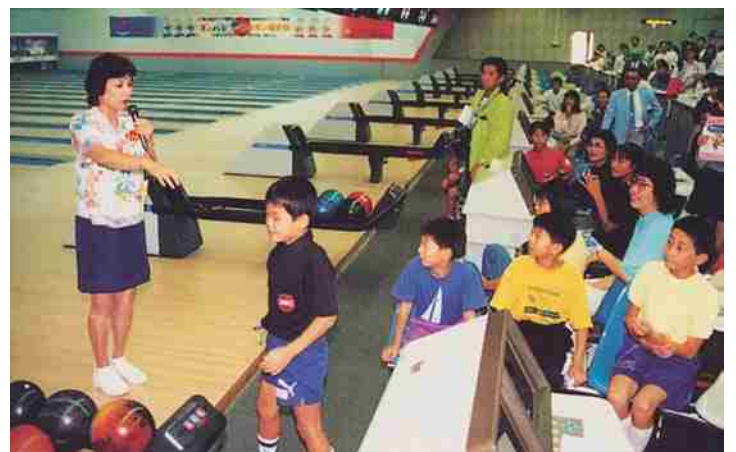
県民体育大会の開始式・大会旗入場



ねんりんピック '91いわてゲスト須田開代子プロ 並木恵美子プロを囲んで



中山律子プロと吉田凡生会長



全国ファミリンピック岩手大会（1994）
中山プロによるボウリング教室
左から2人目富谷昌行君・3人目伸行君兄弟（岩手県）



日本代表として国際大会に参加



国際大会入賞者名簿

昭和58年（1983） 第19回AMFワールドカップメキシコ大会（メキシコ）

第24位 久 慈 順 子

平成 3 年（1991） 第 8 回FIQ極東ボウリング選手権大会（韓国）

3人戦 第2位 久 慈 順 子

5人戦 第1位 久 慈 順 子

マスターズ戦 第2位 久 慈 順 子

平成15年（2003） 第7回アジアシニアボウリング選手権大会（グアム）

マスターズ戦 第2位 久 慈 順 子

平成17年（2005） 第9回日韓交流ボウリング大会（韓国）

2人戦 第2位 久 慈 順 子

藤 村 他可夫

2人戦 第5位 小 林 恒 雄

小 林 みち子

平成17年（2005） 第8回アジアシニアボウリング選手権大会（台湾）

2人戦 第1位 久 慈 順 子

4人戦 第2位 久 慈 順 子

平成19年（2007） 第9回アジアシニアボウリング選手権大会（日本）

個人戦 第3位 久 慈 順 子

4人戦 第2位 久 慈 順 子

オールエベンツ 第2位 久 慈 順 子

マスターズ戦 第1位 久 慈 順 子



日韓交流大会 久慈順子



第8回アジアシニア競技大会上段左 久慈順子



国際大会の思い出

元ナショナルチームメンバー

常任理事 久 慈 順 子

ボウリングを始めて、37年目になります。

遠征をする事が楽しくなり大会予選会の都度、参加するようになりました。

昭和48年、沖縄で開催された全日本選抜選手権大会に参加、飛行機に乗るのが初めての体験でした。沖縄返還直後の開催で、車は右側通行、タクシー料金は初乗り50円の時代でした。

昭和58年、愛知県で開催されたAMFワールドカップ全国決勝大会で優勝し、メキシコ大会の切符を手に入れました。その頃のレーンコンディションはベターレーン、メキシコのレーンはまさにベトリ油が撒いてあり私のボールでは手も足も出ませんでした。

海外遠征での良い経験をさせて頂きましたが、42ヶ国参加で24位でした。

平成元年には、ナショナルチーム選考会に参加し、40才でメンバーに選んで頂きました。

チームメンバーとして初の海外遠征は、インドネシアでした。帰途、翌年世界選手権大会が開催されるシンガポールの会場に立寄って、男女のミックスダブルス競技を行い、志野選手と組んで優勝した事が思い出されます。

平成3年、第8回FIQ極東ボウリング選手権大会（韓国）に参加、上位3名によるステップラダー・テレビ決勝が有りました。3人チーム戦準優勝、5人チーム戦優勝、マスターズ戦は2位で通過し、優勝決定戦で2ピン差で惜しくも優勝を逃しました。

平成11年、国民体育大会（熊本大会）でマスターズ部門準優勝、平成15年にはアジアシニア大会（グアム）で、11月というのに暑く、朝からのボール検量も手際が悪く、1個の検量に10分も費す始末でしたが、公開練習ではまずまずのレーンコンディション。手ごたえが有りました。ダブルス戦は当日最初のシフトに当たり、湿気の為、アプローチが滑りません。歩く様にして投球していたなら空調が効いてきて、なんとかいつものフォームで投球出来るようになりました。当たり前ですが、初めての競技場では慣れるまでに苦労します。

シフトの合間に買物に出かけた時、ホテルの前の道路が工事中。段差につまずき転倒し、けがをしまいました。直後の決勝でしたが、むしろ力の配分が良かったのかどうか準優勝でした。

平成17年、日本スポーツマスターズ決勝戦は、私の得意のコース。7枚目から10枚目の真っ直ぐの中広いストライクゾーンで、仲間の力強い応援を受けながら、優勝することが出来ました。

平成17年、第8回アジアシニア選手権大会（台湾）。レーンコンディションは早めのフッキングの少ないレーンでした。ダブルスの相手は広島竹本選手で、球質は私とほぼ同じ。2人でガンガン投げる事が出来、優勝でした。

台湾のボウリング場は郊外にあり、中にはカウンターバーがあって、カップラーメンやお菓子が置いてあるだけ。外に屋台が有って、汁物や食べ物が並んでいました。一緒に行った仲間が、ホテルでご飯を炊き、おにぎりを作ってくれました。その美味しかったこと。

平成18年、JBC会長杯、第20回全日本年齢別50才代は、最後の年に優勝できました。

大会では次に自分が投球するレーンに同じ球質の人がいて、ラインを作ってくれていたのも、人が投げているのを漠然と見てないでしっかり見る事だと思います。

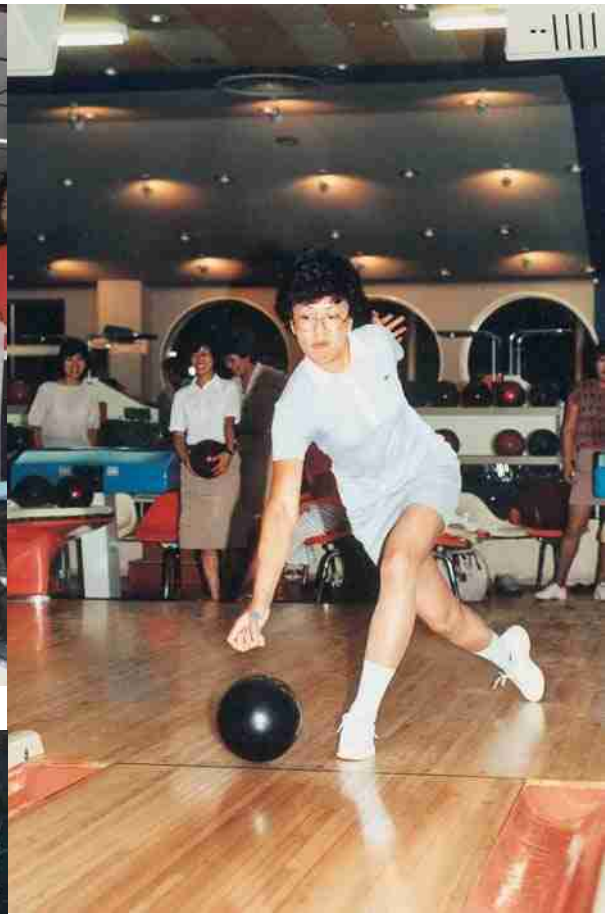
近年の国際大会は平成19年、第9回アジアシニア選手権大会（三重）です。

鈴鹿サーキット場に併設されているボウリング場で、廻りにはホテル、結婚式場、遊園地が有りました。大会前日、下見に行き、2ゲーム投げて見たら持って行ったボールがどれも合わないようでした。当日のコンディションに期待して帰る事に。やはり、レーンコンディションは、良くなっていました。

決勝戦に入り、1ゲーム移動で移ったレーンのコースを、ダブルスの相手である広島竹本選手がその都度コース選択をしてくれて助かりました。チームメイトはライバルでもあります。出会いがお互いの向上につながります。



AMFワールドカップ（1983メキシコ）久慈順子



AMFワールドカップ（1983メキシコ）久慈順子



AMFワールドカップ（1983メキシコ）前列右 久慈順子



第11回FIQアジア競技大会（インドネシア）のボウリング場



第8回FIQ極東大会（1991韓国）左 久慈順子



第7回アジアシニア競技大会（2003グアム）久慈順子



第11回FIQアジア競技大会（1989インドネシア）右端後 久慈順子



第8回アジアシニア競技大会（2005台湾）久慈順子



第9回アジアシニア競技大会（2007日本）中央 久慈順子



日韓交流大会（2005韓国）開会式



日韓交流大会（2005韓国）ボウリング競技岩手県選手団

~~~~~  
ボウリングをこよなく愛して  
~~~~~




滝沢支部創設 ～競技力の向上と会員拡大をめざして～

滝沢支部

常任理事 沼 田 聡

滝沢支部は滝沢村ボウリング協会の創立と同時に立ち上げ、平成16年に東和支部とともに岩手県ボウリング連盟の支部として活動を開始しました。

滝沢村体育協会では県民体育大会が最大の目標となっていました。ボウリング競技については大変厳しく、支部立ち上げ前の18回大会中、ポイントを上げられたのが11回、最高成績3位というのは、ほとんどの競技で優勝争いをしていた滝沢村にとっては得点源としてあまり期待できない競技という状況だったのです。競技力の向上のためには、県大会への参加による経験と、その経験に基づいた技術力の向上が欠かせません。県民体育大会が終わるたびに、ボウリング協会設立の必要性が話題になるものの、具体的に話し合う機会はありませんでした、そのような中、村体協からの後押しもあり平成16年に柳村正実現会長の呼びかけにより、ボウリングをこよなく愛する会員33名を集めて滝沢村ボウリング協会の設立にこぎつけました。滝沢支部は、滝沢村ボウリング協会の中で、競技力の向上をめざす22名で発足しました。

滝沢支部を発足した年に行われた第56回岩手県民体育大会では、町村対抗で念願の初優勝をすることができました。メンバー自身も想像していない、まさかまさかの優勝でした。昨年もわずか



県民体育大会 優勝 滝沢村チーム (2005)

1ピン差ながら連覇を果たし、市町村対抗がなくなった第59回大会では全市町村チームを退け優勝をとげ、協会設立に間違いが無かったことを確信しました。県大会への常時参加することによる経験と競技力の向上が着実に成果として表れたと思います。

滝沢支部はメンバー全員の結束が固く、いわゆるチーム力が大きく成長したと思っています。しかし、大きな成果を残すことはできましたが、決して個々の力が県内トップレベルになったわけではありません。優勝もありますが、下位に

低迷した大会もありました。確かに大きく成長した選手もいますが、仕事上の問題から県外に転出していったメンバーもあり、競技力の向上もさることながら会員を増やし厚みをもたせていくことが求められます。今後は岩手国体を見据えて、会員増強を図りながら一層の競技力とチーム力の向上をめざしていきたいと思っています。



スポーツ少年団活動に携わって

(財)日本体育協会公認ボウリング指導員

J B C 公認第一種審判員

副会長 上 野 吉 朗

思い起こしますと、私のスポーツ少年団との関わりは昭和60年末に盛岡にボウリングのスポーツ少年団を結成するので手伝ってくれるように依頼されたのが始まりでした。

当時たまの休日にボウリング場に通っており、自由時間も有りましたので軽い気持ちで引き受けたのが再び自分でもボウリングを競技として始めるきっかけになりました。

最初の1年目は登録人数が10名以上でなければ入団できないと云われ正式加盟出来ずに団活動を始めました。昭和61年、私の息子が小学5年生でした。

月に2回、日曜日に光フェアレーン（現盛岡スターレーン）とビッグハウススーパーレーンで交互に練習会を開催し現在に至っております。

正式な入団は昭和62年度です。ボウリングを楽しんでいる少年少女に積極的に働きかけボウリングスポーツ少年団が誕生しました。

その時のメンバーは後に県代表として活躍する工藤文彰、阿部弘樹選手がいます。指導員をお願いしたのは黒沢吏前理事長、赤沢清さん、菅原純一さん、藤原弘夫・妙子さんご夫妻、藤村長三郎さん、佐々木盛徳さん、小笠原ケイ子さんです。

平成元年には菅原、赤沢指導員、そして新たに加わった今野カナ子さんが中心となって指導しました。

平成5年には加藤典博前副理事長、根田光朗副理事長が加わりました。団員数が29名を数え練習会も盛況となりいろいろ苦労もありました。

平成7年には富谷伸行、昌行、頼行3兄弟、藤原真奈美選手が団員として参加。

平成9年には富谷現副理事長、坂本敬子さんも指導員として参加しております。

平成10年岩崎敬人選手、山崎剛志選手、平成11年小野寺亮太選手、平成13年宇部健選手と良い選手に恵まれました。

平成7年には福島国体に監督として大橋学、菅原崇史選手を率いて参加。初めての全日本高等学校対抗戦に盛岡一高の菅原崇史、村井雄司選手が参加し、その後岩崎敬人、富谷伸行、藤原真奈美、小野寺亮太選手も国体に参加しております

小野寺選手は平成15年度の全日本中学選手権で5位入賞、宇部健選手は県選手権で高校生初のチャンピオンに輝いております

現在の団員は少子化の影響なのか数が少なくなっておりますが、7年後の岩手国体に向けてジュニア育成強化に改めて努力してまいりたいと思っております。

現在の指導員は小野寺功さん、小林みち子理事、富谷行雄副理事長と私の4人体制で毎月2回休まず続けております。

スポーツ少年団は私の原点です。元気な子供達が参加する限りは続けたいと思っております。そして全国レベルの選手を再び送り出すのが私の夢です。

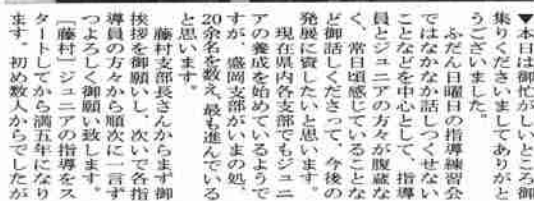
これまでスポーツ少年団活動をご理解ご協力をいただいている岩手県ボウリング連盟、盛岡市ボウリング協会、会員の皆様にお礼を申し上げます。

平成三年十一月二十四日

盤岡支部長 藤村長三郎
指導員 金野力ナ子

菅原 純一	赤沢 清	上野 吉朗	金野力ナ子	藤村長三郎
加藤久仁之(中二)	篠谷 誠(中二)	吉田 一輝(中二)	菅原 泰史(中二)	上野 吉崇(高一)

司会 黒沢 史



「一土野」勉強と練習の時間、時間を両立を図るために、いかに時間を常にかがたが大事なことであり、常にかがけること、あれもこれも、ここでは真の技術アブは望まれません。来年の高校総体に出るに野、菊地両君を派手出させるようが汎びましう。

「一泰沢」スロアを意識しない、で正しいフォームをの内にすつかり覚えること、そうしなれば、どんなレースに行っても通用する実力はつきます。

「菅原」私が1の養成に關て、それから4年になりますが、最初人数が少なくてメンバーが固まっていきました。

現在小学生が大人増殖して

また、高校生活とボウリングの両立。時間をいかに作るかが問題で、むずかしいです。

「菅原」水泳部に入っている。来シーズンは、ボウリングで優勝して、水泳部で入賞して、大分スコアが良くなることを来しだが、来年は中二で勉強が大事だし、ボウリングの練習にも励んでいきたい、と思っています。

練習員は、ボウリング部に加入して、フットボールに専念しています。フットボールは、良いイメージが持てない、ムゲンが指したい。

家族は了解していますが、学校の勉強のこともあり、もう少しですが、がんばります。

「昌」バドミントンに入っています。ボウリングの練習では、学校の体育の時間と違うことを強く感じています。非常な参考になります。

る。フツボの富士子さんのデザイン、トウ・トロの要領でやたらとふかとなり、それ以てとても良くて来たと思て居りますが、神智も我々もその感覚だけでなしに、皆んなが興味を持っての流行語などをとり入れてみるとちよとしたスリッパカゲで良くなつて来ました。フアイトあるよですしこの点を充たしたいに生かす仲はしてやりたいと思つています。

まするしフオームを

〔赤沢〕楽しい雰囲気です。ことは賛成です。皆んなで友達を増やしボウリングの会を広げろ。スロアを氣にないで、基本に徹した正しフオームを覚えることが最

「指導担当の方に他県の詳しい様子を調べて下さることですね。」

「藤村：他のスポーツと同様に礼儀は大事にしよう。礼儀を守ると、ところで皆さんに聞きたいのだが、スポーツ少年団ボウリング活動のことについて、他のスポーツクラブの仲間と話合っていることがあるかな？」

「上野：暫くな興味を持っているように教えろ、教えられると言われるよ。」

「栗内：交流大会を！」

「赤沢：北上にもJ部門があるそうだが県下合同でJリーグをやりたい、いつもの銀色だけでなく、皆さんに知れたいことが欲しい。」

「菅原：県レベルの大会がある。」

「吾原」レバ、レをを作り良
 意味での競い合いをやつて良
 しい。
 「赤沢」スポーツ少年団と
 精でもつと時間を増やそうで
 んないか。
 「加藤」練習のG数をも
 とよとしてもらいたい。
 「篠谷」吉田「練習の時
 を増やして下さい、いくらや
 っても疲れません、だいたい
 ました」
 「赤沢」JBC支部月例会
 どんと出場所したら
 「菅原」もともととゲ
 ム数も時間もやりたいんだ
 と費用がさきで……
 ゲーム料金もつと安い
 良いんだぞ。
 「皆さんの熱あふれる話
 聞いていて、ますます心強

主欠点があるんです。脇の締めが弱いです。締りよくと強く考えなくても勝手に締ってゆくのにはどうすれば良いのか指導していただきます。

「菅原」5分助走ですがスライドの時、上体がピョコと上って下さい。ボールのコントロールができないことですが、皆さん指導員の方でに御願いした事を遠慮な話してくれませんか？」

「加藤」レベルの程度で分けしてグループ毎の練習形態をとって頂けませんかと。そしてクラブ内での練習試合の機会をどんどん増やして下さい。」

「篠谷」もっとずつ込んで救えていただきたいです。


どんなスポーツでも共通で言えますが、真の名選手は技術は勿論の事、人間的に勝れた人になり得ます。

今の情さんは技術と共に間の形成としても、中学高生は今後一生の基礎を作る大事な時期です。ますますがんばってください。

県連盟の理事会でも皆んなの希望や熱意が重要な議題のひとつになると思います。

本日はどうもありがとうございます。

於、駅弁盛桜園
(文責 黒沢 史)



出ているかと思えます。

岩手県では8年後に高校総体が開催される。その時に強力なメンバーが地元へ出場出来るような環境作りに励まなければなりません。皆さんの御協力を御願ひします。

（金野）ボウリングを真にスポーツとしてやる為には、基本本ポツを十分に理解することが大事です。どのスポーツでも共通していると思いますが勉強との両立が大事であり、学生の本分を忘れなようにします。

とても良いことだと思えていま
す。コアを良くしようと思え
ば思ほど「力」が来て、悪い
結果になる。いかに悪いこ
いでゆけるかを指導しなさいと
思っています。

▼ともありがとうございま
す。指導員の方々の基力・意
針は、皆皆ほしいことを一つ
で居られますし練習に役立
ってください。

ジュニアの皆さん、一学校で
の所属部活と現在自分を感じ
ていることを話しください。

「加藤君！ 明後年結婚するぞ」
ウリ江は2年前から父のその
ほつきで、始めましたが、ま
力不足がボールをゴトンと
してしまふ欠点があるので
した。いまだ。

「菅原」加藤君 直つてい
▼どうもちがう。悟ん
の熱意を聞いていてもも
強く感ずる。指導に当つ
いられ方々から現在の方
皆ならん状態や今後の方
どについて御話し下さい。
流石とばかり入られてり
クス

「菅原 皆んな色々工夫し

体力の充実を図ること
上野寛治選手は10歳以下でたが、現在20名余を指導し、更に指導員を増加しようとも思っている。来しに帰結と思つてやります。体力をつけることでも中高低時代は行けています。そのスポートも中高低時代は行けています。(藤村)各県と二名、高松二名の割合であるから、国体出場可能な二名ずつ増えれば頭張ろう。

(赤沢)他県のJ指導要領

要です。そのことによって
ベルアツを國にするが必
ずと思ひます。

（金野 同感です。他県
にですが、實際見たり事
でかなり徹し、特選をや
つてゐるようです。然し
レベラアを自捐するで
なして、力なりが、且つ
体力作り、勤むことも
必要です。）

打ち込むものと、自然
に自然になる。

（赤沢）私事ですが以前は
邪をひき易く、医者通ひ
が、かうウリンを、を
始めてから、はじめても
夫に打ち込みました。

[illegible]

「菅原君！早い遅い、レーン
を覚えるためにそのまゝのレ
ンを作ったんですよ。そん
な練習をして下さい。」
石に「金野」スポーツウリ
ンに助わると同時に校も大事
し、ましてよく振り返って
てみる。勉強もちゃんと行
うさね。

「どうもありがとござい
ます。指導員の方は皆さ
べテランの方々ばかりです
と言われることを良く聞いて
皆さんが将来の岩崎のボ
ーリングをリードしてゆくよ

於：駅前盛樓閣
(文責 黒沢 史)



スポーツ少年団から国体選手 そして指導者を目指して

JBC 公認審判員

盛岡支部スターレーンクラブ

小野寺 亮 太

11年前(1998)の5月初旬、私の自宅に盛岡スターレーンの1ゲーム無料券が入っていたことで、家族でいってみるかということになりました。そしてスターレーンに行くと、毎月第4土曜日に開催されているジュニア大会があることを知り、どういうわけか私が参加したいと言ったそうです。よほどその時のスコアが良くなかったのでしょうか。そして5月度のジュニア大会に参加しましたが、結果は当然最下位でした。そこで相当悔しかったのか参加賞が嬉しかったのか来月も参加したいということを両親に言ったそうです。このようにして毎月ジュニア大会に参加していきました。

そして10年前(1999)の冬、時の小渕恵三内閣の政策により子供と高齢者に地方振興券が配布されました。その頃は私は相変わらず毎月のジュニア大会に参加していましたが、ずっとハウスボールで投げていたためマイボールに憧れていました。ちょうどその時に地方振興券の支給だったため、私の2万円の使い道はマイボール・マイシューズ・マイバックの3点セット購入でした。

マイボールの購入の年に私のボウリング競技人生のターニングポイントがあったと言っても過言ではない出来事がありました。それは10年前の7月、私が小学4年の時に盛岡スターレーンの佐藤淳氏の勧めで上野副会長が代表の盛岡ボウリングスポーツ少年団に加入することになったのです。そこで今までの自己流のボウリングではなく初めて基礎を習い、またお下がり曲がるボールを頂くなど、一気に自分の中でボウリング熱が上がっていくのが自分でも感じ取れるほどでした。

私に初めての県外試合のチャンスが廻ってきました。小学5年の秋に宮城県のテイサンボウル泉で開催される、東北ジュニア交流競技会の小学生の部に出場することになったのです。1ゲーム目は緊張のしっ放し147のロースコア、しかし2ゲーム目には200アップするなど3ゲーム504点のスコアで優勝しました。この時賞状が無く、私もいつか中高の選手みたいに賞状を手にしたなと思って岩手に帰って来たことを今でも鮮明に覚えております。

そして中学生になりJBCに入会し、中学1年の8月に山形ファミリーボウルでの第1回東北中学高校選手権大会に参加し、1351点で優勝、次の年には品川プリンスホテルボウリングセンターでの全日本中学選手権大会に出場しました。いきなり279点のハイゲーム賞となる点数が出るとその後も調子が持続し、最終的に5位入賞を果たすことが出来ました。私は初めての全国大会の舞台で様々なボウリングを見ました。周りの選手たちは左側から大きく曲げるボウリングばかりで、自分のようなストレート系のボウリングと言うのは上位では見かけませんでした。実際6人の入賞のうち私以外の選手はみな曲げるタイプのボウラーでした。私も一時期曲げた方がよいのかと悩み、曲げようとした時期もありましたし、曲げることを勧める方もいらっしゃいました。しかし私は『曲げて10番ピンが残り、スプリットも出る。だったら無理して曲げる必要は無いはず』と自分に言い聞かせ、自分のボウリングを貫くことを決意しました。

その後はビックハウススーパーレーンで開催された東北中学選手権で2度目の優勝、高校1年時には東北総体で個人戦・団体戦の両方で2位入賞国体に出場することが出来ました。また吉田会長のご推薦により全日本ジュニア強化指定選手に3度も選んで頂き、東京での合宿にも3度参加させて頂きました。この場をお借りして会長に御礼を申し上げたいと思います。貴重な経験をさせて頂きありがとうございました。

現在私は3種の公認審判員の資格を取り、大学では日本体育協会のコーチ資格に必要な共通科目の勉強など、選手としてだけではなく大会運営や監督としてボウリングに携われるよう勉強しております。特に私は後輩選手の育成に興味を持っていて、大学では他のスポーツ選手と一緒に指導法などの講義も受けております。全日本ジュニア強化合宿に3度も参加させて頂き、ナショナルチームの方や指導員の方々と人一倍接する機会があったため、様々なことを指導頂きました。このことを何らかの形で活用させたいと考えています。

今後は選手として7年後の岩手国体での優勝、そして各種全国大会で入賞できるように、また全国に通用するような後輩選手の育成にも挑戦するなどボウリングの指導者を見据えて活動を続けます。



ジュニアの育成とその技能・ 技術の向上について

(財)日本体育協会公認ボウリング指導員

JBC第一種公認審判員

副理事長 富 谷 行 雄

ここ10年間少年男子の部において国民体育大会に出場したのは2002年高知大会（岩崎敬人選手と富谷伸行選手）と2005年岡山大会（宇部健選手と小野寺亮太選手）の2回だけです。

上に名前の挙がった4名はすべて盛岡市スポーツ少年団の所属でした。盛岡市スポーツ少年団は月2回の練習会を実施していますが、それだけではなかなか向上は望めません。個々人の取り組みと家族の協力が大きなウエイトを占めているのが現状です。

岩手県全体としてジュニアを育成する必要を感じていますが、その前提としてジュニア会員を増やすことから始めなければなりません。現在、盛岡市ボウリングスポーツ少年団のような組織があるのは県内で盛岡市だけです。そのため、小学生（またはそれ以前）からボウリングに親しませ、指導によってある程度の技術が身に付く人数は限られており、家庭の力に頼るしかない状態です。また、せっかく小学生でボウリングをやっても中学校にはボウリング部がないために他の競技に流れてしまいがちです。盛岡市ボウリングスポーツ少年団は小学生から高校生までで組織されていますが、中学生や高校生は毎回参加できないのが現状です。現在できることは、盛岡市ボウリングスポーツ少年団に入団している小学生にボウリングの楽しさ（アベレージを上げることなど）や大会に出場できる機会を増やすことなどを通して、中学・高校でも続けられるようにすることと、参加したときには特性を見極めてその人にあった指導を続け、技能・技術の向上を図ることなどが考えられます。

こうした中でうれしいニュースがありました。盛岡スコーレ高校にボウリング部ができたことです。

学校、指導・監督にあたる教職員、ボウリングを愛する盛岡スコーレ高校の生徒の努力の賜物とスーパーレーンクラブや矢巾支部のサポートがあったればこそできたものと思われます。盛岡スコーレ高校は、県内の県連主催の大会・競技会に出場すると共に、大会の補助員としての活動も光ります。県連としても大切にしなければならない存在の一つです。今後は、盛岡スコーレ高校以外の高校にボウリング部をつくる働きかけも考えなければなりません。ジュニア育成は課題がいっぱいありますが、一つ一つ前進するのみです。

さて、一方でジュニアの「技能・技術」の向上を図らなければなりません。

一般にスポーツや運動技能の指導は、指導者の「示範」→「練習」の反省という過程をとります。これは指導しようとする内容を、指導者の動作によって知覚させ、それを模倣させ、反復練習するという方法です。しかし、選手の自主性や意欲の向上を重視すれば、ただ機械的に模倣させるということだけではなく、内容をよく認識させるためにも、「考えること＝思考」を過程の中に入れていかなければなりません。すなわち、「知覚→思考→練習」という過程をとることが大切です。「知覚」は、指導者の示範や他の人の動きを見たり、スライド、ビデオなどを見たり、自分で実際に行ってみることで、動きや技術を認識させることです。「思考」は、選手に考えさせることで、選手同士の話し合い、指導者の助言などによって、技術の要因や個人の問題解決の方向性などを理解させるなどです。「練習」では、常に自分の動き、プレイが正しいかどうかを反省したり、互いに教えあい、修正し合うことによって正しい動きができるよう努力させることです。このようなことをボウリングの中にも取り入れて活動していけば「技能・技術」の向上にもつながるものと考えられます。2009年7月5日(日)に4年振りに少年男子が新潟国体の出場権を獲得しました。いまからここから……。



盛岡スコーレ高等学校ボウリング部

盛岡スコーレ高等学校

ボウリング部顧問 猿 川 温 久

平成15年3月下旬。新入生に全国大会に参加経験のあるボウリングの上手な生徒が入学してくるので、その担当をするようにという話を学校側から受けた。これが私のボウリング部顧問としてのスタートであった。青森県で行われた東北中高選手権、東北総体に引率するも右も左も分からない状況だった。

翌年さらに同じように力を持った生徒が入学。生徒たちの希望があり、また岩手県ボウリング連盟の阿部副理事長ご夫妻やビッグハウス・スーパーレーン・インストラクターのサポートを頂いて定期的に同好会として活動することとなった。しかしこの時は基本的に土曜日の投げ込み以外の活動は行ってはいなかった。

その後、一緒に活動を行いたい生徒が増えてくるにつれ、「部」に昇格するよう定期的な活動が必要となった。月予定の作成、活動、部日誌の作成・記入を行うなどして少しでも部活動らしい活動を行った。

生徒が入学して3年目の平成17年。当時2年生の宇部君が盛岡北高校1年の小野寺君と一緒に東北総体少年男子団体戦に参加。息のあった試合運びを見せ、見事国体出場を決めたときは非常な感動であった。またこの年、全国高等学校選手権大会の紹介を受け、初めて参加させていただいた。



部活動練習前の挨拶

これらの活動が認められ、平成18年についに同好会から部へ昇格を果たすことができた。この年初めて女子部員が入部。総勢8名のにぎやかな活動となった。この頃から全国高等学校選手権に参加し、少しでも良い結果を残すために平日に学校でのトレーニングを開始した。この年、岩手県選手権で宇部君が高校生初のチャンピオンになった。全国高等学校選手権には男子のみならず女子も初めて参加させていただいた。

翌年この女子が頑張り、東北高校選手権で決勝進出を果たすとともに全国高等学校選手権で10位という成績を残した。

活動の一環として様々な大会の補助員の仕事を仰せつかり、日ごろのサポートに対する感謝の気持ちで活動させていただいたところ、岩手県ボウリング連盟より感謝状を頂いたのが平成20年であった。

学校に練習施設が無い唯一の部活動であるボウリング部。活動の仕方にはまだまだ工夫が必要ではあるが、岩手県ボウリング連盟をはじめ関係方面からのサポートを頂きながら、ますますの活動の発展を目指して取り組んで行きたい。



団員を指導する、小林みち子スポーツ少年団認定員



将来の県代表国体選手（？）



指導する小林みち子認定員



高校生岩手県選手権者（2006） 宇部健



盛岡スコレ高校のチームメイト



全国高校対抗選手権大会の開会式



岩手県予防医学協会ボウリング部の活動

財団法人岩手県予防医学協会

ボウリング部 鈴木 和彦

岩手県ボウリング連盟設立40周年おめでとうございます。また、県連役員、関係各位の皆様の永きにわたる運営に対し、実業団会員一同より感謝を申し上げます。

岩手県予防医学協会が実業団会員に登録し20数年になります。それ以前から、協会内でボウリングの好きな仲間が集まりボウリング同好会として活動しておりましたが、昭和61年にJBC登録会員が5名となったのを機に、翌年の昭和62年より実業団への会員登録変更をしました。

岩手県予防医学協会は県民の健康と福祉に寄与することを目的として設立された県知事認可の公益法人です。具体的な業務内容は、健診班というチームを作り『あおぎり号』という検診車で県内各地を廻り、児童・生徒の各種検査や健康診断、地域住民の健康診断、職場の健康診断、一日人間ドックなどを実施しております。部員が協会の仕事で携わっている職種は様々ですが、職場の一員としての目標達成のためにチームワークをもってそれぞれの業務に従事しております。

実業団会員は「同一の法人または官公庁、団体の役員および社員、職員で構成された5名以上のメンバー」と規定されており、県連盟・地区連合・全日本協会が主催する多くの大会がありますが、



実業団の大会はすべてチーム戦です。ボウリングにおけるチーム戦のスコアは、メンバー個人個人のスコアの積み上げで、ある程度の計算は出来ませんが、時として普段以上のスコアを揃って出すことがあります。いわゆる同じ釜の飯を食い、苦楽を共にしている職場の仲間同士のチームワークによるプラスアルファであると思います。それがチーム戦の楽しさでもあります。

ここ数年、当協会のボウリング部には多くの若い部員達が増えております。彼らはボウリングが大好きで、不規則な勤務体系であるにもかかわらず、時間を見つけては仲間と誘い合って日々の練習に一生懸命励んでおります。また、練習する機会が少ない仲間にボウリングをする機会を増やすため、月1度の部月例会や、納会ボウリング大会、年度チャンピオン決定戦など、様々なイベントを企画し、実施することが定着してきております。そして、すべてスコアを記録してアベレージ表をつくり部員同士での競い合いも行われております。まだまだ、スコア面では頑張らなければならないことも多いですが、ボウリングを通じて多くのことを感じてもらえればと思っております。そして、それが仕事面でも生かされれば、実業団ボウリングの活動も意義があるものと周りの人達に認めてもらうことが出来ることでしょう。

ボウリングは生涯スポーツといわれております。今後も、皆で楽しく実業団ボウリング活動を進めて行きたいと思っております。そして東北の選手権チームとなり、全日本の大会でも入賞できるようなチームとなることを目標として活動していきたいと思っております。



選手強化とコミュニケーション

(財)日本体育協会公認ボウリング指導員・コーチ
J B C 第二種公認審判員

常任理事 菊池 史 和

岩手県連盟に入会し16年が経過しました。

第21回全日本新人選手権大会（平成7年岡山県）の出場権を得て出発準備の始まる頃、阪神大震災が発生し交通手段が限定され断念しようかと迷いましたが諦めず出場しました。前半入賞ラインに達していたのですが後半大崩し、同じボックスの方々に慰められながら予選を終了しました。そして、その悔しさを忘れられず本格的に競技に取り組み始めました。

’97AMFワールドカップ全国決勝大会（京都府）に阿部トミエ選手と出場し、私は全くふりませんでしたが阿部選手は準決勝ラウンドロビンにトップで進みラスト2ゲームまでトップを走り決勝ステップラダーに残りました。結果は第3位でエジプト・カイロ大会の切符を手に入れることができませんでした。

その後、阿部選手に指導者としての進路を勧められましたが、プレーヤーとしての悔しさを忘れられず二足の草鞋でボウリングにお世話になって現在に至っております。

私は、思い迷い悩んでいる時期にボウリングの先輩方に立ち直らせていただいたので、恩返しのつもりで審判資格を取得し、役員・審判員として微力ながら県連運営に携わってまいりました。

この間3度の国体監督として貴重な経験をさせて頂き感謝いたしております。国体の監督資格制度変更にともない日本体育協会公認スポーツ指導員の資格を取得した現在、岩手県ではただ1人の公認ボウリングコーチです。（東北地区7名）

指導員の主な役割は、競技者としてのボウラーの底辺拡大に努めることであり、コーチの役割は、指導員が目覚めさせた選手を全国・国際大会に出場させることです。

近年、少子化や若者の身体への負担を伴うスポーツの敬遠等で各競技団体は会員獲得の競争が激化しております。今ボウリングが社会に求められる競技団体になるためには、「多くの人々に望まれる人格形成を目指し、誰とでも会話の出来る社会的協調性を高め、正しく勝とうとする努力と競争ができる」会員組織をめざさなければならないと思います。このような会員組織を形成するには、「公的資格を持ち、新しい知識を選手に伝え、選手を理解しようとする者」が指導に当たるべきだと考えています。企業スポーツに支えられて来た日本の競技団体も、勝つだけの商業的貢献だけでは企業の利益に合わなくなり、その結果多くの企業が撤退した事は皆様ご承知の事と思います。

私は勝利主義だけで選手育成することには反対で、必ず人間育成を併行させる事が第一だと考えています。ボウリングの場合はJ B C 審判員制度を利用しながらの選手育成が最も良い形だと思います。人間育成ばかり唱えようと会員募集に影響がでますが、勝利はそのカンフル剤であるべきだと思います。

勝利を目指す事がアスリートの夢実現に向かうことですが、それが実現しなくてもそのプロセスが人間育成に役立つでしょうし、努力が次につながる何かを残してあげるのが競技団体だと思います。

国体や国際大会出場を目指すアスリートが競技会で礼儀や人との接し方を学ぶ若年層、生涯スポーツとしてコミュニケーション・生き甲斐の場にいる高齢者等、ボウリングは幅広い範囲の人々が一緒に競技できる数少ないスポーツです。私の父も80歳を過ぎても現役ボウラーで、シニア大会への参加そして孫達との対戦を楽しみにしています。

ボウリング場をコミュニケーションの場所として多くの人々が集い、誰にでも訪れる老いの時期を健康で楽しく過ごすよう、我々ボウラーが高齢化社会のリーダーとしての役割を果たせるようになれば幸いと考えております。

最後にここまでお導き頂きました皆様に感謝いたしますと共に、今後の指導も宜しく願いいたします。



私とボウリング

盛岡支部・スターレーンクラブ

大 平 洋 子

父が亡くなった平成八年の秋、何かを始めたくなり、自転車で行ける距離にあったボウリング場へ出掛け、週一回の「奥様ボウリング教室」に申し込みました。

コミュニティー室での、センタープロによる基本勉強と、リーグ戦が交互に有り、そこで学んだ「スペアの取り方」等は、今も効かされています。

教室に入って数ヶ月後に、初めて作ったマイボウルが嬉しくて、投げる事が更に楽しくなりました。教室で親しくなった仲間と、スターレーンに通う様になり、平成十年の春にJBCに誘って頂き、どんな様子かも分からないまま「競技ボウリング」の世界へ飛び込む事になりました。

会員になって初めて参加した県大会は、緊張の連続で気付けば決勝に残っていて、六位入賞と言う結果に、指導して下さっていた先輩方も驚いていました。

競い合う事、緊張感、集中力、悔しさ、喜び……。そんな感情を四十歳を過ぎてから味わう事が



日本スポーツマスターズ2007滋賀
前列左から大平洋子・吉田美都子
後列左から及川弘代・小林みち子

出来るとは、思っていませんでした。

週に一、二回の練習、月に一回の県大会、一泊二日の東北大会、そして全国大会へ参加する事は、仕事と家族を持つ主婦にとって、家族の理解と協力が無ければ不可能です。

仕事も家事も無我夢中でこなし、少しずつ良い成績の報告が出来る様になって、家族も「私の生き甲斐」を、諦めにも似た理解をしてくれる様になりました。

東北大会や全国大会で一流選手のプレーを観戦すると、女性のしなやかさと、勝負強さに圧倒されます。日頃の練習に裏付けされた自信と集中力は、観

ている者にも感動を与えてくれます。メンタル面の強さ…。今の私に欠けている部分だと自覚しています。今後も課題として取り組んで行きたいと思ってます。「生涯スポーツ」であるボウリングを始めて、様々な思いを共感出来る多くの仲間と出会えた事は、私の大きな財産になりました。

最近は家庭の事情で、思う様に練習の時間を作る事が出来なくなっていますが、優先順位をしっかりと見つめて、今置かれている現実を後悔する事なく、出来る範囲で大好きなボウリングと関わっていくつもりです。



ドリラーの研鑽と喜び

JBC公認ドリラー

ビッグハウススーパーレーン支配人

佐々木 聡 昭

岩手県ボウリング連盟創立40周年おめでとうございます。

長きに渡り岩手県ボウリング連盟が存続できるのは役員、会員皆様のボウリングに対する情熱と愛情の賜物であると存じます。その間、競技・練習の場であるボウリング場の閉鎖や営業形態の変化など決して良い環境で活動出来ない中、ボウリングを競技として育んでくださった皆様には頭の下がる思いであります。

ボウリングは競技として大きく認知されるようになり、オリンピックこそまだ競技として参加していませんが、アジア大会や国体など大きなスポーツ大会でも採用され、覇を競う場が増えると共に競技のレベルも著しく向上してきております。

その中、岩手県連の選手の活躍も多く聞かれる様になり、選手の日頃の練習の成果が結実し始めてきた事は大変喜ばしいことであり、誇りにも思っております。

最近ではアジアシニア選手権大会選手権者久慈順子選手、兵庫国体ハイミドル優勝 木村聡選手、2006スポーツマスターズ選手権者 藤原孝至選手 等々…連盟選手の活躍を耳にする度、その選手のドリルに携わったことが非常に嬉しく、結果を出した選手にはその功績を称える気持ちと感謝の念が絶えません。

私はセンター従業員として20年ほどドリルに携わってきましたが、JBCの公認ドリラーとして10年ほど連盟選手の皆様のボールをドリルさせていただいております。ボウリングボールはこの15年ほどで大きく変化しており、より摩擦の高い表面素材の開発、転がりや走りを調整出来るコアなど日を追うごとに新しい製品が出され、それに対応したドリルの技術も大きく様変わりしてきております。更にはレーン素材の変化も加わり選手の対応力と投球技術にも様々な要素が要求される様になりました。

ドリル技術としては「フィッティング」そして「バランス」と大きく二つの要素から組み立てて行います。フィッティングはその選手の手の骨格や肉付き、リリース時の軸足とスイングとのバランス、ターンとリフトのタイミングなどによりスパンとピッチを決定します。バランスはそのボールのコア形状と慣性モーメント値、表面摩擦の強弱を考慮の上使用レーンを想定し、どのくらいの走りや曲がりを要求するかにより決定します。これらの技術はボールメーカーなどで、ある程度は修得可能ですが、いざ実際にドリルする際は選手とのイメージの共有がドリルの良し悪しを決定します。選手がどのようなレーンコンディションでの使用を想定しているか、又、他のボールとの使い分けをどのように考えているか等総合的に選手とのコミュニケーションを図り、はじめて競技で使えるボールが出来上がると考えます。これからも新しい理論・技術の習得に努め、連盟選手の活躍に少しでも寄与できればと考えております。

連盟のますますの発展はトップの選手が結果を残し、新しい選手に刺激を与えて互いに競い合い、そして語り合い、仲間としての輪を構築していくことではないかと考えます。連盟役員、会員皆様、はそれが出来る良い人員と環境が揃っていると見ております。

岩手県ボウリング連盟のますますの発展を祈念しております。



ボウリングを生涯スポーツとして

J B C 公認審判員
日体協スポーツ少年団認定員

理 事 小 林 み ち 子

ボウリングとの出会いは、二人の子供が進学のために、仙台、東京と家から離れてしまい、夫婦二人の生活が始まった頃だったと思います。

始めた頃は週一回、ハウスボールで2～3ゲーム投げる程度でした。投げる回数が増えると主人がマイシューズをプレゼントしてくれたのが、後にマイボールを持つきっかけになったと思います。



左から2人目小林恒雄 右端小林みち子

ある日、新聞に国体競技として、ボウリングの記事があり、また全日本年齢別で丸山忠夫選手の優勝の記事を見て感動しました。JBCの岩手県大会を観に何度も会場に足を運び、競技ボウリングに魅せられていきました。

大会を観に行っていた時、阿部副理事長に声を掛けていただき平成11年にJBCに入会しました。

夫婦揃って競技ボウリングのスタートでした。入会3年目に、第一回の日本マスターズ宮崎2001に参加した時の感動が現在まで続けている原動力になりました。

初めての九州、修学旅行気分のような遠征でした。2人チーム戦、プレッシャーも無く夢中で投げて、5ゲーム終了時点で入賞ラインにいと聞いた途端ミスが続きメンタルの競技と痛感しました。

主人は日本マスターズ富山2005で2人チーム戦、大平恵介選手と組んで7位入賞となり、マスターズ大会はいろいろな思いのある大会です。

平成16年に古傷再発で膝の手術を受け、それまでとは同じ様に投球できなくなりボウリングとどう付き合うか迷いました。

上野理事長から声を掛けていただきスポーツ少年団指導のお手伝いをしていたので、『スポーツ少年団認定員』の講習を受け、子供達と接しているうちに生涯スポーツとして続けたいと思えるようになりました。

子供達にはピンを倒した時の快感や投げることを楽しいと感じてボウリングを好きになってもらうよう心がけて指導しています。

小学生から大人まで年齢別の大会があり、ハンディキャップ制と一緒に投げる大会もあるなど年齢に関係なく、誰でも気軽にプレーできるボウリングは生涯スポーツとして最適です。

これからも主人とともにボウリング場通いを続けます。



ホームページの開設

J B C 公認審判員

理事 高橋 宗義

岩手県ボウリング連盟のホームページを開設し 8 年になりました。JBC 加盟団体の HP 開設は 7 番目でしたが最近では 14 団体となっております。閉鎖する団体もありますが開設する団体は増えつつあります。当連盟の開設この間、大会スケジュール等運営情報・大会結果のお知らせ・組織情報・年度事業計画等、正確な情報を同時に、迅速、且つ公平に関係者にお知らせすることを主目的に活動してきましたが、今回の寄稿にあたり、ホームページ担当として、開設目的や運営状況を振り返ってみたいと思います。

当連盟の開設は平成 14 年 4 月ですが、JBC 福岡県連や京都府連のホームページが既に開設されていました。事業計画や、主催大会以外にも全国大会、地域大会情報が掲載されており情報源として重宝しておりました。岩手県連にも同様なホームページがあれば良いなと思っていたところ、他



ホームページの TOP

支部の会員から大会要項の問合せを受けたり、また誰々さんが東北大会で優勝したなどと会員の活躍する情報を頂き、今までの役員、支部長経由の回覧伝達方式では会員に全て伝わらない場合もあり、会員の活躍はみんなに知らせたいと思うようになり開設を決意致しました。開設にあたり会長はじめ役員の方々に趣旨説明を行ったところ、必要性を強く意識されており全面支援を受け連盟の主要な広報媒体として開設し現在に至っております。

開設当初のホームページは、知識修得を図りながらの作成であったため一般的な自己満足の域を出ない出来栄でしたが、会員の方々のご指導、ご要望を頂きながら、少しずつ改良、内容の充実に努めてまいりました。現在は、携帯向けのホームページも開設し、連盟事業を中心とし、東北地区全国大会の県代表選手の情報が殆んどですが予想をはるかに上回る利用があり、会員にとって大きな利便性を発揮しています。更なる向上のため、情報入手ルートを確立し各支部情報や県内市町村ボウリング協会の情報をも掲載し、岩手地域ボウリング統轄団体としての情報提供、情報交換を行ってまいります。また、入賞者の成績だけでなく大会成績一覧や会員毎の記録提供も進めます。

以上、過去を振り返りながら現状を直視し、今後の方針について考えてみました。ホームページの作成、更新作業は夜間の限られた時間しかできませんが、会員各位に喜ばれるよう充実させてまいります。ご意見、ご指導、宜しくお願い申し上げます。



スポーツ・ドクターの考察

(財)日本体育協会公認スポーツ・ドクター

顧問 加藤 典博

私が、ボウリング競技に初めて出会ったのは、約35年前の大学生時代である。ボウリングブームの最盛期がやや過ぎ、岩手県ボウリング連盟が発足して5年目くらいであろうか、東北学生連合に加盟していた岩手医科大学ボウリング部に入部したのがきっかけで、フランチャイズであった緑屋のホリデーボウルに昼夜問わずに居続けた記憶がある。当時の東北学生連合の試合はリーグ戦が盛んで、月1～2度、宮城県まで足を運ばなくてはならなかった。現在のような高速道路はなく、一般道を5～6時間かけて往復したものだ。詰襟の学生服の着服が義務づけられていた。違和感を感じながらも、しかたがなく体制に従っていた。当日の未明午前3時頃に盛岡を発って行くが、どうしても時間ぎりぎりであることが多く、あたふたと所定のレーンに入ると、まもなく練習ボールのフォイッスル、そしてゲームが始まる。また、試合が終了すると深夜近いので、そそくさとボールを持って会場から帰途につくのが通常であった。したがって、精神統一はおろか、アップ、ストレッチもなくゲームに入り、終了後のクールダウンもまったくしない状態であった。当時はまだ、20歳の若さでもあり、さほど筋肉をはじめとして身体的ダメージはなかったが、55歳を過ぎた現在はゲーム後の筋肉、関節へのダメージを痛感するようになってきた。

ボウリング競技1ゲームのエネルギー消費量は平均40カロリーといわれ、運動量は予想に反し高く、野球、ゴルフを抜き、テニスの次ぐらいにランクされる。しかし、疲労度はあまり感じられない。これは投球間隔が調整可能で、この間運動を休止できるためである。これが、ボウリングの大きな特徴である。その他全天候型で、技術差があってもハンデキャップをつけることができ、さらに競技方法を変えることで少人数から大人数まで一緒に競い合う事ができるなどの特性もあり、男女問わず、子供から高齢者まで幅広く、健康維持と管理のための生涯スポーツとして広く取り入れられている。

以前から、サッカーやバスケットなど運動量の多いスポーツは、競技が行われないオフの時期には筋力アップを目的としてフィジカルトレーニングが不可欠であったが、最近では、ゴルフなどにも浸透し、プロの試合でもあまりメタボなゴルフ選手は見られなくなってきた。一方、メンタルトレーニングも進歩し、野球ではメジャーリーグのイチローやタイガー・ウッズを始めとするPGAのトッププロは試合で集中力を発揮、持続するために欠かさず行っているという。皆さんも、ボウリングの試合で、なぜか今日は調子がよく、どこに投げても全部ストライクになり、よい成績で入賞してしまった。あるいは、団体戦で同じ組のメンバーに寄せられて、終わってみたら今までにない成績を出していた。などを経験したことがあると思うが、それが精神的に集中し肉体的に最大限の力が発揮できた時で、いわゆる「ゾーンに入る」という状態である。トップアスリート達は試合ですぐそのゾーンに入り持続する方法を身に付けるためにメンタルトレーニングに励んでいる。特に、ゴルフと似ている心技一体のボウリング競技にはこのメンタルトレーニングは必要不可欠であると思われる。しかし、オフがなく、レジャー性とスポーツ性を持っているボウリングではこのフィジカル、メンタルトレーニングはなかなか浸透し難いのは事実である。せめて、過去40年間岩手県ボウリング連盟の歴史の中でオールジャパンに選出されたり、国体で優勝、入賞を果たした選手達に続く若い選手達は創意、工夫をしながら取り入れてほしい。また、健康維持、管理のために行っているボウラー、特に50歳を超えたシニアの選手たちは、これから負荷の多いフィジカルトレーニングで筋力をつけるよりも、ストレッチすることで、現在の筋力の機能の維持に努めることを勧める。どうぞ、試合の30分以上は早く会場に着き、精神統一とストレッチを忘れずに！！。

最後に、この40年間、吉田現会長をはじめとして、岩手県ボウリング連盟に御尽力された役員、選手の皆様の御苦勞に感謝し、これからのさらなる御発展を祈願して稿を終える。

続岩手のスポーツ人〈ボウリング〉

岩手日報社刊（平成15. 1. 1）より

著者 小田島 隆

久慈が国体準優勝

平成十一年の熊本国体の成年女子年齢別個人戦50歳以上の部で久慈順子（雫石町・小告井乳業）が準優勝に輝いた。ボウリングが国体の正式競技になったのは昭和六十三年の京都大会である。以来県勢は個人戦で六人の入賞者を出しているが、表彰台に上がったのは久慈が最初になる。本県が生んだ唯一のナショナルチーム入りの実績を持ち、「岩手に久慈あり」と全国的にも知られた存在。彼女にとって国体は一つの競技会にすぎないが、岩手の選手として重みのある記録を競技歴に加えたことは胸を張って誇っている。

国体の模様を再現する。競技初日は予選前半の3ゲームが行われた。久慈の出足は鈍かった。もう一つレーンを読み切れずスコアは伸びない。526点で10位だった。8位までの入賞には手の届く範囲だが、上位は難しいとみられる「黄信号」の初日の結果だった。

一夜が明けてレーンには別人のように変身した久慈の姿があった。予選後半の3ゲームは567点をマークしてトータル1093点。172センチの長身を生かした本来の滑らかなフォームから繰り出されるボールは小気味よくピンをなぎ倒し、完全に本来のリズムを取り戻した動きだった。次々に上に位置していた選手を追い落とし3位に急浮上した。



久慈順子

引き続き決勝の3ゲームに入る。快調なテンポは衰えない。第1ゲームはスタートから4連続ストライクを出し、ついに2位まで上がった。しかし、勢いもここまでだった。首位を走る沖崇子（広島）は予選で1152点をマークし久慈との差は59点と離れていた。決勝に入っても好調に飛ばして高得点を並べていた。久慈は最終ゲームでついに息切れし565点で試合を終える。総得点は1658点。優勝した沖は決勝が591点でトータルは1743点、差は85点に広がっていた。

久慈の国体出場は三度目。前二回の成績は平成二年の福岡大会、八年の広島大会とも予選落ちして実力を発揮できない屈辱を味わった。それだけに三度目にかけた執念はすさまじかった。久慈は「決勝の第1ゲームを4連続ストライクから入ることができたのが大きかった。試合を終えて（2位入賞が決まり）やったという気分になった」と話す。

久慈にとっては国体の成績を最高の「勲章」とみなされるのは不本意であろう。輝かしい競技歴を紹介していけば納得がいく。ボウリングに取り組んだのは岩手女子高を出てから数年後の二十三歳ごろになる。友人に誘われて「遊び」で始めたのがきっかけだった。もともと素質があったのだろう。体にも恵まれていた。「遊び」が「競技」に進展していき一段と腕を上げる。衝撃的なデビューを飾る。昭和五十八年八月に名古屋市で開かれたAMFワールドカップ全国決勝大会に東北地区代表として出場。二日間で15ゲームを戦い見事日本一になった。参加者は四十人。予選を経て十六人が決勝ラウンドに進出した。素晴らしい出来を見せた久慈はトータル2919点。1ゲーム平均195点のペース配分で2位の福岡（関西）に69点の大差をつけた優勝だった。この時三十四歳。「競技を始めたころはストライクの快感に酔っていたが、アベレージを高く保つ意識を重要視するようになった」と心境を語った。この好成績でその年十一月にメキシコで開かれたワールドカップに日本代表の一員として出場する。

平成元年五月の全日本選手権で自己最高の6位に入り、同選手権を基準にした選考会を経てナショナルチーム入りを果たした。メンバーには前年のソウル五輪（公開競技）で銀メダルを獲得した浅井敦子（福岡）らがいた。同年十二月の第二回オールジャパンレディース大会は強豪と競って4位に入賞する。二年七月にはインドネシアのジャカルタで開かれた第十一回F I Qアジアアマチュア選手権に出場した。

平成三年になる。五月の全日本選手権ではまたも6位に終わったが、翌六月に韓国の大田で開かれた第八回F I Q極東選手権大会の代表に選ばれ、彼女白身が納得のいく好成績をマークした。個人戦のマスターズ戦で準優勝に輝く。

この試合は同大会のシングルス、ダブルスなど4種目の総合で上位に入った十六人が争う方式で真の実力が問われる。久慈は出だしから好調で次々に対戦相手を破り、決勝で地元の韓国選手と優勝をかけて争った。試合は2ゲームを行い、合計得点で決める。

久慈は第1ゲームで7点をリードする。7点差は大きく優勝は目前と思われたが、地元の声援をバックにした韓国選手の猛烈な追い上げに遭った。点差は徐々に縮まり、ついに逆転を許す。しかしその差はわずか3点、惜しまれる準優勝だった。

円熟した技術健在

久慈順子（小岩井乳業）の極東選手権の成績はマスターズ戦準優勝のほかにも日本勢の活躍に寄与している。5人チームで優勝、3人チーム戦は2位になるなど団体戦の一員として立派に貢献した。

戦い終えて帰国後、久慈は県連盟の吉田几生理事長（現・会長）とともに岩手日報社を訪れて大会の模様を報告した。マスターズ戦で優勝を逃した試合については「第1ゲームで7ピンリードしたことが油断につながったのかもしれない。ただ第2ゲームで取れるはずのスペアを落としたのが痛かった。自分のミスだから仕方がないが…」と残念がる。

レベルの高い試合になるほどちょっとしたつまずきが致命傷になる怖さを肝に銘じた。ただ大会全般に関しては「各試合とも特に緊張はしなかった。マスターズ戦では決勝まで行けて満足している」と述べ、過去メキシコ、インドネシア遠征に比べて実りのある海外試合だったことを喜んだ。同行した吉田理事長は「よく頑張ってくれた。次は国体で本県チームが上位に入れるようにみんなを引っ張ってほしい」とエースに対して注文を付けた。

久慈は平成四年以降、対外試合で目立った成績は残していないが、日ごろの練習は怠りなく繰り返し競技への情熱を燃やし続ける。九年十二月の第十回オールジャパンレディース大会で8位に入って復活。十一年二月には第十四回全日本年齢別大会で五位に食い込み四十歳代最後の試合を飾った。同年九月の熊本国体で準優勝。十二年十二月には第十三回オールジャパンレディース大会シニアの部で4位になり、円熟した技術は依然健在である。



吉田几生 久慈順子

話題を一転させて本県におけるボウリング競技の歩みを簡潔にまとめておきたい。競技の発祥地は欧州である。中世の時代から各国でそれぞれ独自のルールと用具で楽しんできたが、最も今日に近い形は十七世紀になってオランダの移民船によって米国に上陸してから広まったとされる。わが国では文久元（1861）年に長崎の出島に近い英国居留地内にボウリング場が開場したのがスター

トである。大正六（1917）年に東京・神田のY M C A 体育館の地下室に2レーンのボウリング場が開設され、米国人の体育教師がコーチとして指導に当たりにぎわった。営業用の第一号は昭和二十七年に東京・神宮外苑に23レーンの東京ボウリングセンターが開場、競技が行われるようになった。

【注】日本体育協会が出したスポーツ用語事典（昭和50年6月発刊）から要約抜粋。

アマ・ボウラー組織の全日本ボウリング協会（J B C）の設立は東京五輪の年の昭和三十九年であり、遅れること四年後の昭和四十三年に県連盟が結成された。J B Cの日本体育協会（以下体協）加盟は昭和四十八年になる。

県連盟の最初の大仕事は県体育協会（以下県体協）への加盟運動だった。連盟発足時から役員の一人として競技の普及、発展に努めた吉田几生（吉田会計事務所）は五十一年に理事長に選任されるなり県議、遠野市長を務めた小原正巳会長とともに奔走することになる。

しかし、事は思惑通りには運ばず運動は長引く。時期が悪かった。オイルショックに端を発する景気低迷、経済環境の変化がもろに打撃となる。競技の性格上、練習や試合は民間施設に頼らざるを得ない。普及し始めたころはレジャー産業の花形としてブームを巻き起こしたが、不況の波はボウリング場から客足を遠のかせ、多くの施設を閉鎖に追い込んだ。

日体協に加盟したJ B Cの国体参加運動が低滞を余儀なくされると地方組織にも影響が波及する。県連盟が県体協に加盟を認められたのは昭和五十九年四月だった。連盟創設から十六年を経過した。吉田ら県連盟関係者の粘り強い努力と熱意のたまものである。県民体育大会（以下県体）への参加は素早かった。県体協加盟の一年後、六十年の第三十七回大会に三十五番目の正式競技としてデビューする。

県体中期の七月十四、十五日の両日、都南村（現・盛岡市）のベルプラザスーパーレーンが会場だった。団体戦、個人戦が実施され、どちらも男女混合で争われた。女子の参加が極端に少なかったための苦肉の策である。

団体戦には十八市町村から三十四チームが出場して9ゲームを競った。予選6ゲームの結果十七チームが決勝に進出。予選では首位の北上市Aに61点差をつけられて5位にいた盛岡市Aが決勝の3ゲームで急迫し逆転、トータル6786点で記念すべき最初の大会の覇者に輝いた。メンバーは川原重治郎、丸山忠夫、佐々木和夫、太田繁夫の四人である。2位には6756点で都南村Aが入り、3位は6752点の北上市Aだった。

二日目の個人戦は29歳以下の部が小国孝喜（北上市）、30歳代の部が久慈順子（雫石町）、40歳代の部が大ヶ生登美子（盛岡市）、50歳以上の部が丸山忠夫（盛岡市）。全部門を通した最高得点は第一人者である久慈の1886点だった。

強化の必要を認識

国民体育大会（以下国体）にボウリング競技が登場したのは昭和六十二年の第四十二回沖縄大会になる。この時は公開競技の扱いで成年男女は団体戦と4部門の年齢別個人戦、少年男女は団体戦と個人戦が行われた。実施されたのは夏季大会である。競技の性格からみれば秋季大会だが、秋季大会は競技種目が膨れ上がる一方のため、競技数の少ない夏季大会に繰り入れられた。

翌六十三年の京都大会が正式競技のスタートになる。本県から出場したのは連盟理事長の吉田几生が率いる工藤文彰（盛岡工高）、嶋廻克彦（盛岡南高）の少年男子の二人。東北地区予選の東北総合体育大会（以下東北総体）で3位に食い込んで出場権を獲得した。しかし、残念ながら入賞には届かなかった。成年男女は東北地区予選を突破できず、県連盟の関係者はあらためて本県の実力を知り、強化に一段と力を入れる必要性を認識させられた。

平成元年の北海道大会では二人の入賞者を出した。頑張ったのは成年男子一部の年齢別個人戦50歳以上の部の丸山忠夫（丸山板金）である。予選の6ゲームは1121点をマークして6位で通過した。決勝の3ゲームは552点を出しトータル1673点で順位を一つ上げ5位に食い込んだ。6位とは1点差の際どい勝負だった。優勝した河北勝利（山口）は1758点である。

もう一人の入賞者は成年男子二部の佐藤喜三郎（日通盛岡支店）。予選は1155点と丸山をしのぐ出来で6番目でパス、入賞を決めた。しかし二日目の決勝では443点とスコアが伸びず合計1598点で8位にとどまる。佐藤は「体調はよかったが、やはり決勝ということで緊張した。しかし8位以内入賞の目標は最低限達成したので満足した」と笑顔を見せた。

一部40歳代で期待された川原重治郎（青山経営経理研究所）は予選19位で決勝進出を逃し、丸山、川原に木村聡（鈴久）、浅野周三（アサノ電気）を加えた四人による団体戦は予選24位にとどまった。チームを率いた監督は菊地賢（菊建設）である。

平成二年の福岡大会は初出場の女性陣が健闘した。監督は熊谷礼子（盛岡市）で選手は成年一部が上村優子（玉山村）、三浦巳代子（回進堂）、久慈順子（小岩井乳業）、小笠原ケイ子（盛岡市）、成年二部は後藤秀子（ゴトー自動車）だった。

一部30歳代の部で三浦が7位入賞を果たした。予選6ゲーム中、前半の3ゲームは514点で危ない位置にいたが、後半の3ゲームで懸命に盛り返した。183点、180点、190点で計553点をマークして1067点とし一気に4位に浮上した。上位八人に絞られた決勝に臨む。だが、予選後半の勢いを持続できなかった。3ゲームで挙げた得点は463点に終わりトータルスコアは1530点。三浦は「予選の後半は出来過ぎ。決勝は頑張ったけれどダメだった」と表情を曇らせた。

二部に出場した後藤は8位に入った。予選6ゲームは975点。8位で際どかったが入賞を確定した。決勝の3ゲームは464点をマークし合計1439点になった。

誤算だったのはナショナルチーム入りしている40歳代の部の久慈。予選15位と振るわなかった。50歳代の部の小笠原は予選前半で546点を出し2位に付けたが後半崩れて13位に落ちてしまった。

八年の広島大会で六年ぶりに入賞者が誕生した。成年男子29歳以下の部で8位になった工藤文彰（第一ビル用品）である。盛岡工高時代に京都大会に出場している。出だしが素晴らしかった。予選前半の3ゲームが699点の高得点で2位。後半は600点と急降下しトータルは1299点で7位。そして決勝の567点をプラスして1866点だった。試合が進むにつれてスコアが落ちたことが反省材料になる。九年の大阪大会では成年男子50歳以上の部で佐々木和夫（薫山工房）が6位入賞を果たした。予選前半は669点で3位。後半は伸びなかったが4位で決勝に残る。総トータルは1803点だった。

国体以外の主な戦績をみる。丸山がいい仕事をしている。六十一年六月の第六回東日本シニア選手権で個人総合優勝を遂げた。得点は3028点で2位に37点差をつけた。15ゲームのうち12ゲームまでは4位。トップに70点の大差をつけられていたが、残り3ゲームで大逆転した。丸山は平成八年の全日本年齢別大会60歳以上の部でも優勝している。十年十月の全日本シニア選手権ハイシニアの部2人チーム戦では広瀬功（日本林業土木）と組んで4位。同年七月の東日本シニア選手権男子4人チーム戦は丸山のほか川原、佐々木、藤村他可夫（清水建設）のメンバーで優勝した。

十一年二月には女子のホープ小笠原由美子（ムラタ）が第十四回全日本年齢別大会の20歳代の部で3位、八月の東北総体では優勝している。



丸山忠夫



栄光の記録



岩手県ボウリング選手権大会 歴代選手権者名簿

	男子	女子
第 1 回 (昭和 45 年)	千 葉 明 彦	入 江 登美子
第 2 回 (昭和 46 年)	谷 地 哲 郎	村 上 とし子
第 3 回 (昭和 47 年)	矢羽々 清 美	久 慈 順 子
第 4 回 (昭和 52 年)	古 館 勇 光	久 慈 順 子
第 5 回 (昭和 53 年)	千 田 勝 郎	久 慈 順 子
第 6 回 (昭和 54 年)	千 田 勝 郎	久 慈 順 子
第 7 回 (昭和 55 年)	伊 藤 誠	久 慈 順 子
第 8 回 (昭和 56 年)	阿 部 勝 弘	久 慈 順 子
第 9 回 (昭和 57 年)	佐 藤 義 明	久 慈 順 子
第 10 回 (昭和 58 年)	丸 山 忠 夫	久 慈 順 子
第 11 回 (昭和 59 年)	太 田 繁 夫	久 慈 順 子
第 12 回 (昭和 60 年)	平 野 信 雄	久 慈 順 子
第 13 回 (昭和 61 年)	木 村 聡	久 慈 順 子
第 14 回 (昭和 62 年)	丸 山 忠 夫	久 慈 順 子
第 15 回 (昭和 63 年)	藤 原 隆 孝	小笠原 ケイ子
第 16 回 (平成 1 年)	木 村 聡	久 慈 順 子
第 17 回 (平成 2 年)	川 原 重治郎	久 慈 順 子
第 18 回 (平成 3 年)	工 藤 文 彰	久 慈 順 子
第 19 回 (平成 4 年)	伊 藤 誠	桜 井 ゆかり
第 20 回 (平成 5 年)	木 村 聡	久 慈 順 子
第 21 回 (平成 6 年)	木 村 聡	桜 井 ゆかり
第 22 回 (平成 7 年)	山 田 浩 幸	久 慈 順 子
第 23 回 (平成 8 年)	工 藤 文 彰	久 慈 順 子
第 24 回 (平成 9 年)	藤 村 他可夫	畠 山 由美子
第 25 回 (平成 10 年)	藤 原 孝 至	小笠原 由美子
第 26 回 (平成 11 年)	赤 沢 清	佐 藤 結 香
第 27 回 (平成 12 年)	工 藤 文 彰	久 慈 順 子
第 28 回 (平成 13 年)	木 村 聡	久 慈 順 子
第 29 回 (平成 14 年)	小笠原 賢	阿 部 トミエ
第 30 回 (平成 15 年)	工 藤 文 彰	阿 部 トミエ
第 31 回 (平成 16 年)	工 藤 文 彰	久 慈 順 子
第 32 回 (平成 17 年)	村 上 齊	高 橋 久美子
第 33 回 (平成 18 年)	宇 部 健	鈴 木 ゆかり
第 34 回 (平成 19 年)	工 藤 文 彰	阿 部 暁 美
第 35 回 (平成 20 年)	沼 田 聡	久 慈 順 子

岩手県民体育大会

第 37 回 大会 の 成 績

昭和60年 7 月13日・14日
(ボウリング競技初参加)

●団体戦(男女混合4人チーム戦)

順 位	チー ム 名	選 手 名	スコア(36G)
優 勝	盛 岡 市 A	丸 山 忠 夫 ・ 太 田 繁 夫 ・ 川 原 重 治 郎 ・ 佐 々 木 和 夫	6,768
準優勝	都 南 村 A	飯 塚 隆 ・ 小 泉 俊 男 ・ 小 笠 原 勝 ・ 大 倉 和 男	6,756
第 3 位	北 上 市 A	八 重 樫 功 ・ 小 田 島 正 利 ・ 浅 野 周 三 ・ 平 野 信 雄	6,752
第 4 位	矢 巾 町	阿 部 勝 弘 ・ 中 村 孝 一 郎 ・ 菊 池 安 彦 ・ 中 村 三 郎	6,750
第 5 位	都 南 村 B	佐 藤 喜 三 郎 ・ 佐 藤 裕 ・ 石 田 良 子 ・ 熊 谷 重 勝	6,714
第 6 位	石 鳥 谷 町	畠 山 正 志 ・ 似 内 正 紀 ・ 藤 原 良 造 ・ 菊 池 正 勝	6,637
第 7 位	水 沢 市 A	及 川 宏 孝 ・ 石 川 浩 志 ・ 後 藤 正 三 ・ 木 村 聡	6,617
第 8 位	盛 岡 市 B	藤 原 正 夫 ・ 藤 原 妙 子 ・ 今 野 カ ナ 子 ・ 小 笠 原 ケ イ 子	6,606

●市対抗の部

順 位	市 名	得 点
第 1 位	盛 岡 市	13
第 2 位	水 沢 市	10
第 3 位	北 上 市	9
第 4 位	一 関 市	8
第 5 位	久 慈 市	7
第 6 位	花 巻 市	6
第 7 位	釜 石 市	5
第 8 位	大 船 渡 市	4

●町村対抗の部

順 位	市 名	得 点
第 1 位	都 南 村	13
第 2 位	矢 巾 町	10
第 3 位	石 鳥 谷 町	9
第 4 位	雫 石 町	8
第 5 位	和 賀 町	7
第 6 位	大 迫 町	6
第 7 位	紫 波 町	5
第 8 位	玉 山 村	4

●年齢別個人戦(男女混合)

29 歳 以 下				30 歳 代			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9 G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9 G)
優 勝	小 国 孝 喜	北 上 市	1,717	優 勝	久 慈 順 子	雫 石 町	1,886
準 優 勝	小 笠 原 勝	都 南 村	1,690	準 優 勝	佐 々 木 信 夫	玉 山 村	1,775
第 3 位	田 村 一 彦	都 南 村	1,687	第 3 位	大 鹿 糠 清	久 慈 市	1,755
40 歳 代				50 歳 以 上			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9 G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9 G)
優 勝	大ヶ生登美子	盛 岡 市	1,766	優 勝	丸 山 忠 夫	盛 岡 市	1,801
準 優 勝	八 重 樫 功	北 上 市	1,754	準 優 勝	太 田 繁 夫	盛 岡 市	1,756
第 3 位	菊 池 レ イ 子	盛 岡 市	1,732	第 3 位	畠 山 正 志	石 鳥 谷 町	1,746

第 38 回 大 会 の 成 績

昭和61年 7 月12日・13日

●団体戦(男女混合4人チーム戦)

順 位	チー ム 名	選 手 名	スコア(36G)
優 勝	盛 岡 市 C	佐々木菊夫 ・ 川原重治郎 ・ 佐々木文彦 ・ 佐々木和夫	6,853
準優勝	盛 岡 市 B	小山田二郎 ・ 武田アイ子 ・ 藤原 妙子 ・ 太田 繁夫	6,843
第 3 位	花 巻 市 A	伊藤 誠 ・ 鎌田 次男 ・ 新田 晃 ・ 藤本 智隆	6,836
第 4 位	都 南 村 A	小笠原 勝 ・ 大倉 和男 ・ 飯塚 隆 ・ 小泉 俊男	6,835
第 5 位	北 上 市 A	平野 信雄 ・ 石川 義男 ・ 小田島正利 ・ 倉内 嘉則	6,788
第 6 位	一 関 市 A	佐藤 一二 ・ 武田 礼治 ・ 遠藤 正美 ・ 千葉 一郎	6,613
第 7 位	大 迫 町	嶋廻 敏夫 ・ 瀬川 忠男 ・ 鎌田 敬一 ・ 佐藤 義明	6,590
第 8 位	矢 巾 町	阿部 勝弘 ・ 菊池 安彦 ・ 中村 三郎 ・ 中野 正孝	6,553

●市対抗の部

順 位	市 名	得 点
第 1 位	盛 岡 市	13
第 2 位	北 上 市	10
第 3 位	一 関 市	9
第 4 位	水 沢 市	8
第 5 位	釜 石 市	7
第 6 位	花 巻 市	6
第 7 位	久 慈 市	5
第 8 位	大 船 渡 市	4

●町村対抗の部

順 位	市 名	得 点
第 1 位	都 南 村	13
第 2 位	紫 波 町	10
第 3 位	矢 巾 町	9
第 4 位	大 迫 町	8
第 5 位	雫 石 町	7
第 6 位	玉 山 村	6
第 7 位	石 鳥 谷 町	5
第 8 位	胆 沢 町	4

●年齢別個人戦(男女混合)

29 歳 以 下				30 歳 代			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)
優 勝	間 泰勝	久 慈 市	1,822	優 勝	久慈 順子	雫 石 町	1,877
準 優 勝	小山田二郎	盛 岡 市	1,769	準 優 勝	石川 義男	北 上 市	1,814
第 3 位	佐々木文彦	盛 岡 市	1,755	第 3 位	大塚 徹	雫 石 町	1,748
40 歳 代				50 歳 以 上			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)
優 勝	倉内 嘉則	北 上 市	1,733	優 勝	藤原 妙子	盛 岡 市	1,692
準 優 勝	阿部 勝弘	矢 巾 町	1,715	準 優 勝	佐藤 義明	大 迫 町	1,686
第 3 位	熊谷 礼子	盛 岡 市	1,706	第 3 位	畠山 正志	石 鳥 谷 町	1,669

第 39 回 大 会 の 成 績

昭和62年 7 月11日・12日

●団体戦(男女混合4人チーム戦)

順 位	チー ム 名	選 手 名	スコア(36G)
優 勝	盛 岡 市 B	佐々木菊夫 ・ 川原重治郎 ・ 佐々木文彦 ・ 佐々木和夫	6,942
準優勝	大 迫 町	佐藤 義明 ・ 鎌田 敬一 ・ 瀬川 忠男 ・ 嶋廻 敏夫	6,913
第 3 位	花 巻 市 A	伊藤 誠 ・ 新田 晃 ・ 藤本 智隆 ・ 佐々木忠夫	6,896
第 4 位	矢 巾 町 A	阿部 弘樹 ・ 高橋 文和 ・ 藤原 隆孝 ・ 阿部 勝弘	6,883
第 5 位	都 南 村 A	小笠原 勝 ・ 飯塚 隆 ・ 大倉 和男 ・ 小泉 俊男	6,825
第 6 位	釜 石 市	熊谷 充善 ・ 中田 義幸 ・ 菊池 啓一 ・ 佐藤 和典	6,697
第 7 位	盛 岡 市 C	赤沢 清 ・ 上野 吉朗 ・ 黒沢 吏 ・ 小山田二郎	6,684
第 8 位	都 南 村 C	工藤 文彰 ・ 斉藤 啓子 ・ 藤沢 正志 ・ 高橋 克見	6,681

●市対抗の部

順 位	市 名	得 点
第 1 位	盛 岡 市	13
第 2 位	花 巻 市	10
第 3 位	釜 石 市	9
第 4 位	一 関 市	8
第 5 位	水 沢 市	7
第 6 位	久 慈 市	6
第 7 位	北 上 市	5
第 8 位	大 船 渡 市	4

●町村対抗の部

順 位	市 名	得 点
第 1 位	大 迫 町	13
第 2 位	矢 巾 町	10
第 3 位	都 南 村	9
第 4 位	紫 波 町	8
第 5 位	和 賀 町	7
第 6 位	雫 石 町	6
第 7 位	石 鳥 谷 町	5
第 8 位	胆 沢 町	4

●年齢別個人戦(男女混合)

29 歳 以 下				30 歳 代			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)
優 勝	小笠原 勝	都 南 村	1,952	優 勝	久慈 順子	雫 石 町	1,906
準優勝	佐々木文彦	盛 岡 市	1,845	準優勝	千葉 周	花 泉 町	1,843
第 3 位	木村 聡	水 沢 市	1,792	第 3 位	佐々木菊夫	盛 岡 市	1,820
40 歳 代				50 歳 以 上			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)
優 勝	嶋廻 敏夫	大 迫 町	1,761	優 勝	佐藤 義明	大 迫 町	1,816
準優勝	中山 昭二	盛 岡 市	1,730	準優勝	太田 繁夫	盛 岡 市	1,748
第 3 位	鎌田 敬一	大 迫 町	1,723	第 3 位	佐々木忠夫	花 巻 市	1,670

第 40 回 大 会 の 成 績

昭和63年 7 月 9 日・10日

●団体戦(男女混合4人チーム戦)

順 位	チー ム 名	選 手 名	スコア(36G)
優 勝	盛岡市 B	佐々木文彦 ・ 佐々木菊夫 ・ 川原重治郎 ・ 丸山 忠夫	6,957
準優勝	盛岡市 C	佐々木和夫 ・ 藤村他可夫 ・ 小笠原ケイ子 ・ 小山田二郎	6,928
第 3 位	久慈市 A	奥瀬 幸男 ・ 間 泰勝 ・ 大久保和佳 ・ 大鹿糠 清	6,841
第 4 位	都南村 A	工藤 文彰 ・ 大倉 和男 ・ 小笠原 勝 ・ 小泉 俊男	6,793
第 5 位	盛岡市 A	黒沢 吏 ・ 藤原 妙子 ・ 藤原 正夫 ・ 太田 繁夫	6,727
第 6 位	大迫町	佐藤 義明 ・ 鎌田 敬一 ・ 瀬川 忠男 ・ 嶋廻 敏夫	6,684
第 7 位	花巻市 A	新田 晃 ・ 藤本 智隆 ・ 伊藤 誠 ・ 大平 恵介	6,683
第 8 位	一関市 A	菊池 誠之 ・ 佐藤 一二 ・ 菅野 満 ・ 武田 礼治	6,674

●市対抗の部

順 位	市 名	得 点
第 1 位	盛岡市	40
第 2 位	久慈市	35
第 3 位	花巻市	30
第 4 位	一関市	25
第 5 位	水沢市	20
第 6 位	北上市	15
第 7 位	大船渡市	10
第 8 位	釜石市	5

●町村対抗の部

順 位	市 名	得 点
第 1 位	都南村	40
第 2 位	大迫町	35
第 3 位	雫石町	30
第 4 位	矢巾町	25
第 5 位	玉山村	20
第 6 位	石鳥谷町	15
第 7 位	滝沢村	10
第 8 位	胆沢町	5

●年齢別個人戦(男女混合)

29 歳 以 下				30 歳 代			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)
優 勝	木村 聡	水沢市	1,897	優 勝	小笠原 勝	都南村	1,837
準優勝	工藤 文彰	都南村	1,888	準優勝	久慈 順子	雫石町	1,832
第 3 位	高橋 文和	矢巾町	1,846	第 3 位	佐々木菊夫	盛岡市	1,743
40 歳 代				50 歳 以 上			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)
優 勝	嶋廻 敏夫	大迫町	1,841	優 勝	佐藤 義明	大迫町	1,813
準優勝	奥瀬 幸男	久慈市	1,840	準優勝	黒沢 吏	盛岡市	1,803
第 3 位	小泉 俊男	都南村	1,760	第 3 位	小笠原ケイ子	盛岡市	1,768

第 41 回 大 会 の 成 績

平成 1 年 6 月 10 日・11 日

●団体戦(男女混合 4 人チーム戦)

順 位	チー ム 名	選 手 名	スコア(36 G)
優 勝	都 南 村 A	工藤 文彰 ・ 大倉 和男 ・ 小笠原 勝 ・ 佐藤喜三郎	6,935
準優勝	大 迫 町	瀬川 忠男 ・ 佐藤 義明 ・ 鎌田 敬一 ・ 嶋廻 敏夫	6,878
第 3 位	矢 巾 町 A	阿部 弘樹 ・ 藤原 隆孝 ・ 佐々木敏彦 ・ 阿部 勝弘	6,872
第 4 位	北 上 市 A	及川 洋治 ・ 浅野 周三 ・ 斉田 敏雄 ・ 小田島正利	6,763
第 5 位	盛 岡 市 B	佐々木文彦 ・ 菅原 純一 ・ 川原重治郎 ・ 丸山 忠夫	6,747
第 6 位	久 慈 市 A	間 泰勝 ・ 菅野 幸雄 ・ 奥瀬 英夫 ・ 大鹿糠 清	6,713
第 7 位	都 南 村 B	藤原 秋夫 ・ 鈴木 和彦 ・ 飯塚 隆 ・ 高橋 克見	6,701
第 8 位	盛 岡 市 A	黒沢 吏 ・ 藤原 妙子 ・ 武田亜希子 ・ 藤原 正夫	6,685

●市対抗の部

順 位	市 名	得 点
第 1 位	北 上 市	40
第 2 位	盛 岡 市	35
第 3 位	久 慈 市	30
第 4 位	花 巻 市	25
第 5 位	水 沢 市	20
第 6 位	一 関 市	15
第 7 位	二 戸 市	10
第 8 位	大 船 渡 市	5

●町村対抗の部

順 位	市 名	得 点
第 1 位	都 南 村	40
第 2 位	大 迫 町	35
第 3 位	矢 巾 町	30
第 4 位	紫 波 町	25
第 5 位	雫 石 町	20
第 6 位	石 鳥 谷 町	15
第 7 位	玉 山 村	10
第 8 位	滝 沢 村	5

●年齢別個人戦(男女混合)

29 歳 以 下				30 歳 代			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9 G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9 G)
優 勝	工藤 文彰	都 南 村	1,812	優 勝	佐藤 稔	北 上 市	1,899
準 優 勝	間 泰勝	久 慈 市	1,804	準 優 勝	沼田 秀世	玉 山 村	1,800
第 3 位	佐々木文彦	盛 岡 市	1,736	第 3 位	石川 浩志	水 沢 市	1,784
40 歳 代				50 歳 以 上			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9 G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9 G)
優 勝	久慈 順子	雫 石 町	1,847	優 勝	丸山 忠夫	盛 岡 市	1,877
準 優 勝	川原重治郎	盛 岡 市	1,782	準 優 勝	藤原 妙子	盛 岡 市	1,858
第 3 位	嶋廻 敏夫	大 迫 町	1,735	第 3 位	佐藤喜三郎	都 南 村	1,755

第 42 回 大 会 の 成 績

平成 2 年 7 月 14 日・15 日

●団体戦(男女混合 4 人チーム戦)

順 位	チー ム 名	選 手 名	スコア(36 G)
優 勝	水 沢 市 B	三浦巳代子 ・ 後藤 秀子 ・ 土井 涼子 ・ 土井 英明	7,107
準優勝	盛 岡 市 B	佐々木文彦 ・ 小笠原ケイ子 ・ 熊谷 礼子 ・ 赤沢 清	7,005
第 3 位	矢 巾 町 A	佐々木敏彦 ・ 高橋 文和 ・ 藤原 隆孝 ・ 阿部 勝弘	6,946
第 4 位	都 南 村 A	工藤 文彰 ・ 鈴木 和彦 ・ 飯塚 隆 ・ 佐藤喜三郎	6,835
第 5 位	盛 岡 市 C	佐々木和夫 ・ 藤村他可夫 ・ 川原重治郎 ・ 丸山 忠夫	6,833
第 6 位	石 鳥 谷 町	似内 正紀 ・ 菊池 正勝 ・ 藤原 孝至 ・ 藤原 良造	6,827
第 7 位	北 上 市 A	菊池 洋二 ・ 佐藤 稔 ・ 斉田 敏雄 ・ 清水 清幸	6,788
第 8 位	盛 岡 市 A	太田 繁夫 ・ 小山田ミイ ・ 金野カナ子 ・ 松田 昭子	6,716

●市対抗の部

順 位	市 名	得 点
第 1 位	水 沢 市	40
第 2 位	盛 岡 市	35
第 3 位	北 上 市	30
第 4 位	久 慈 市	25
第 5 位	花 巻 市	20
第 6 位	一 関 市	15
第 7 位	大 船 渡 市	10
第 8 位	二 戸 市	5

●町村対抗の部

順 位	市 名	得 点
第 1 位	矢 巾 町	40
第 2 位	都 南 村	35
第 3 位	石 鳥 谷 町	30
第 4 位	紫 波 町	25
第 5 位	花 泉 町	20
第 6 位	大 迫 町	15
第 7 位	玉 山 村	10
第 8 位	和 賀 町	5

●年齢別個人戦(男女混合)

29 歳 以 下				30 歳 代			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9 G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9 G)
優 勝	高橋 文和	矢 巾 町	1,949	優 勝	三浦巳代子	水 沢 市	1,801
準優勝	佐々木敏彦	矢 巾 町	1,936	準優勝	清水 清幸	北 上 市	1,797
第 3 位	庄子 裕之	一 関 市	1,795	第 3 位	斉藤 孝也	水 沢 市	1,775
40 歳 代				50 歳 以 上			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9 G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9 G)
優 勝	藤村他可夫	盛 岡 市	1,798	優 勝	小笠原ケイ子	盛 岡 市	1,765
準優勝	松田 昭子	盛 岡 市	1,787	準優勝	太田 繁夫	盛 岡 市	1,731
第 3 位	川原重治郎	盛 岡 市	1,779	第 3 位	佐藤 義明	大 迫 町	1,731

第 43 回 大 会 の 成 績

平成 3 年 7 月 13 日・14 日

●団体戦(男女混合 4 人チーム戦)

順 位	チー ム 名	選 手 名	スコア(36G)
優 勝	盛 岡 市 A	川原重治郎 ・ 丸山 忠夫 ・ 佐々木和夫 ・ 藤村他可夫	7,116
準優勝	盛 岡 市 B	落合 康司 ・ 熊谷 礼子 ・ 小笠原ケイ子 ・ 赤沢 清	7,061
第 3 位	都 南 村 B	工藤 文彰 ・ 根田 光朗 ・ 高橋 克見 ・ 大倉 和男	6,924
第 4 位	水 沢 市 A	三浦巳代子 ・ 土井 涼子 ・ 栃沢 健一 ・ 土井 英明	6,883
第 5 位	北 上 市 B	斉田 敏雄 ・ 高橋 栄幸 ・ 小国 孝喜 ・ 清水 清幸	6,883
第 6 位	都 南 村 A	鈴木 和彦 ・ 加藤 典博 ・ 飯塚 隆 ・ 佐藤喜三郎	6,714
第 7 位	北 上 市 A	伊藤 博志 ・ 佐藤 稔 ・ 菊池 洋二 ・ 小田島正利	6,708
第 8 位	一 関 市 A	庄子 裕之 ・ 佐藤 泰吉 ・ 千葉 清一 ・ 佐藤 一二	6,704

●市対抗の部

順 位	市 名	得 点
第 1 位	盛 岡 市	40
第 2 位	水 沢 市	35
第 3 位	北 上 市	30
第 4 位	一 関 市	25
第 5 位	久 慈 市	20
第 6 位	大 船 渡 市	15
第 7 位	花 巻 市	10
第 8 位	陸 前 高 田 市	5

●町村対抗の部

順 位	市 名	得 点
第 1 位	都 南 村	40
第 2 位	玉 山 村	35
第 3 位	石 鳥 谷 町	30
第 4 位	矢 巾 町	25
第 5 位	紫 波 町	20
第 6 位	滝 沢 村	15
第 7 位	大 迫 町	10
第 8 位	花 泉 町	5

●年齢別個人戦(男女混合)

29 歳 以 下				30 歳 代			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)
優 勝	工藤 文彰	都 南 村	1,930	優 勝	柳村 正実	滝 沢 村	1,839
準 優 勝	根田 光朗	都 南 村	1,737	準 優 勝	大久保和佳	久 慈 市	1,794
第 3 位	鈴木 和彦	都 南 村	1,716	第 3 位	武田 礼治	一 関 市	1,759
40 歳 代				50 歳 以 上			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)
優 勝	川原重治郎	盛 岡 市	1,794	優 勝	佐藤喜三郎	都 南 村	1,815
準 優 勝	峯崎登美夫	花 巻 市	1,772	準 優 勝	小笠原ケイ子	盛 岡 市	1,795
第 3 位	藤村他可夫	盛 岡 市	1,772	第 3 位	熊谷 礼子	盛 岡 市	1,752

第 44 回 大 会 の 成 績

平成 4 年 7 月 4 日・5 日

●団体戦(男女混合4人チーム戦)

順 位	チー ム 名	選 手 名	スコア(36G)
優 勝	盛 岡 市 A	佐々木和夫 ・ 工藤 文彰 ・ 川原重治郎 ・ 丸山 忠夫	7,047
準優勝	一 関 市 A	武田 礼治 ・ 佐藤 一二 ・ 千葉 一郎 ・ 千葉 清一	6,992
第 3 位	花 巻 市 A	伊藤 誠 ・ 新田 晃 ・ 高橋 一彦 ・ 大平 恵介	6,970
第 4 位	盛 岡 市 B	加藤 典博 ・ 西葛 康裕 ・ 熊谷 礼子 ・ 小笠原ケイ子	6,846
第 5 位	北 上 市 C	菊池 洋二 ・ 桜井ゆかり ・ 浅野 周三 ・ 及川 洋治	6,835
第 6 位	久 慈 市 A	奥瀬 幸男 ・ 菅野 幸雄 ・ 大久保和佳 ・ 大鹿糠 清	6,827
第 7 位	矢 巾 町 A	高橋 文和 ・ 稲垣 譲治 ・ 立花 利夫 ・ 藤原 隆孝	6,787
第 8 位	北 上 市 A	小国 孝喜 ・ 清水 清幸 ・ 小田島正利 ・ 佐藤 稔	6,747

●市対抗の部

順 位	市 名	得 点
第 1 位	盛 岡 市	40
第 2 位	一 関 市	35
第 3 位	花 巻 市	30
第 4 位	北 上 市	25
第 5 位	久 慈 市	20
第 6 位	水 沢 市	15
第 7 位	大 船 渡 市	10
第 8 位	釜 石 市	5

●町村対抗の部

順 位	市 名	得 点
第 1 位	矢 巾 町	40
第 2 位	岩 手 町	35
第 3 位	滝 沢 村	30
第 4 位	大 迫 町	25
第 5 位	玉 山 村	20
第 6 位	紫 波 町	15
第 7 位	西 根 町	10
第 8 位	花 泉 町	5

●年齢別個人戦(男女混合)

29 歳 以 下				30 歳 代			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)
優 勝	工藤 文彰	盛 岡 市	1,825	優 勝	佐々木文彦	西 根 町	1,807
準優勝	小笠原 賢	矢 巾 町	1,729	準優勝	武田 礼治	一 関 市	1,778
第 3 位	桜井ゆかり	北 上 市	1,714	第 3 位	土井 英明	水 沢 市	1,775
40 歳 代				50 歳 以 上			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)
優 勝	大鹿糠 清	久 慈 市	1,815	優 勝	丸山 忠夫	盛 岡 市	1,836
準優勝	川原重治郎	盛 岡 市	1,803	準優勝	熊谷 礼子	盛 岡 市	1,775
第 3 位	伊藤 誠	花 巻 市	1,728	第 3 位	小笠原ケイ子	盛 岡 市	1,753

第 45 回 大 会 の 成 績

平成 5 年 7 月 3 日・4 日

●団体戦(男女混合 4 人チーム戦)

順 位	チー ム 名	選 手 名	スコア(36 G)
優 勝	盛 岡 市 A	加藤 典博 ・ 小笠原ケイ子 ・ 熊谷 礼子 ・ 西葛 康裕	7,379
準優勝	盛 岡 市 B	佐々木和夫 ・ 工藤 文彰 ・ 川原重治郎 ・ 丸山 忠夫	7,076
第 3 位	大 迫 町	嶋廻 敏夫 ・ 瀬川 忠男 ・ 沢田 敏道 ・ 鎌田 敬一	6,900
第 4 位	紫 波 町	菅原 国男 ・ 下脇 良英 ・ 築田 幸司 ・ 佐藤 三彦	6,895
第 5 位	水 沢 市 A	斉藤 孝也 ・ 後藤 秀子 ・ 後藤 正三 ・ 木村 聡	6,859
第 6 位	陸前高田市A	千葉 秀一 ・ 小松テチ子 ・ 佐々木忠光 ・ 吉田 安廣	6,846
第 7 位	一 関 市 A	高橋 宗義 ・ 千葉 清一 ・ 庄子 裕之 ・ 千葉 一郎	6,822
第 8 位	花 泉 町	千葉 周 ・ 今野 公一 ・ 千葉 司 ・ 小野寺幸江	6,809

●市対抗の部

順 位	市 名	得 点
第 1 位	盛 岡 市	40
第 2 位	水 沢 市	35
第 3 位	陸 前 高 田 市	30
第 4 位	一 関 市	25
第 5 位	釜 石 市	20
第 6 位	北 上 市	15
第 7 位	久 慈 市	10
第 8 位	花 巻 市	5

●町村対抗の部

順 位	市 名	得 点
第 1 位	大 迫 町	40
第 2 位	紫 波 町	35
第 3 位	花 泉 町	30
第 4 位	矢 巾 町	25
第 5 位	西 根 町	20
第 6 位	石 鳥 谷 町	15
第 7 位	玉 山 村	10
第 8 位	滝 沢 村	5

●年齢別個人戦(男女混合)

29 歳 以 下				30 歳 代			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9 G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9 G)
優 勝	工藤 文彰	盛 岡 市	1,822	優 勝	高野 元幸	水 沢 市	1,966
準 優 勝	小野寺誠之	一 関 市	1,773	準 優 勝	田中 幸夫	水 沢 市	1,849
第 3 位	村松 敦子	矢 巾 町	1,761	第 3 位	吉田 兼	滝 沢 村	1,802
40 歳 代				50 歳 以 上			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9 G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9 G)
優 勝	加藤 典博	盛 岡 市	1,907	優 勝	小笠原ケイ子	盛 岡 市	1,763
準 優 勝	西葛 康裕	盛 岡 市	1,828	準 優 勝	菅原 英治	水 沢 市	1,758
第 3 位	菅原 純一	盛 岡 市	1,821	第 3 位	濱田勝太郎	大船渡市	1,753

第 46 回 大 会 の 成 績

平成 6 年 7 月 2 日・3 日

●団体戦(男女混合 4 人チーム戦)

順 位	チー ム 名	選 手 名	スコア(36G)
優 勝	盛 岡 市 A	佐々木和夫 ・ 工藤 文彰 ・ 川原重治郎 ・ 丸山 忠夫	7,009
準優勝	水 沢 市 B	後藤 正三 ・ 後藤 秀子 ・ 菅原 栄 ・ 木村 聡	6,964
第 3 位	矢 巾 町	高橋 文和 ・ 稲垣 譲治 ・ 藤原 隆孝 ・ 阿部 勝弘	6,944
第 4 位	盛 岡 市 C	西葛 康裕 ・ 加藤 典博 ・ 村井 恵 ・ 大倉 和男	6,704
第 5 位	盛 岡 市 B	赤沢 清 ・ 小笠原ケイ子 ・ 山田 政行 ・ 藤村他可夫	6,702
第 6 位	釜 石 市 A	刈谷 剛 ・ 佐藤 直子 ・ 熊谷 充善 ・ 佐藤 和典	6,620
第 7 位	紫 波 町	菅原 国男 ・ 阿部 純也 ・ 山田 浩幸 ・ 佐藤 三彦	6,584
第 8 位	水 沢 市 A	高野 元幸 ・ 菅野 和子 ・ 田中 幸夫 ・ 三浦巳代子	6,559

●市対抗の部

順 位	市 名	得 点
第 1 位	盛 岡 市	40
第 2 位	水 沢 市	35
第 3 位	釜 石 市	30
第 4 位	大 船 渡 市	25
第 5 位	花 巻 市	20
第 6 位	北 上 市	15
第 7 位	久 慈 市	10
第 8 位	一 関 市	5

●町村対抗の部

順 位	市 名	得 点
第 1 位	矢 巾 町	40
第 2 位	紫 波 町	35
第 3 位	大 迫 町	30
第 4 位	滝 沢 村	25
第 5 位	花 泉 町	20
第 6 位	玉 山 村	15
第 7 位	西 根 町	10
第 8 位	岩 手 町	5

●年齢別個人戦(男女混合)

29 歳 以 下				30 歳 代			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)
優 勝	工藤 文彰	盛 岡 市	1,790	優 勝	刈谷 剛	釜 石 市	1,813
準優勝	高橋 勇一	北 上 市	1,721	準優勝	桜井ゆかり	北 上 市	1,737
第 3 位	中新井田理	久 慈 市	1,659	第 3 位	藤原 孝至	石鳥谷町	1,730
40 歳 代				50 歳 以 上			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)
優 勝	加藤 典博	盛 岡 市	1,760	優 勝	小笠原ケイ子	盛 岡 市	1,827
準優勝	伊藤 誠	花 巻 市	1,713	準優勝	丸山 忠夫	盛 岡 市	1,744
第 3 位	藤村他可夫	盛 岡 市	1,701	第 3 位	小沢 重行	花 巻 市	1,696

第 47 回 大 会 の 成 績

平成 7 年 7 月 1 日・2 日

●団体戦(男女混合4人チーム戦)

順 位	チー ム 名	選 手 名	スコア(36G)
優 勝	盛 岡 市 A	佐々木和夫 ・ 小笠原ケイ子 ・ 大橋 絹子 ・ 丸山 忠夫	7,019
準優勝	北 上 市 A	平野 信雄 ・ 小国 孝喜 ・ 桜井ゆかり ・ 浅野 周三	6,893
第 3 位	水 沢 市 A	斉藤 孝也 ・ 後藤 秀子 ・ 後藤 正三 ・ 木村 聡	6,878
第 4 位	盛 岡 市 B	加藤 典博 ・ 菅原 純一 ・ 赤沢 清 ・ 大倉 和男	6,798
第 5 位	久 慈 市 A	奥瀬 幸男 ・ 奥瀬 英夫 ・ 菅野 幸雄 ・ 中新井田理	6,782
第 6 位	北 上 市 B	高橋 栄幸 ・ 高橋久美子 ・ 高橋 勇一 ・ 菊池 洋二	6,773
第 7 位	大 迫 町	嶋廻 敏夫 ・ 瀬川 忠男 ・ 鎌田 敬一 ・ 嶋廻 克彦	6,750
第 8 位	水 沢 市 B	千葉 勉 ・ 小原 謙一 ・ 田中 幸夫 ・ 小野寺力雄	6,710

●市対抗の部

順 位	市 名	得 点
第 1 位	盛 岡 市	40
第 2 位	北 上 市	35
第 3 位	水 沢 市	30
第 4 位	久 慈 市	25
第 5 位	一 関 市	20
第 6 位	花 巻 市	15
第 7 位	遠 野 市	10
第 8 位	釜 石 市	5

●町村対抗の部

順 位	市 名	得 点
第 1 位	大 迫 町	40
第 2 位	玉 山 村	35
第 3 位	矢 巾 町	30
第 4 位	滝 沢 村	25
第 5 位	西 根 町	20
第 6 位	紫 波 町	15
第 7 位	金 ケ 崎 町	10
第 8 位	岩 手 町	5

●年齢別個人戦(男女混合)

29 歳 以 下				30 歳 代			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)
優 勝	佐藤 結香	釜 石 市	1,827	優 勝	鈴木 高	盛 岡 市	1,928
準優勝	阿部 弘樹	矢 巾 町	1,704	準優勝	木村 聡	水 沢 市	1,814
第 3 位	菅原 崇史	盛 岡 市	1,701	第 3 位	桜井ゆかり	北 上 市	1,786
40 歳 代				50 歳 以 上			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)
優 勝	佐藤 直子	釜 石 市	1,909	優 勝	吉田 優	盛 岡 市	1,840
準優勝	伊藤 誠	花 巻 市	1,795	準優勝	大倉 和男	盛 岡 市	1,782
第 3 位	阿部トミエ	矢 巾 町	1,785	第 3 位	小笠原ケイ子	盛 岡 市	1,765

第 48 回 大 会 の 成 績

平成 8 年 7 月 6 日・7 日

●団体戦(男女混合4人チーム戦)

順 位	チー ム 名	選 手 名	スコア(36G)
優 勝	矢 巾 町	小笠原 賢 ・ 阿部トミエ ・ 藤原 隆孝 ・ 阿部 勝弘	6,862
準優勝	西 根 町	畠山由美子 ・ 伊藤 寿 ・ 伊藤 錦一 ・ 佐々木文彦	6,802
第 3 位	紫 波 町	菅原 国男 ・ 築田 幸司 ・ 佐藤あつ子 ・ 山田 浩幸	6,767
第 4 位	花 巻 市 A	伊藤 誠 ・ 大平 恵介 ・ 陳田 康夫 ・ 新田 晃	6,757
第 5 位	盛 岡 市 B	工藤 文彰 ・ 鈴木 高 ・ 岩泉 優 ・ 大倉 和男	6,649
第 6 位	盛 岡 市 A	川原重治郎 ・ 菅原 純一 ・ 佐々木盛徳 ・ 藤村他可夫	6,627
第 7 位	大 迫 町	嶋廻 敏夫 ・ 瀬川 忠男 ・ 鎌田 敬一 ・ 嶋廻 克彦	6,627
第 8 位	久 慈 市 A	菅野 幸男 ・ 大橋 学 ・ 岩山 文雄 ・ 奥瀬 幸男	6,622

●市対抗の部

順 位	市 名	得 点
第 1 位	花 巻 市	40
第 2 位	盛 岡 市	35
第 3 位	久 慈 市	30
第 4 位	釜 石 市	25
第 5 位	水 沢 市	20
第 6 位	北 上 市	15
第 7 位	一 関 市	10
第 8 位	遠 野 市	5

●町村対抗の部

順 位	市 名	得 点
第 1 位	矢 巾 町	40
第 2 位	西 根 町	35
第 3 位	紫 波 町	30
第 4 位	大 迫 町	25
第 5 位	岩 手 町	20
第 6 位	玉 山 村	15
第 7 位	滝 沢 村	10
第 8 位	金 ケ 崎 町	5

●年齢別個人戦(男女混合)

29 歳 以 下				30 歳 代			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)
優 勝	畠山由美子	西 根 町	1,928	優 勝	鈴木 高	盛 岡 市	1,781
準 優 勝	和泉 七穂	盛 岡 市	1,693	準 優 勝	川村富士美	玉 山 村	1,777
第 3 位	大橋 学	久 慈 市	1,681	第 3 位	小山田節子	盛 岡 市	1,776
40 歳 代				50 歳 以 上			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)
優 勝	小谷地巳代子	水 沢 市	1,880	優 勝	藤村他可夫	盛 岡 市	1,905
準 優 勝	菅原 純一	盛 岡 市	1,830	準 優 勝	佐々木和夫	盛 岡 市	1,873
第 3 位	佐藤 直子	釜 石 市	1,808	第 3 位	嶋廻 敏夫	大 迫 町	1,772

第 49 回 大 会 の 成 績

平成 9 年 7 月 5 日・6 日

●団体戦(男女混合 4 人チーム戦)

順 位	チー ム 名	選 手 名	スコア(36 G)
優 勝	盛 岡 市 A	工藤 文彰 ・ 山崎 義夫 ・ 川原重治郎 ・ 藤村他可夫	7,385
準優勝	矢 巾 町	小笠原 賢 ・ 高橋 文和 ・ 阿部トミエ ・ 阿部 勝弘	7,320
第 3 位	北 上 市 A	小國 孝喜 ・ 林崎 淑子 ・ 佐藤 祐輔 ・ 平野 信雄	7,123
第 4 位	釜 石 市 A	刈谷 剛 ・ 佐藤 和典 ・ 佐藤 直子 ・ 松崎 秀司	6,998
第 5 位	水 沢 市 A	大橋 学 ・ 小野寺力雄 ・ 菅原 栄 ・ 木村 聡	6,911
第 6 位	西 根 町	畠山由美子 ・ 伊藤 寿 ・ 伊藤 錦一 ・ 佐々木文彦	6,841
第 7 位	一 関 市 A	千葉 勝則 ・ 小野寺 力 ・ 千葉 清一 ・ 佐々木健三	6,828
第 8 位	久 慈 市 A	奥瀬 英夫 ・ 藤 潤 ・ 菅野 幸雄 ・ 中新井田理	6,806

●市対抗の部

順 位	市 名	得 点
第 1 位	盛 岡 市	40
第 2 位	北 上 市	35
第 3 位	釜 石 市	30
第 4 位	水 沢 市	25
第 5 位	一 関 市	20
第 6 位	久 慈 市	15
第 7 位	花 巻 市	10
第 8 位	大 船 渡 市	5

●町村対抗の部

順 位	市 名	得 点
第 1 位	矢 巾 町	40
第 2 位	西 根 町	35
第 3 位	金 ケ 崎 町	30
第 4 位	滝 沢 村	25
第 5 位	紫 波 町	20
第 6 位	大 迫 町	15
第 7 位	岩 手 町	10
第 8 位	石 鳥 谷 町	5

●年齢別個人戦(男女混合)

29 歳 以 下				30 歳 代			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9 G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9 G)
優 勝	畠山由美子	西 根 町	1,773	優 勝	木村 聡	水 沢 市	2,010
準優勝	工藤 文彰	盛 岡 市	1,765	準優勝	山崎 義夫	盛 岡 市	1,963
第 3 位	伊藤 巧	花 巻 市	1,764	第 3 位	鈴木 高	盛 岡 市	1,907
40 歳 代				50 歳 以 上			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9 G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9 G)
優 勝	佐々木高夫	岩 手 町	1,815	優 勝	佐々木健三	一 関 市	1,827
準優勝	千葉 勝則	一 関 市	1,795	準優勝	熊谷 礼子	盛 岡 市	1,818
第 3 位	伊藤 誠	花 巻 市	1,792	第 3 位	阿部 勝弘	矢 巾 町	1,798

第 50 回 大 会 の 成 績

平成10年 7 月 4 日・5 日

●団体戦 市対抗の部

順 位	チー ム 名	選 手 名	スコア(36G)	県体得点
優 勝	盛 岡 市	工藤 文彰・村上 斉・鈴木 高・山崎 義夫	6,916	40
準優勝	久 慈 市	間 泰勝・藤 潤・皆川 隆夫・中新井田理	6,805	35
第 3 位	北 上 市	平野 信雄・高橋久美子・佐藤 祐輔・浅野 周三	6,800	30
第 4 位	大 船 渡 市	田代 猛・濱田勝太郎・長谷川和重・橋場 一男	6,613	25
第 5 位	一 関 市	岩崎 京子・柏山 真一・平沢 茂吉・佐々木健三	6,610	20
第 6 位	花 巻 市	伊藤 文明・照井 忠志・陳田 康夫・畑福 孝康	6,439	15
第 7 位	水 沢 市	佐々木博幸・高橋 徹・千田登志雄・佐々木政市	6,370	10
第 8 位	遠 野 市	菊池 史和・佐々木順子・菊池 晃・滝沢 和夫	6,322	5

●団体戦 町村対抗の部

順 位	チー ム 名	選 手 名	スコア(36G)	県体得点
優 勝	矢 巾 町	阿部 弘樹・阿部トミエ・藤原 隆孝・阿部 勝弘	6,865	40
準優勝	雫 石 町	吉田 勝弘・根沢 由則・大塚 徹・久慈 順子	6,825	35
第 3 位	大 迫 町	瀬川 忠男・鎌田 敬一・嶋廻 克彦・嶋廻 敏夫	6,800	30
第 4 位	玉 山 村	助川 公一・川村富士美・沼田 秀世・佐々木信夫	6,687	25
第 5 位	金ヶ崎町	飯塚 隆・小沢 寧・佐藤 公夫・菅原 和郎	6,584	20
第 6 位	石 鳥 谷 町	佐々木春男・瀬川 善春・似内 正紀・藤原 孝至	6,536	15
第 7 位	平 泉 町	武田 礼治・束稲 正子・吉田 晴雄・束稲 知司	6,466	10
第 8 位	紫 波 町	山田 浩幸・佐藤あつ子・佐藤 三彦・佐々木敏彦	6,449	5

●年齢別個人戦(男女混合)

29 歳 以 下				30 歳 代			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)
優 勝	村上 斉	盛 岡 市	1,837	優 勝	川村富士美	玉 山 村	1,938
準 優 勝	佐藤 祐輔	北 上 市	1,825	準 優 勝	助川 公一	玉 山 村	1,821
第 3 位	佐藤 結香	釜 石 市	1,732	第 3 位	千葉 清一	一 関 市	1,748
40 歳 代				50 歳 以 上			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)
優 勝	久慈 順子	雫 石 町	1,886	優 勝	阿部 勝弘	矢 巾 町	1,909
準 優 勝	小山田節子	盛 岡 市	1,775	準 優 勝	阿部トミエ	矢 巾 町	1,781
第 3 位	千葉 司	花 泉 町	1,775	第 3 位	中山 昭二	盛 岡 市	1,769

第 51 回 大 会 の 成 績

平成11年 7 月 3 日・4 日

●団体戦 市対抗の部

順 位	チー ム 名	選 手 名	スコア(36G)	県体得点
優 勝	北 上 市	小國 孝喜・佐藤 祐輔・高橋久美子・小原 勝弘	6,927	40
準優勝	盛 岡 市	加藤 典博・山崎 義夫・小笠原ケイ子・赤沢 清	6,898	35
第 3 位	一 関 市	千葉 勝則・千葉 清一・平澤 茂吉・佐々木健三	6,841	30
第 4 位	花 巻 市	陳田 康夫・畑福 孝康・大平 恵介・伊藤 誠	6,799	25
第 5 位	水 沢 市	菊池 英明・佐藤 信也・高橋 宗康・木村 聡	6,767	20
第 6 位	大 船 渡 市	田代 猛・浜田勝太郎・田中 英治・佐藤 勝也	6,660	15
第 7 位	釜 石 市	坂本 貢・五十嵐孝志・植山 直一・松崎 秀司	6,604	10
第 8 位	久 慈 市	岩山 文雄・高屋敷定実・大橋 学・菅野 幸男	6,404	5

●団体戦 町村対抗の部

順 位	チー ム 名	選 手 名	スコア(36G)	県体得点
優 勝	矢 巾 町	山崎 登幸・阿部トミエ・稲垣 譲治・阿部 勝弘	6,786	40
準優勝	胆 沢 町	福井 洋・沢村 久・菅野 義裕・千葉 和夫	6,643	35
第 3 位	金ヶ崎町	飯塚 隆・小沢 寧・佐藤 公夫・及川 仁	6,629	30
第 4 位	大 迫 町	瀬川 忠男・鎌田 敬一・嶋廻 克彦・嶋廻 敏夫	6,558	25
第 5 位	紫 波 町	菅原 国男・築田 幸司・山田 浩幸・佐々木敏彦	6,544	20
第 6 位	岩 手 町	山口 忠司・三浦 明年・丹内 忠・中村 光夫	6,498	15
第 7 位	石 鳥 谷 町	佐々木春男・瀬川 善春・似内 正紀・藤原 孝至	6,433	10
第 8 位	玉 山 村	助川 公一・村山 聖英・沼田 秀世・佐々木信夫	6,380	5

●年齢別個人戦(男女混合)

29 歳 以 下				30 歳 代			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)
優 勝	村上 斉	盛 岡 市	1,844	優 勝	山田 浩幸	紫 波 町	1,887
準 優 勝	山崎 登幸	矢 巾 町	1,720	準 優 勝	根澤 由則	雫 石 町	1,887
第 3 位	佐藤 祐輔	北 上 市	1,712	第 3 位	佐藤 勝也	大船渡市	1,884
40 歳 代				50 歳 以 上			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)
優 勝	小國 孝喜	北 上 市	1,915	優 勝	小笠原ケイ子	盛 岡 市	1,935
準 優 勝	高橋 宗康	水 沢 市	1,834	準 優 勝	久 慈 順 子	雫 石 町	1,844
第 3 位	加藤 典博	盛 岡 市	1,818	第 3 位	阿部トミエ	矢 巾 町	1,825

第 52 回 大 会 の 成 績

平成12年 7 月 1 日・2 日

●団体戦 市対抗の部

順 位	チー ム 名	選 手 名	スコア(36G)	県体得点
優 勝	盛 岡 市	鈴木 高・岩崎 敬人・川原重治郎・藤村他可夫	7,178	40
準優勝	花 巻 市	伊藤 誠・陳田 康夫・畑福 孝康・照井 忠志	6,719	35
第 3 位	久 慈 市	高屋敷定実・藤 潤・皆川 隆夫・菅野 幸男	6,454	30
第 4 位	一 関 市	岩崎 京子・佐々木健三・柏山 真一・高橋 宗義	6,429	25
第 5 位	北 上 市	小國 孝喜・林崎 淑子・高橋三千男・小原 勝弘	6,387	20
第 6 位	大 船 渡 市	田代 猛・小野寺睦子・長谷川和重・田中 英治	6,362	15
第 7 位	遠 野 市	菊池 史和・多田 保信・菊池巳之吉・滝沢 和夫	6,242	10
第 8 位	陸前高田市	小松テチ子・藤井 幸治・佐藤 哲雄・田代 一宏	6,188	5

●団体戦 町村対抗の部

順 位	チー ム 名	選 手 名	スコア(36G)	県体得点
優 勝	矢 巾 町	山崎 登幸・沼田 聡・稲垣 譲治・阿部 勝弘	6,708	40
準優勝	平 泉 町	武田 礼治・束稲 知司・束稲 正子・千葉 力	6,503	35
第 3 位	金ヶ崎町	菅原 和郎・小沢 寧・佐藤 公夫・及川 仁	6,314	30
第 4 位	紫 波 町	菅原 国男・築田 幸司・山田 浩幸・佐々木敏彦	6,269	25
第 5 位	花 泉 町	川島 三男・佐々木 薫・千葉 幸男・千葉 司	6,232	20
第 6 位	大 迫 町	瀬川 忠男・鎌田 敬一・嶋廻 克彦・嶋廻 敏夫	6,189	15
第 7 位	石 鳥 谷 町	佐々木春男・平沢 啓一・似内 正紀・藤原 孝至	6,162	10
第 8 位	岩 手 町	山口 忠司・三浦 明年・外山 了一・中村 光夫	6,043	5

●年齢別個人戦(男女混合)

29 歳 以 下				30 歳 代			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)
優 勝	富谷 伸行	盛 岡 市	1,841	優 勝	小野寺睦子	大船渡市	1,768
準 優 勝	岩崎 敬人	盛 岡 市	1,769	準 優 勝	助川 公一	玉 山 村	1,736
第 3 位	佐藤 明美	一 関 市	1,746	第 3 位	橋場 一男	大船渡市	1,716
40 歳 代				50 歳 以 上			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)
優 勝	小山田節子	盛 岡 市	1,761	優 勝	川原重治郎	盛 岡 市	1,869
準 優 勝	稲垣 譲治	矢 巾 町	1,751	準 優 勝	阿部トミエ	矢 巾 町	1,816
第 3 位	伊藤 誠	花 巻 市	1,682	第 3 位	高橋三千男	北 上 市	1,794

第 53 回 大 会 の 成 績

平成13年 7 月 7 日・ 8 日

●団体戦 市対抗の部

順 位	チー ム 名	選 手 名	スコア(36G)	県体得点
優 勝	盛 岡 市	岩崎 敬人・鈴木 高・栃内 秀士・大倉 和男	6,967	40
準優勝	一 関 市	佐藤 明美・高橋 宗義・千葉 清一・佐々木健三	6,901	35
第 3 位	花 巻 市	畑福 孝康・城守 和幸・大平 恵介・伊藤 誠	6,784	30
第 4 位	久 慈 市	菅野 幸男・皆川 隆夫・佐々木孝造・高屋敷定実	6,675	25
第 5 位	釜 石 市	米澤 結香・昆 英生・阿部 暁美・坂本 貢	6,664	20
第 6 位	陸前高田市	藤井 幸治・小松テチ子・白江 達夫・佐藤 哲雄	6,655	15
第 7 位	遠 野 市	菊池巳之吉・滝沢 和夫・多田 保信・菊池 史和	6,603	10
第 8 位	水 沢 市	菅野 利勝・菅原 栄・千葉 勉・長田 訓明	6,593	5

●団体戦 町村対抗の部

順 位	チー ム 名	選 手 名	スコア(36G)	県体得点
優 勝	雫 石 町	佐々木めぐみ・佐野峯英子・吉田 勝弘・久慈 順子	7,061	40
準優勝	矢 巾 町	山崎 登幸・阿部トミエ・稲垣 譲治・阿部 勝弘	6,901	35
第 3 位	紫 波 町	菅原 国男・中村 慶二・築田 幸司・山田 浩幸	6,760	30
第 4 位	花 泉 町	川島 三男・佐々木 薫・加藤 弘治・千葉 幸男	6,536	25
第 5 位	石 鳥 谷 町	似内 正紀・佐々木春男・平沢 啓一・藤原 孝至	6,489	20
第 6 位	金ヶ崎町	菅原 和郎・高橋 徹・及川 仁・佐藤 公夫	6,465	15
第 7 位	玉 山 村	助川 公一・沼田 秀世・佐々木信夫・丹内 忠	6,353	10
第 8 位	大 迫 町	鎌田 敬一・佐々木純子・嶋廻 克彦・嶋廻 敏夫	6,320	5

●年齢別個人戦(男女混合)

29 歳 以 下				30 歳 代			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)
優 勝	佐藤 明美	一 関 市	1,816	優 勝	黒澤 誠	盛 岡 市	1,866
準 優 勝	富谷 伸行	盛 岡 市	1,741	準 優 勝	築田 幸司	紫 波 町	1,801
第 3 位	佐藤 祐輔	北 上 市	1,686	第 3 位	阿部 暁美	釜 石 市	1,755
40 歳 代				50 歳 以 上			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)
優 勝	伊藤 誠	花 巻 市	1,816	優 勝	阿部トミエ	矢 巾 町	1,931
準 優 勝	米沢 正	矢 巾 町	1,742	準 優 勝	田代 猛	大船渡市	1,901
第 3 位	束稲 正子	平 泉 町	1,720	第 3 位	久慈 順子	雫 石 町	1,891

第 54 回 大 会 の 成 績

平成14年 7 月 6 日・7 日

●団体戦 市対抗の部

順 位	チー ム 名	選 手 名	スコア(36G)	県体得点
優 勝	久 慈 市	中新井田理・大橋 学・皆川 隆夫・間 泰勝	7,088	40
準優勝	花 巻 市	城守 和幸・畑福 孝康・大平 恵介・伊藤 誠	7,031	35
第 3 位	盛 岡 市	新沼 幸枝・小林みち子・小林 恒雄・上野 吉朗	6,988	30
第 4 位	遠 野 市	滝沢 和夫・菊池巳之吉・多田 保信・菊池 史和	6,895	25
第 5 位	一 関 市	高橋 宗義・千田喜久雄・千葉 清一・佐々木健三	6,842	20
第 6 位	北 上 市	小國 孝喜・林崎 淑子・高橋 和生・小原 勝弘	6,788	15
第 7 位	水 沢 市	菊池 英明・菅野 利勝・長田 訓明・佐藤 信也	6,605	10
第 8 位	陸前高田市	藤井 幸治・白江 達夫・小松テチ子・田代 一宏	6,579	5

●団体戦 町村対抗の部

順 位	チー ム 名	選 手 名	スコア(36G)	県体得点
優 勝	矢 巾 町	高橋 文和・稲垣 譲治・阿部トミエ・阿部 勝弘	7,253	40
準優勝	雫 石 町	吉田 勝弘・佐野峯英子・大塚 徹・久慈 順子	7,019	35
第 3 位	石 鳥 谷 町	似内 正紀・佐々木春男・平沢 啓一・藤原 孝至	6,783	30
第 4 位	紫 波 町	佐藤 三彦・中村 慶二・築田 幸司・山田 浩幸	6,778	25
第 5 位	岩 手 町	丹内 忠・下平 優・山口 忠司・外山 了一	6,744	20
第 6 位	平 泉 町	武田 礼治・束稲 知司・小野寺 章・束稲 正子	6,737	15
第 7 位	花 泉 町	川島 三男・千葉 司・千葉 幸男・加藤 弘治	6,631	10
第 8 位	滝 沢 村	広田 雄司・藤倉 邦男・柳村 正実・山本 和行	6,477	5

●年齢別個人戦(男女混合)

29 歳 以 下				30 歳 代			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)
優 勝	中新井田理	久 慈 市	1,897	優 勝	菊池 英明	水 沢 市	1,899
準 優 勝	岩崎 敬人	盛 岡 市	1,842	準 優 勝	根田 光朗	盛 岡 市	1,882
第 3 位	三浦 明寿	花 巻 市	1,837	第 3 位	新沼 幸枝	盛 岡 市	1,832
40 歳 代				50 歳 以 上			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)
優 勝	小國 孝喜	北 上 市	1,914	優 勝	阿部トミエ	矢 巾 町	1,904
準 優 勝	佐藤 和典	釜 石 市	1,867	準 優 勝	久慈 順子	雫 石 町	1,900
第 3 位	鈴木 高	盛 岡 市	1,849	第 3 位	吉田 勝弘	雫 石 町	1,875

第 55 回 大 会 の 成 績

平成15年 7 月 5 日・6 日

●団体戦 市対抗の部

順 位	チー ム 名	選 手 名	スコア(36G)	県体得点
第 1 位	盛 岡 市	小笠原由美子 ・ 鈴木 高 ・ 川原重治郎 ・ 藤村他可夫	7,061	40
第 2 位	花 巻 市	伊藤 誠 ・ 大平 恵介 ・ 菅野 健美 ・ 三浦 明寿	6,803	35
第 3 位	一 関 市	岩崎 京子 ・ 千葉 清一 ・ 千葉 勇 ・ 佐々木健三	6,736	30
第 4 位	水 沢 市	菊池 英明 ・ 金山 秀敏 ・ 高橋 次男 ・ 鈴木ゆかり	6,599	25
第 5 位	陸前高田市	佐藤 哲雄 ・ 高澤 公省 ・ 田代 一宏 ・ 白江百合子	6,585	20
第 6 位	北 上 市	佐藤 稔 ・ 林崎 淑子 ・ 高橋 和生 ・ 小國 孝喜	6,513	15
第 7 位	久 慈 市	間 泰勝 ・ 大橋 学 ・ 皆川 隆夫 ・ 中新井田 理	6,477	10
第 8 位	遠 野 市	菊池巳之吉 ・ 滝沢 和夫 ・ 菊池 晃 ・ 菊池 史和	6,444	5

●団体戦 町村対抗の部

順 位	チー ム 名	選 手 名	スコア(36G)	県体得点
第 1 位	矢 巾 町	高橋 文和 ・ 稲垣 譲治 ・ 阿部トミエ ・ 阿部 勝弘	6,817	40
第 2 位	雫 石 町	大塚 徹 ・ 佐野峯英子 ・ 根澤 由則 ・ 久慈 順子	6,668	35
第 3 位	玉 山 村	助川 公一 ・ 佐々木信夫 ・ 沼田 信男 ・ 沼田 秀世	6,597	30
第 4 位	大 迫 町	鎌田 敬一 ・ 佐々木純子 ・ 鎌田 茜 ・ 嶋廻 敏夫	6,309	25
第 5 位	岩 手 町	山口 忠司 ・ 丹内 忠 ・ 中村 真一 ・ 外山 了一	6,302	20
第 6 位	滝 沢 村	広田 雄司 ・ 及川めぐみ ・ 及川 勝幸 ・ 沼田 聡	6,231	15
第 7 位	金ヶ崎町	藤原 将臣 ・ 鈴木 薫 ・ 菅原 和郎 ・ 大石 勝男	6,228	10
第 8 位	石 鳥 谷 町	似内 正紀 ・ 瀬川 善春 ・ 平沢 啓一 ・ 藤原 孝至	6,169	5

●年齢別個人戦(男女混合)

29 歳 以 下				30 歳 代			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9 G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9 G)
第 1 位	外山 了一	岩 手 町	1,851	第 1 位	沼田 聡	滝 沢 村	1,874
第 2 位	中村 真一	岩 手 町	1,757	第 2 位	築田 幸司	紫 波 町	1,775
第 3 位	佐藤 信也	水 沢 市	1,696		阿部 暁美	釜 石 市	
40 歳 代				50 歳 以 上			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9 G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9 G)
第 1 位	山口 忠司	岩 手 町	1,808	第 1 位	久慈 順子	雫 石 町	1,850
第 2 位	小山田節子	盛 岡 市	1,801	第 2 位	田代 猛	大船渡市	1,842
第 3 位	大平 恵介	花 巻 市	1,769	第 3 位	上野千枝子	一 関 市	1,779

第 56 回 大 会 の 成 績

平成16年 7 月 3 日・4 日

●団体戦 市対抗の部

順 位	チー ム 名	選 手 名	スコア(36G)	県体得点
第 1 位	水 沢 市	菊池 英明 ・ 金山 秀敏 ・ 鈴木ゆかり ・ 木村 聡	※7,447	40
第 2 位	盛 岡 市	栃内 秀士 ・ 山崎 剛志 ・ 黒澤 誠 ・ 赤澤 清	6,955	35
第 3 位	北 上 市	小國 孝喜 ・ 伊藤 博志 ・ 林崎 淑子 ・ 高橋 和生	6,784	30
第 4 位	久 慈 市	皆川 隆夫 ・ 中新井田 理 ・ 瀬野 重信 ・ 岩山 文雄	6,772	25
第 5 位	遠 野 市	菊池巳之吉 ・ 菊池 進 ・ 菊池 晃 ・ 菊池 史和	6,722	20
第 6 位	花 巻 市	城守 和幸 ・ 畑福 孝康 ・ 大平 恵介 ・ 伊藤 誠	6,720	15
第 7 位	陸前高田市	田代 一宏 ・ 佐藤 実 ・ 白江百合子 ・ 白江 達夫	6,653	10
第 8 位	釜 石 市	阿部 暁美 ・ 坂本 貢 ・ 久保 勝 ・ 千葉 達夫	6,627	5

◆水沢市は14年ぶり 2 回目の優勝

●団体戦 町村対抗の部

順 位	チー ム 名	選 手 名	スコア(36G)	県体得点
第 1 位	滝 沢 村	及川 勝幸 ・ 藤倉 邦男 ・ 佐藤 誠 ・ 沼田 聡	7,186	40
第 2 位	矢 巾 町	高橋 文和 ・ 稲垣 譲治 ・ 阿部トミエ ・ 阿部 勝弘	7,145	35
第 3 位	花 泉 町	千葉 周 ・ 今野 公一 ・ 千葉 司 ・ 加藤 弘治	6,782	30
第 4 位	平 泉 町	小岩 信 ・ 束稲 知司 ・ 小野寺 章 ・ 束稲 正子	6,677	25
第 5 位	雫 石 町	吉田 勝弘 ・ 佐野峯英子 ・ 大塚 徹 ・ 久慈 順子	6,654	20
第 6 位	玉 山 村	沼田 信男 ・ 助川 公一 ・ 佐々木信夫 ・ 沼田 秀世	6,492	15
第 7 位	岩 手 町	丹内 忠 ・ 中村 真一 ・ 外山 了一 ・ 山口 忠司	6,441	10
第 8 位	金ヶ崎町	藤原 将臣 ・ 鈴木 薫 ・ 菅原 和郎 ・ 大石 勝男	6,381	5

◆滝沢村は初優勝

●年齢別個人戦(男女混合)

29 歳 以 下				30 歳 代			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)
第 1 位	大 橋 学	久 慈 市	1,833	第 1 位	中新井田理	久 慈 市	1,913
第 2 位	山 崎 剛 志	盛 岡 市	1,823	第 2 位	沼田 聡	滝 沢 村	1,878
第 3 位	佐藤 信也	水 沢 市	1,741	第 3 位	黒澤 誠	盛 岡 市	1,768
40 歳 代				50 歳 以 上			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)
第 1 位	木村 聡	水 沢 市	※2,028	第 1 位	栃内 秀士	盛 岡 市	※1,983
第 2 位	鈴木 高	盛 岡 市	※2,011	第 2 位	佐藤 和典	釜 石 市	※1,975
第 3 位	大塚 徹	雫 石 町	1,887	第 3 位	田代 猛	大船渡市	※1,959

○女子選手には 1 ゲームにつき15点のハンディキャップを含む。

※ は大会新記録

第 57 回 大 会 の 成 績

平成17年 7 月 9 日・10日

●団体戦 市対抗の部

順 位	チー ム 名	選 手 名	スコア(36G)	県体得点
第 1 位	花 巻 市	城守 和幸・畑福 孝康・大平 恵介・伊藤 誠	7,318	40
第 2 位	一 関 市	岩崎 善助・芦川 宏・千葉 清一・佐々木健三	7,307	35
第 3 位	盛 岡 市	小笠原由美子・鈴木 高・栃内 秀士・大倉 和男	7,285	30
第 4 位	北 上 市	小國 孝喜・高橋久美子・伊藤 博志・小原 勝弘	7,274	25
第 5 位	水 沢 市	佐々木博幸・菊池 英明・鈴木ゆかり・木村 聡	7,162	20
第 6 位	大 船 渡 市	佐藤 勝也・田代みち子・佐藤 秀喜・田代 猛	7,077	15
第 7 位	久 慈 市	岩山 文雄・間 泰勝・中新井田理・佐々木孝造	6,844	10
第 8 位	遠 野 市	滝沢 和夫・菊池千佳子・佐々木高弘・菊池 史和	6,640	5

◆花巻市は 7 年ぶり 2 回目優勝

●団体戦 町村対抗の部

順 位	チー ム 名	選 手 名	スコア(36G)	県体得点
第 1 位	滝 沢 村	及川 勝幸・藤倉 邦男・佐藤 誠・沼田 聡	※7,380	40
第 2 位	矢 巾 町	高橋 文和・佐々木敏彦・阿部トミエ・阿部 勝弘	※7,379	35
第 3 位	石 鳥 谷 町	似内 正紀・佐々木春男・柏原 正勝・藤原 孝至	7,206	30
第 4 位	雫 石 町	吉田 勝弘・佐野峯英子・大塚 徹・久慈 順子	7,019	25
第 5 位	岩 手 町	中村 真一・四日市 一・丹内 忠・山口 忠司	6,988	20
第 6 位	紫 波 町	阿部恵利子・築田 幸司・山田 浩幸・加藤 典博	6,968	15
第 7 位	花 泉 町	千葉 周・今野 公一・川島 三男・千葉 司	6,808	10
第 8 位	玉 山 村	沼田 信男・村上 聖英・佐々木信夫・沼田 秀世	6,664	5

◆滝沢村は 2 年連続 2 回目優勝

●年齢別個人戦(男女混合)

29 歳 以 下				30 歳 代			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)
第 1 位	小野寺亮太	盛 岡 市	1,924	第 1 位	佐々木博幸	水 沢 市	1,996
第 2 位	山崎 剛志	盛 岡 市	1,890	第 2 位	小笠原由美子	盛 岡 市	1,937
第 3 位	宇部 健	盛 岡 市	1,781	第 3 位	佐藤 誠	滝 沢 村	1,885
40 歳 代				50 歳 以 上			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9G)
第 1 位	木村 聡	水 沢 市	※2,113	第 1 位	佐々木健三	一 関 市	※2,046
第 2 位	柏原 正勝	石鳥谷町	1,948	第 2 位	伊藤 誠	花 巻 市	※2,031
第 3 位	鈴木ゆかり	水 沢 市	1,908	第 3 位	阿部トミエ	矢 巾 町	※1,998

○女子選手には 1 ゲームにつき15点のハンディキャップを含む。

※ は大会新記録

第 58 回 大 会 の 成 績

平成18年 7 月 8 日・9 日

●団体戦 市対抗の部

順 位	チー ム 名	選 手 名	スコア(36G)	県体得点
第 1 位	盛 岡 市	黒澤 誠 ・ 小笠原ケイ子 ・ 川原重治郎 ・ 藤村他可夫	※7,755	40
第 2 位	奥 州 市	佐々木博幸 ・ 鈴木ゆかり ・ 菊池 英明 ・ 木村 聡	※7,557	35
第 3 位	久 慈 市	間 泰勝 ・ 中新井田理 ・ 皆川 隆夫 ・ 大橋 学	※7,555	30
第 4 位	花 巻 市	峯崎登美夫 ・ 畑福 孝康 ・ 大平 恵介 ・ 伊藤 誠	※7,468	25
第 5 位	一 関 市	菅原 修明 ・ 小野寺 章 ・ 菅原 里江 ・ 菅原 俊江	7,299	20
第 6 位	大 船 渡 市	佐藤 秀喜 ・ 葉澤 秀平 ・ 及川 竜也 ・ 田代 猛	7,205	15
第 7 位	陸前高田市	藤井 孝治 ・ 佐藤 実 ・ 白江 達夫 ・ 田代 一宏	7,041	10
第 8 位	北 上 市	千葉 恭一 ・ 林崎 淑子 ・ 伊藤 博志 ・ 小國 孝喜	6,914	5

◆盛岡市は、3 年ぶり14回目の優勝

●団体戦 町村対抗の部

順 位	チー ム 名	選 手 名	スコア(36G)	県体得点
第 1 位	矢 巾 町	高橋 文和 ・ 佐々木敏彦 ・ 阿部トミエ ・ 阿部 勝弘	※7,532	40
第 2 位	雫 石 町	吉田 勝弘 ・ 佐野峯英子 ・ 大塚 徹 ・ 久慈 順子	7,287	35
第 3 位	岩 手 町	中村 真一 ・ 高橋 良美 ・ 四日市 一 ・ 丹内 忠	7,183	30
第 4 位	滝 沢 村	及川 勝幸 ・ 菊地 葵 ・ 武田 和宏 ・ 沼田 聡	7,148	25
第 5 位	紫 波 町	山田 浩幸 ・ 中村 慶二 ・ 築田 幸司 ・ 加藤 典博	6,892	20
第 6 位	金ヶ崎町	鈴木 薫 ・ 菅原 和郎 ・ 佐藤 公夫 ・ 藤原 将臣	6,763	15
第 7 位				10
第 8 位				5

◆矢巾町は 3 年ぶり11回目の優勝

●年齢別個人戦(男女混合)

29 歳 以 下				30 歳 代			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9 G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9 G)
第 1 位	小野寺亮太	盛 岡 市	※2,063	第 1 位	丹内 忠	岩 手 町	1,859
第 2 位	宇部 健	盛 岡 市	※1,993	第 2 位	中村 真一	岩 手 町	1,829
第 3 位	菅原 修明	一 関 市	※1,983	第 3 位	中新井田理	久 慈 市	1,822
40 歳 代				50 歳 以 上			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9 G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9 G)
第 1 位	木村 聡	奥 州 市	2,020	第 1 位	佐々木健三	一 関 市	※2,076
第 2 位	小笠原 賢	盛 岡 市	1,968	第 2 位	田代 猛	大船渡市	※2,043
第 3 位	高橋 文和	矢 巾 町	1,957	第 3 位	久慈 順子	雫 石 町	1,966

○女子選手には 1 ゲームにつき15点のハンディキャップを含む。

※大会新記録

第 59 回 大 会 の 成 績

平成19年 7 月 7 日・8 日

●団体戦

順 位	チー ム 名	選 手 名	スコア(36G)
第 1 位	滝 沢 村 A	及川 勝幸 ・ 菊地 葵 ・ 武田 和宏 ・ 沼田 聡	※7,772
第 2 位	盛 岡 市 A	栃内 秀士 ・ 山崎 剛志 ・ 小野寺亮太 ・ 佐々木和夫	7,608
第 3 位	花 巻 市 A	柏原 正勝 ・ 藤原 孝至 ・ 大平 恵介 ・ 伊藤 誠	7,477
第 4 位	北 上 市 A	阿部 年彦 ・ 佐藤 稔 ・ 伊藤 博志 ・ 小原 勝弘	7,420
第 5 位	矢 巾 町 A	高橋 文和 ・ 阿部トミエ ・ 佐々木敏彦 ・ 阿部 勝弘	7,400
第 6 位	奥 州 市 A	菅原 勝則 ・ 佐々木博幸 ・ 鈴木ゆかり ・ 木村 聡	7,368
第 7 位	花 巻 市 B	城守 和幸 ・ 菅野 和郎 ・ 薄衣 純一 ・ 畑福 孝康	7,264
第 8 位	盛 岡 市 B	黒澤 誠 ・ 山崎 悟 ・ 川原重治郎 ・ 小林 恒雄	7,236

※大会新記録

●年齢別個人戦(男女混合)

29 歳 以 下				30 歳 代			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9 G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9 G)
第 1 位	小野寺亮太	盛 岡 市	2,027	第 1 位	中新井田 理	久 慈 市	※2,074
第 2 位	菊地 葵	滝 沢 村	1,963	第 2 位	工藤 文彰	盛 岡 市	1,960
第 3 位	佐藤 信也	奥 州 市	1,879	第 3 位	小原 誠光	花 巻 市	1,921

※ 3 年連続 3 回目優勝

※ 3 年ぶり 2 度目優勝

40 歳 代				50 歳 以 上			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9 G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9 G)
第 1 位	木村 聡	奥 州 市	※2,178	第 1 位	佐々木和夫	盛 岡 市	2,043
第 2 位	菊池 史和	遠 野 市	※2,134	第 2 位	山田 政行	盛 岡 市	2,019
第 3 位	鈴木ゆかり	奥 州 市	2,086	第 3 位	丸山 忠夫	盛 岡 市	1,963

※ 4 年連続 4 回目優勝

※初優勝

○女子選手には 1 ゲームにつき15点のハンディキャップを含む。

※大会新記録

第 60 回 大 会 の 成 績

平成20年 7 月12日・13日

●団体戦

順 位	チ ー ム 名	選 手 名	スコア(36G)
第 1 位	奥 州 市 A	菅原 勝則 ・ 高橋 宗康 ・ 鈴木ゆかり ・ 木村 聡	※7,795
第 2 位	盛 岡 市 A	小笠原由美子 ・ 山崎 剛志 ・ 山崎 悟 ・ 小笠原 賢	7,696
第 3 位	矢 巾 町 B	佐々木敏彦 ・ 稲垣 譲治 ・ 藤原 隆孝 ・ 高橋 文和	7,501
第 4 位	花 巻 市 A	柏原 正勝 ・ 藤原 孝至 ・ 大平 恵介 ・ 伊藤 誠	7,346
第 5 位	盛 岡 市 C	小野寺亮太 ・ 村松 春道 ・ 大平 洋子 ・ 中村 栄治	7,340
第 6 位	奥 州 市 B	佐藤 信也 ・ 菊池 英明 ・ 高橋久美子 ・ 佐々木博幸	7,284
第 7 位	滝 沢 村 A	及川 勝幸 ・ 山本 和行 ・ 武田 和宏 ・ 沼田 聡	7,283
第 8 位	一 関 市 A	千葉 清一 ・ 束稲 正子 ・ 岩崎 京子 ・ 佐々木健三	7,171

※大会新記録

●年齢別個人戦(男女混合)

29 歳 以 下				30 歳 代			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9 G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9 G)
第 1 位	山崎 剛志	盛 岡 市	1,915	第 1 位	大橋 学	久 慈 市	※ 1,911
第 2 位	小野寺亮太	盛 岡 市	1,914	第 2 位	中新井田理	久 慈 市	1,822
第 3 位	佐藤 信也	奥 州 市	1,789	第 3 位	熊谷 良幸	奥 州 市	1,715

※初優勝

※初優勝

40 歳 代				50 歳 以 上			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9 G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9 G)
第 1 位	沼田 聡	滝 沢 村	※ 2,013	第 1 位	阿部トミエ	矢 巾 町	※ 2,072
第 2 位	木村 聡	奥 州 市	1,970	第 2 位	中村 栄治	盛 岡 市	2,053
第 3 位	山崎 悟	盛 岡 市	1,928	第 3 位	藤村他可夫	盛 岡 市	1,941

※初優勝

※ 6 年ぶり 3 回目優勝

○女子選手には1ゲームにつき15点のハンディキャップを含む。

第 61 回 大 会 の 成 績

平成21年 7 月11日・12日

●団体戦

順 位	チー ム 名	選 手 名	スコア(36G)
第 1 位	盛 岡 市 C	栃内 秀士 ・ 工藤 文彰 ・ 山崎 剛志 ・ 佐々木和夫	※ 7,489
第 2 位	盛 岡 市 B	小笠原由美子 ・ 小林 恒雄 ・ 大平 洋子 ・ 黒澤 誠	7,428
第 3 位	奥 州 市 A	佐藤 信也 ・ 高橋 宗康 ・ 鈴木ゆかり ・ 木村 聡	7,396
第 4 位	岩 手 町 A	丹内 忠 ・ 中村 真一 ・ 助川 公一 ・ 山口 忠司	7,287
第 5 位	滝 沢 村 A	及川 勝幸 ・ 菊地 明美 ・ 武田 和宏 ・ 沼田 聡	7,255
第 6 位	盛 岡 市 A	小野寺亮太 ・ 山崎 悟 ・ 川原重治郎 ・ 小笠原 賢	7,237
第 7 位	一 関 市 A	千葉 勇 ・ 細川 広章 ・ 菅原 里江 ・ 千葉 清一	7,218
第 8 位	盛 岡 市 D	中村 栄治 ・ 小林みち子 ・ 藤村他可夫 ・ 丸山 忠夫	7,165

※ 3 年ぶり、15 回目の優勝

●年齢別個人戦(男女混合)

29 歳 以 下				30 歳 代			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9 G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9 G)
第 1 位	山崎 剛志	盛 岡 市	※ 2,041	第 1 位	阿部 年彦	北 上 市	※ 1,931
第 2 位	兼平 彩夏	滝 沢 村	1,915	第 2 位	小原 誠光	花 巻 市	1,752
第 3 位	小野寺亮太	盛 岡 市	1,718	第 3 位	大橋 学	久 慈 市	1,716

※ 2 年連続 2 回目の優勝

※初優勝

40 歳 代				50 歳 以 上			
順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9 G)	順 位	選 手 名	市町村名	スコア(9 G)
第 1 位	鈴木 ゆかり	奥 州 市	※ 2,006	第 1 位	佐々木和夫	盛 岡 市	*2,174
第 2 位	黒澤 誠	盛 岡 市	1,997	第 2 位	千葉 勇	一 関 市	2,136
第 3 位	白澤 一成	一 関 市	1,993	第 3 位	菅原 国男	紫 波 町	2,061

※初優勝

※ 6 年ぶり 3 回目優勝

○ 50 歳以上の選手ならびに女子選手には規定によるハンディキャップを含む。

栄光の記録・歴代優勝者一覧 (1)

回数	第1回 昭和49年6月1・2日	第2回 昭和50年6月21・22日	第3回 昭和51年9月25・26日	第4回 昭和52年5月14・15日
会場	山形県東武ボウル 山形県 (山形市)	郡山エンゼルボウル 福島県 (郡山市)	白河ナイスボウル 福島県 (白河市)	金萬ボウリングセンター 秋田県 (秋田市)

■男 子

選手権者	渡 辺 勝 栄 (福島県) 2,371	佐 藤 三 男 (学生連合) 2,400	三 上 倅 二 (秋田県) 2,362	丸 尾 豊 (福島県) 2,984
4人チーム	佐 藤 武 司 坂 正 樹 保 悦 男 仲 島 秀 雄 (秋田県) 2,318	佐 藤 政 義 板 垣 嘉 明 今 野 清 志 児 玉 正 一 (宮城県) 2,192	山野 辺 豊 斎 藤 勝 行 渡 辺 勝 栄 佐 川 照 夫 (福島県) 2,216	菊 地 マドリ 橋 本 金 春 三 上 倅 二 藤 原 堅 山 (秋田県) 4,557
2人チーム	門 間 守 寿 渡 辺 富 (宮城県) 1,175	広 江 千賀志 小 西 馨 (学生連合) 1,196	国 分 昭 英 伊 藤 寛 (福島県) 1,201	斎 藤 勝 行 丸 尾 豊 (福島県) 2,364
シングルス	高 橋 勝 生 (福島県) 646	穂 入 孝 吉 (山形県) 637	穂 入 孝 吉 (山形県) 630	
ハイゲーム	鴨 博 (福島県) 276	松 沢 正 啓 (学生連合) 277	穂 入 孝 吉 (山形県) 255	長 内 一 男 (青森県) 256
ハイシリーズ	渡 辺 勝 栄 (福島県) 657	松 沢 正 啓 (宮城県) 654	穂 入 孝 吉 (山形県) 630	佐 藤 武 司 (秋田県) 639

■女 子

選手権者	鴨 恵 子 (福島県) 2,226	鴨 恵 子 (福島県) 2,169	藁 谷 圭 子 (福島県) 2,178	西 村 久 子 (山形県) 2,765
4人チーム	佐 藤 ミ ヨ 高 橋 和 子 森 口 知恵子 鴨 恵 子 (福島県) 2,334	佐 藤 ミ ヨ 高 橋 和 子 森 口 知恵子 鴨 恵 子 (福島県) 2,017	藁 谷 圭 子 藤 浪 敬 子 森 口 知恵子 鴨 恵 子 (福島県) 2,022	渡 部 康 子 西 村 久 子 斎 藤 勝 子 青 山 登志子 (山形県) 3,893
2人チーム	小 西 和 子 佐 藤 貞 子 (秋田県) 1,049	藤 原 美樹子 佐 藤 貞 子 (秋田県) 1,121	藁 谷 圭 子 鴨 恵 子 (福島県) 1,142	一ノ関 節 子 日 景 タキ子 (秋田県) 2,120
シングルス	佐 藤 啓 子 (宮城県) 562	松 平 ト ミ (秋田県) 609	藁 谷 圭 子 (福島県) 576	
ハイゲーム	小 西 和 (秋田県) 228	藤 原 美樹子 (秋田県) 243	鴨 恵 子 (福島県) 255	西 村 久 子 (山形県) 231
ハイシリーズ	鴨 恵 子 (福島県) 581	藤 原 美樹子 (秋田県) 624	鴨 恵 子 (福島県) 624	一ノ関 節 子 (秋田県) 615

栄光の記録・歴代優勝者一覧 (2)

回数	第5回 昭和53年5月20・21日	第6回 昭和54年6月23・24日	第7回 昭和55年5月24・25日	第8回 昭和56年6月27・28日
会場	古牧ボウル 青森県 (三沢市)	ナイスボウル 宮城県 (仙台市)	常磐セントラルボウル 福島県 (いわき市)	古牧ボウル 青森県 (三沢市)

■男 子

選手権者	大友節夫 (宮城県) 1,810	松沢正啓 (宮城県) 1,837	猪又秀雄 (宮城県) 1,754	留目 勲 (青森県) 1,744
4人チーム	猪又秀雄 大友節夫 佐藤 真一 高橋 秀一 (宮城県) 4,442	猪又秀雄 大友節夫 松沢正啓 高橋 秀一 (宮城県) 4,344	高橋 勝生 鎌田 幸博 山野辺 豊 渡辺 勝栄 (福島県) 4,370	幸林 周逸 今 作治郎 山西 照雄 谷地 忠秋 (青森県) 4,445
2人チーム	久保 尚士 幸林 周逸 (青森県) 2,360	渡辺 雅司 赤間 義彦 (宮城県) 2,300	山野辺 豊 渡辺 勝栄 (福島県) 2,311	高橋 博 会田 淳 (山形県) 2,533
ハイゲーム	佐藤武文 (宮城県) 244	千葉明彦 (岩手県) 253	山本寛男 (青森県) 257	会田 淳 (山形県) 267
ハイシリーズ	丸尾 豊 (福島県) 635	菅野 力 (福島県) 648	難波 猛 (山形県) 689	高橋 博 (山形県) 695

■女 子

選手権者	一ノ関節子 (秋田県) 1,585	鴨 恵子 (福島県) 1,703	鴨 恵子 (福島県) 1,596	片桐俊子 (山形県) 1,550
4人チーム	一ノ関 節子 伊藤 朋子 石上 好子 伊藤 良子 (秋田県) 4,041	一ノ関 節子 伊藤 朋子 藤原 美樹子 伊藤 良子 (秋田県) 4,053	橋本 洋子 御代 恵美子 佐藤 みさお 鴨 恵子 (福島県) 3,926	柳田 君子 森口 知恵子 太田 フク子 鴨 恵子 (福島県) 3,769
2人チーム	鴨 恵子 藤浪 敬子 (福島県) 2,078	一ノ関 節子 伊藤 朋子 (秋田県) 2,103	御代 恵美子 鴨 恵子 (福島県) 1,991	伊藤 良子 佐藤 加代子 (秋田県) 2,143
ハイゲーム	鴨 恵子 (福島県) 228	藤原美樹子 (秋田県) 226	伊藤良子 (秋田県) 230	佐藤加代子 (秋田県) 243
ハイシリーズ	伊藤朋子 (秋田県) 568	一ノ関節子 (秋田県) 565	久慈順子 (岩手県) 582	佐藤加代子 (秋田県) 586

■男子シニア

選手権者				伊藤照三 (秋田県) 1,684
4人チーム				豊川 善太郎 工藤 賢一 柏木 勇 中村 明秀 (青森県) 4,033
2人チーム				根本 清博 鴨 博 (福島県) 2,360
ハイゲーム				鴨 博 (福島県) 254
ハイシリーズ				工藤賢一 (青森県) 625

栄光の記録・歴代優勝者一覧 (3)

回数	第9回 昭和57年6月26・27日	第10回 昭和58年6月18・19日	第11回 昭和59年6月16・17日	第12回 昭和60年8月24・25日
会場	ダイマツボウル 福島県（白河市）	多賀城スターレーン 宮城県（多賀城市）	バルプラザスーパーレーン 岩手県（盛岡市）	青森ボウリングセンター 青森県（青森市）

■男 子

選手権者	斎藤勝行（福島県） 1,822	小泉豊美（青森県） 1,863	熊谷芳行（山形県） 1,888	長内一男（青森県） 1,869
4人チーム	高木茂雄 山野辺豊 斎藤勝行 渡辺勝栄 （福島県）4,511	元木大二 佐藤武文 小野米治 結城一志 （宮城県）4,583	高橋正男 黒沢紀美男 伊藤親弘 佐藤浩之 （宮城県）4,699	武内正寿 小林一夫 渡辺兵次 浅野敏栄 （福島県）4,722
2人チーム	伊豆田一二 会田淳 （山形県）2,368	元木大二 佐藤武文 （宮城県）2,361	佐藤捷利 菅原友民 （秋田県）2,386	前本隆 片川秀雄 （青森県）2,402
ハイゲーム	佐藤義明（岩手県） 268	幸林周逸（青森県） 268	黒沢紀美男（宮城県） 277	三浦暢明（青森県） 257
ハイシリーズ	佐藤義明（岩手県） 724	佐々木能道（秋田県） 658	菅原友民（秋田県） 694	佐藤浩之（宮城県） 696

■女 子

選手権者	伊藤良子（秋田県） 1,701	片桐俊子（山形県） 1,650	鴨恵子（福島県） 1,758	久慈順子（岩手県） 1,875
4人チーム	橋本洋子 森口知恵子 柳田君子 鴨恵子 （福島県）4,044	橋本洋子 柳田君子 御代恵美子 鴨恵子 （福島県）4,059	御代恵美子 柳田君子 井上恵子 鴨恵子 （福島県）4,261	小笠原ケイ子 金野カナ子 熊谷礼子 久慈順子 （岩手県）4,171
2人チーム	熊谷礼子 久慈順子 （岩手県）2,132	鴨恵子 御代恵美子 （福島県）2,208	柳田君子 井上恵子 （福島県）2,200	木村芳美 松浦美恵 （青森県）2,183
ハイゲーム	熊谷礼子（岩手県） 237	樋口照子（青森県） 247	間山洋子（青森県） 234	渡辺きよみ（宮城県） 243
ハイシリーズ	佐藤ミヨ（福島県） 575	片桐俊子（山形県） 632	御代恵美子（福島県） 586	伊藤良子（秋田県） 640

■男子シニア

選手権者	菅原 醇（山形県） 1,625	鈴木三郎（福島県） 1,737	佐々木成造（秋田県） 1,775	丸山忠夫（岩手県） 1,842
4人チーム	佐藤昭四郎 小坂栄一 浅見国松 伊藤昭三 （秋田県）4,132	佐藤昭四郎 佐々木成造 伝野与三郎 伊藤昭三 （秋田県）4,339	佐々木成造 斎藤勝治 浅見国松 古谷亥太郎 （秋田県）4,548	梅田清人 小松伝治 中根正吉 北川次朗 （宮城県）4,540
2人チーム	根本清博 （福島県）2,520	畠山幸一 北川次朗 （宮城県）2,322	佐々木成造 浅見国松 （秋田県）2,286	佐藤義明 丸山忠夫 （岩手県）2,277
ハイゲーム	根本清（福島県） 267	佐藤勝太郎（秋田県） 267	菅谷勝也（秋田県） 234	佐々木成造（秋田県） 262
ハイシリーズ	根本清（福島県） 618	安野鉄雄（山形県） 634	佐々木成造（秋田県） 646	梅田清人（宮城県） 667

栄光の記録・歴代優勝者一覧 (4)

回数	第13回 昭和61年10月25・26日	第14回 昭和62年10月24・25日	第15回 昭和63年10月15・16日	第16回 平成元年10月7・8日
会場	ダイヤモンドボウル 福島県 (郡山市)	山形ファミリーボウル 山形県 (山形市)	多賀城スターレーン 宮城県 (多賀城市)	三沢ボウル 青森県 (三沢市)

■男 子

選手権者	三輪正啓 (宮城県) 1,886	三輪正啓 (宮城県) 1,845	三輪正啓 (宮城県) 1,879	高木茂雄 (福島県) 1,901
4人チーム	沢井栄八 広江千賀志 浜名亨 浅野敏栄 (福島県) 4,677	千葉誠 阿部誠 三輪正啓彦 赤間義彦 (宮城県) 4,630	三輪正啓 阿部誠 遠藤欣二 鈴木昌之 (宮城県) 4,662	鈴木昌之 松島誠 三輪正啓彦 赤間義彦 (宮城県) 4,784
2人チーム	三輪正啓彦 赤間義彦 (宮城県) 2,519	黒田仙雄 沼沢真一 (山形県) 2,398	幸林周逸 対馬拓 (青森県) 2,426	渡部伸一 小林力 (山形県) 2,357
ハイゲーム	赤間義彦 (宮城県) 児玉正一 (宮城県) 久保尚士 (青森県) 258	阿部誠 (宮城県) 259	佐藤武司 (秋田県) 266	三輪正啓 (宮城県) 279
ハイシリーズ	三輪正啓 (宮城県) 688	三輪正啓 (宮城県) 676	浅野敏栄 (福島県) 651	松島誠 (宮城県) 684

■女 子

選手権者	藁谷圭子 (福島県) 1,584	久慈順子 (岩手県) 1,651	我妻みきえ (青森県) 1,650	久慈順子 (岩手県) 1,799
4人チーム	鴨恵子 鈴木智子 藁谷圭子 井上政子 (福島県) 4,112	鈴木智子 藁谷圭子 橋本洋子 鴨恵子 (福島県) 4,158	小野寺洋子 小笠原ケイ子 熊谷礼子 久慈順子 (岩手県) 4,277	藤村真由美 我妻みきえ 郡場幸子 宮腰行子 (青森県) 4,274
2人チーム	鴨恵子 井上政子 (福島県) 2,171	熊谷礼子 久慈順子 (岩手県) 2,167	富樫宣子 今野美代子 (山形県) 2,291	一ノ関節子 日景タキ子 (秋田県) 2,182
ハイゲーム	久慈順子 (岩手県) 246	貝山智子 (宮城県) 222	小野寺洋子 (岩手県) 236	一ノ関節子 (秋田県) 240
ハイシリーズ	久慈順子 (岩手県) 634	木村好由 (青森県) 583	小野寺洋子 (岩手県) 627	西村久子 (山形県) 659

栄光の記録・歴代優勝者一覧 (5)

回数	第17回 平成2年10月6・7日	第18回 平成3年10月5・6日	第19回 平成4年10月3・4日	第20回 平成5年10月2・3日
会場	ビッグハウススーパーレーン 岩手県（盛岡市）	金萬ボウリングセンター 秋田県（秋田市）	金萬ボウリングセンター 秋田県（秋田市）	多賀城スターレーン 宮城県（多賀城市）

■男 子

選手権者	川 原 重治郎 (岩手県) 1,996	赤 間 義 彦 (宮城県) 1,829	久 保 尚 士 (青森県) 1,754	三 輪 正 啓 (宮城県) 2,006
4人チーム	手 島 利 行 三 輪 正 啓 松 島 誠 彦 赤 間 義 彦 (宮城県) 4,824	三 輪 正 啓 渡 辺 雅 司 松 島 誠 彦 赤 間 義 彦 (宮城県) 4,667	三 輪 正 啓 渡 辺 雅 司 松 島 誠 彦 赤 間 義 彦 (宮城県) 4,647	三 輪 正 啓 渡 辺 雅 司 松 島 誠 彦 赤 間 義 彦 (宮城県) 5,108
2人チーム	斎 藤 千代久 山 本 治 男 (青森県) 2,590	小 林 操 美 小 泉 豊 美 (青森県) 2,434	斎 藤 三 郎 佐 藤 安 広 (山形県) 2,367	滝 沢 豊 和 小 林 力 (山形県) 2,659
ハイゲーム	渡 辺 雅 司 (宮城県) 300	武 内 正 寿 (宮城県) 267	今 田 純 一 (青森県) 258	久 保 尚 士 (青森県) 300
ハイシリーズ	赤間義彦 (宮城県) 斎藤 純 (山形県) 719	小 泉 豊 美 (青森県) 694	高 橋 良 夫 (山形県) 653	久 保 尚 士 (青森県) 729

■女 子

選手権者	久 慈 順 子 (岩手県) 1,897	藤 村 真由美 (青森県) 1,669	鈴 木 智 子 (福島県) 1,714	澤 田 順 子 (宮城県) 1,783
4人チーム	鈴 木 智 子 鈴 木 英 子 井 上 恵 子 渡 辺 きよみ (福島県) 4,527	北 村 ツガ子 武 田 京 子 石 井 祥 子 桂 田 久美子 (秋田県) 4,217	藤 村 真由美 鳥谷部 エイ子 我 妻 みきえ 郡 場 幸 子 (青森県) 4,314	鈴 木 由記子 澤 田 順 子 吉 田 千佳子 辻 千代子 (宮城県) 4,425
2人チーム	三 浦 巳代子 後 藤 秀 子 (岩手県) 2,250	藤 村 真由美 鳥谷部 エイ子 (青森県) 2,301	鳥谷部 エイ子 藤 村 真由美 (青森県) 2,216	小 野 久美子 北 村 ツガ子 (秋田県) 2,290
ハイゲーム	久 慈 順 子 (岩手県) 249	久 慈 順 子 (岩手県) 241	藤 村 真由美 (青森県) 240	北 村 ツガ子 (秋田県) 251
ハイシリーズ	今 野 美代子 (山形県) 633	久 慈 順 子 (岩手県) 659	藤 村 真由美 (青森県) 629	鈴 木 由記子 (宮城県) 642

栄光の記録・歴代優勝者一覧 (6)

回数	第21回 平成6年10月15・16日	第22回 平成7年10月14・15日	第23回 平成8年9月28・29日	第24回 平成9年11月15・16日
会場	山形ファミリーボウル 山形県（山形市）	アオモリボウル 青森県（青森市）	ダイヤモンドボウル 福島県（郡山市）	多賀城スターレーン 宮城県（多賀城市）

■男子

選手権者	三輪正啓 (宮城県) 2,107	三輪正啓 (宮城県) 2,067	久保尚士 (青森県) 2,098	黒田仙雄 (山形県) 2,056
4人チーム	滝沢豊和 黒田仙雄 小林力一 五十嵐賢一 (山形県) 5,283	手島利行 鈴木昌之 三輪正啓 三松島誠 (宮城県) 5,074	気田勝弘 下田昭博 立崎則光 今田純一 (青森県) 5,074	手島利行 鈴木昌之 三輪正啓 三赤間義彦 (宮城県) 5,092
2人チーム	三輪正啓 三松島誠 (宮城県) 2,745	三輪正啓 三松島誠 (宮城県) 2,715	中田明雄 高木茂雄 (福島県) 2,593	三輪正啓 三赤間義彦 (宮城県) 2,537
ハイゲーム	五十嵐賢一 (山形県) 290	工藤精一郎 (青森県) 279	吉田卓 (学生連合) 298	伊藤丈 (福島県) 277
ハイシリーズ	下田昭博 (青森県) 754	三輪正啓 (宮城県) 750	河野通和 (学生連合) 757	手島利行 (宮城県) 740

■女子

選手権者	鈴木由記子 (宮城県) 1,862	布施尚美 (宮城県) 1,830	澤田順子 (宮城県) 1,823	小野久美子 (秋田県) 1,745
4人チーム	鈴木由記子 鈴吉田千佳子 澤田順子 辻千代子 (宮城県) 4,583	鈴木英子 鈴木智子 渡辺きよみ 柳沼妙子 (福島県) 4,477	鈴木由記子 澤田順子 吉田千佳子 森玲子 (宮城県) 4,811	鈴木由記子 澤田順子 吉田千佳子 森玲子 (宮城県) 4,576
2人チーム	鈴木由記子 辻千代子 (宮城県) 2,355	布施尚美 森玲子 (宮城県) 2,267	畠山由美子 久慈順子 (岩手県) 2,310	吉田千佳子 森玲子 (宮城県) 2,372
ハイゲーム	久慈順子 (岩手県) 254	鈴木英子 (福島県) 266	吉田千佳子 (宮城県) 258	鈴木英子 (福島県) 253
ハイシリーズ	久慈順子 (岩手県) 652	鈴木英子 (福島県) 673	吉田千佳子 (宮城県) 704	吉田千佳子 (宮城県) 670

栄光の記録・歴代優勝者一覧 (7)

回数	第25回 平成10年11月21・23日	第26回 平成11年11月20・21日	第27回 平成12年11月25・26日	第28回 平成13年11月17・18日
会場	台由ボウル 秋田県 (横手市)	ビッグハウススーパーレーン 岩手県 (盛岡市)	山形ファミリーボウル 山形県 (山形市)	アオモリボウル 青森県 (青森市)

■男 子

選 手 権 者	黒 田 仙 雄 (山形県) 2,065	手 島 利 行 (宮城県) 2,058	木 村 聡 (岩手県) 2,012	三 輪 正 啓 (宮城県) 2,002
4 人 チーム	手 島 利 行 鈴 木 昌 之 三 輪 正 啓 赤 間 義 彦 (宮城県) 5,102	下 田 昭 博 葛 西 美智雄 小 林 操 松 井 裕 之 (青森県) 5,015	藤 井 希 成 津 川 優 平 塚 太 朗 柿 崎 秀 夫 (秋田県) 5,041	早 坂 文 英 鈴 木 亮 平 早 坂 友 伸 高 橋 健 (宮城県) 5,240
2 人 チーム	高 橋 宗 義 阿 部 勝 弘 (岩手県) 2,671	手 島 利 行 三 輪 正 啓 (宮城県) 2,505	小笠原 賢 木 村 聡 (岩手県) 2,645	手 島 利 行 三 輪 正 啓 (宮城県) 2,597
ハ イ ゲーム	鈴 木 昌 之 (宮城県) 278	手島利行 (宮城県) 黒田仙雄 (山形県) 268	津 川 優 (秋田県) 278	早 坂 文 英 (宮城県) 287
ハ イ シリーズ	早 坂 友 伸 (宮城県) 742	黒 田 仙 雄 (山形県) 741	斎 藤 孝 志 (山形県) 771	松井 裕之 (青森県) 佐々木昭夫 (福島県) 785

■女 子

選 手 権 者	小笠原 由美子 (岩手県) 1,776	久 慈 順 子 (岩手県) 1,812	鳥谷部 エイ子 (青森県) 2,020	松 坂 真由美 (宮城県) 1,924
4 人 チーム	後 藤 恵 小 野 久美子 河 田 アサ子 北 村 ツガ子 (秋田県) 4,559	橋 本 好 子 室 井 めぐみ 白 岩 優 子 鈴 木 英 子 (福島県) 4,473	早 坂 よう子 手 島 由 美 松 坂 真由美 鈴 木 由記子 (宮城県) 4,873	早 坂 よう子 手 島 由 美 松 坂 真由美 鈴 木 由記子 (宮城県) 4,419
2 人 チーム	片 岡 敦 子 鳥谷部 エイ子 (青森県) 2,362	小笠原 由美子 久 慈 順 子 (岩手県) 2,345	蝦 名 純 子 鳥谷部 エイ子 (青森県) 2,501	小 島 多恵子 鳥谷部 エイ子 (青森県) 2,322
ハ イ ゲーム	鈴 木 英 子 (福島県) 274	佐 藤 結 香 (岩手県) 244	鳥谷部 エイ子 (青森県) 279	鳥谷部 エイ子 (青森県) 253
ハ イ シリーズ	澤 田 順 子 (宮城県) 692	佐 藤 結 香 (岩手県) 651	早 坂 よう子 (宮城県) 707	鳥谷部 エイ子 (青森県) 707

栄光の記録・歴代優勝者一覧 (8)

回数	第29回 平成14年11月21・22日	第30回 平成15年11月20・21日	第31回 平成16年10月16・17日	第32回 平成17年11月26・27日
会場	ダイマツボウル 福島県 (郡山市)	多賀城スターレーン 宮城県 (多賀城市)	台由ボウル 秋田県 (横手市)	山形ファミリーボウル 山形県 (山形市)

■男 子

選手権者	鈴木 昌之 (宮城県) 2,038	中 田 明 (福島県) 2,082	三 輪 正 啓 (宮城県) 2,047	伊 藤 丈 (福島県) 2,149
4人チーム	鈴木 大介 鈴木 昌之 手島 利行 三輪 正啓 (宮城県) 5,168	村 上 斉 木 村 聡 沼 田 聡 佐々木 和夫 (岩手県) 5,149	伊 藤 丈 林 勇介 浅野 敏栄 中 田 明 (福島県) 5,167	鈴木 大介 石塚 知明 松尾 弘幸 梅澤 雅史 (学生連合) 5,269
2人チーム	千葉 達也 高橋 健 (宮城県) 2,732	手島 利行 三輪 正啓 (宮城県) 2,870	相田 祐樹 斎藤 孝志 (山形県) 2,665	林 勇介 浅野 敏栄 (福島県) 2,531
ハイゲーム	黒田 仙雄 (山形県) 278	手島 利行 (宮城県) 290	手島利行 (宮城県) 中田 明 (福島県) 279	早坂 友伸 (宮城県) 285
ハイシリーズ	早坂 友伸 (宮城県) 771	中 田 明 (福島県) 785	中 田 明 (福島県) 772	伊 藤 丈 (福島県) 755

■女 子

選手権者	鈴木 英子 (福島県) 1,757	佐藤 多美 (山形県) 1,896	佐藤 まさみ (学生連合) 1,978	石塚 香織 (福島県) 1,942
4人チーム	小林 佐登美 藤田 玲 松橋 裕美 鳥谷部 エイ子 (青森県) 4,548	蝦名 純子 鳥谷部 エイ子 小林 佐登美 寺澤 裕美子 (青森県) 4,697	河原 麻由 河原 麻衣 松本 祥子 鈴木 由記子 (宮城県) 4,822	古堅 葉月 菊池 愛 佐藤 まさみ 和田 京美 (学生連合) 4,695
2人チーム	河原 麻由 鈴木 由記子 (宮城県) 2,271	河原 麻由 鈴木 由記子 (宮城県) 2,567	古堅 葉月 菊池 愛 (学生連合) 2,546	河原 麻由 河原 麻衣 (宮城県) 2,352
ハイゲーム	鳥谷部 エイ子 (青森県) 253	千葉 久恵 (秋田県) 259	菊池 愛 (学生連合) 268	河原 麻由 (宮城県) 267
ハイシリーズ	小林 佐登美 (青森県) 645	千葉 久恵 (秋田県) 703	菊池 愛 (学生連合) 700	和田 京美 (学生連合) 689

栄光の記録・歴代優勝者一覧 (9)

回数	第33回 平成18年10月28・29日	第34回 平成19年10月27・28日	第35回 平成20年11月8・9日	第36回 平成 年 月 ・ 日
会場	ビッグハウススーパーレーン 岩手県（盛岡市）	ワヤマボウル八戸 青森県（八戸市）	ボウルアピア郡山 福島県（郡山市）	

■男 子

選手権者	三 輪 正 啓 (宮城県) 2,074	手 島 利 行 (宮城県) 2,021	鈴 木 大 介 (宮城県) 2,114	(県)
4人チーム	早 坂 文 英 早 坂 友 伸 佐 藤 高 章 三 輪 正 啓 (宮城県) 5,212	木 村 聡 夫 佐々木 和 勇 千 葉 剛 志 山 崎 剛 志 (岩手県) 5,145	林 勇 介 明 中 田 照 彦 角 田 照 彦 伊 藤 丈 丈 (福島県) 5,178	(県)
2人チーム	佐 藤 高 章 三 輪 正 啓 (宮城県) 2,632	林 勇 介 明 中 田 明 (福島県) 2,630	遠 藤 充 朗 遠 藤 嘉 幸 (福島県) 2,716	(県)
ハイゲーム	伊 藤 丈 (福島県) 300	工 藤 文 彰 (岩手県) 290	相 馬 敏 行 (宮城県) 279	(県)
ハイシリーズ	早 坂 友 伸 (宮城県) 792	村 上 齊 (宮城県) 767	相 馬 敏 行 (宮城県) 805	(県)

■女 子

選手権者	河 原 麻 由 (宮城県) 1,904	大 石 奈 緒 (山形県) 2,071	早 坂 よう子 (宮城県) 1,802	(県)
4人チーム	和 田 京 美 蝦 名 純 子 鳥谷部 エイ子 小 林 佐登美 (青森県) 4,777	河 原 麻 由 岩 本 梨 沙 河 原 麻 衣 鈴 木 由記子 (宮城県) 4,961	桑 原 の ぶ 遠 藤 明日香 松 本 祥 子 澤 田 順 子 (宮城県) 4,739	(県)
2人チーム	半 田 彩 子 佐 藤 由佳子 (秋田県) 2,413	岩 本 梨 沙 鈴 木 由記子 (宮城県) 2,446	岩 本 梨 沙 鈴 木 由記子 (宮城県) 2,438	(県)
ハイゲーム	大 石 奈 緒 (山形県) 277	齊 藤 忍 (青森県) 298	鈴 木 由記子 (宮城県) 275	(県)
ハイシリーズ	大 石 奈 緒 (山形県) 761	大 石 奈 緒 (山形県) 759	鈴 木 由記子 (宮城県) 710	(県)

東北総合体育大会の成績

総合記録

栄光の記録(1)

回	開催地	成績	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県
第14回	秋田県(ボウリング初参加) 金萬ボウリングセンター S 62.8.22～23 (秋田市)	順位 得点	5 68.0	4 93.0	3 98.0	2 99.0	1 104.0	6 65.0
第15回	福島県 ダイヤモンドボウル S 63.7.23～24 (郡山市)	順位 得点	1 102.0	4 82.0	5 80.0	2 100.0	6 77.0	3 90.0
第16回	宮城県 多賀城スターレーン H 1.7.22～23 (多賀城市)	順位 得点	2 92.5	4 80.0	1 111.5	6 74.0	3 89.5	5 79.5
第17回	山形県 山形ファミリーボウル H 2.7.28～29 (山形市)	順位 得点	2 98.0	4 79.0	3 91.0	5 78.0	1 107.0	6 75.0
第18回	青森県 フヤマボウル八戸 H 3.7.20～21 (八戸市)	順位 得点	3 97.0	4 71.0	2 106.5	6 62.5	1 117.0	5 67.0
第19回	岩手県 ビッグハウススーパーレーン H 4.7.18～19 (盛岡市)	順位 得点	3 94.0	5 74.0	2 99.0	6 65.0	1 107.0	4 89.0
第20回	福島県 ダイヤモンドボウル H 5.7.10～11 (郡山市)	順位 得点	6 73.0	4 75.0	2 101.0	5 74.0	1 114.0	3 94.0
第21回	宮城県 多賀城スターレーン H 6.7.16～17 (多賀城市)	順位 得点	5 80.0	4 87.0	2 100.0	6 76.0	3 88.0	1 103.0
第22回	秋田県 横手台由ボウル H 7.7.15～16 (横手市)	順位 得点	5 75.0	3 91.0	2 103.0	6 70.0	4 82.0	1 113.0
第23回	山形県 山形ファミリーボウル H 8.7.20～21 (山形市)	順位 得点	2 93.0	5 68.0	3 75.0	6 47.0	1 103.0	3 75.0
第24回	青森県 ゆりの木ボウル H 9.7.19～20 (八戸市)	順位 得点	4 77.5	6 66.5	5 75.0	3 78.0	1 89.0	2 8.02
第25回	岩手県 ビッグハウススーパーレーン H 10.7.18～19 (盛岡市)	順位 得点	4 76.0	5 67.0	1 94.0	6 63.0	2 85.0	3 83.0
第26回	宮城県 多賀城スターレーン H 11.7.17～18 (多賀城市)	順位 得点	5 72.0	3 83.0	2 88.0	6 57.0	1 93.0	4 75.0
第27回	秋田県 金萬ボウリングセンター H 12.7.15～16 (秋田市)	順位 得点	4 78.0	5 77.5	1 85.5	6 64.0	3 78.5	2 84.5
第28回	福島県 ダイヤモンドボウル H 13.7.14～15 (郡山市)	順位 得点	4 75.0	5 62.0	1 106.0	6 47.0	3 80.0	2 98.0
第29回	山形県 山形ファミリーボウル H 14.7.12～14 (山形市)	順位 得点	4 72.0	5 70.0	1 98.0	6 58.0	3 82.0	2 88.0
第30回	青森県 イーストボウル H 15.7.18～20 (青森市)	順位 得点	1 146.5	6 88.5	2 145.5	4 117.5	5 100.5	3 133.5
第31回	岩手県 ビッグハウススーパーレーン H 16.7.16～18 (盛岡市)	順位 得点	2 130.0	5 104.0	3 121.0	4 113.5	6 104.0	1 159.5
第32回	秋田県 横手台由ボウル H 17.7.15～17 (横手市)	順位 得点	3 126.0	5 111.0	2 139.0	4 115.0	6 101.0	1 140.0
第33回	宮城県 勝山ボウリングクラブ H 18.7.15～17 (仙台市)	順位 得点	3 119.0	6 100.0	4 118.0	5 116.0	2 131.0	1 148.0
第34回	福島県 ボウルアピア郡山 H 19.7.21～22 (郡山市)	順位 得点	4 112.0	6 92.0	2 137.0	5 104.0	3 119.0	1 168.0
第35回	山形県 山形ファミリーボウル H 20.7.18～20 (山形市)	順位 得点	2 145.0	5 109.5	3 128.0	4 121.0	6 107.0	1 145.5
第36回	青森県 アオモリボウル H 21.7.3～5 (青森市)	順位 得点	2 132.0	4 117.0	1 167.5	4 117.0	3 123.0	6 99.5

栄 光 の 記 録 (2)

成年男子

第13回	団体戦第1位	青森県 (三浦 暢明・葦山 勝利・山本 寛男・幸林 周逸)						7,106
	個人戦第1位	29歳以下 遠藤 欣次 (宮城県) 1,847 40歳代 山本 寛男 (青森県) 1,875 2部 千葉 誠 (宮城県) 1,747	30歳代 三輪 正啓 (宮城県) 1,862 50歳以上 幸林 周逸 (青森県) 1,850					
第14回	団体戦第1位	秋田県 (日景 徳文・中川 正仁・高橋 巖・佐藤勝太郎)						7,106
	個人戦第1位	29歳以下 小林 力 (山形県) 1,699 40歳代 島廻 敏夫 (岩手県) 1,691 2部 斎藤千代久 (青森県) 1,656	30歳代 柳田 靖夫 (宮城県) 1,785 50歳以上 佐藤 義明 (岩手県) 1,664					
第15回	団体戦第1位	青森県 (今田 純一・對馬 拓・斎藤千代久・幸林 周逸)						6,999
	個人戦第1位	29歳以下 今田 純一 (青森県) 1,727 40歳代 佐藤 捷利 (秋田県) 1,750 2部 安部 一郎 (秋田県) 1,682	30歳代 對馬 拓 (青森県) 1,745 50歳以上 幸林 周逸 (青森県) 1,724					
第16回	団体戦第1位	青森県 (井福 徹・松井 裕之・斎藤千代久・幸林 周逸)						6,852
	個人戦第1位	29歳以下 原 浩二 (宮城県) 1,784 40歳代 柴田 健治 (宮城県) 1,833 2部 菅原 充 (宮城県) 1,799	30歳代 松井 裕之 (青森県) 1,806 50歳以上 石上 勝 (福島県) 1,786					
第17回	団体戦第1位	福島県 (菅原 芳則・中田 明・竹内 正寿・田山 満)						7,031
	個人戦第1位	29歳以下 小原 修 (秋田県) 1,739 40歳代 斎藤千代久 (青森県) 1,900 2部 佐々木能道 (秋田県) 1,880	30歳代 中田 明 (福島県) 1,895 50歳以上 丸山 忠夫 (岩手県) 1,848					
第18回	団体戦第1位	青森県 (鰐田 悟・松井 裕之・小泉 豊美・幸林 周逸)						7,505
	個人戦第1位	29歳以下 新目 巖 (山形県) 1,792 40歳代 松島 誠 (宮城県) 2,006 2部 渡辺 雅司 (宮城県) 1,966	30歳代 松井 裕之 (青森県) 1,941 50歳以上 幸林 周逸 (青森県) 1,821					
第19回	団体戦第1位	山形県 (新目 巖・板垣 孔之・五十嵐賢一・石塚 賢二)						7,272
	個人戦第1位	29歳以下 新目 巖 (山形県) 1,910 40歳代 五十嵐賢一 (山形県) 1,992 2部 須藤 真宏 (山形県) 1,880	30歳代 中田 明 (福島県) 1,836 50歳以上 鈴木 三郎 (福島県) 1,881					
第20回	団体戦第1位	宮城県 (中條 桂一・手島 利行・松島 誠・木村 益次)						6,805
	個人戦第1位	29歳以下 新目 巖 (山形県) 1,892 40歳代 五十嵐賢一 (山形県) 1,876 2部 原 清文 (山形県) 1,626	30歳代 手島 利行 (宮城県) 1,831 50歳以上 吉見 幹夫 (青森県) 1,709					
第21回	団体戦第1位	宮城県 (佐々木文生・手島 利行・松島 誠・木村 益次)						7,415
	個人戦第1位	29歳以下 角田 照彦 (福島県) 1,902 40歳代 佐藤 安広 (山形県) 1,953 2部 茂泉 敏明 (宮城県) 1,895	30歳代 三浦 暢明 (青森県) 1,889 50歳以上 丸山 忠夫 (岩手県) 1,800					
第22回	団体戦第1位	岩手県 (工藤 文彰・木村 聡・川原重治郎・吉田 優)						4,985
	個人戦第1位	ユース 伊藤 丈 (福島県) 1,182 ハイミドル 松島 誠 (宮城県) 1,214 2部 高橋 健 (宮城県) 1,305	ミドル 板垣 孔之 (山形県) 1,246 マスターズ 木村 益夫 (宮城県) 1,250					
第23回	団体戦第1位	山形県 (黒川 義久・黒田 仙夫・五十嵐賢一・石塚 賢二)						4,880
	個人戦第1位	ユース 伊藤 丈 (福島県) 1,383 ハイミドル 松島 誠 (宮城県) 1,400	ミドル 黒田 仙雄 (山形県) 1,318 マスターズ 藤村他可夫 (岩手県) 1,171					
第24回	団体戦第1位	青森県 (成田 慎・下田 昭博・松井 裕之・佐々木誠二)						4,990
	個人戦第1位	ユース 茂泉 敏明 (宮城県) 1,349 ハイミドル 高橋 洋二 (秋田県) 1,332	ミドル 宗像 邦勝 (福島県) 1,228 マスターズ 佐々木和夫 (岩手県) 1,189					
第25回	団体戦第1位	福島県 (末永 隆夫・角田 照彦・高木 茂雄・渡辺 兵次)						4,798
	個人戦第1位	ユース 沖田 真一 (山形県) 1,291 ハイミドル 高木 茂雄 (福島県) 1,278	ミドル 角田 照彦 (福島県) 1,244 マスターズ 渡辺 兵次 (福島県) 1,281					
第26回	団体戦第1位	福島県 (佐藤 豊・角田 照彦・高木 茂雄・浅野 敏栄)						5,189
	個人戦第1位	ユース 村上 斉 (岩手県) 1,222 ハイミドル 高木 茂雄 (福島県) 1,308	ミドル 菊池 直人 (宮城県) 1,232 マスターズ 浅野 敏栄 (福島県) 1,356					
第27回	団体戦第1位	福島県 (伊藤 丈・角田 照彦・中田 明・浅野 敏栄)						5,108
	個人戦第1位	ユース 鷹野 哲也 (山形県) 1,251 ハイミドル 小林 力 (山形県) 1,365	ミドル 斎藤 孝志 (山形県) 1,249 マスターズ 佐々木和夫 (岩手県) 1,326					

第28回	団体戦第1位	福島県（伊藤 丈・角田 照彦・中田 明・浅野 敏栄）				5,488	
	個人戦第1位	ユース ハイミドル	伊藤 丈（福島県） 三輪 正啓（宮城県）	1,334 1,428	ミドル マスターズ	角田 照彦（福島県） 石塚 賢二（山形県）	1,428 1,284
第29回	団体戦第1位	福島県（伊藤 丈・高野 征弘・中田 明・浅野 敏栄）				4,927	
	個人戦第1位	ユース ハイミドル	高橋 健（宮城県） 中田 明（福島県）	1,392 1,370	ミドル マスターズ	下田 昭博（青森県） 高橋 厳（秋田県）	1,321 1,194
第30回	団体戦第1位	福島県（伊藤 丈・角田 照彦・中田 明・浅野 敏栄）				4,765	
	個人戦第1位	ユース ハイミドル	鈴木 大介（宮城県） 新山 勝男（青森県）	1,168 1,393	ミドル マスターズ	斎藤 孝志（山形県） 高橋 厳（秋田県）	1,255 1,224
第31回	団体戦第1位	山形県（大瀧 義智・斎藤 孝志・高橋 仁・佐藤 弘）				5,225	
	個人戦第1位	ユース ハイミドル	伊藤 丈（福島県） 小笠原 賢（岩手県）	1,346 1,326	ミドル マスターズ	角田 照彦（福島県） 久保 尚士（青森県）	1,374 1,394
第32回	団体戦第1位	青森県（葛西 貴之・田中 真英・藤森 俊彦・久保 尚士）				5,221	
	個人戦第1位	ユース ハイミドル	高橋 健（宮城県） 藤森 俊彦（青森県）	1,275 1,371	ミドル マスターズ	佐藤 博也（秋田県） 垣内 泰（福島県）	1,297 1,382
第33回	団体戦第1位	山形県（相田 祐樹・阿部 龍也・斎藤 孝志・五十嵐賢一）				5,035	
	個人戦第1位	ユース ハイミドル	相田 祐樹（山形県） 五十嵐正一（福島県）	1,290 1,354	ミドル マスターズ	阿部 龍也（山形県） 中田 明（福島県）	1,266 1,301
第34回	団体戦第1位	福島県（大塚 正・伊藤 丈・五十嵐正一・中田 明）				5,149	
	個人戦第1位	ユース ハイミドル	相田 祐樹（山形県） 手島 利行（宮城県）	1,326 1,383	ミドル マスターズ	阿部 龍也（山形県） 高橋 厳（秋田県）	1,275 1,327
第35回	団体戦	2人チーム	青森県（藤森 達・藤森 俊彦）				2,510
		4人チーム	秋田県（櫻田 大喜・藤田 一春・伊藤 守・落合 長行）				2,440
	個人戦第1位	福島県（中田 明）				1,472	
第36回	団体戦	2人チーム	青森県（小鹿 大樹・花田正史）				2,679
		4人チーム	岩手県（工藤 文彰・菅原 修明・沼田 聡・木村 聡）				2,586
	個人戦第1位	岩手県（木村 聡）				1,377	

男子最高記録

【成年男子】 ※第35回大会以降の成績（年令区分の廃止による。）

団体戦	2人チーム	青森県（小鹿大樹・花田正史） 第36回（平成21年・青森県・アオモリボウル）	2,679点
	4人チーム	岩手県（工藤文彰・菅原修明・沼田 聡・木村 聡） 第36回（平成21年・青森県・アオモリボウル）	2,586点
個人戦		福島県（中田 明） 第35回（平成20年・山形県・山形ファミリーボウル）	1,472点

【少年男子】 ※第13回大会以降の成績

団体戦	青森県（工藤 壽紀・工藤純一郎） 第36回（平成21年・青森県・アオモリボウル）	2,737点
個人戦	山形県（越後 拓真） 第35回（平成20年・山形県・山形ファミリーボウル）	1,524点

栄光の記録(3)

成年女子

第13回	団体戦第1位	岩手県 (中村恵子・久慈順子・熊谷礼子・小笠原ケイ子)				6,404
	個人戦第1位	29歳以下 40歳代 2部	中村 恵子 (岩手県) 樋口 輝子 (青森県) 藤村真由美 (青森県)	1,576 1,673 1,611	30歳代 50歳以上	久慈 順子 (岩手県) 山内よしえ (宮城県)
第14回	団体戦第1位	秋田県 (桂田久美子・石井 祥子・佐藤 範子・伊藤 良子)				6,343
	個人戦第1位	29歳以下 40歳代 2部	斎藤 祥子 (山形県) 笹森 玲子 (宮城県) 我妻みきえ (青森県)	1,610 1,571 1,515	30歳代 50歳以上	久慈 順子 (岩手県) 片桐 俊子 (山形県)
第15回	団体戦第1位	福島県 (鈴木 智子・藁谷 圭子・橋本 洋子・鴨 恵子)				6,257
	個人戦第1位	29歳以下 40歳代 2部	藤村真由美 (青森県) 郡場 幸子 (青森県) 佐原みき子 (秋田県)	1,628 1,516 1,578	30歳代 50歳以上	石井 祥子 (秋田県) 片桐 俊子 (山形県)
第16回	団体戦第1位	青森県 (藤村真由美・工藤 成子・我妻みきえ・宮越 行子)				6,234
	個人戦第1位	29歳以下 40歳代 2部	鈴木 智子 (福島県) 我妻みきえ (青森県) 平山紀美子 (宮城県)	1,714 1,711 1,620	30歳代 50歳以上	佐原みき子 (秋田県) 宮越 行子 (青森県)
第17回	団体戦第1位	青森県 (小笠原裕美子・鳥谷部エイ子・澤田 順子・木村 芳美)				6,295
	個人戦第1位	29歳以下 40歳代 2部	桂田久美子 (秋田県) 久慈 順子 (岩手県) 石橋 友子 (青森県)	1,717 1,611 1,730	30歳代 50歳以上	三浦巳代子 (岩手県) 小笠原ケイ子 (岩手県)
第18回	団体戦第1位	山形県 (大田 尚美・大沼 禎子・阿部サダ子・片桐 俊子)				6,398
	個人戦第1位	29歳以下 40歳代 2部	藤村真由美 (青森県) 橋本 洋子 (宮城県) 鈴木由美子 (山形県)	1,756 1,681 1,715	30歳代 50歳以上	三浦巳代子 (岩手県) 武田 京子 (秋田県)
第19回	団体戦第1位	岩手県 (櫻井ゆかり・三浦巳代子・久慈 順子・熊谷 礼子)				6,671
	個人戦第1位	29歳以下 40歳代 2部	藤村真由美 (青森県) 我妻みきえ (青森県) 斎藤八重子 (青森県)	1,777 1,722 1,709	30歳代 50歳以上	鳥谷部エイ子 (青森県) 郡場 幸子 (青森県)
第20回	団体戦第1位	山形県 (大田 尚美・大沼 禎子・阿部サダ子・今野美代子)				6,047
	個人戦第1位	29歳以下 40歳代 2部	福田奈緒美 (秋田県) 久慈 順子 (岩手県) 手島 由美 (宮城県)	1,647 1,643 1,600	30歳代 50歳以上	大沼 禎子 (山形県) 今野巳代子 (山形県)
第21回	団体戦第1位	宮城県 (黒崎 千尋・鈴木由記子・平山紀美子・辻 千代子)				6,607
	個人戦第1位	29歳以下 40歳代 2部	鈴木 節子 (青森県) 久慈 順子 (岩手県) 原 明美 (宮城県)	1,772 1,850 1,659	30歳代 50歳以上	鈴木由記子 (宮城県) 辻 千代子 (宮城県)
第22回	団体戦第1位	宮城県 (布施 尚美・吉田千佳子・澤田 順子・辻 千代子)				4,496
	個人戦第1位	ユース ハイミドル 2部	細谷 泰美 (山形県) 我妻みきえ (青森県) 福田未央子 (青森県)	1,146 1,185 1,072	ミドル マスターズ	鈴木 英子 (福島県) 郡場 幸子 (青森県)
第23回	団体戦第1位	岩手県 (畠山由美子・櫻井ゆかり・久慈 順子・熊谷 礼子)				4,659
	個人戦第1位	ユース ハイミドル	円谷 博美 (福島県) 我妻みきえ (青森県)	1,170 1,147	ミドル マスターズ	佐藤 多美 (山形県) 郡場 幸子 (青森県)
第24回	団体戦第1位	青森県 (片岡 敦子・小笠原裕美子・鳥谷部エイ子・斎藤八重美)				4,632
	個人戦第1位	ユース ハイミドル	掘 千尋 (山形県) 久慈 順子 (岩手県)	1,309 1,274	ミドル マスターズ	鈴木 英子 (福島県) 斎藤八重美 (青森県)
第25回	団体戦第1位	宮城県 (杉山 和美・飯野みね子・澤田 順子・辻 千代子)				4,363
	個人戦第1位	ユース ハイミドル	片岡 敦子 (青森県) 久慈 順子 (岩手県)	1,128 1,149	ミドル マスターズ	鈴木 英子 (福島県) 藤間美栄子 (福島県)
第26回	団体戦第1位	青森県 (蝦名 純子・田沢 艶子・鳥谷部エイ子・我妻みきえ)				4,779
	個人戦第1位	ユース ハイミドル	小笠原由美子 (岩手県) 鳥谷部エイ子 (青森県)	1,210 1,148	ミドル マスターズ	鈴木 英子 (福島県) 久慈 順子 (岩手県)
第27回	団体戦第1位	福島県 (室井めぐみ・鈴木 英子・松崎ひろ子・藤間美栄子)				4,587
	個人戦第1位	ユース ハイミドル	五十嵐沙智 (山形県) 鈴木由記子 (宮城県)	1,281 1,048	ミドル マスターズ	小笠原裕美子 (青森県) 澤田 順子 (宮城県)

第28回	団体戦第1位	福島県（室井めぐみ・鈴木 英子・松崎ひろ子・藤間美栄子）	4,796
	個人戦第1位	ユース 五十嵐沙智（山形県）1,307 ミドル 阿部ことえ（宮城県）1,171 ハイミドル 松崎ひろ子（福島県）1,206 マスターズ 北村ツガ子（秋田県）1,199	
第29回	団体戦第1位	青森県（和田 京美・寺澤裕美子・鳥谷部エイ子・菊田多津子）	4,631
	個人戦第1位	ユース 河原 麻衣（宮城県）1,182 ミドル 鈴木ゆかり（岩手県）1,170 ハイミドル 鳥谷部エイ子（青森県）1,211 マスターズ 藤間美栄子（福島県）1,139	
第30回	団体戦第1位	宮城県（河原 麻由・吉田千佳子・鈴木由記子・澤田 順子）	4,475
	個人戦第1位	ユース 河原 麻由（宮城県）1,202 ミドル 鈴木 英子（福島県）1,164 ハイミドル 鈴木由記子（宮城県）1,150 マスターズ 鳥谷部エイ子（青森県）1,139	
第31回	団体戦第1位	青森県（番沢亜貴子・蝦名 純子・番沢 孝子・鳥谷部エイ子）	4,577
	個人戦第1位	ユース 河原 麻由（宮城県）1,236 ミドル 菅野 紅美（福島県）1,156 ハイミドル 吉田千佳子（宮城県）1,240 マスターズ 久慈 順子（岩手県）1,233	
第32回	団体戦第1位	宮城県（河原 麻由・松本祥子・吉田千佳子・澤田 順子）	4,718
	個人戦第1位	ユース 五十嵐沙智（山形県）1,314 ミドル 松本 祥子（宮城県）1,239 ハイミドル 吉田千佳子（宮城県）1,181 マスターズ 阿部トミエ（岩手県）1,207	
第33回	団体戦第1位	福島県（石塚 香織・大内 幸枝・鈴木 英子・藤間美栄子）	4,366
	個人戦第1位	ユース 大石 奈緒（山形県）1,198 ミドル 蝦名 純子（青森県）1,123 ハイミドル 鈴木 英子（福島県）1,288 マスターズ 久慈 順子（岩手県）1,177	
第34回	団体戦第1位	福島県（石塚 香織・角田 美香・鈴木 英子・志賀 幸子）	4,706
	個人戦第1位	ユース 千葉 久恵（秋田県）1,383 ミドル 佐藤由佳子（秋田県）1,140 ハイミドル 鈴木 英子（福島県）1,356 マスターズ 志賀 章子（福島県）1,246	
第35回	団体戦 2人チーム	福島県（鈴木 英子・志賀 幸子）	2,439
	団体戦 4人チーム	宮城県（河原 麻由・桑原 のぶ・岩本 梨沙・河原 麻衣）	2,246
	個人戦第1位	福島県（鈴木 英子）	1,234
第36回	団体戦 2人チーム	山形県（大石 奈緒・佐藤 千尋）	2,687
	団体戦 4人チーム	青森県（新山 沙織・根深 滯・小泉 陽子・野呂優美子）	2,423
	個人戦第1位	山形県（大石 奈緒）	1,287

女子最高記録

【成年女子】 ※第35回大会以降の成績（年令区分の廃止による。）

団体戦	2人チーム	山形県（大石 奈緒・佐藤 千尋） 第36回（平成21年・青森県・アオモリボウル）	2,687点
	4人チーム	青森県（新山沙織・根深 滯・小泉陽子・野呂優美子） 第36回（平成21年・青森県・アオモリボウル）	2,423点
個人戦		山形県（大石 奈緒） 第36回（平成21年・青森県・アオモリボウル）	1,287点

【少年女子】 ※第13回大会以降の成績

団体戦	宮城県（遠藤明日香・浅野 真唯） 第36回（平成21年・青森県・アオモリボウル）	2,659点
個人戦	福島県（竹俣 茉耶） 第34回（平成19年・福島県・ボウルアピア郡山）	1,262点

栄 光 の 記 録 (4)

少年男子

少年女子

第13回	団体戦第1位	秋田県 (野村清彦・工藤一成)	1,940	青森県 (千葉あゆみ・木村美奈)	1,396
	個人戦第1位	岩手県 (阿部弘樹)	1,057	岩手県 (武田亜希子)	1,021
第14回	団体戦第1位	宮城県 (中條桂一・横山浩治)	2,117	秋田県 (伊藤和恵・山川香愛)	1,745
	個人戦第1位	宮城県 (横山浩治)	1,127	岩手県 (武田亜希子)	988
第15回	団体戦第1位	岩手県 (工藤文彰・島廻克彦)	2,088	秋田県 (伊藤和恵・大石友恵)	2,031
	個人戦第1位	山形県 (須藤真宏)	1,103	秋田県 (伊藤和恵)	980
第16回	団体戦第1位	山形県 (吉村和武・設楽啓一)	2,118	山形県 (松浦悦美・鈴木由美子)	1,828
	個人戦第1位	宮城県 (中條桂一)	1,162	福島県 (円谷博美)	998
第17回	団体戦第1位	青森県 (工藤寿大・小野晃靖)	2,092	山形県 (堀 千尋・鈴木由美子)	2,122
	個人戦第1位	山形県 (設楽啓一)	1,139	山形県 (鈴木由美子)	1,049
第18回	団体戦第1位	青森県 (小野裕季・斉藤昌大)	2,271	山形県 (堀 千尋・金子由紀)	1,995
	個人戦第1位	山形県 (設楽啓一)	1,161	山形県 (金子由紀)	1,005
第19回	団体戦第1位	宮城県 (酒井正和・熊谷 崇)	2,388	山形県 (堀 千尋・小林直子)	2,017
	個人戦第1位	宮城県 (熊谷 崇)	1,225	山形県 (堀 千尋)	1,160
第20回	団体戦第1位	山形県 (大場竜彦・吉田 卓)	2,176	山形県 (伊藤小緒里・小林直子)	1,801
	個人戦第1位	福島県 (西牧拓也)	1,171	山形県 (伊藤小緒里)	1,021
第21回	団体戦第1位	福島県 (伊藤 丈・須藤勝昭)	2,288	福島県 (二本松亜希・大和田仁子)	2,155
	個人戦第1位	宮城県 (高橋 健)	1,166	山形県 (伊藤小緒里)	1,152
第22回	団体戦第1位	福島県 (武内裕也・遠藤武和)	2,262	福島県 (大和田仁子・斉藤恵子)	1,965
	個人戦第1位	福島県 (遠藤武和)	1,159	山形県 (渋谷美穂)	1,081
第23回	団体戦第1位	山形県 (平田和宏・大場秀治)	2,407	山形県 (斎藤香澄・渋谷美穂)	2,152
	個人戦第1位	青森県 (松田 実)	1,158	山形県 (渋谷美穂)	1,121
第24回	団体戦第1位	宮城県 (阿部修也・佐々木健)	2,409	山形県 (五十嵐沙智・菖蒲 緑)	1,904
	個人戦第1位	宮城県 (阿部修也)	1,206	山形県 (五十嵐沙智)	1,065
第25回	団体戦第1位	宮城県 (佐々木健・阿部修也)	2,465	福島県 (河原麻衣・平山明日香)	2,113
	個人戦第1位	宮城県 (佐々木健)	1,177	宮城県 (河原麻衣)	1,083
第26回	団体戦第1位	宮城県 (阿部修也・阿部 徹)	2,563	宮城県 (河原麻衣・熊谷幸子)	2,296
	個人戦第1位	山形県 (矢萩大士)	1,273	宮城県 (河原麻衣)	1,080
第27回	団体戦第1位	宮城県 (早坂友伸・小松三矢)	2,373	宮城県 (河原麻由・河原麻衣)	2,200
	個人戦第1位	青森県 (宮野 大)	1,226	秋田県 (千葉久恵)	1,088
第28回	団体戦第1位	福島県 (林 勇介・佐藤広明)	2,572	宮城県 (河原麻由・平野 静)	2,292
	個人戦第1位	宮城県 (早坂友伸)	1,331	宮城県 (河原麻由)	1,237
第29回	団体戦第1位	福島県 (大塚 正・遠藤 純)	2,547	福島県 (石塚香織・渡辺未来)	2,350
	個人戦第1位	宮城県 (鈴木大介)	1,331	山形県 (斎藤紘子)	1,221
第30回	団体戦第1位	宮城県 (早坂文英・千葉達也)	2,335	青森県 (番沢亜貴子・福士千尋)	2,069
	個人戦第1位	宮城県 (千葉達也)	1,154	山形県 (大石奈緒)	1,141
第31回	団体戦第1位	青森県 (田沢広也・米田健士郎)	2,707	福島県 (石塚香織・林さおり)	2,468
	個人戦第1位	宮城県 (鈴木亮平)	1,344	福島県 (石塚香織)	1,214
第32回	団体戦第1位	宮城県 (手島大地・早坂文英)	2,578	福島県 (竹俣茉耶・林さおり)	2,316
	個人戦第1位	宮城県 (早坂文英)	1,421	福島県 (竹俣茉耶)	1,209
第33回	団体戦第1位	福島県 (大塚裕二・阿曾孝敏)	2,358	秋田県 (池田美樹・半田彩子)	2,174
	個人戦第1位	福島県 (大塚裕二)	1,315	福島県 (竹俣茉耶)	1,198
第34回	団体戦第1位	福島県 (遠藤充朗・大塚裕二)	2,516	福島県 (斎藤あ咲・竹俣茉耶)	2,260
	個人戦第1位	福島県 (大塚裕二)	1,352	福島県 (竹俣茉耶)	1,262
第35回	団体戦第1位	山形県 (越後拓真・白井雅彦)	2,469	秋田県 (池田美樹・田口はるか)	2,139
	個人戦第1位	山形県 (越後拓真)	1,524	青森県 (根深 滯)	1,174
第36回	団体戦第1位	青森県 (工藤壽紀・工藤純一郎)	2,737	宮城県 (遠藤明日香・浅野真唯)	2,659
	個人戦第1位	青森県 (工藤壽紀)	1,371	青森県 (坂井里衣)	1,243

受賞者・被表彰者名簿（1）

〔文部科学大臣表彰〕

平成17年度 スポーツ普及振興功労賞

吉 田 几 生

〔東北総合体育大会表彰〕

平成20年度 功労者表彰

吉 田 几 生

〔岩手県教育表彰〕

平成15年度 社会体育功労賞

吉 田 几 生

19年度 //

久 慈 順 子

〔岩手日報体育賞〕

平成18年度 体育賞

木 村 聡

〔(財)岩手県体育協会表彰〕

平成3年度 栄光賞

久 慈 順 子

// 7年度 功労賞

吉 田 几 生

// 9年度 栄光賞

丸 山 忠 夫

// 11年度 //

久 慈 順 子

// 13年度 功労賞

千 田 勝 郎

// 16年度 栄光賞

久 慈 順 子

// 17年度 功労賞

瀬 川 忠 男

// 18年度 栄光賞

久 慈 順 子

// 19年度 功労賞

佐 藤 喜三郎

// 20年度 功労賞

黒 沢 吏

// //

阿 部 勝 弘

〔(財)全日本ボウリング協会表彰〕

昭和59年度（法人化10周年）優秀会員章

吉 田 几 生

//

千 葉 明 彦

//

畠 山 正 志

//

古 館 勇 光

//

千 田 勝 郎

受賞者・被表彰者名簿 (2)

〔(財)全日本ボウリング協会表彰〕

平成 6 年度 (創立30周年) 功労章

〃

〃

〃

〃

吉 田 几 生

千 田 勝 郎

小 原 正 巳

武 田 礼 治

熊 谷 礼 子

平成17年度 特別功労章 (JBC理事、東北地区連合理事長功労)

吉 田 几 生

平成13年度 功労章

〃 功績章

〃 優秀会員章

瀬 川 忠 男

久 慈 順 子

小笠原 ケイ子

平成14年度 功労章

〃 功績章

阿 部 勝 弘

丸 山 忠 夫

平成15年度 功労章

〃 功績章

〃 優秀会員章

上 野 吉 朗

佐々木 和 夫

菊 池 巳之吉

平成16年度 功労章

〃 功績章

佐々木 正 一

工 藤 文 彰

平成17年度 功績章

小笠原 由美子

平成18年度 〃

藤 原 孝 至

平成19年度 功労章

〃 功績章

阿 部 トミエ

鈴 木 ゆかり

平成20年度 功労章

〃 優秀会員章

武 田 礼 治

中 山 昭 二

信じる道 決意新た

岩手日報文化賞

3人が受賞

第五十九回岩手日報文化賞・体育賞の贈呈式は三日、盛岡 強い信念を持って岩手の文化創造に貢献し、スポーツで快挙市内丸の岩手日報社五階ホールで行われ、文化賞三人、体育賞一人、七人の功績をたたえた。社会、学芸、産業部門で

【受賞者の業績と言葉2面、関連記事19面に

体育賞は 7人1団体

(82) 大船渡市、産業部門の東京電波会長・熊谷秀男氏(75) 久慈市出身、埼玉県和光市在住と、体育賞の弓道の戸羽久之選手(61) 花巻市、山岳競技の高橋良卓・斎藤大樹選手(盛岡南高三年)、ボウリング競技の木村聡選手(45) 奥州市水沢区、ボクシング競技の小原佳太選手(東洋大二年、黒沢尻工高出)、体育賞特別賞のカヤック競技の北田智充・水本圭治選手(不来方高三年)、福岡中軟式野球部の山内

慎樹主将(三年)、来賓の経営者として県内三工場の立地を進め、郷里の起業家も支援している。

岩手日報社の三浦宏社長が文化賞受賞者に賞状と正賞の独鈷金、体育賞受賞者に賞状と大理石カップを贈り「岩手日報創刊百三十周年の記念の年に名前を刻む。皆さんの古里岩手への思い、日々の精進の成果をたたえ活躍を祈念する」とあいさつした。上村俊一県出納長(増田知事代理)、谷藤裕明盛岡市長、阿部正樹IBC岩手放送社長が祝辞を述べた。

岩淵氏は戦没者の遺骨帰還活動を約四十年間続け、太平洋戦史館を開設し恒久平和を訴えている。山下氏は三陸大津波の被災体験を基に在野で災害史の探究に取り組み、住民啓発に情熱を注ぐ。熊谷氏は先端技術企

業の経営者として県内三工場

贈呈式には文化賞社会部門のNPO法人太平洋戦史館会長理事・岩淵宣輝氏(65) 奥州市衣川区、学芸部門の津波災害史研究者・山下文男氏



右写真は授賞式の木村聡選手

老若男女が楽しめる魅力

県ボウリング連盟会長

税理士の生涯スポーツで注目
吉田さん

県ボウリング連盟会長の魅力」と話す。盛岡駅近くにボウリング場がオープンしたのが67年。同年、税理士として開業した吉田さんは、社会体育の分野で表彰を受けた。1968年、発足間もない県ボウリング連盟の理事に就いたのを皮切りに、全国的なボウリングブーム、70年代後半の低迷期を経て、生涯スポーツとしての普及に貢献してきた。「ストライクが出たときのさわやかな感動。何となく、いつまでも老若男女が楽しめるのがボウリング



吉田几生さん

さんは、税理士の仲間とボウリング場に通ううち夢中になった。人気が女子プロの競技がテレビ中継されたころ

で、盛岡のボウリング場も2時間、3時間待ちが普通だった。

爆発的なボウリングブームだったが、オイルショックなどを下火になる。競技人口の減少。吉田さんらにとっても厳しい時代だった。だが「生涯続けられる素晴らしいスポー

ツ。何としても発展させたい」という信念があった。

84年に県体育協会に加盟。87年の沖縄国体に正式参加した。全国で活躍する選手を育て、本県からアジアシニア選手権大会の日本代表も出している。

近年は年齢を問わない生涯スポーツ、気軽に楽しめるレジャーとしてのボウリングも注目されている。05年度には、本県が会場となる全国スポーツ・レクリエーション祭で壮年ボウリング大会が開かれることになった。

「競技でもレジャーでも年齢を問わずに自分のペースでできる。個人競技でありながらチームワークが生かせるのがボウリング」と目を輝かせる。大迫町出身。東北大

法学部を病気のために中退、挫折を味わった。「だからこそ、スポーツにかかわっていたい」という思いは常にあった。生涯スポーツであるボウリングとの出会いは、わたしの人生でかけがえのないもの」と話していた。



吉田几生会長 県連盟創立数年後の勇姿 (1970)

県教育表彰に17人9団体

2003年度県教育表彰は、事績顕著者に17人9団体、永年勤続者に388人が表彰される。事績顕著者は、

学校教育、学校保健、社会教育、社会体育、学術文化、教育行政で功績のある個人と団

クラブ活動) 県立宮古水産高(水産クラブ活動)

立花泉南中PTA、花巻市立花巻幼稚園つくしの会

問) 塚田美和子(陸上競技) 高橋栄光(自転車競技) 佐々木公子(ソフトテニス競技) 金ヶ崎剣道スポーツ少年団

次(の通り)(敬称略) 立角浜小(地域交流教育) 一関市立市野々小

立花泉南中PTA、花巻市立花巻幼稚園つくしの会

夫(前県能楽連合会会長) 佐々木健(新里村文化財調査委員会委員) 幸田神楽保存会(花巻市)

立角浜小(地域交流教育) 一関市立市野々小

立花泉南中PTA、花巻市立花巻幼稚園つくしの会

夫(前県能楽連合会会長) 佐々木健(新里村文化財調査委員会委員) 幸田神楽保存会(花巻市)

皆様へ紹介したい「私の所感」その2

ボウリングの魅力は？

文部科学大臣表彰を受賞して



吉田 凡生

(32)

動量に匹敵する。

(スポーツ医学豊田章教授)

「ボウリングの魅力は何ですか？」メディアの取材で必ず問われる。「ストライクの快感です。」あの心地よい音響とともに十本のピンが一瞬にして消える。

レジャー白書によるとおよそ三千万人が参加する人気ナンバーワンスポーツだ。三世代がともに楽しめ手軽にプレーできる。全天候型、室内温度も調整されている快適な施設で体力に合わせてゲーム数を調整することができ、ファミリースポーツ、コミュニティスポーツそして生涯スポーツとしても最適である。ちなみにボウリング三ゲーム(三十分)を他のスポーツと比較するとサッカーは十八分、テニス二十分、ゴルフ三十分、野球四十五分、バレーボール六十分、散歩八十分の運動量に匹敵する。

七二〇〇年前の古代エジプトの古墳から木製のピンとボールが発見されている。中世のヨーロッパに於いて九ピンボウリングが宗教儀式として大流行した。がルールが異なっていた。十六世紀にその統一を図ったのが宗教改革で有名なマルチン・ルーターだった。十七世紀に新大陸アメリカに移住したオランダ人がボウリングを広め、のちにピンを十本とするテンピンボウリングが普及しスポーツとして世界に広まった。

日本のボウリング史を繙いてみよう。文久元年に日本最初の英字新聞といわれる「The Nagasaki Shipping List and Advertiser」第四号広告欄に「長崎馬場ストリートにボウリング・サロン開場六月二十二日」という広告記事が掲載された。現在各種行事が行われるボウリングの日の由来である。

明治から大正にかけてYMC A体育館にボウリング設備が設置されたが、国民に広く愛好されるようになったのは昭和二十七年十二月の東京ボウリングセンターの開設以来である。当時はピンボーイが投球後のピンを並べ直していたが昭和三十六年オートマチックピンセッターが設置されゲームの回転率が良くなった。大きなボールが十八米先のピンに向かってレーンを走る。ピンが飛び散る。はじめて体験するレジャースポーツはあつという間に日本列島を駆け巡った。

そしてさわやか律子さんの登場である。昭和四十五年八月二十一日中山律子が女子プロボウリング月例競技会テレビ実況中継中にパーフェクトゲーム三百点を記録し、ボウリングブームのきっかけとなった。偶然ピンが倒れる運の良いストライクもあるが技術で続けるのは難しい。西村了プロは平成十五年の全日本選手権大会で三回連続パーフェクト、三ゲームのシリーズ小計九百点の大記録を達成している。アマチュアの国際大会でも日本ナショナルメンバーが活躍している。平成十三年十一月第三十七回AMFワールドカップで板倉奈智美が女子の部で優勝した。

「手首に付けている用具は何ですか？」もよくある質問だ。リスタイ、手首が外側に折れないように固定、親指を抜け易くしボールの曲がりを良くする。一番多いのは「上手になる秘訣を教えて欲しい」だ。足の踏み出しとボールを離す(リリース)タイミングを一致させること。ボールが軽く感じられるときがグッドタイミング、コントロールが定まる。

―閑話休題―

事務局からボウリングについて寄稿の依頼がありました。

昭和四十二年税理士事務所を開設、同年盛岡市内にボウリング場がオープンしました。研修会の帰りに誘われて足を運び一投目が左にガター、二投目は右にガターで0点、三投目は見事ストライクだったことを覚えています。ボウリング場の従業員に煽られて足しげく通うようになりトロフィーが増えました。

翌昭和四十三年岩手県ボウリング連盟が設立され理事としてスポーツボウリングの普及振興に力を尽くすことになり、新たな目標が定まりました。しかし昭和四十八年のオイルショック等経済的環境の変化もあり低迷期を迎えます。全日本選手権大会へ向かう電車で知人に会い「あなた方はボウリング保存会の方々ですか」と声を掛けられ返す言葉が失ったこと、又県体育協会加盟の陳情に会長の出張先まで夜間押し掛けたり言葉では言い尽くせない苦労もありましたが、昭和六十二年沖縄国体に正式参加を前提とした公開競技に全国の仲間と参加することが出来ました。マリンブルーの海、ボランティアの心暖まる歓迎は折にふれ蘇る忘れられない思い出となりました。

病気のため二度休学、卒業は叶わなかったものの熊谷岱蔵先生のおかげで健康を回復し、簿記を学んでいないことを承知で採用し指導して下さった税理士のS先生、多くの出会いが有りました。常に感謝の心を忘れないうように仕事以外にも地域社会とのかかわりを大切に歩みを進めて参りました。

ボウリングの普及功労による表彰、そして調停委員功労による叙勲は望外のことで、私を支えて下さった方々との縁、ご指導の賜です。合掌。

(岩手県ボウリング連盟会長)



吉田几生会長 文部科学大臣表彰（2005）
ゲスト 榎山文枝さん



吉田几生会長 文部科学大臣表彰（2005）



木村聡常任理事 岩手日報体育賞（2006）



吉田几生会長 東北総合体育大会功労賞（2008）



久慈順子常任理事 栗石町民栄誉賞（2005）



吉田几生会長 岩手県教育表彰（2003）千代子夫人とともに

カメラスケッチ



名司会者 山田真利子会員



審判員は高い席から注視する。大橋学公認審判員



チーム戦は心を一つに!



参加選手の受付通過確認



各選手のスコアカードとアウトプットデータとの照合



参加選手的全記録をパソコンに入力 兼平彩夏会員

資 料



年 表

文久元年 (1861)	わが国に初めてのボウリング場が長崎の出島に開設された。
昭和27年 (1952)	東京青山に「東京ボウリングセンター」が開場し、競技として発足した。
昭和30年 (1955)	全日本ボウリング協会の前身といえる「日本ボウリング連盟」が創立した。
昭和36年 (1961)	ボウリング競技者の世界組織 F. I. Q (Fédération Internationale des Quilleurs) 日本語名「国際柱技者連盟」に加盟。
昭和39年 (1964)	「全日本ボウリング協会」(Japn Bowling Congress) が誕生された。
昭和43年 (1968)	前年盛岡市内にボウリング場が開設されたのを機に「岩手県ボウリング連盟」が創立され、第1回岩手県ボウリング選手権大会開催。
	全都道府県に加盟団体が組織された。
昭和48年 (1973)	全日本ボウリング協会が財団法人として認可を受け日本のボウリング競技界を統括し代表する団体として再発足した。(寄付行為第3条)
昭和52年 (1977)	第6回全国都道府県対抗ボウリング競技大会、古舘勇光男子個人優勝。(全国大会初入賞)
昭和58年 (1983)	(財)全日本ボウリング協会が(財)日本体育協会に加盟承認された。
昭和58年 (1983)	AMF ワールドカップメキシコ大会久慈順子日本代表として国際大会初出場。
昭和59年 (1984)	(財)岩手県体育協会に加盟承認された。
	第11回東北ボウリング選手権大会主管開催。
昭和60年 (1985)	第37回岩手県民体育大会に初参加。
昭和61年 (1986)	第6回東日本シニアボウリング選手権大会主管開催。丸山忠夫男子個人総合優勝。
昭和62年 (1987)	第42回沖縄国体に公開競技として初参加。成年男子の部監督吉田凡生、選手小笠原勝、佐々木菊夫、嶋廻敏夫、佐藤義明。
昭和63年 (1988)	第43回京都国体(2巡目国体)に正式競技として参加。
平成1年 (1989)	第44回北海道国体丸山忠夫50歳以上の部第5位、佐藤喜三郎男子2部第8位。(国体初入賞)
平成2年 (1990)	第45回福岡国体三浦巳代子30歳代の部第7位、後藤秀子女子2部第8位。
平成3年 (1991)	第4回全国健康福祉祭(ねんりんピック'91いわて)ボウリング競技主管開催。
平成3年 (1991)	第8回FIQ極東選手権大会(韓国)久慈順子ナショナルチームの一員として出場個人マスターズ戦準優勝。
平成5年 (1993)	第13回東日本シニア選手権大会熊谷礼子、小笠原ケイ子女子2人戦優勝。
平成6年 (1994)	全国ファミリンピックいわて大会ボウリング競技主管開催。
平成10年 (1998)	第18回東日本シニア選手権大会佐々木和夫、藤村他可夫、川原重治郎、丸山忠夫男子4人戦優勝。
平成17年 (2005)	第18回全国スポーツ・レクリエーション祭(スポレクいわて2005) 壮年ボウリング大会主管開催。丸山忠夫、小笠原ケイ子60歳以上混合2人戦優勝。
平成17年 (2005)	吉田凡生会長スポーツ普及振興功労により文部科学大臣表彰。
平成17年 (2005)	第5回日本スポーツマスターズ久慈順子女子選手権者。
平成18年 (2006)	第61回兵庫国体男子ハイミドルの部木村聡優勝。

平成18年（2006）	第6回日本スポーツマスターズ藤原孝至男子選手権者。
平成18年（2006）	第21回全日本年齢別競技大会久慈順子50代優勝。
平成19年（2007）	第9回アジアシニア選手権大会（日本）久慈順子女子マスターズ戦優勝。
平成19年（2007）	第40回全日本シニア選手権大会久慈順子女子50歳代個人優勝。

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

ボウリング用語（抜粋）

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

アジャスティング

adjusting 調整すること

普通は、ストライクアジャスティングとスペアアジャスティングを指す。レーン状態によってボールを交換するボールアジャスティング、リリースで力の入れ方を変えるフィジカルアジャスティングなどもある。日常生活でも便利な言葉になっており、ちょっとでも工夫を加えると「アジャストした」などといったりしている。

スキッドスナップ

skid snap 素早く滑る

PBAのプロがよく口走る言葉で、ものすごく速く直進して、ピンの直前で急激にフックする球質を指す。曲がり幅が小さい割りに、大きな入射角度が得られる理想的タイプで、レーンコンディションに左右されにくく、アングルを広げずに幅広いストライクゾーンが得られるという大きなメリットがある。

オフバランス

off balance バランスを崩す

ボールのドリルでルールの範囲外にあること。または、ルール内で故意にボールのバランス配分を崩して、曲がりや回転を変える工夫などを指すことがある。投球フォームでは、右肩が極端に落ちたり、腰高で下半身と上半身のバランスが悪いときにいうことがある。

ローダウン

low down

高速リリースまたは高速回転を意味する和製英語。PBAプロは「フリスビーまたはプッシュ&プル」と呼ぶが、およそ2～3種類の投法がある。通常の数十倍も多い回転数をともなうので、ピンの手前で劇的に曲がり、驚異的なピンアクションを見せる。すべてのボウラーにとって「永遠の憧れ」であるが、レーン変化による曲がりを抑制するため、基本的に初速を大きく早める必要がある。

パーフェクトストライク

perfect strike

完全なストライクを生むには、2つの条件がある。1つはボールの中心が17.5枚目か、それよりやや薄め方向（板目で1枚以内）を打つこと、次にストライクゾーンを広げるために3度から6度の入射角度を保つことである。パーフェクトストライクのピンアクションは、①—③ポケットを打ったボールが①→②→④→⑦番の順にドミノアクション（将棋倒し）を発生させており、次に③番ピンは③→⑥→⑩番を、⑤番ピンは⑧番を倒している。このとき、ボールがピンを直接倒すのは①→③→⑤→⑨番のみ。①番ピンを打つボールの位置、入射角度が最も大切なことがわかる。

そこで「より大きなバックスイング」をするために、肩を開くオープンバックスイング、回転数を大きくするカップリスト、ブローケンリストなどのリストワークを駆使すること、さらにボールドリルなどもマスターしなければならない。結局、ボール速度を自由に変えるため、リリース時の手首や前腕の形を使い分け、そのときどきの最適なボールチョイス、レーンコンディションへの対応など、最高のアジャスティング技術に行きつくのである。

ボウリングの歴史

日本で初めてのボウリング場は文久元年（1861）6月22日オランダ人によって長崎の出島に開設された。現在6月22日が「ボウリングの日」と定められている。

紀元前5000年前後のものと思われるエジプトの墓から木でできたボールとピンが発掘されロンドンの博物館に展示されている。ボウリング競技の発祥は、明確ではないが中世の宗教の儀式に使われ、投げる球を善、約18メートル先に立っているピンを悪にたとえ、それを倒すことにより、悪をはらうという宗教儀式をルール化しヨーロッパ人の9本のピンのボウリングが娯楽として広まった。16世紀に宗教改革で著名なマルティンルターがボウリングのルールを統一し制定したといわれている。

その後アメリカに移住したオランダ人により広められ、現在のような10本のピンのボウリング競技として世界的に普及した。

日本では大正の初め東京、大阪、京都その他の都市のYMCAの体育館にスポーツ施設として小規模なものが設置されている。民間で最初のボウリング場は昭和27年（1952）東京青山に東京ボウリングセンターが開設された。

当時はまだ自動のピンセッターはなく、人手でピンをセットしていた。

昭和30年（1955）全日本ボウリング協会の前身といえる「日本ボウリング連盟」が創立され、昭和36年（1961）にはボウリング競技者の世界組織F.I.Q（Fédération Internationale des Quilleurs）日本語名「国際柱技者連盟」に加盟、国際大会参加を目指すことになる。

この年、自動ピンセッターが輸入され、ゲームの進行が早くなり愛好者も急増し次々とボウリング場が開設され爆発的なブームを迎えた。

昭和39年（1964）全日本ボウリング協会（Japan Bowling Congress）が創立されスポーツボウリングの普及に取り組み、全都道府県ボウリング愛好者の指導、組織化を図り各県ボウリング連盟が誕生した。

昭和48年（1973）文部省より財団法人として認可を受け日本のボウリング競技を統轄し代表する団体として再発足した。（寄付行為第3条）

昭和58年（1983）財団法人日本体育協会に加盟承認される。

昭和62年（1987）第42回沖縄国体夏季大会に公開競技として初参加、昭和63年（1988）第43回国民体育大会夏季大会（京都国体）に正式競技として参加した。

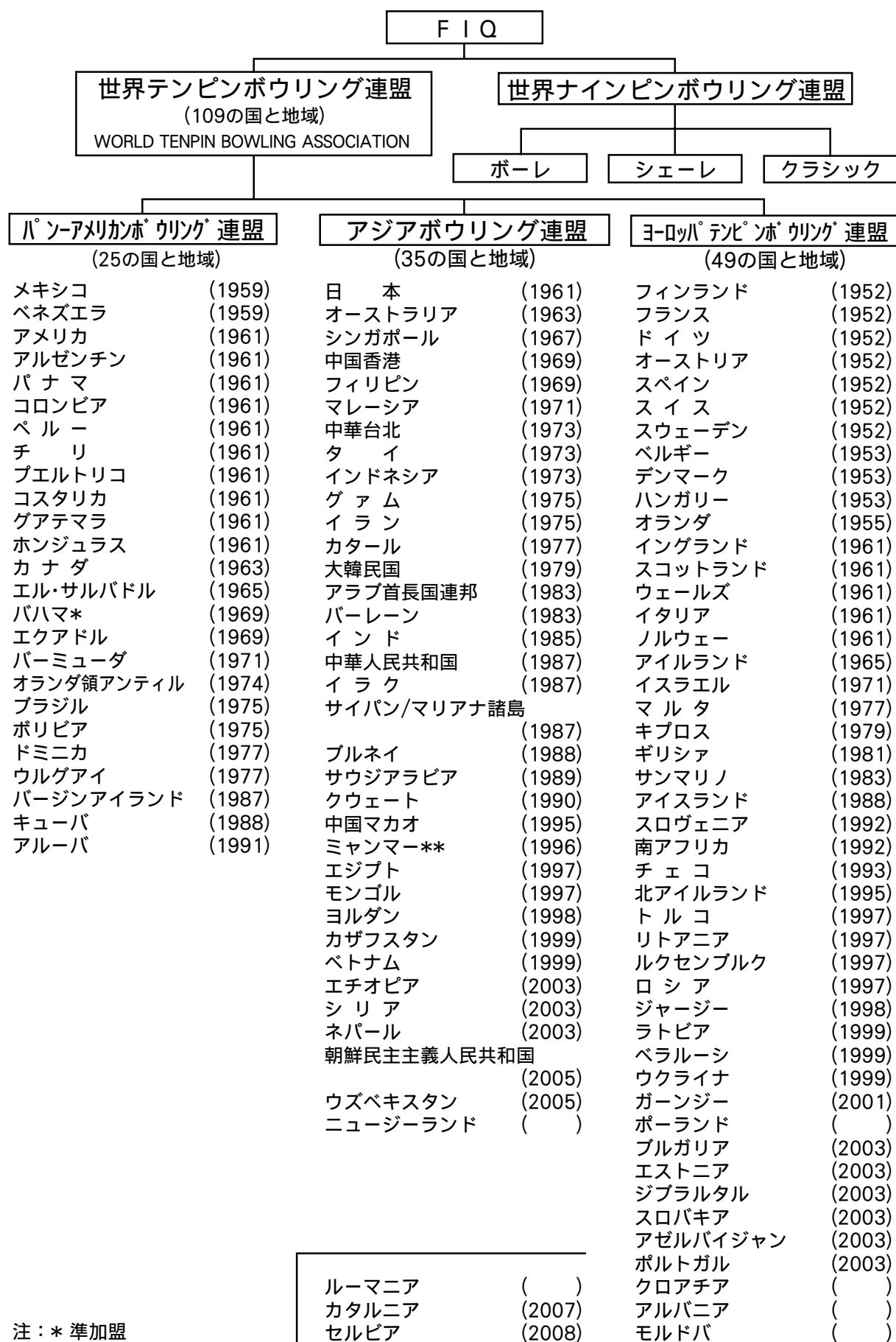
同年ソウル市で開催された第24回オリンピック競技大会にエキシビジョンゲームとして採用され日本代表として男女各1名が派遣された。以後の国際大会でも目覚ましい活躍をしている。

JBCは現在競技スポーツ、生涯スポーツとしてのボウリングの普及振興と組織の拡充を図り新しい時代に向って前進している。

F・I・Q（国際柱技者連盟）組織図

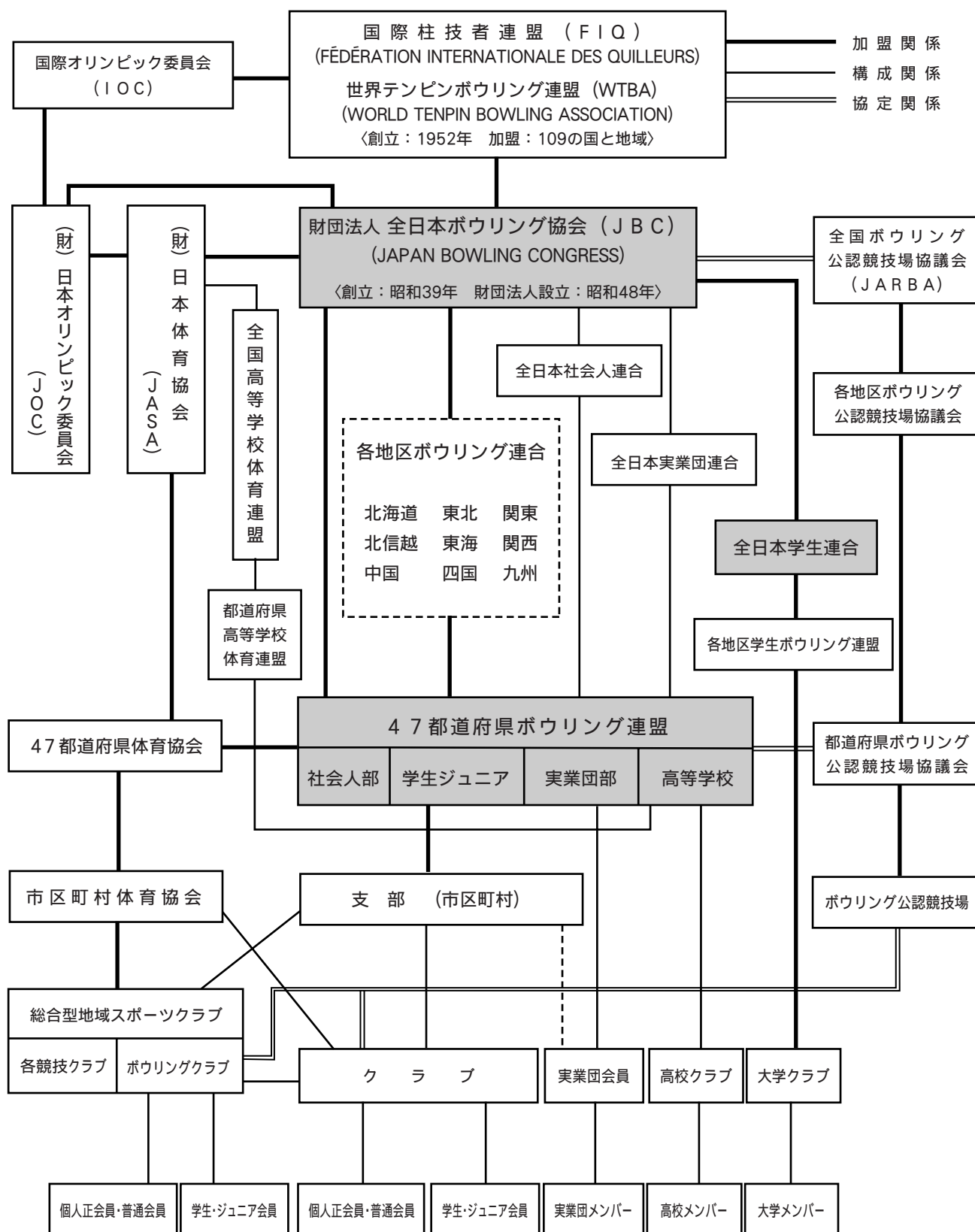
FÉDÉRATION INTERNATIONALE DES QUILLEURS

2008年5月18日現在



注：* 準加盟
 ** 資格停止中

(財) 全日本ボウリング協会 組織図



岩手県ボウリング連盟歴代役員名簿

歴代会長



初代会長 岩動道行
(1968～1970)



二代会長 山崎忠保
(1971～1975)



三代会長 小原正巳
(1976～1994)



四代会長 吉田几生
(1995～現在)

年度	名誉会長	会長	副会長	理事長	副理事長	専務理事	常任理事	理事	監事	顧問
S43 (1968)		岩動道行	村谷昭六	長谷川史郎				矢羽々 保 千葉明彦 吉田几生 山崎忠保 村松 実 村上 功 上野吉朗		
S44 (1969)		岩動道行	村谷昭六	長谷川史郎				矢羽々 保 千葉明彦 吉田几生 山崎忠保 村松 実 村上 功		
S45 (1970)		岩動道行	村谷昭六	長谷川史郎				矢羽々 保 千葉明彦 吉田几生 山崎忠保 村松 実 村上 功		
S46 (1971)		山崎忠保	村松 実 吉田几生	江藤征二	伊藤 顕		山口三郎 奥山和夫 村谷昭六 富士田徳治 工藤俊雄 三並和雄	矢羽々 保 千葉明彦 藤斉武夫 中田芳郎 吉田 正		岩動道行
S47 (1972)		山崎忠保		江藤征二	伊藤 顕	村松 実 吉田几生	山口三郎 奥山和夫 村谷昭六 富士田徳治 工藤俊雄 千葉明彦	矢羽々 保 大宮 進 中田芳郎 吉田 正 千田勝郎		岩動道行
S48 (1973)		山崎忠保		江藤征二	伊藤 顕 吉田几生	村松 実	山口三郎 奥山和夫 千葉明彦	矢羽々 保 大宮 進 中田芳郎 千田勝郎		岩動道行

年度	名誉会長	会長	副会長	理事長	副理事長	専務理事	常任理事	理事	監事	顧問
S49 (1974)		山崎忠保		江藤征二	吉田几生 富士田徳治		山口三郎 奥山和夫 千葉明彦 矢羽々 保 大宮 進 中田芳郎	千田勝郎 伊藤新一 藤齊武夫 千葉茂人 畠山正志 永山勝隆 古舘勇光 瓦田義生 中川 猛 高橋政一		岩動道行
S50 (1975)		山崎忠保		江藤征二	吉田几生 富士田徳治		山口三郎 千葉明彦 矢羽々 保 大宮 進	千田勝郎 伊藤新一 藤齊武夫 千葉茂人 畠山正志 永山勝隆 古舘勇光 瓦田義生 中川 猛 高橋政一		岩動道行
S51 (1976)	岩動道行	小原正巳		吉田几生	山口三郎 瓦田義生 千葉茂人		千田勝郎 古舘勇光 中村哲郎 畠山正志 永山勝隆 千葉明彦 入江登美子 上原清司 村井 盛 村山英雄	熊谷光男 伊藤新一 藤齊武夫 大宮 進 村上安男 佐藤和典 久慈順子 瓦田純子 岡本精一	元持津江 根本紀夫	山崎忠保 村松 実 管 三郎 藤原 潔
S52 (1977)	岩動道行	小原正巳		吉田几生	山口三郎 瓦田義生 千葉茂人		千田勝郎 古舘勇光 中村哲郎 畠山正志 千葉明彦 入江登美子 上原清司 村井 盛 村山英雄	熊谷光男 大宮 進 村上安男 佐藤和典 久慈順子 瓦田純子 岡本精一	元持津江 根本紀夫	山崎忠保 村松 実 管 三郎 藤原 潔
S53 (1978)	岩動道行	小原正巳		吉田几生	山口三郎 瓦田義生 千葉茂人		千田勝郎 古舘勇光 中村哲郎 畠山正志 千葉明彦 入江登美子 上原清司 村井 盛 村山英雄	熊谷光男 大宮 進 村上安男 佐藤和典 久慈順子 瓦田純子 岡本精一	元持津江 根本紀夫	山崎忠保 村松 実 管 三郎 藤原 潔
S54 (1979)	岩動道行	小原正巳		吉田几生	山口三郎 瓦田義生 千葉茂人		千田勝郎 古舘勇光 中村哲郎 畠山正志 千葉明彦 入江登美子 上原清司 村井 盛 村山英雄	熊谷光男 大宮 進 村上安男 佐藤和典 久慈順子 瓦田純子 岡本精一	元持津江 根本紀夫	山崎忠保 村松 実 管 三郎 藤原 潔

年度	名誉会長	会長	副会長	理事長	副理事長	専務理事	常任理事	理事	監事	顧問
S55 (1980)	岩動道行	小原正巳		吉田几生	畠山正志 千葉明彦 岡本精一		千田勝郎 古舘勇光 中村哲郎 佐藤義明 千葉明彦 入江登美子 上原清司 村井 盛 村山英雄	熊谷光男 菊池啓一 山口三郎 大宮 進 鎌田次男 八木忠男 嶋廻敏夫 佐々木和夫 菅井 実	元持津江 小山田昇平	山崎忠保 村松 実 管 三郎 藤原 潔
S56 (1981)	岩動道行	小原正巳		吉田几生	畠山正志 千葉明彦 岡本精一		千田勝郎 古舘勇光 中村哲郎 佐藤義明 千葉明彦 入江登美子 上原清司 村井 盛 村山英雄	熊谷光男 菊池啓一 山口三郎 大宮 進 鎌田次男 八木忠男 嶋廻敏夫 佐々木和夫 菅井 実	元持津江 小山田昇平	山崎忠保 村松 実 管 三郎 藤原 潔
S57 (1982)	岩動道行	小原正巳		吉田几生	畠山正志 千葉明彦 岡本精一 古舘勇光		千田勝郎 中村哲郎 佐藤義明 千葉明彦 入江登美子 上原清司 村井 盛 村山英雄	熊谷光男 菊池啓一 武田礼治 大宮 進 佐々木忠夫 大倉和男 久慈順子 佐々木和夫 菅井 実	元持津江 小山田昇平	山崎忠保 村松 実 管 三郎 藤原 潔
S58 (1983)	岩動道行	小原正巳		吉田几生	畠山正志 千葉明彦 岡本精一 古舘勇光		千田勝郎 中村哲郎 佐藤義明 千葉明彦 入江登美子 上原清司 村井 盛 村山英雄	熊谷光男 菊池啓一 武田礼治 大宮 進 佐々木忠夫 大倉和男 久慈順子 佐々木和夫 菅井 実	元持津江 小山田昇平	山崎忠保 村松 実 管 三郎 藤原 潔
S59 (1984)	岩動道行	小原正巳		吉田几生	畠山正志 千葉明彦 古舘勇光		千田勝郎 中村哲郎 佐藤義明 千葉明彦 入江登美子 上原清司 村井 盛 村山英雄	熊谷光男 菊池啓一 武田礼治 大宮 進 佐々木忠夫 大倉和男 久慈順子 佐々木和夫 菅井 実	元持津江 小山田昇平	山崎忠保 村松 実 管 三郎 藤原 潔
S60 (1985)	岩動道行	小原正巳		吉田几生	畠山正志 千葉明彦 古舘勇光		千田勝郎 藤村長三郎 中村哲郎 佐藤義明	熊谷光男 菊池啓一 武田礼治 大宮 進 藤原良造 熊谷礼子 大倉和男 藤原正夫 佐藤 裕 藤本智隆 菊池洋二 菊地 賢 板沢健次郎 佐藤喜三郎	瀬川忠男 小山田昇平	山崎忠保 村松 実 管 三郎 藤原 潔

年度	名誉会長	会長	副会長	理事長	副理事長	専務理事	常任理事	理事	監事	顧問
S61 (1986)	岩動道行	小原正巳		吉田几生	畠山正志 古舘勇光	千田勝郎	佐藤喜三郎 藤村長三郎 大宮 進 佐藤義明	熊谷光男 菊池啓一 武田礼治 藤原良造 熊谷礼子 大倉和男 藤原正夫 佐藤 裕 藤本智隆 菊池洋二 菊地 賢 板沢健次郎 佐藤喜三郎	瀬川忠男 小山田昇平	
S62 (1987)	岩動道行	小原正巳		吉田几生	畠山正志 千田勝郎		佐藤喜三郎 藤村長三郎 大宮 進 佐藤義明	熊谷光男 菊池啓一 武田礼治 藤原良造 熊谷礼子 大倉和男 藤原正夫 佐藤 裕 藤本智隆 菊池洋二 菊地 賢 小山田二郎 今野力ナ子	瀬川忠男 根本紀夫	
S63 (1988)		小原正巳		吉田几生	畠山正志 千田勝郎	菊地 賢	佐藤喜三郎 藤村長三郎 大宮 進 佐藤義明	熊谷光男 菊池啓一 武田礼治 藤原良造 熊谷礼子 大倉和男 藤原正夫 佐藤 裕 藤本智隆 菊池洋二 菊地 賢 小山田二郎 今野力ナ子	瀬川忠男 根本紀夫	
H 1 (1989)		小原正巳		吉田几生	千田勝郎	菊地 賢	佐藤喜三郎 藤村長三郎 大宮 進 武田礼治	熊谷光男 黒沢 吏 阿部勝弘 藤原良造 熊谷礼子 大倉和男 藤原正夫 佐藤 裕 藤本智隆 菊池洋二 小笠原 勝 小山田二郎 今野力ナ子	瀬川忠男 根本紀夫	

年度	名誉会長	会長	副会長	理事長	副理事長	専務理事	常任理事	理事	監事	顧問
H 2 (1990)		小原正巳		吉田几生	千田勝郎	菊地 賢	佐藤喜三郎 藤村長三郎 大宮 進 武田礼治	熊谷光男 黒沢 吏 阿部勝弘 藤原良造 熊谷礼子 大倉和男 藤原正夫 佐藤 裕 藤本智隆 菊池洋二 小笠原 勝 小山田二郎 今野力ナ子	瀬川忠男 根本紀夫	
H 3 (1991)		小原正巳	吉田几生	吉田几生	菊地 賢 千田勝郎		佐藤喜三郎 藤村長三郎 菊池洋二 武田礼治 阿部勝弘 黒沢 吏	土井英明 浜田勝太郎 大宮 進 藤原良造 熊谷礼子 大倉和男 藤原正夫 佐藤 裕 佐々木正一 峯崎登美夫 小笠原 勝 小山田二郎 今野力ナ子	瀬川忠男 根本紀夫	
H 4 (1992)		小原正巳	吉田几生	吉田几生	菊地 賢 千田勝郎		佐藤喜三郎 藤村長三郎 菊池洋二 武田礼治 阿部勝弘 黒沢 吏	土井英明 浜田勝太郎 大宮 進 藤原良造 熊谷礼子 大倉和男 藤原正夫 佐藤 裕 佐々木正一 峯崎登美夫 小笠原 勝 小山田二郎 今野力ナ子	瀬川忠男 根本紀夫	
H 5 (1993)		小原正巳	吉田几生	吉田几生	菊地 賢 千田勝郎		佐藤喜三郎 藤村長三郎 菊池洋二 武田礼治 阿部勝弘 黒沢 吏	大平恵介 佐藤和典 阿部トミエ 田頭義弘 藤原良造 熊谷礼子 大倉和男 小野寺 章 加藤典博 佐々木正一 峯崎登美夫 小笠原 勝 小山田二郎 今野力ナ子	瀬川忠男 浜田勝太郎	

年度	名誉会長	会長	副会長	理事長	副理事長	専務理事	常任理事	理事	監事	顧問
H 6 (1994)		小原正巳	吉田几生	吉田几生	菊地 賢 千田勝郎 黒沢 吏		佐藤喜三郎 藤村長三郎 菊池洋二 武田礼治 阿部勝弘	大平恵介 佐藤和典 阿部トミエ 田頭義弘 藤原良造 熊谷礼子 大倉和男 小野寺 章 加藤典博 佐々木正一 吉田 優 小笠原 勝 小山田二郎	瀬川忠男 浜田勝太郎	
H 7 (1995)		吉田几生		黒沢 吏	阿部勝弘		佐藤喜三郎 藤村長三郎 菊池洋二 加藤典博	大平恵介 佐藤和典 阿部トミエ 上野吉朗 藤原良造 熊谷礼子 佐々木聡昭 久慈順子 木村 聡 佐々木正一 吉田 優 山口忠司 小山田二郎	瀬川忠男 浜田勝太郎	千田勝郎 小原正巳 菊地 賢
H 8 (1996)		吉田几生		黒沢 吏	阿部勝弘		阿部トミエ 木村 聡 菊池洋二 加藤典博	大平恵介 佐藤和典 武田礼治 上野吉朗 藤原良造 熊谷礼子 佐々木聡昭 久慈順子 菊池史和 佐々木正一 吉田 優 山口忠司 小山田二郎 佐々木和夫	瀬川忠男 浜田勝太郎	千田勝郎 小原正巳 菊地 賢
H 9 (1997)		吉田几生		黒沢 吏	阿部勝弘 加藤典博		阿部トミエ 木村 聡 菊池洋二 佐々木正一 熊谷礼子 吉田 優 上野吉朗	大平恵介 佐藤和典 武田礼治 田頭義弘 藤原良造 根田光朗 佐々木聡昭 久慈順子 菊池史和 中山昭二 菅原 栄 伊藤 誠 佐々木和夫	瀬川忠男 浜田勝太郎	千田勝郎 小原正巳 菊地 賢

年度	名誉会長	会長	副会長	理事長	副理事長	専務理事	常任理事	理事	監事	顧問
H10 (1998)		吉田凡生		黒沢 吏	阿部勝弘 加藤典博		阿部トミエ 木村 聡 菊池洋二 佐々木正一 熊谷礼子 吉田 優 上野吉朗	大平恵介 佐藤和典 武田礼治 根田光朗 佐々木聡昭 久慈順子 菊池史和 中山昭二 菅原 栄 伊藤 誠 佐々木和夫	瀬川忠男 浜田勝太郎	千田勝郎 小原正巳 菊地 賢
H11 (1999)		吉田凡生		黒沢 吏	阿部勝弘 加藤典博 上野吉朗		阿部トミエ 木村 聡 菊池洋二 佐々木正一 久慈順子 伊藤 誠 中山昭二 根田光朗	大平恵介 佐藤和典 武田礼治 山田浩幸 黒澤 誠 赤沢 清 佐々木聡昭 山田政行 菊池史和 菅原 栄	瀬川忠男 浜田勝太郎	千田勝郎 小原正巳 菊地 賢
H12 (2000)		吉田凡生		黒沢 吏	阿部勝弘 加藤典博 上野吉朗		阿部トミエ 木村 聡 菊池洋二 佐々木正一 久慈順子 伊藤 誠 中山昭二 根田光朗	大平恵介 佐藤和典 武田礼治 山田浩幸 黒澤 誠 赤沢 清 佐々木聡昭 山田政行 菊池史和 菅原 栄	瀬川忠男 浜田勝太郎	千田勝郎 小原正巳 菊地 賢
H13 (2001)		吉田凡生		黒沢 吏	阿部勝弘 加藤典博 上野吉朗 根田光朗		阿部トミエ 木村 聡 菊池洋二 佐々木正一 久慈順子 伊藤 誠 中山昭二	大平恵介 佐藤和典 武田礼治 山田浩幸 黒澤 誠 赤沢 清 佐々木聡昭 高橋宗義 菊池史和 藤原孝至 菅原 栄	瀬川忠男 佐々木盛徳	千田勝郎 小原正巳
H14 (2002)		吉田凡生		黒沢 吏	阿部勝弘 加藤典博 上野吉朗 根田光朗		阿部トミエ 木村 聡 菊池史和 佐々木正一 久慈順子 伊藤 誠 中山昭二	大平恵介 佐藤和典 武田礼治 山田浩幸 黒澤 誠 赤沢 清 佐々木聡昭 高橋宗義 富谷行雄 藤原孝至 長谷川和重 高橋三千男	瀬川忠男 佐々木盛徳	千田勝郎

年度	名誉会長	会長	副会長	理事長	副理事長	専務理事	常任理事	理事	監事	顧問
H15 (2003)		吉田凡生		上野吉朗	阿部勝弘 加藤典博 根田光朗		阿部トミエ 木村 聡 菊池史和 佐々木正一 久慈順子 伊藤 誠 中山昭二	大平恵介 坂本 貢 武田礼治 山田浩幸 黒澤 誠 赤沢 清 佐々木聡昭 高橋宗義 富谷行雄 新沼幸枝 長谷川和重 高橋三千男	瀬川忠男 佐々木盛徳	千田勝郎 黒沢 吏
H16 (2004)		吉田凡生		上野吉朗	阿部勝弘 加藤典博 根田光朗		阿部トミエ 木村 聡 菊池史和 佐々木正一 久慈順子 伊藤 誠 中山昭二	大平恵介 坂本 貢 武田礼治 山田浩幸 黒澤 誠 沼田 聡 佐々木聡昭 高橋宗義 富谷行雄 新沼幸枝 小原勝弘 菅野和郎	瀬川忠男 佐々木盛徳	黒沢 吏
H17 (2005)		吉田凡生		上野吉朗	阿部勝弘 加藤典博 根田光朗		阿部トミエ 木村 聡 菊池史和 佐々木正一 久慈順子 伊藤 誠 中山昭二	大平恵介 坂本 貢 武田礼治 山田浩幸 黒澤 誠 沼田 聡 佐々木聡昭 高橋宗義 富谷行雄 新沼幸枝 小原勝弘 菅野和郎	瀬川忠男 栃内秀士	黒沢 吏
H18 (2006)		吉田凡生		上野吉朗	阿部勝弘 加藤典博 根田光朗		阿部トミエ 木村 聡 菊池史和 佐々木正一 久慈順子 伊藤 誠 中山昭二	大平恵介 坂本 貢 武田礼治 山田浩幸 黒澤 誠 沼田 聡 佐々木聡昭 高橋宗義 富谷行雄 新沼幸枝 小原勝弘 菅野和郎	瀬川忠男 栃内秀士	黒沢 吏
H19 (2007)		吉田凡生		上野吉朗	阿部勝弘 加藤典博 根田光朗		阿部トミエ 木村 聡 菊池史和 富谷行雄 久慈順子 伊藤 誠 中山昭二	大平恵介 坂本 貢 武田礼治 山田浩幸 黒澤 誠 沼田 聡 佐々木聡昭 高橋宗義 佐々木正一 新沼幸枝 小原勝弘 菅野和郎	吉田勝弘 栃内秀士	黒沢 吏

年度	名誉会長	会長	副会長	理事長	副理事長	専務理事	常任理事	理事	監事	顧問
H20 (2008)		吉田几生		上野吉朗	阿部勝弘 加藤典博 根田光朗		阿部トミエ 木村 聡 菊池史和 富谷行雄 久慈順子 伊藤 誠 中山昭二	大平恵介 坂本 貢 武田礼治 山田浩幸 黒澤 誠 沼田 聡 佐々木聡昭 高橋宗義 佐々木正一 新沼幸枝 小原勝弘 菅野和郎	吉田勝弘 栃内秀士	黒沢 吏
H21 (2009)		吉田几生	上野吉朗	上野吉朗	阿部勝弘 根田光朗 富谷行雄		阿部トミエ 木村 聡 菊池史和 久慈順子 伊藤 誠 沼田 聡	大平恵介 坂本 貢 山田浩幸 黒澤 誠 佐々木聡昭 高橋宗義 佐々木正一 小原勝弘 菅野和郎 小林みち子 大橋 学	吉田勝弘 栃内秀士	黒沢 吏 加藤典博

支部・クラブ・実業団・高等学校一覧

社会人部

盛岡支部 支部長 加 藤 典 博

020-0822 盛岡市茶畑 2-5-9 TEL 019-653-5638

盛岡スターレーンクラブ クラブ長 黒 澤 誠

020-0117 盛岡市緑が丘 3-29-3-106 TEL 019-662-7488

ビッグハウス・スーパーレーンクラブ クラブ長 根 田 光 朗

020-0832 盛岡市東見前 9-31-1 TEL 019-637-9062

久慈支部 支部長 奥 瀬 英 夫

028-0051 久慈市川崎町 12-7 TEL 0194-52-2148

滝沢支部 支部長 柳 村 正 実

020-0173 岩手郡滝沢村滝沢字巣子 1211 TEL 019-688-3622

矢巾支部 支部長 佐々木 忠 道

028-3602 紫波郡矢巾町藤沢 8-50 TEL 019-697-2395

紫波支部 支部長 山 田 浩 幸

028-3536 紫波郡紫波町北田字和田 16 TEL 019-672-3515

花巻支部 支部長 大 平 恵 介

025-0312 花巻市二枚橋 6-329-6 TEL 0198-26-4366

東和支部 支部長 菅 野 和 郎

028-0135 花巻市東和町倉沢 2 区 115 TEL 0198-44-2191

北上支部 支部長 小 原 勝 弘

024-0021 北上市上野町 1-12-28 TEL 0197-64-1726

奥州支部 支部長 菊 池 英 明

023-0817 奥州市水沢区宮下町 38 TEL 0197-24-2252

一関支部 支部長 高 橋 宗 義

021-0851 一関市関ヶ丘 103-2 TEL 0191-23-5066

遠野支部 支部長 菊 池 巳之吉

028-0775 遠野市上郷町平倉 47-39 TEL 0198-65-2726

釜石支部
028-1132 上閉伊郡大槌町大ケ口 1-19-29 TEL 0193-42-6493 支部長 坂 本 貢

大船渡支部
022-0007 大船渡市赤崎町字菅野 9-5 TEL 0192-27-6185 支部長 伊 藤 清

陸前高田支部
022-0007 大船渡市赤崎町後の入 46-6 TEL 0192-27-4155 支部長 田 代 一 宏

実業団部

J R 東日本盛岡
020-0034 盛岡市盛岡駅前通 1-41 TEL 019-625-4018 部長 村 上 正 昭

東日本電気(株)
021-0833 一関市柄貝 1 TEL 0191-23-9111 部長 千 葉 清 一

(財)岩手県予防医学協会
020-8585 盛岡市永井 14-42 TEL 019-638-7185 部長 川 端 寿 行

(株)ベルプラス
020-0837 盛岡市津志田町 1-1-10 TEL 019-638-1722 部長 吉 岡 茂 樹

盛岡赤十字病院
020-8560 盛岡市三本柳 6-1-1 TEL 019-637-3111 部長 根 田 光 朗

矢巾町役場
028-3692 紫波郡矢巾町大字南矢幅 13-123 TEL 019-697-2111 部長 稲 垣 讓 治

注、メンバー責任者は部長で統一しています。

高等学校

盛岡スコーレ高等学校
020-0851 盛岡市向中野字才川 2-3 TEL 019-636-0827 顧問 猿 川 温 久

公認審判員・日体協指導員・コーチ一覧

氏 名	公認審判員	日体協指導員	日体協コーチ	ドリラー
吉 田 几 生	第 1 種	○		
上 野 吉 朗	○	○		
佐々木 正 一	○	○		
根 田 光 朗	○	○		
富 谷 行 雄	○	○		
菊 池 史 和	第 2 種	○	○	
富 谷 伸 行	○	○		
丸 山 忠 夫	第 3 種			
飯 塚 隆	○			
佐々木 聡 昭	○			○
久 慈 順 子	○			
中 山 正 二	○			
菊 池 英 明	○			
阿 部 勝 弘	○			
阿 部 トミエ	○	○		
吉 岡 茂 樹	○			○
佐々木 春 男	○			
武 田 礼 治	○			
大 橋 学	○	○		
高 橋 宗 義	○			
山 田 浩 幸	○			
両 角 みかこ	○	○		
新 沼 幸 枝	○	○		
千 葉 恭 一	○			
千 葉 力	○			
小 林 みち子	○			
山 崎 剛 志	○			
小野寺 亮 太	○			
佐 藤 淳				○

岩手県ボウリング連盟定款

付 岩手県ボウリング連盟会員登録規定



岩手県ボウリング連盟定款

第1章 総 則

(名 称)

第1条 この連盟は、岩手県ボウリング連盟（英文名 IWATE BOWLING ASSOCIATION 略称IBA）という。

(事務所)

第2条 この連盟は、事務所を岩手県盛岡市本町通二丁目9番3号におく。

(構成・組織)

第3条 この連盟の構成は、個人正会員、実業団会員、高等学校登録会員、高校生会員およびジュニア会員の正会員と、個人普通会員、名誉会員、特別会員で個人正会員、個人普通会員は社会人部、実業団部、高校生会員およびジュニア会員はジュニア部に所属する。

(支部・クラブ)

第4条 この連盟は、理事会の議決を経て必要の地に支部を置くことができる。また、支部はその下部組織としてクラブを設けることができる。

支部およびクラブの設置については、別に定める規約によるものとする。

第2章 目的および事業

(目 的)

第5条 この連盟は、財団法人全日本ボウリング協会（以下全日本ボウリング協会という）の加盟団体として、この地域におけるアマチュアボウリング競技会を統轄し、代表する団体であり、ボウリングの普及および振興をはかり、もって県民の心身の健全な発達に寄与することを目的とする。

(事 業)

第6条 この連盟は、前条の目的を達成するためにつぎの事業を行なう。

1. ボウリング競技によりアマチュアスポーツの高揚をはかる
2. ボウリング競技に関する指導講習会の開催および指導者の養成
3. ボウリング競技に関する調査研究および指導
4. ボウリングに関する地域グループの育成強化
5. 国民体育大会および全日本ボウリング協会、地区連合会等が主催、後援する選手権大会、競技会に対し、代表参加者の選定および派遣
6. 連盟選手権大会、競技会等の開催
7. 全日本ボウリング協会に対し、選手権大会、競技会等の公認申請、公認記録報告、表彰に関する諸申請
8. ボウリング競技に関する機関紙ならびに刊行物の発行
9. その他目的を達成するために必要な事業

第3章 会 員

(会 員)

第7条 この連盟の会員は下記のとおりとし、すべて全日本ボウリング協会に登録するものとする。

また、この連盟の会員は、日本体育協会のスポーツ憲章ならびに全日本ボウリング協会のアマチュア競技者規程、その他の規則、規定を順守しなければならない。

1. 正 会 員 この連盟の目的に賛同して入会した、次に掲げる会員とする

(イ) 個人正会員

(ロ) 実業団会員

(ハ) 高等学校登録会員

(ニ) 高校生会員およびジュニア会員

2. 普通会員 この連盟の目的に賛同して入会した普通会員とする

3. 名誉会員 この連盟に特に功労のあった者で、代議員総会の議決をもって推薦された者とする

4. 賛助会員 この連盟の事業に賛助する個人または法人で、理事会の議決をもって推薦された者とする

5. 特別会員 全日本ボウリング協会ならびにこの連盟に賛助する個人または法人で、理事会の議決をもって推薦された者とする

(入 会)

第8条 この連盟の正会員および普通会員になろうとする者は、別に定める会員登録規定により登録申請し承認を受けなければならない。

名誉会員、賛助会員、特別会員に推薦された者は、入会の手続きをせず本人の承諾をもって会員となる。

(会 費)

第9条 この連盟の会費は、全日本ボウリング協会の負担金を含め、別に定める会員登録規定によるものとする。

(資格の喪失)

第10条 この連盟の会員は、つぎの事由によってその資格を喪失する。

1. 退会したとき

2. 成年被後見人、被補佐人および被補助人となったとき、または破産の宣告を受けたとき

3. 死亡もしくは失踪宣告を受け、または会員である法人が解散したとき

4. 除名されたとき

(退 会)

第11条 会員が脱会しようとするときは、理由を付して退会届けを提出しなければならない。

(除 名)

第12条 会員がつぎの各号に該当するときは、理事会の議決を経て、会長がこれを除名することができる。

1. 全日本ボウリング協会ならびにこの連盟の名誉を傷つけ、またはこの連盟の目的に違反する行為があったとき
2. 日本体育協会、全日本ボウリング協会ならびにこの連盟のアマチュア競技者規程に違反したとき
3. この連盟の会員としての義務に違反したとき
4. 会費を滞納したとき

第4章 代 議 員

(代議員)

第13条 この連盟に社会人部、実業団部、ジュニア部および傘下各支部の正会員より選出された代議員をおく。

代議員は、各部ならびに各支部に所属する正会員および普通会員を代表する。

2. 代議員の任期は2年とし、再任を妨げない。補欠により就任した代議員の任期は、前任者の残任期間とする。
3. 代議員の選出方法と定数は、つぎのとおりとする。
各部より1名、各支部より1名とし、支部会員数100名につき1名を加え、最高3名を限度とする。

第5章 役員および職員、顧問

(役 員)

第14条 この連盟に、つぎの役員をおく。

1. 理事20名以上30名以内
うち会長 1名、副会長 若干名、理事長 1名、副理事長 若干名
2. 監事2名または3名

(役員を選任)

第15条 理事および監事は、代議員総会で選任し、理事は互選で会長、副会長、理事長、副理事長および常任理事を定める。

(理事の職務)

第16条 会長は、この連盟を代表する。

2. 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、または会長が欠けたときは、その職務を代理し行なう。
3. 理事長は、会長、副会長を補佐し、理事会の議決に基づき日常の業務に従事し、代議員総会の議決した事項を処理する。
4. 理事は、理事会を組織してこの定款に定めるもののほか、この連盟の代議員総会の権限に属する事項以外の事項を議決し執行する。

(監事の職務)

第17条 監事は、この連盟の業務および財産に関し、つぎの各号の規定する業務を行なう。

1. 連盟の財産の状況を監査し報告する

2. 理事の業務執行の状況を監査する

(役員の任期)

第18条 この連盟の役員の任期は2年とし、再任を妨げない。

2. 補欠または増員により選任された役員の任期は、前任者または現任者の残任期間とする。
3. 役員は、その任期満了後でも後任者が就任するまでは、なおその職務を行なう。

(役員の解任)

第19条 役員がつぎの各号の一に該当するときは、理事会および総会において、おのおの四分の三以上の議決により会長がこれを解任することができる。

1. 心身の故障のため、職務の執行にたえないと認められるとき
2. 職務上の義務違反、その他役員たるにふさわしくない行為があると認められるとき

(職 員)

第20条 この連盟の事務を処理するために必要な職員をおく。

2. 職員は会長が任免する。
3. 職員は有給とする。

(顧問、参与)

第21条 この連盟に名誉会員、若干名の顧問、参与をおくことができる。

2. 顧問、参与は、理事会の推薦により会長が委嘱する。
3. 顧問、参与は、理事会の諮問に応ずる。

第6章 会 議

(会議の種類)

第22条 この連盟の会議をわけて代議員総会、理事会および常任理事会とする。

(代議員総会)

第23条 代議員総会は、これを定時代議員総会と臨時代議員総会の2種とする。定時代議員総会は毎年度開始後50日以内に開き、臨時代議員総会は会長が必要と認めたとき、または代議員の三分の一以上から会議に付議すべき事項を示して代議員総会の招集を請求されたときは、その請求の有った日から30日以内に会長がこれを招集する。

2. 代議員総会を招集するには、会日の10日前までに会議に付議すべき事項およびその内容、日時、場所を記載した書面を各代議員に発するものとする。
3. 代議員総会の議長は、年度の定時代議員総会において選出され、次年度の定時代議員総会で後任者が選出されるまで議長となる。

(代議員総会の議決事項)

第24条 つぎの事項は、代議員総会の議決を経なければならない。

1. 定款の変更
2. 年度の事業計画および収支予算の決定
3. 年度の事業報告および収支決算の承認

4. 役員の選出ならびに解任
5. 財産に関する事
6. この連盟の解散
7. その他特に重要な事項

(定足数、議事)

第25条 代議員総会は、代議員の三分の二以上が出席しなければ開くことができない。ただし、当該議事につき書面をもって、あらかじめ意思を表示したものは出席者とみなす。

2. 代議員総会の議事は、出席代議員の過半数をもってこれを決する。代議員総会における代議員の議決権は、代議員1名につき1とする。
可否同数のときは議長がこれを決する。

(代理出席)

第26条 代議員が代議員総会に出席できないときは、同部同支部会員、または他の代議員に委任して、その議決権を行使することができる。この場合には、書面をもってその代理権を証明しなければならない。

(理事会)

第27条 理事会は、毎年2回以上開催し、会長が招集する。ただし、会長が必要と認めた場合、および理事現在数の三分の一以上から会議に付議すべき事項を示して、理事会の招集を請求されたときは、その請求のあった日から10日以内に理事会を招集しなければならない。

2. 理事会の議長は会長とする。
3. 理事会に付議する事項はつぎのとおりとする。
 - (イ) 定款の変更に関する事。
 - (ロ) 年度の事業計画および収支予算に関する事。
 - (ハ) 年度の事業報告および収支決算に関する事。
 - (ニ) 財産に関する事。
 - (ホ) 委員会の設置ならびに委員の委嘱に関する事。
 - (ヘ) この定款により理事会に付議することを要する事。
 - (ト) その他この連盟の運営上必要なことで、会長が必要と認めて付議する事。

(常任理事会)

第28条 常任理事会は、会長、副会長、理事長、副理事長、常任理事をもって構成し、原則として毎月1回または会長が必要と認めた場合に会長が招集して開催する。

2. 常任理事会に付議する事項は、つぎのとおりとする。
 - (イ) この連盟の運営に関する事。
 - (ロ) 代議員総会および理事会に付議する議案に関する事。
 - (ハ) 代議員総会または理事会において委任された事。
 - (ニ) この定款により常任理事会に付議することを要する事。
 - (ホ) その他会長が必要と認めて付議する事。

(理事会、常任理事会の定足数および議事)

第29条 理事会、常任理事会は理事および常任理事現在数の三分の二以上出席しなければ議事を

開き議決することができない。ただし、当該議事につき書面をもってあらかじめ意思を表示した者は出席者とみなす。

2. 理事会および常任理事会の議事は、この定款に別に定める場合を除くほか、それぞれの出席理事および常任理事の過半数をもって決し、可否同数のときは議長がこれを決する。

(議事録)

第30条 すべての会議には、議事録を作成し議長および出席者の代表2名以上が署名捺印し、永年保存する。

また、議決した事項は、全日本ボウリング協会ならびに会員に通知する。

第7章 専門部および委員会

(部および委員会)

第31条 この連盟の業務を企画実施するために、下記の部ならびに委員会を設置する。

1. (イ) 社会人部
(ロ) 実業団部
(ハ) ジュニア部 (高校部、中学部、ジュニア部)
2. 委員会
 - (1) 総務委員会
 - (2) 競技委員会
 - (3) 指導委員会
 - (4) 広報委員会
 - (5) ジュニア指導委員会
 - (6) 記録委員会
 - (7) 認証委員会
 - (8) アマチュア委員会
 - (9) 審判委員会 (10) 褒賞委員会 (11) レディース委員会

(その他の委員会)

第32条 この連盟に必要があると認めるときは、理事会の議決を経て、その他の専門委員会、および特定の事業を行なうため、特別委員会、合同委員会ならびに小委員会をおくことができる。

(部長、委員長および委員)

第33条 各部長および各委員会の委員長は、理事会において副理事長、常任理事より選任されるものとし、委員は理事、会員の中より選出されるものとする。ただし、アマチュア委員会のみは会長、副会長、理事長、副理事長をもって構成する。

(任期、その他)

第34条 各部および委員の任期は2か年とする。各委員会の組織、権限および議事等については別に定める規則をもって定める。

第8章 会 計

(収 入)

第35条 この連盟の収入は、つぎのとおりとする。

1. 入会金および会費
2. 事業に伴う収入
3. 寄付金品
4. その他の収入

(金銭の管理)

第36条 この連盟の会計は、会長が管理し、現金は理事会の議決によって預金等の確実な方法により、会長が保管する。

(資産の処分)

第37条 この連盟の資産は処分し、または担保に供してはならない。ただしこの連盟の事業遂行上止むを得ない理由があるときは、理事会および代議員総会の議決を経て、その一部に限り処分し、または担保に供することができる。

(経費の支弁)

第38条 この連盟の事業遂行に要する費用は、会費、事業に伴う収入およびその他の収入をもって支弁する。

(事業計画および収支予算)

第39条 この連盟の事業計画およびこれに伴う収支予算は会長が編成し、理事会および代議員総会の承認を受けるものとする。また、承認を受けたのち、全日本ボウリング協会に報告するものとし、事業計画および収支予算を変更した場合も同様とする。

(事業報告および収支決算)

第40条 この連盟の収支決算は、会長が作成し財産目録（貸借対照表）および事業報告、会員の異動状況書とともに監事の意見をつけ、理事会および代議員総会の承認を受けるものとする。

2. この連盟の収支決算に剰余金があるときは、理事会は議決および代議員総会の承認を受け、その一部もしくは、全部を基本財産に編入するか、または翌年度に繰越すものとする。
3. この連盟の事業報告および収支決算は承認を受けたのち、全日本ボウリング協会に報告するものとする。

(会計年度)

第41条 この連盟の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第9章 定款の変更ならびに解散

(定款の変更)

第42条 この定款は、理事会および代議員総会において、おのの三分の二以上の議決を経、更

に全日本ボウリング協会の承認を得なければ、変更することができない。

(解 散)

第43条 この連盟の解散は、理事会および代議員総会において、おのこのの四分の三以上の議決を経、更に全日本ボウリング協会の承認を得なければならない。

(残余財産の処分)

第44条 この連盟の解散に伴う残余財産は理事会および代議員総会において、おのこのの四分の三以上の議決を経、全日本ボウリング協会を経由し、公共事業に寄付するものとする。

第10章 補 則

(細 則)

第45条 この定款施行についての細則は、理事会および代議員総会の議決を経て、別に定める。

第46条 この定款は平成15年4月1日より施行するものとする。

附則

この定款は平成18年5月31日より改正施行するものとする。

岩手県ボウリング連盟

会 員 登 録 規 定

岩手県ボウリング連盟

会員登録規定

定款第3章に基づき、会員の登録規定を定める。

(重複登録の禁止)

第1条 この連盟に登録し承認されたすべての会員はこの連盟に所属し、他の連盟に重複し登録することはできない。

第1章 正会員

第1節 個人正会員

(個人正会員)

第2条 個人正会員は、この連盟の趣旨、目的に賛同し、所定の登録申請手続を経て、承認され入会した個人とする。

(構成)

第3条 この連盟の個人正会員は支部に属し、社会人部を構成し、競技運営上は、全日本社会人ボウリング連合の構成員となる。

(移籍)

第4条 この連盟の個人正会員は、その在住、在勤、在学するところを変更した場合、他の連盟の社会人部に移籍することができる。

移籍しようとする個人正会員は、速やかに支部を通じ所定の移籍届を提出し、承認を受けなければならない。

第2節 実業団会員

(実業団会員)

第5条 実業団会員は、この連盟の趣旨、目的に賛同し、所定の登録申請手続を経て、承認され入会した実業団とする。

(実業団会員の登録手続および登録資格)

第6条 この連盟に所属する実業団会員の登録手続および登録資格は、つぎのとおりとする。

1. 登録手続

実業団登録申請書に、登録メンバーを記入し、メンバー各人の健康保険証の表紙コピーまたは給与証明書を添付するか、あるいは法人人事責任者の在籍証明書を添付し申請する。

2. 登録資格

岩手県に所在する団体、法人で、つぎの資格を有するもの。

(イ) 官公庁、団体。

(ロ) 株式、合同、合資、合名、有限会社の法人。

(ハ) 協同組合等は、財団法人、社団法人のみとし、その登録メンバーは、法人事務所専従者に限る。

(ニ) 実業団会員は、同一の法人または団体の役員および社員、職員で構成されたメンバーで、5名以上を有するものとする。

(構成)

第7条 この連盟において、実業団部を構成し、競技運営上は全日本実業団ボウリング連合の構成員となる。

(資格の喪失)

第8条 実業団会員は、その登録メンバーが5名より少なくなった場合には、その資格を失う。ただし、この場合所定の手続を経て、承認された登録メンバーに限り補充できるものとする。また、当該実業団会員の社員、職員でなくなった場合、または、転勤等により登録メンバーでなくなった場合には、実業団会員メンバーとしての資格を失うものとする。

第3節 高等学校登録会員

(高等学校登録会員)

第9条 高等学校登録会員は、この連盟の趣旨、目的に賛同し、所定の登録申請手続を経て、承認され入会した高等学校とする。

(高等学校登録会員の登録手続および登録資格)

第10条 この連盟に所属する高等学校登録会員の登録手続および登録資格は、つぎのとおりとする。

1. 登録手続

高等学校登録申請書に登録メンバー名簿を添付して申請する。

2. 登録資格

学校教育法同施行細則の「高等学校設置基準」によって設置された高等学校とする。

(イ) 登録メンバーは、18歳未満の在籍生徒とする。

(ロ) 登録メンバーは、学校により承認されたメンバーで、数の制限はない。

(ハ) 登録メンバー名簿は、毎年提出すること。

(ニ) この連盟の高校生会員と重複してメンバー登録することはできない。

第4節 高校生会員およびジュニア会員

(高校生およびジュニア会員)

第11条 高校生会員およびジュニア会員は、両親または親権者および雇用責任者が、この連盟の趣旨、目的に賛同し、所定の登録申請手続を経て、承認され入会した高校生およびジュニアとする。

(高校生会員およびジュニア会員の資格)

第12条 この連盟に所属する高校生会員およびジュニア会員の登録資格は、登録申請時に満18歳未満の者とし、登録申請に際してはつぎの必要書類を添えて申請し、承認された個人とする。

1. 両親または親権者および雇用責任者の入会承諾書

2. 年齢を証明できる書類
3. その他必要とするもの

(構成)

第13条 この連盟の高校生会員およびジュニア会員は、支部（クラブ）に所属し、この連盟のジュニア部を構成する。

(資格の喪失)

第14条 高校生会員およびジュニア会員は、満18歳に達したときその資格を失う。

(資格の継続と移籍)

第15条 高校生会員およびジュニア会員の資格の継続と移籍は、つぎのとおりとする。

1. 満18歳に達したとき、この連盟内の個人正会員、実業団会員メンバーとして、その年度内は自動的に正会員として資格を継続できる。
2. 満18歳に達したとき、所定の手続を経て、他の部ならびに他の連盟に移籍することができる。

第2章 普通会員

(個人普通会員)

第16条 個人普通会員は、この連盟の趣旨、目的に賛同し、所定の登録申請手続を経て、承認され入会した個人とする。

(構成)

第17条 この連盟の個人普通会員は、支部（クラブ）に属し、この連盟の社会人部の構成員となる。

(大会への参加資格)

第18条 この連盟の個人普通会員は、支部（クラブ）および連盟主催、共催等の競技会、リーグ等に参加することができる。全日本、地区等の県外の大会については正会員の登録をし、資格を取得しなければ参加することはできない。

ただし、大会開催要項に特別な記載がある場合には、当該要項に基づき参加することができる。

(会員の継続と移籍)

第19条 この連盟の個人普通会員は、継続手続により資格を継続できる。また、在住在勤するところを変更した場合に移籍することができるが、新たに所定の登録申請手続により承認を得るものとする。

いかなる場合にも、重複して登録することはできない。

(記録の公認と褒賞)

第20条 この連盟の普通会員の記録は公認され、競技褒賞についても全日本ボウリング協会「競技褒賞授与に関する細則」一般競技褒賞の適用を受けることができる。

第3章 会 費

(会 費)

第21条 この連盟の会費は、全日本ボウリング協会に納入する負担金を含め、つぎのとおりとする。

1. 正会員の会費（全日本ボウリング協会負担金、連盟費）

(イ) 個人正会員 年額 1 名 7,000 円

(負担金 1,500 円、連盟費 5,500 円)

(ロ) 実業団会員 年額 35,000 円

(負担金 7,500 円、連盟費 27,500 円)

ただし 5 名を 1 口とし、1 名増やすごとに、
負担金 1,500 円、連盟費 5,500 円の合計 7,000 円を
増すものとする。

(ハ) 高等学校登録会員 年額 1 校 5,000 円

(負担金 3,000 円、連盟費 2,000 円)

登録メンバーは、数の制限を設けず、それぞれ会員証を交付する。

(ニ) 高校生会員およびジュニア会員 年額 1 名 500 円

(負担金 300 円、連盟費 200 円)

2. 普通会員の会費（全日本ボウリング協会負担金、連盟費）

年額 1 名 2,000 円

(負担金 1,000 円、連盟費 1,000 円)

同一年度内に正会員に移籍登録するときには、正会員の会費を納入すること。また、同一年度内に他の支部（クラブ）に移動、移籍したときには、新たに当該会費を納入するものとする。

3. 会員は、毎年 3 月 31 日までに次年度の会費を納入することにより、自動的に会員の資格を継続できる。ただし、高等学校登録会員、高校生会員およびジュニア会員は、毎年 4 月 30 日まで継続手続を延長することができる。

4. 正会員が、同一年度内に他の連盟の同一正会員へ移籍したときは、当該連盟の連盟費を添えて手続をしなければならない。ただし、当該年度の全日本ボウリング協会の負担金は納入する必要はない。同一年度内、個人正会員から実業団会員メンバーに、あるいは実業団会員メンバーから個人正会員に移動する場合には、負担金ならびに連盟費を新たに納入しなければならない。

5. 名誉会員の会費は免除する。

6. 特別会員の会費は別に定める。

7. 既納の会費は、いかなる事由があっても返還しない。

第4章 補 則

(細 則)

第22条 この規定は、平成15年4月1日より施行する。

附則

この規定は、平成18年5月31日より施行するものとする。

財団法人日本体育協会スポーツ憲章

(平成20年9月10日施行)

【スポーツの意義】

スポーツは、人々が楽しみ、より充実して生きるために、自発的に行う身体活動である。生涯を通じて行われるスポーツは、豊かな生活と文化の向上に役立つものとなる。

【スポーツを行う者の心得】

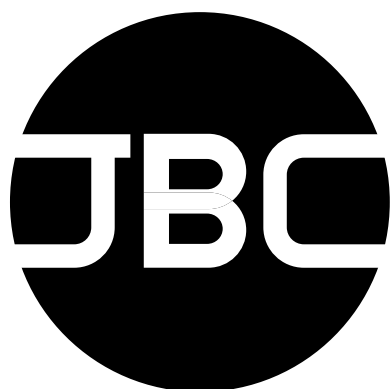
- ◎スポーツを愛し、楽しむために、自発的に行う。
- ◎競技規則はもとより、自らの属する団体の規則を遵守し、フェアプレーの精神を尊重する。
- ◎常に相手を尊重しつつ、自己の最善を尽くす。
- ◎アンチ・ドーピングに関する規程を遵守する。
- ◎スポーツを行うことによって、自ら物質的利益を求めない。
- ◎スポーツによって得た名声を、自ら利用しない。

【スポーツ精神】

自らのスポーツを行うことに意義と価値をもち、スポーツの競技規則、スポーツマンシップやフェアプレーに代表されるマナー、エチケットなどのスポーツ規範に基づき、生涯を通じて自己の能力適性等に応じて、主体的・継続的にスポーツの楽しさや喜びを味わうことを意味するものとする。

ボウリング規定集

(ボウリング競技規則)



財団法人 全日本ボウリング協会

JAPAN BOWLING CONGRESS

ボウリング施設，設備，用具の規格

第1章 総 則

第1条 ボウリング施設，設備，用具はすべてF. I. Q世界テンピンボウリング連盟（WTBA）の国際規格に従うものとし，以下示す規格による。

ただしこれらに該当しない新規のものについては，認証規定第4条を適用する。

第2章 ボウリングレーン

第2条 材 質

ボウリングのレーン，ガター，キックバックおよびアプローチはすべて木製および，他の承認された材質で作成されたものとする。

第3条 アプローチ

ファールラインの後方にアプローチを設ける。

アプローチの長さは，ファールラインを含まないで4.572メートル（15フィート）を最少限とする。

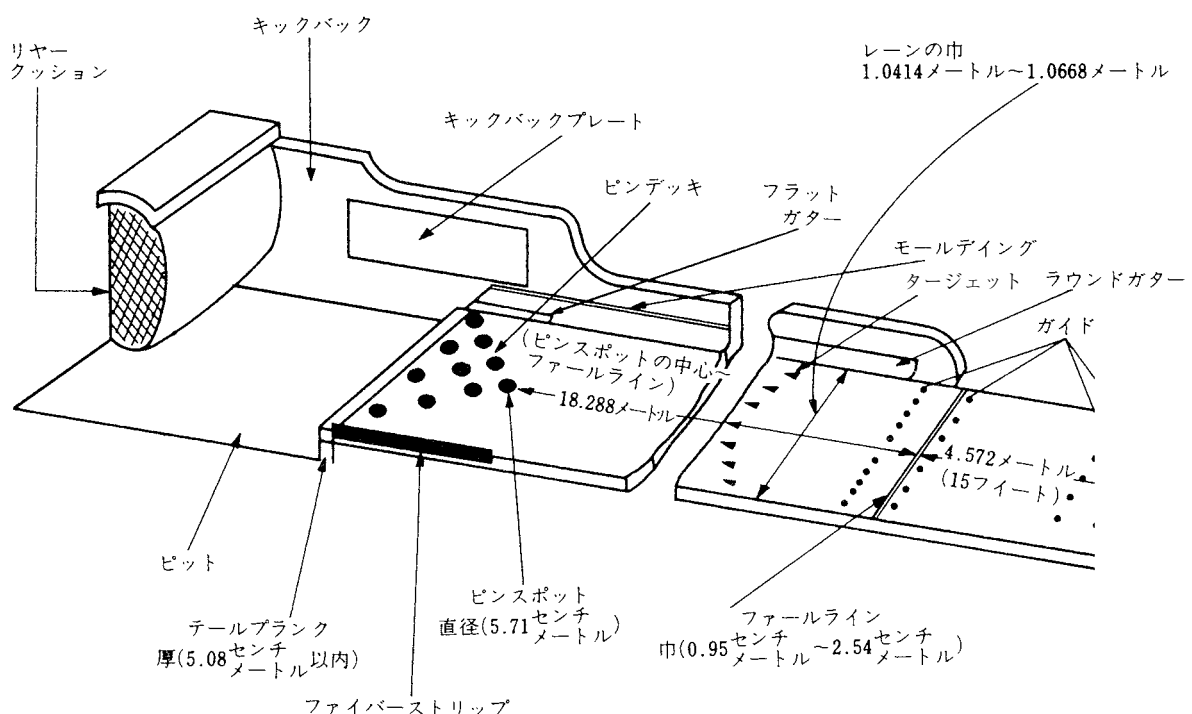
その表面は滑らかで水平にし，6.3ミリメートル（1/4インチ）以上の凹凸があってはならない。

第4条 ファールライン

ファールラインの幅は0.95センチメートル（3/8インチ）以上2.54センチメートル（1インチ）以内とし，明瞭にしるしをつけるか，またはレーン内に埋込むものとする。

ファールラインはレーンから投球者の手の触れる範囲にある壁や柱まで延長するものとする。

ボウリング各部の名称



第5条 ファール審判設備

すべて公認の競技場では、ファール判定のための判定器を設備するものとし、この設備のない場合には、ファール審判員が全ファールラインを直接見透せる場所に審判員席を設けるものとする。

第6条 レーン

(イ) レーンの長さ

レーンの長さは、ファールラインからピット（テールプラークを含まない）まで19.1563メートル（62フィート10インチ3/16）とし、その許容範囲は1.27センチメートル（1/2インチ）以内とする。

ファールラインから1番ピンスポットの中心までは、18.288メートル（60フィート）とし、その許容範囲は1.27センチメートル（1/2インチ）以内とし、1番ピンスポットの中心からピット（テールプラークを含まない）までは86.83センチメートル（34インチ3/16）とする。

(ロ) レーンの幅

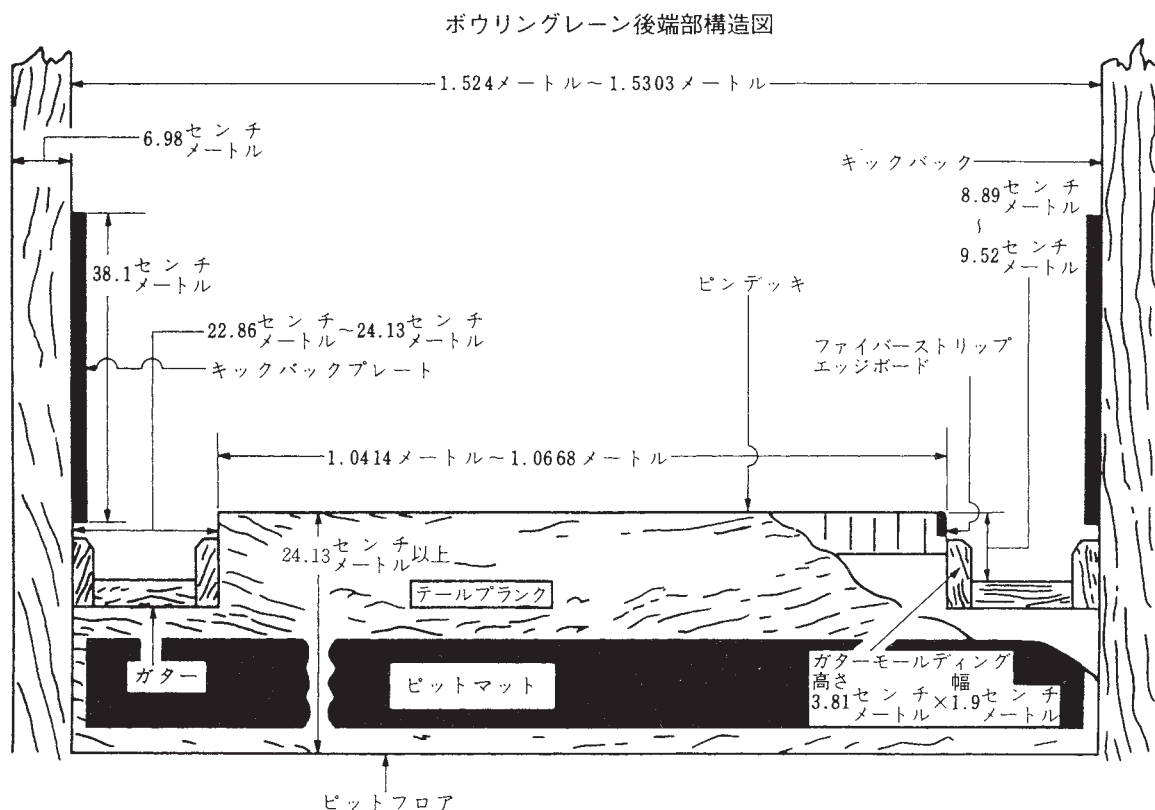
レーンの幅は1.0414メートル（41インチ）以上1.0668メートル（42インチ）以内とし、レーンにガターを加えた幅は1.524メートル（60インチ）以上、1.530メートル（60インチ1/4）以内とする。

(ハ) 表 面

表面には、連続した凹凸があってはならない。

横の水平度は、左右1.0ミリメートル（40/1000インチ）以上の傾斜があってはならない。

また、凹みの深さで1.0ミリメートル（40/1000インチ）以上の傾斜があってはならない。



第7条 ピンデッキ

ピンデッキは、全体が堅木または、WTBAの承認された他の材料でなければならない。

ファイバーストリップは、厚さ6.3ミリメートル（1/4インチ）幅3.81センチメートル（1インチ1/2）以内の板でこれをピンデッキの後端からファールライン方向にガターに接したピンデッキの両側面に取付けるものとする。取付は、厚さ6.3ミリメートル（1/4インチ）の面をピンデッキの表面に現わし、その縁は3.9ミリメートル（5/32インチ）半径の丸みをつけるものとする。この丸みは、リサーフェーシング（表面の補修手入）の際、変化があった場合には、これを原形に複するよう修正しなければならない。

第8条 テールブランク

幅5.08センチメートル（2インチ）以内のテールブランクをレーン後端に取付けることができる。

ただし、7、8、9、10番ピンスポットの中心線からレーンの後端までの平らな面の距離は、テールブランクを含めて12.7センチメートル（5インチ）以上あってはならない。

第9条 ガター

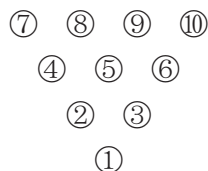
ガターは、レーンの両側に設け、ファールラインからピットまでレーンに平行して取付けるものとする。

ガターの幅は、22.86センチメートル（9インチ）以上24.13センチメートル（9インチ1/2）以内とし、両ガターにレーンを加えた幅は1.524メートル（60インチ）以上1.5303メートル（60インチ1/4）以内とする。ガターの探さは、1番ピンの前方38.1センチメートル（15インチ）のところ角形の底とし、この部分ではゆるやかに傾斜させ堅固にこれを取付けなければならない。ガターがピットに入るところではレーンの表面から測って、最も浅いところで8.89センチメートル（3インチ1/2）以上、最も深いところで9.52センチメートル（3インチ3/4）以内となるように取付けるものとする。

帯状のモールディングは各ガターの規定以外の部分は凹型で木および合成材料でなければならない。また取付時にガターの断面の中心で計測し、最低4.76センチメートル（1インチ7/8）の探さを持たなければならない。低い隅の部分に堅固に取付けるものとし、1番ピン前方38.1センチメートル（15インチ）のところ、高さ2.22センチメートル（7/8インチ）以内、幅1.9センチメートル（3/4インチ）を超えてはならない。また緩やかに高さが3.8センチメートル（1インチ1/2）になるよう取付けるものとする。

第10条 ピンスポット

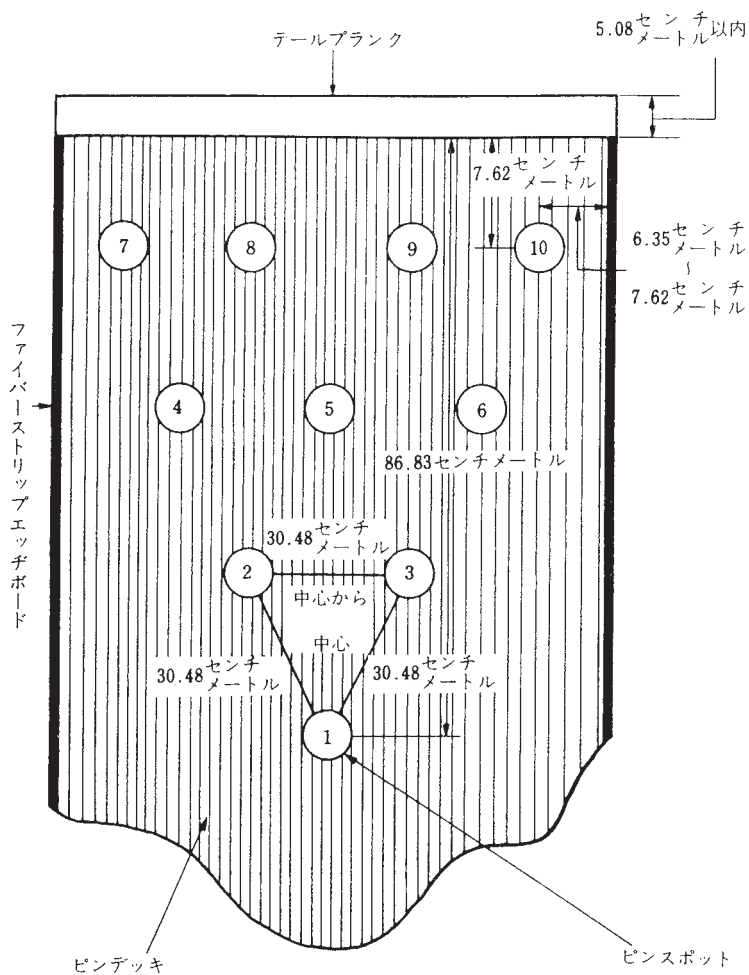
ピンスポットは、ピンが配置される位置を示すものでレーンの上に明瞭に画く（スタンプまたはプリント）か、またはレーンに埋込むものとし、その直径は5.71センチメートル（2インチ1/4）、各ピンの間隔は中心から中心まで30.48センチメートル（12インチ）とする。各ピンおよびスポットは図に示すように番号で呼称するものとする。



7、8、9、10番のピンの中心からピットまで（テールブランクを含まない）は、7.62センチメートル（3インチ）とし、7番および10番のピンの中心から各々の側のピンデッキの側面の端までは6.35センチメートル（2インチ1/2）以上、7.62センチメートル（3インチ）以内とする。

7番および10番のピンスポットの中心から、各々の側のレーンおよびガターの幅を加えた

ピンスポット配置図



長さは30.48センチメートル（12インチ）以上、30.79センチメートル（12インチ1/8）以内とする。1番のピンスポットは、レーンの両端および両側のキックバックから等距離にあり、ピンスポットの中心から両側のキックバックまでは、各々76.2センチメートル（30インチ）以上なくてはならない。また、1番ピンスポットの中心から、最後列のピンの中心を結んだ線までの距離は79.21センチメートル（31インチ3/16）、ピット（テールプラックを含まない）までは86・83センチメートル（34インチ3/16）とする。

第11条 ピンセッティング装置

オートマチックピンセッターは、すべてピンが適正に配置されなければならない。

第12条 キックバック

キックバックは、1 番ピン前方38.1センチメートル（15インチ）のところから、後端のリヤクッションのところまでレーンに平行して設けるものとし、その高さはレーンの表面から43.18センチメートル（17インチ）以上60.96センチメートル（24インチ）以内とする。両側のキックバックの間の距離は1.524メートル（60インチ）以上、1.5303メートル（60インチ1/4）以内とする。

第13条 キックバックプレート

キックバックには、厚さ4.7ミリメートル（3/16インチ）以内の堅いファイバーの板を取付けることができる。その他のものを取付けることができない。

第14条 ピット

ピットマットからレーンの上面までは24.13センチメートル（9インチ1/2）以上とする。

ピットの奥行は、レーンの後端（テールプランクを含む）から、クッションの面まで63.5センチメートル（25インチ）以上とする。

第15条 リヤークッション

リヤークッションは、黒色の材料で覆うものとし、ピンがレーンに跳ね返らないようにしなければならない。

第16条 標 識

レーンおよびアプローチの表面の標識は、次のとおりとする。

ファールラインの前方3.6576メートル（12フィート）から4.8768メートル（16フィート）の間のところに、最大限7個のタargeットをレーンの上にするすかまたは埋込むことができる。タargeットの形状は1つ以上のダウエル、ダート、ダイヤモンド、三角または、矩形に統一されたもので、その底辺は3.172センチメートル（1インチ1/4）以内、高さは15.24センチメートル（6インチ）以内とする。各タargeットは均一な形状とし、等距離間隔に配置するものとする。ファールラインの前方1.8288メートル（6フィート）から2.4384メートル（8フィート）の間のところにファールラインに平行して最大限10個のガイドを一線上にするすかまたは埋込むことができる。各ガイドは均一な円形とし、その円の直径は1.9センチメートル（3/4インチ）以内とする。

ファールラインから後方5.08センチメートル（2インチ）から15.24センチメートル（6インチ）の間のところ、および3.3528メートル（11フィート）から3.6576メートル（12フィート）の間のところ、4.2672メートル（14フィート）から4.572メートル（15フィート）の間のところに、ファールラインと平行して一線上にそれぞれ最大限7個のガイドをしるすか、または埋込むことができる。

各ガイドは直径1.9センチメートル（3/4インチ）以内の円形で均一なものでなければならない。

すべて埋込む標識は、木、ファイバーまたはプラスチック製とし、レーンおよびアプローチの表面と平らでなければならない。

スタンプする標識は、最初木に直接スタンプしその上にラッカー、シェラックまたは類似の透明材料で塗装するものとし、一競技場の各レーンについては形状および寸度は共に同一としなければならない。

第17条 裏面の補修仕上げ（リサーフェーシング）

公認の競技に使用する、レーン、アプローチは24ヵ月以内に表面を補修し再仕上げしなければならない。

この場合には、塗装またはその他の材料を完全に除去し、凹凸その他これに類する表面の不良部分を削除し、水平度を正しくし、全表面を再びラッカー、シェラックまたは同様の無色透明な材料で塗装するものとする。

仕上げ後において、レーンおよびアプローチの表面は第3条および第6条に規定する水平度がなければならない。

第18条 補修の表示

補修が終わったレーンには補修を行った工事者の名称と、補修を行った年月日を明示することとし、その表示は少なくとも3枚の板にまたがり7番ピン側に塗装する以前の木部の上に明確に表示するものとする。

第19条 レーンの表面保護のためのレーンコンディショナー等の塗布は、各レーン均一とし、

レーン保護の目的以外に故意に塗布の方法を変えてはならない。レーンコンディショナー、その他如何なる方法においても故意に得点を出すように工作した場合、当該記録はすべて公認されない。

第3章 ボウリングピン

第20条 材 質

ボウリングピンは、その素材として単一または張り合わせの、良質で新しい楓を使用するものとする。張り合わせによる場合には、その各片を縦の軸と平行にして張り合わせ、必要のバランスを失わないようにしなければならない。但し、材質については、他の材質を使用してもよいが、楓材と同等の条件を満たすものとする。

第21条 重 量

ピン1本の重さは1,531グラム（3ポンド6オンス）以上、1,645グラム（3ポンド10オンス）以内とする。

ただし、1セットのピンは、構成、材料、仕上げラベルおよびネックマーキングを含め外観上、均一でなければならない。

第22条 重 心

ピンの重心位置は、底部より測定して15.08センチメートル（5インチ60/64）以内、14.28センチメートル（5インチ60/64）以上の位置にななければならない。

第23条 含水率

すべてのピンは、製造時において含水率は6%以上12%以内とする。張り合せて造ったピンの含水率は張り合せ時に個々の板に2%以上の差があってはならない。

第24条 標識および塗装

ピンの塗装は、ネックマーキング、識別表示、名称を除き、白色でなければならない。

塗装膜の厚さは1.0ミリメートル（0.004インチ）以下とする。

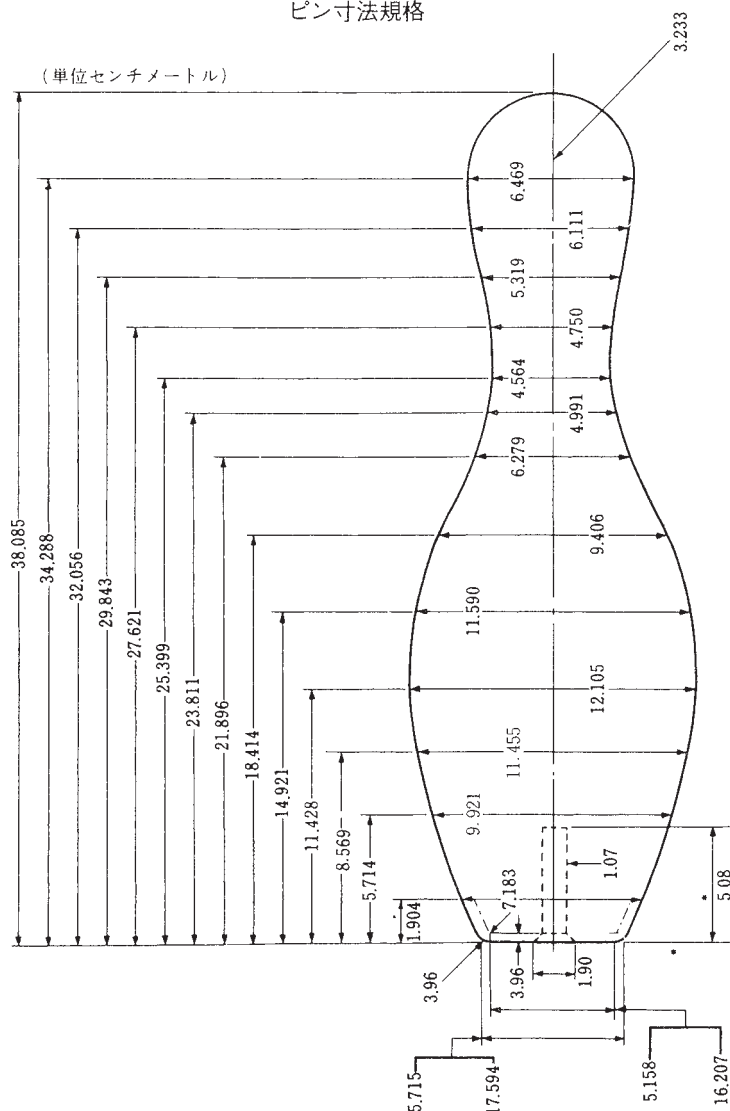
第25条 形状、寸度

ピンの高さは38.085センチメートル（15インチ）としその許容範囲は、上下0.8ミリメートル（2/64インチ）とする。

胴体各部の直径は次の通りとする。

部分	直径
底（角を丸めないとき）	5.714センチメートル
底（角を丸めたとき）	5.157 "
底からの高さ1.904センチメートルのところ	7.183 "
" 5.714 "	9.921 "
" 8.569 "	11.455 "
" 11.428 "	12.105 "
" 14.921 "	11.590 "
" 18.414 "	9.406 "
" 21.896 "	6.279 "
" 23.811 "	4.991 "
" 25.399 "	4.564 "
" 27.621 "	4.750 "
" 29.843 "	5.319 "

ピン寸法規格



// 32.056 // 6.111 //

底からの高さ34.288センチメートルのところ6.469センチメートル

以上の直径で許容範囲の大，小は各々0.787ミリメートルとする。ピンの頭部は半径3.233センチメートル（1.273インチ）の均一な球の弧とし，その許容範囲は0.787ミリメートル（0.031インチ）とする。ピンの表面の線は全体がなだらかな曲線となるようにしなければならない。

ピンの底は平らにし，中央に直径1.07センチメートル（0.422インチ）の穴をあけ，その周囲を幅1.9センチメートル（3/4インチ）の輪形とする。ピンの底にはプラスチックまたはナイロン製のアタッチメントを取付けるものとし，アタッチメントと底木部は平らであり凹凸があってはならない。また，その外周縁は半径3.96ミリメートル（5/32インチ）の円形に丸めるものとする。

その許容範囲は0.787ミリメートルとする。丸めた部分を除いた底の平らな部分の直径は5.08センチメートル（2インチ）以上とする。

第26条 表面硬度

ピン各部における表面硬度は平均したもので規定の範囲内にあるものとする。

第27条 ピンの補修

ピンの汚れや、ささくれを除くためのスチールウールまたは、サンドペーパーを使用することは差支えないものとする。

再塗装をするときは、塗装の厚さが規定以上にならないようにしなければならない。

表面は特に凹みや、塗装のはがれができたり、元のラベルやネックマーキングを取りかえたり、別のラベルやマーキングをつけたピンは公認の競技には使用できないものとする。

また、公認の競技に使用するピンはなるべく新しいもので300ゲーム使用以内のものではなくてはならない。

第4章 ボウリングボール

第28条 材 質

ボウリングボールは、非金属性のものでなければならない。

第29条 重 量

ボールの重量は7.257キログラム（16ポンド）以下でなければならない。

第30条 寸 度

ボールの円周は、最大68.58センチメートル（27インチ）以内、最小67.828センチメートル（26.704インチ）以上で、直径は最大21.831センチメートル（8.595インチ）以内、最小21.59センチメートル（8.5インチ）以上で、直径各面同一でなければならない。

ただし、この場合の円周の許容範囲は±0.127ミリメートル（0.005インチ）とする。

第31条 バランス

ボウリングボールは、指穴をあけたのち、つぎに示す6つの側面でバランスがその範囲内にななければならない。

1. 4.536キログラム（10ポンド）以上、7.257キログラム（16ポンド）以下のボール

（イ）ボールの頭部（指穴のある側）と底部（指穴の反対側）の差が85.05グラム（3オンス）以内とする。

（ロ）指穴の左右の側および前後の側の差は、28.35グラム（1オンス）以内とする。

（ハ）親指穴のないドリルされたボールは、上下、左右、前後の差は、28.35グラム（1オンス）以内とする。

（ニ）親指以外の指穴のないドリルされたボールは、上下、左右、前後の差は、28.35グラム（1オンス）以内とする。

（ホ）指穴のない使用ボールの上下、左右、前後の差は、28.35グラム（1オンス）以内とする。

2. 3.629キログラム（8ポンド）以上、4.536キログラム（10ポンド）未満のボール

（イ）ボールの頭部（指穴のある側）と底部（指穴の反対側）の差が56.70グラム（2オンス）以内とする。

（ロ）指穴の左右の側および前後の側の差は、21.26グラム（3/4オンス）以内とする。

（ハ）親指穴のないドリルされたボールは、上下、左右、前後の差は、21.26グラム（3/4オンス）以内とする。

（ニ）親指以外の指穴のないドリルされたボールは、上下、左右、前後の差は、21.26グラム（3/4オンス）以内とする。

（ホ）指穴のない使用ボールの上下、左右、前後の差は、21.26グラム（3/4オンス）以内とする。

3. 3.629キログラム（8ポンド）未満のボール

上下，左右，前後いずれの差も21.26グラム（3/4オンス）以内とする。

第32条 外 観

ボールの表面は，ボールを持つための指穴は5穴を限度とし，ほかに特別の凹凸や溝があつてはならない。

ただし，バランスをとるため，通気のためにあけられる一つの穴は直径で0.635センチメートル（1/4インチ）を越えてはならない。また，標識，文字番号その他使用により生じた偶然の傷は差支えないものとする。なお，バランスのための穴の直径は，3.175センチメートル（1インチ1/4）以内までとし，原則としてボールのローリングライン上にあけてはならない。

第33条 ボールには，可動の装置をつけまたは工作することはできない。ただし，指穴間の距離や，指穴と親指穴間の距離を変えたり，指穴や親指穴の大きさ，探さ等を変えるような装置は，競技中にその位置が動かないように固定でき，ボールからその装置を取り除くことが装置をこわさなければできないような構造のものは差支えないものとする。ボールは手により投げられるものであるが，手もしくは手の主要部を失った競技者が投球できるように工作された装置は使用できるものとする。

第34条 ボールの表面硬度は硬度72度（デュロメーターD）以上とする。また，ボールは製造されたのち故意に薬品またはその他の方法によりその表面の硬さを変えるような加工したものを使用することはできない。

第35条 (1) この規格は昭和49年2月24日よりこれを実施する。

(2) この規格は昭和55年1月1日よりこれを実施する。

(3) この規格は昭和62年4月1日よりこれを実施する。

(4) この規格は平成2年10月20日よりこれを実施する。

(5) この規格は平成8年4月1日よりこれを実施する。

(6) この規格は平成14年11月12日よりこれを実施する。

(7) この規格は平成18年4月1日よりこれを実施する。

ボウリング競技規則

競技規定 競技会規定 リーグ規定 選手権競技会規定

昭和49年 8 月24日制定

昭和50年 4 月20日一部改正

昭和59年10月 1 日一部改正

昭和62年 8 月10日一部改正

平成 8 年 4 月 1 日一部改正

平成10年10月 8 日一部改正

平成13年 4 月 1 日一部改正

平成18年 4 月 1 日一部改正

平成20年 5 月25日一部改正

平成21年 5 月31日一部改正

ボウリング競技規則

この規則は、国際柱技者連盟（F. I. Q）世界テンピンボウリング連盟（FIQ, WTBA）の規則にもとづき制定し、日本におけるボウリング競技規則とする。

第 1 章 競技規定

（ゲームの構成）

第 101 条 ボウリングの 1 ゲームは、10 個のフレームをもって構成する。

競技者はストライクの場合を除き、それぞれのフレームで 2 回ずつ投球する。但し、第 10 フレームがストライクまたはスペアーの場合には、サービスフレームとし、ストライクの場合は、更に 2 回投球でき、スペアーの場合には 1 回投球できる。

ゲームの成績は、適正な投球によって、倒されたピンの数をもって計算し、10 個のフレームの合計点によって、これを表す。

適正に投球されたボールとは、競技者の持っているボールが、手から放れ、ファールラインを越えたものを投球されたボールという。

（ストライク）

第 102 条 第 1 回の投球によって、完全に配置された 10 本のピンを全部倒した場合は、これをストライクという。

ストライクの場合は、そのフレームの小さな枠の左に（×）印をつけて表す。

ストライクの場合、そのフレームのピンの得点は、競技者が更に次のフレームの得点が増加されるので次のフレームの投球を終わるまで空欄としておく。

ストライクに続いて、次のフレームでスペアーの場合には、その得点は 20 となる。

（ダブル）

第 103 条 続けて 2 回ストライクの場合は、これをダブルという。

この場合、第 1 のストライクのフレームにおける得点は、競技者が更に次の投球を終るまで空欄としておく。

ダブルの場合、最初のストライクの得点は、20 にそれに続く第 3 のフレームの第 1 球で倒されたピンの数を加える。従って、第 2 のストライクに続いて次の第 1 球で 9 本のピンを倒した場合には、第 1 ストライクのフレームには 29 を加える。

（トリプルまたはターキー）

第 104 条 続けて 3 回ストライクの場合は、トリプルまたはターキーという。

この場合、第 1 のストライクのフレームにおける得点は 30 となる。

このようにして 10 フレーム全部について連続 12 回のストライクのときは、そのゲームは 300 の得点となりパーフェクトゲームという。

（スペアー）

第 105 条 どのフレームにおいても、第 2 回の投球によってピンの全部を倒した場合は、これをスペアーという。

スペアーの場合は、そのフレームの小さな枠の右に（／）印をつけて、これを表す。第 1 回の投球で倒されたピンの数は、スペアーをとる前に小さな枠の左に記入し、そのフレームの得点は競技者が次のフレームで第 1 回の投球を終るまで空欄とし、次の第 1 球の得点をスペアーとしての得点 10 に加え、その合計をもって記入する。第 10 フレームにおいて

スペアーの場合は、サービスフレームとして続いて第3回を投球できる。

(エラー)

第106条 1つのフレームで2回投球し、10本のピンを全部倒すことができなかった場合は、これをエラーという。

エラーの場合には、第1回の投球で倒したピンの数を小さな枠の左に記入し、第2回の投球で残ったピンを1本も倒さなかったとき小さな枠の右に(－)印をつけて表す。また、第2回の投球で倒したピンの数は小さな枠の右に記入し、そのフレームの得点は第2回の投球が終了すれば直ちに合計し記入する。

(スプリット)

第107条 第1回の投球によって、1番ピン(ヘッドピンともいう)およびその他いくつかのピンが倒れ、2本以上のピンが次のような状態に残った場合はスプリットという。

1. 残っているピンの中間のピンが少なくとも1本倒れたとき、例えば7と9あるいは3と10。
2. 残っているピンのすぐ前のピンが少なくとも1本倒れたとき、例えば5と6。

スプリットの場合は、そのフレームの小さな枠の左に(○)印をつけて表す。

第1回の投球によって倒したピンの数は、スプリット記号の(○)印の中に記入する。

第2回の投球により、スペアーとならなかったときは、倒したピンの数を小さな枠の右に記入し、この場合はそのフレームの得点は第2回の投球後、直ちに合計し記入する。

(ファール)

第108条 第1回あるいは第2回の投球のとき、ファールをした場合、第1投球のファールは左の枠、第2投球のファールは右の枠の中へ(F)印をつけてこれを表す。

フレームの第1回の投球でファールをした場合には、倒したピンは全部立て直され、第2回の投球で倒したピンだけをそのフレームで得点として計算する。

もし、第1投でファールをし、第2投で全部倒した場合は、スペアーとなり、第2投で全部倒さなかった場合はエラーとなる。

第2投でファールをおかした場合には、第1投で倒したピンの数だけをそのフレームで計算する。

第10フレームにおいて、第1投でファールをし、第2投で全部のピンを倒してスペアーとなった場合は、サービスフレームとして第3投を投げ、このフレームの計算はスペアーに第3投で倒したピンの数を加えたものとなる。

第10フレームで第3投がファールとなった場合は、最初の2回の投球により倒したピンの数だけを計算する。

第109条 (ガター)

第1回の投球でボールがガターに入った場合は、左の枠の中に(G)印をつけてこれを表す。

スペアーをとるために投球した第2投がガターに入った場合は、右の枠の中に(－)印をつけてこれを表す。

ガターの場合、得点は0となるが、第2投により10本のピンを全部倒した場合はスペアーとして計算する。

スコアの記入例

フレーム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	×	×	×	⑧	F	8	9	F	×	8
得点	30	58	78	88	96	105	123	131	140	168

第110条（競技の方式および投球の順序）

競技の方式は、デュアルレーン方式（アメリカ方式）・シングルレーン方式（ヨーロッパ方式）・ベーカー方式・マッチプレー方式・ラウンドロビン方式（総当たり戦方式）がある。

1. デュアルレーン方式（アメリカ方式）

競技者は、1対のレーンで1フレームずつを1つのレーンで投球し、次のフレームは同様に隣のレーンで投球し、各フレーム交互に2つのレーンを使用し、各レーンで5フレームずつを投球してゲームを完成する。引き続く次のゲームは、前のゲームを完了したレーンから開始する。ただし、各ゲームごとに他の異なったレーンを使用することを決めて競技する場合は、別に定める。

2. シングルレーン方式（ヨーロッパ方式）

競技者は、1つのレーンで投球してゲームを完成する。1ゲームごとに異なったレーンを使用する場合には、順次右隣のレーンに移動して次のゲームを実施し、競技ゲーム数に応じ、これも同数のレーンを使用する。競技ゲーム数の2倍にレーンを使用する場合には、各競技者は半ゲームずつを各レーンで投球し、第1フレームと第6フレームとで次々と新しいレーンに移動する。

3. ベーカー方式

この競技の方式は、すべてチーム戦とし、1つのレーンであらかじめ決められた投球順序に従い、1フレームずつ交代で投球し、10フレームを終了する。

4. マッチプレー方式

イ) 競技者は、1度に2フレームを投球する。

ロ) ただし、左側レーン（奇数レーン）でスタートする競技者は、1フレームだけ投球する。

ハ) その後、両競技者とも最初に右側レーン（偶数レーン）で投球し、その後続けて左側レーンで、もう1フレームを投球する。

ニ) 先に投球を始めた競技者は第10フレームを右側レーンで投球して自分のゲームを完成する。

ホ) マッチプレーが2ゲーム以上からなる場合は、次のゲームでは競技者は前のゲームを完了したレーンから開始する。

5. ラウンドロビン方式（総当たり戦方式）

イ) ラウンドロビンにおいては、予選の方式によりラウンドロビン競技に進出する競技者の人数が決定する。

ロ) 各競技とも他のすべての競技者と1ゲームマッチの競技を行う。

ハ) 最終ポジションマッチを加えることもできる。この場合のポジションマッチの組合せは、競技者がそれまでのマッチゲームを終了した時点の順位によって決定する。

ニ) ポジションマッチの前までの2－3位、4－5位、6－7位などに同位が生じた

場合は、次の競技者を上位とする。

- ① 勝ち点を除いた総得点の多い者
- ② 直接対戦において勝った者
- ③ 勝ちマッチゲーム数の多い者
- ④ ローゲーム、ハイゲームの差の少ない者
- ⑤ ハイゲームの高い者

(2名以上の同時競技)

第111条 1つのレーンまたは1対のレーンで1名もしくはそれ以上数名の競技者は同時に競技できる。

2名以上数名の競技者が同一のレーンまたは1対のレーンで投球する場合、競技者は順番に1フレームずつ投球する。

(ゲームの中断)

第112条 ゲームの途中、設備の故障により正常な進行ができなくなったときは、他のレーンに移動して、そのフレームからスタートし完了する。

この場合の練習ボールは各レーン2球以内とする。

同日内に完了することができない場合は、中断したところから再開し完了する。

(デッドボール)

第113条 次のような場合は、そのことを競技役員に申告し、デッドボールを宣告された場合は、正しい投球とみなされない。この場合はデッドボールとしピンを再配置し、競技者は再投球する。ただし、競技役員に申告、裁定をまたずに再配置した場合は、投球されたものとする。

1. 投球後、直ちに1本もしくはそれ以上のピンが脱落し、不足しているということが明らかに認められた場合。
2. ピンがまだ転がっている間に、又はボールがまだピンの位置に到着しないときに、ピン整備員がピンを取除いたり動かしたりした場合。
3. 競技者が投球レーンおよび、投球順序を間違えて投球した場合。
4. 競技者が投球態勢に入り、その競技者の投球する以前、または、投球したボールがピンに到達する以前にピン整備員あるいは、機械、その他のものによって妨害された場合。
5. 競技者のボールが他の妨害物に触れた場合。

(倒されたピンの認定)

第114条 倒されたピンは正しく認定しなければならない。

競技者の適正な投球によって倒され、または完全にレーンの上から倒れたピンのみを計算する。

ゲームの各フレームは、競技者がきめられた順番に従って投球し、正しく倒されたピンの数を記入し、得点とする。

(適正に倒されたピンとして計算されるもの)

第115条 デッドボールでない限り、競技者の投球は、すべて投球として計算する。

デッドボールの場合には、ピンを改めて再配置する。

1. 他のピンで倒されたピンおよび両側の仕切や後ろのクッションで跳ね返ったピンによって倒されたピンは、倒したものとして計算する。
2. フレームの第1投でピンの配列が不整（オフセット）であるときは、競技者が投球前に申告するものとし、申告のない場合、ピンの配列は完全なものとし、みなす。

従って、投球後、配列の不整が発見されても、その投球は有効であり得点として計算する。

3. 適正な投球によって倒され、レーンの上や、ガターの中に横になっているピン、あるいはキックバックその他両側の仕切に寄りかかるようになっているピンはデッドウッドといい、すべて倒されたものとして計算する。

これらのピンは、次のボールを投球する前に取り除くものとする。

(不正に倒されたピンとして計算されないもの)

第 116 条 次のような場合は、有効な投球となるが、倒したピンは計算しない。

1. 一度ガターに入ったボールによってピンが倒された場合。
2. 後ろのクッションからボールが跳ね返ってピンを倒した場合。
3. ピンがピン整備員の身体に触れて跳ね返りピンを倒した場合。
4. 立っていたピンがデッドウッドの取除きの際に倒された場合。
5. 不明確な場合をふくみ、移動したピンが機械に触れて倒された場合（マシンタッチ）以上（1～5）の場合、ピンはその投球前に立っていた、元のピンスポットの上に再配置する。
6. レーンから投げ出され、更に跳ね返って、そのレーンの上に立ったピンは立っているものとみなす。
7. 投球に際し、ファールとなった場合。

(移動したピン)

第 117 条 第 1 回の投球によって、移動したまま立っているピン（アウトオブレンヂ）は、元のピンスポットに戻すことなく移動した位置で、第 2 回の投球をする。ただし、機械に触れて倒れた場合は、元のピンスポットの上に再配置する。（第 116 条の第 5 項）

(ピンの破損と再配置)

第 118 条 ゲーム中にピンが折れたり、その他いちじるしく破損した場合は、直ちに現在使用中のものと同じ状態のピンに交換することができる。

このようなピンの交換については、競技役員の判定による。競技者のピンの得点は、ピンが破損しても変わらない。倒されたピンは全部計算され、破損したピンはその後に交換する。

(間違ったレーンおよび間違った順序での投球)

第 119 条 投球レーンおよび、投球順序を間違えて投球し、競技役員からデッドボールを宣告された場合には、競技者は発見されたフレームから正しいレーンおよび投球順序で投球しなければならない。

(ファールの判定)

第 120 条 ファールは次の投球者が投球態勢に入るまでの範囲で採用する。従って投球後といえどもみだりにファールラインを越えてはならない。ただし、投球動作中、ボールを持ったまま、ファールラインを越えてもファールとはみなさない。

ファールラインは、レーン、自動式ファール判定器の上部、側壁、柱等の競技者の体の触れる範囲にあるものまで延長すること。（ボウリング施設、設備、用具の規格第 2 章第 4 条）

1. ファールラインの延長標示のある場合の判定競技中、競技者の体の部分がレーンのファールラインの上にかかり、あるいは、これを越えたり、施設の標示ラインの中に触れた場合にはファールとする。
2. ファールラインの延長標示のない場合の判定

競技中、競技者の体の部分がレーンのファールラインの上にかかり、あるいは、これを越えたり、その他自動式ファール判定器の上部の施設の部分に触れた場合にはファールとする。

(ファールの宣告)

第121条 ファールの宣告は、審判員またはそれに準じた者が行なう。宣告は投球の完了後、その投球者または次の投球者が投球態勢に入るまでの範囲で採用し宣告する。競技者は、ファール審判員のファールの宣告には従わなければならない。ただし、ファールの宣告が明らかに間違っただけなされた場合、またはファール審判員のファールに関する諸規定の誤解による場合、あるいは、ファール審判員が判定不可能な場合は競技役員において協議判定する。

(自動式ファール判定器使用の場合)

第122条 自動式ファール判定器を使用して行なう競技は、判定器がファールを指示した場合、これに従い、判定器が正常に働いていないことが確認された場合、または競技者がファールをしないという証拠が明らかな場合には、これをファールとしない。

ファール判定器のファール判定に疑義のある場合、競技者は投球したままの状態でもしくは競技役員に異議の申し立てをしなくてはならない。

万一、その状態をはなれて申し立てた場合は、その異議を認めない。

自動ファール判定器が一時故障で使用できない場合には、次のような処置をとる。

1. 選手権競技会または競技会においてファール審判員を配置し、ファールを判定する。
2. ファール審判員を配置できない場合は、それに準ずる者が判定する。
3. リーグにおいて、ファール審判員を配置できないとき、それに準ずる者、あるいは、チームにおいてはチーム主将、個人においては数名の意見を取り入れて判定する。

(自動式ファール判定器設備のない場合)

第123条 競技者がファールに関する諸規定をおかしたかどうかを判定するためにファール審判員を配置し、審判員は競技者がファールをおかした場合、直ちにこれを判定し宣告する。ファール審判員の位置は、ファールラインの全部が見透せる場所で障害物の無い位置に設け、競技中はファール審判員を妨害してはならない。

(故意のファールおよび故意のガターボール)

第124条 自己を有利にするため、故意にファールをおかした場合、故意にガターに落とした場合には、直ちにその競技者のそのゲームは無効となり、競技の継続に対し処罰をうける。

(抗議および抗議解決のための仮りの投球)

第125条 ファールまたは倒れたピンに対する判定につき抗議が出た場合、直ちに解決できないときは問題解決のため仮りの投球を実施する。抗議がフレームの第1投で起きた場合には、競技者はそのフレームを完成し引き続き直ちに仮りのフレームを投球する。この場合、倒れたピンが正当でないとして抗議されたものについては、再配置して投球する。

抗議がフレームの第2投で起きた場合には、競技者はその時に残っていたと同じピンの配置状態で仮りの投球を行う。

仮りの投球を行った場合、そのフレームの2つのスコア記録を保存して競技会役員の判定をうける。もし解決しない場合には更に加盟団体または協会に諮問してこれを裁定する。

(抗議の期限)

第126条 競技においてスコアその他要項の規定に関し、抗議があった場合には、加盟団体、協会に対し24時間以内に書面をもって提出する。24時間以内に提出しなかった場合には、その競技はそのまま実施されたものとみなされる。

(記録の明瞭な誤りについて)

第 127 条 競技におけるスコアまたは計算上明らかな誤りを発見した場合には、特別な規定のない限り、役員は直ちにこれを修正し、競技者に確認させるものとする。

(アプローチの状態変更の禁止)

第 128 条 アプローチ、レーン等の競技施設に対し、状態の変更もしくは変更できるアプローチパウダー等いかなる物も使用してはならない。ハンドコンディショナー類は原則としてボウラズベンチ内に持ち込んではいない。

(アベレージ)

第 129 条 アベレージとは、競技会、リーグの総得点を総ゲームで平均したものをいう。

単一アベレージ……定期的競技会、またはリーグに参加した場合、その競技会、リーグ毎のアベレージをいい、これを競技会アベレージ、リーグアベレージという。

最高アベレージ……競技者が参加した幾つかの定期的競技会、リーグのうち、いずれか最高のアベレージをいう。

総合アベレージ……競技者が、定期的競技会、リーグに参加し、その数が2つ以上ある場合、その2つ以上幾つかを通算したアベレージをいう。このアベレージは通算した総ゲーム数で総得点を平均したものとする。

この場合、リーグだけで通算したものは総合リーグアベレージという。いずれの場合にも、ハンディキャップをつけるため、または、技術階級を区分するためには余りピンを計算に入れないものとする。

(ハンディキャップ)

第 130 条 競技者の技術に特に差があるとき、競技条件を公平化するため、ハンディキャップを設けることができる。

ハンディキャップは、競技者間のアベレージの差、または、一つの基準点の設定により、これと競技者のアベレージとの差を計算の基礎とし、通常その70%～80%をこれにあてる。

アベレージのない者については、場合により特に技術判定を行い、これをアベレージに代えることができる。

(レーンの配当)

第 131 条 競技会およびリーグで、同時にスタートする競技者、またはチームのレーンの配当は、特に規定しない限り抽せんによる。

抽せん方法は、リーグまたは競技会責任者がこれを定める。

(競技勝位の決定)

第 132 条 競技の勝位の決定は、次のような方法による。

1. 個人、またはチームで得点の最も多いものを勝とする。
2. あらかじめ定めた、ハンディキャップを加えた得点の最も多いものを勝とする。
3. 競技方法にポイント方式を採用し、各ゲームごとに得点の多い方を勝とする場合、1ゲームごとにポイントを与え、その総ポイントの多い方を勝とする。

(同位ピンの裁定)

第 133 条 競技の勝位の決定について、個人またはチーム戦の得点が同点の場合、次のとおり裁定する。

1. シリーズにおいて同点の場合は、最高ゲームと最低ゲームとの差の最も少ないものを

上位とする。

2. 2シリーズ以上の競技において同点の場合、最高シリーズと最低シリーズの差の最も少ないものを上位とする。
3. 1ゲームのスコアが同点の場合および上記第1項の得点差が同じ場合は、個人またはチーム戦で第10フレームまでを含めたストライク数の多いものを上位とする。
4. 更にストライク数が同じ場合は、スペアー数の多いものを上位とする。
5. スペアー数が同じ場合は、ともに勝者とするか、または更に1ゲームの決勝戦を行い、勝者を決定する。

ただし、競技要項に他の方法で規定している場合は、その規定による。

(スローボウリングの禁止)

第134条 すべての競技は遅滞なく実施し、審判員は遅滞の原因が競技者にある次のような場合にはスローボウリングと判定する。

スローボウリングの判定は、同一シリーズ内においてのみ適用し、最初は「警告」2回目は「嚴重注意」、3回目以降は、そのフレームの得点を0とする。

1. 競技者は、自分の投球順がきたとき左、右の隣接するレーンが空いている場合、直ちに投球態勢をとらなければならない。
2. 競技投球者は投球の準備態勢に入ろうとしているすぐ右側レーンの競技者に対してのみ優先投球権を認めなければならない。
3. 競技者が1レーンに1名または2名で競技する場合は、当該シフトで進行の早い競技者から原則として4フレーム以上の遅れ、3名以上で競技する場合は、2フレーム以上の遅れがあった場合には、機械の故障等の有無を確認の後、判定する。

第135条 (使用ボール)

ボールは手の作用によって投球されるものとし、ボールの指穴調整を工夫すること以外は、その内部および外部に添付物を使用すること等、如何なる他の手段もこれを併用してはならない。

すべての公認競技においては、ボールは、FIQ・WTBAの公式認定ボール又は本協会(JBC)の公式認定ボールでJBC公認ドリラーによってドリルされ、本協会の公認ボール検査員が検査し、合格したボールを使用すること。

第136条 (ボウリングボールの表面調整および表面加工)

ボウリングボールの表面調整および表面加工については、WTBAの規定にもとづき次のとおりとする。

1. ボウリングボールの調整に使用できるポリッシュならびにクリーナーは、WTBAの公式認定のものとし、ボウリングボールの表面調整は、競技が遅滞しない範囲でゲームとゲーム間で許されるが、かならず手で実施し、ボウラーズエリア内では行うことはできない。
2. ボウリングボールの表面加工をすることは、前1項で規定されたものを除き、指定された場所において、公式練習中、競技直前の練習時間中およびシフトとシフトの間は許される。
3. ボウリングボールの表面を調整および加工した場合は、その表面に付着物があってはならない。

第137条 (競技者の服装)

競技者は、特に規定されない限り、ユニフォームまたは見苦しくない服装で競技を行い、過度の商業宣伝マークの入ったもの、アンダーシャツでの競技は禁止する。

すべての公認競技においては、別に定める本協会の服装規則を適用する。

第 138 条（禁止事項）

1. 競技における褒賞は記録に対する名誉をたたえるものであり、トロフィー、メダル、カップ、賞状等を原則とし、副賞のある場合も品位のあるものとする。
2. 競技者は、競技中、ボウラースエリア内で喫煙、飲食をすることはできない。
また、酒気を帯びて競技することを禁止する。
3. 競技において、ゲームの結果に関連し、競技者、第3者にかかわらず一切の賭けごとを禁止する。

第 139 条（罰則、不正行為）

協会の会員で競技に関し、不正な行為があった場合には、次の諸項により罰則が適用される。会員以外の者でも本条に該当する場合には、ボウリング競技者として資格のない者とし、特に加盟団体の役員会で承認がなければ協会会員とはなれない。

1. 不正な方法により競技を有利にしようとした者は、そのゲームは無効となり、また場合によっては会員より除名されることがある。
 - イ. 直接、間接を問わず、レーン、ピン、ボールに対し、協会の規格に外れた細工をした場合。
スコアを高めるためレーンに特別の施工をしたレーンであることを承知しながら競技をした場合。
 - ロ. ハンディキャップを多くするため、又はリーグ、競技会において階級の下組に参加する為、アベレージを詐称した場合。
 - ハ. リーグにおいて、ハンディキャンプ又は階級区分について一層有利な利益を得るため、故意にアベレージ以下に投球した場合。
2. 不正な術策をもちい、ボウリング競技に関し、一般の悪評を招くような行為のあった者は会員から除名される。
3. 公認のリーグまたは競技会において、参加費の支払いを怠った者は、会員から除名される。

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

編 集 後 記

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

- 連盟創立以来40年を超える年月が過ぎ、これまでの歩みを記しておく必要があろうと思いついた。ボウリングブームが全国を駆け巡った最中、待時間、数時間は当たり前、申し込み受付を終えて事務所に戻り一仕事して再度ボウリング場へ、はいつものこと。待ち時間が短く、ゲーム料の安い早朝ボウルに通うようになる。
- 一転してボウリング場はかんこ鳥が鳴くようになり、全国大会に向う途中、電車の棚にボウリングバックが沢山有るのを見た知人に「ボウリング保存会の方々ですか？」と問いかけられ唖然としたこと。赤木現会長が来盛時、夜間、県体協会長F氏に遠野市まで追っかけ陳情したこと等々、県体協加盟までは文字通り山あり谷ありの道のりだった。
- この記念誌は県体協加盟後、競技ボウリングの華やかな面、国民体育大会、全国大会、国際大会の入賞者等にスポットが当たっているが、創立時から当連盟の発展に尽力した先人の足跡につながる栄光であることを認識し、更なる前進に努められんことを祈念したい。
- 参考にしたい同種他県連盟誌が見当たらなかった。満足いただける内容ではないかも知れませんが、ご理解願います。
- ご協力いただいた岩手日報社等報道機関、(株)橋本印刷社長田口純二氏、そして表紙題字を心よく揮毫して下さった大学同期の秋山古心氏に厚くお礼申し上げます。(Y)

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

参考・引用文献

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

J B Cのあゆみ	(財)全日本ボウリング協会刊
日本におけるボウリング30年の歩み (資料編)	日本ボウリング振興協議会刊
ボウリング大辞典 (宮田哲郎編著)	(株)ベースボール・マガジン社刊
スポーツ・ボウリング (宮田哲郎著)	(株)ベースボール・マガジン社刊

ボウリングをこよなく愛して

岩手県ボウリング連盟40年の歩み

発行日	平成21年8月30日
発行者	吉田 几生
発行所	岩手県ボウリング連盟 盛岡市本町通二丁目9番3号 (株)吉田会計事務所内 電話 019-652-1616
印刷	株式会社橋本印刷 盛岡市本町通一丁目15番29号 電話 019-652-1354
題 字	秋山 古心 (横浜市)
